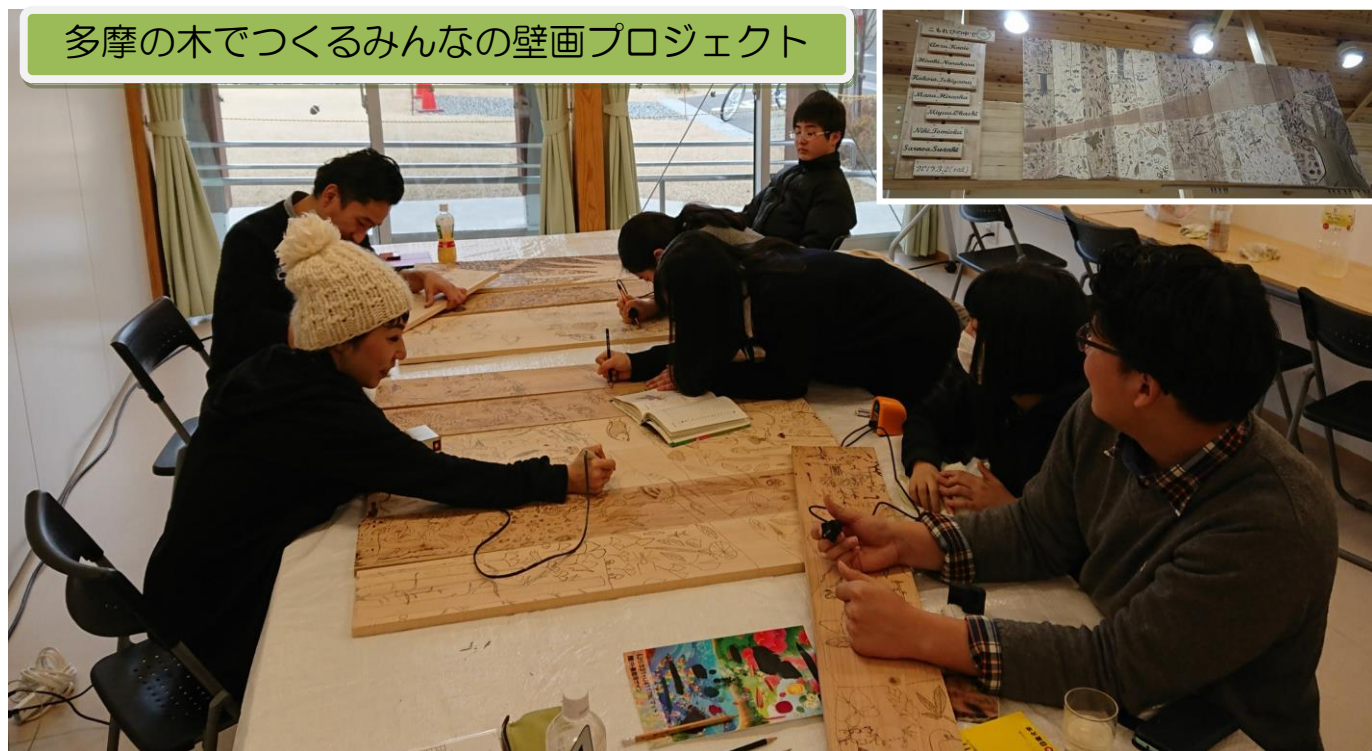


2018年度（平成30年度）
日野市環境基本条例第18条に基づく年次報告書

日野市環境白書

多摩の木でつくるみんなの壁画プロジェクト



日 野 市

多摩の木でつくるみんなの壁画プロジェクト「こもれびの中で」(表紙の写真)

2018年度アートディレクション事業にて「多摩の木でつくるみんなの壁画プロジェクト」を行ないました。

このプロジェクトでは、日野市出身の版画家 蟹江杏さんと市内の中学生・高校生により、2017年度アートディレクション事業で創作した絵本「ぼくのまちにはもりがある」や黒川の身近な自然をテーマにした壁画を作成しました。この壁画は、日野市立カワセミハウスに展示しています。

アートディレクション事業については、本書の「1. 2018年度の日野市における環境への取組のトピックス (2) アートディレクション事業 (アーティストと子どもたちとのコラボ)」及び「7. 環境基本計画の推進体制 (2) 日野市立カワセミハウスの活動状況」をご覧ください。

はじめに

日野市には、多摩川・浅川に代表される河川や、丘陵地や崖線の緑と湧水などの身近な自然があり、これらの身近な自然環境の中に日野市ならではの豊かな暮らしがあります。

これらの良好な環境を保全するため、日野市では早くから市民活動と行政の協働による用水路や湧水地等の水辺の保全・再生、緑地の保全活動など、暮らしに身近な自然環境との共生を目指すまちづくりが様々な形で展開されてきました。

しかしながら、2018年には日野市の身近な自然を象徴する黒川清流公園内湧水が白濁・枯渇するといった大きな事故が起きました。本書のトピックスにも経過等を記載いたしましたが、その原因は施工者側の工法上の問題に加え、本来あってはならない行政側のミスも重なったことにあります。

市といたしましてもこのことを注視し、組織をあげて猛省するとともに、なかなか人の目には付きにくい土中への環境負荷対策について、第三者検討委員会からのご意見等を参考に、しっかりと取り組んでまいります。

また、これまで多くの市民の皆様と協働して先進的に取り組んできた様々な施策の成果や反省点を踏まえ、私たちがこれまで享受してきた良好な環境を次世代につなぐため、市民一人ひとりの力を合わせて行動していきたいと考えております。

本白書をご覧になっていただいているお一人おひとりが、地球環境の保全に直結している私たちの暮らしと日野市の環境の変化について再確認いただければと考えております。そして、多様な生きものと共生できる持続可能なまちづくりを考え、「緑と清流」を日野市の宝としていつまでも誇れるよう一步一步着実に行動されることを切にお願いいたします。



日 野 市 長

大 坪 冬 彦

日野市の概況

位置と面積

日野市は東京都のほぼ中央に位置し、都心から西に約35kmにあります。東西7.59km、南北5.85kmで、東西にやや広がった形をしており、面積は27.55km²です。

地形

日野市の地形は北西部の日野台地、南部に位置する多摩丘陵、多摩川と浅川の周辺に広がる沖積地（低地）、日野台地と沖積地の境界である崖線（段丘崖）、多摩川と浅川に代表される河川の5つに大きく分けられます。このように様々なタイプの地形があることが日野市の特徴であり、環境的な豊かさの基盤となっています。

人口

日野市の人口は昭和30年代から昭和60年代にかけて急増しており、東京全体の爆発的人口増加の受け皿となっていました。1990年代以降は人口の増加は緩やかになったものの依然として増加傾向で推移し、2019年4月1日の時点で人口は185,530人です。

現在の日野市の人口は微増傾向ですが、2025年をピークに減少局面に入ることが予想されています。



(C)2017 PASCO CORPORATION. (C)2017 INCREMENT P CORPORATION.

いかなる形式においても著作権者に無断でこの地図の全部または一部を複製し、利用することを固く禁じます。

日野市環境基本条例と 2018 年度日野市環境白書作成の経緯

日野市環境基本条例（抜粋）

〈前文〉

私たちは、豊かな自然の恵みを受けて、生命の糧を与えられてきた。現代社会において、私たちは、大量生産・大量消費の社会システムの中で、物質的に豊かで便利な暮らしを享受する一方、自然環境の消失や資源とエネルギーの限りのない消費と多量の廃棄を生みだしてきた。このような生産と生活の在り方は、地球規模での環境破壊をもたらしている。

日野市民は、野生生物が棲み、水を育む森林、暮らしに潤いをもたらす川、農地や崖線の緑などの自然や、それらによって培われた歴史的・文化的環境を祖先から受け継いできた。このような環境を私たちの世代限りで終わらせることなく、次の世代に引き継いでいかなければならない。

私たちは、これまでの生産と生活を見直し、自然を育み、環境保全型のまちを創り出すとともに、持続可能な社会への展望を見いだすべきときにきている。

このような認識の下に、私たちは、日野市、日野市民及び事業者の責務と役割を明らかにし、良好で快適な環境を確保するとともに、環境への負荷の少ない日野市を創りあげていくために、この条例を制定する。

〈第 18 条〉

市長は、毎年、議会に、環境の保全等のために市が実施した事業の概要に、日野市環境審議会の意見を付けて、報告書を提出しなければならない。

1995 年に市民の直接請求により、上掲の前文に掲げる目的で日野市環境基本条例が制定されました。その条例の第 9 条に基づいて、1999 年に日野市環境基本計画が策定されました。この計画に定められた施策の進行状況は前記条例第 18 条に基づいて、日野市環境白書として環境審議会での審議、議会の承認を経て 1999 年度以降毎年公表してきました。2005 年には環境情報の発信拠点として日野市環境情報センター（かわせみ館）が設立され、これを契機にそれ以降の環境白書は同センターが作成してきました。2017 年に日野市環境情報センターの機能を引き継ぐ日野市立カワセミハウスがオープンし、環境白書の作成も、引き続きカワセミハウスが行なっています。

この環境白書の特色は、環境基本計画で設定された分野ごとに計画の進捗を計るための数値目標を掲げ、それらの達成度から環境問題への対応を評価し、翌年度の事業に反映させたところです。

第 1 次となる環境基本計画の策定から 5 年後の 2004 年に環境基本計画の見直しが行われ、重点的に実施すべき項目とその進捗を計る数値目標を新たに追加しました。そして第 1 次計画の計画年度が満了となる 2011 年には、公募市民・事業者・市職員からなるワーキングチームにより、第 1 次計画の理念を踏襲した第 2 次環境基本計画を策定しました。その際着実にそして計画的に進められるよう、計画に掲げた施策には優先順位を設けて中長期の具体的な目標を盛り込みました。また計画の推進についても市民・事業者と各主管課が協働して実施できるような体制づくりに努めています。

今回の環境白書は第 2 次計画に掲げた施策を基本に、これまで取り組んできた内容や結果をまとめたもので、計画の策定にあたった市民と主管課が、1 年間活動した結果のコメントも掲載しています。このほか、市民団体・各学校・事業者等の環境への取組状況等も掲載しています。

望ましい環境像

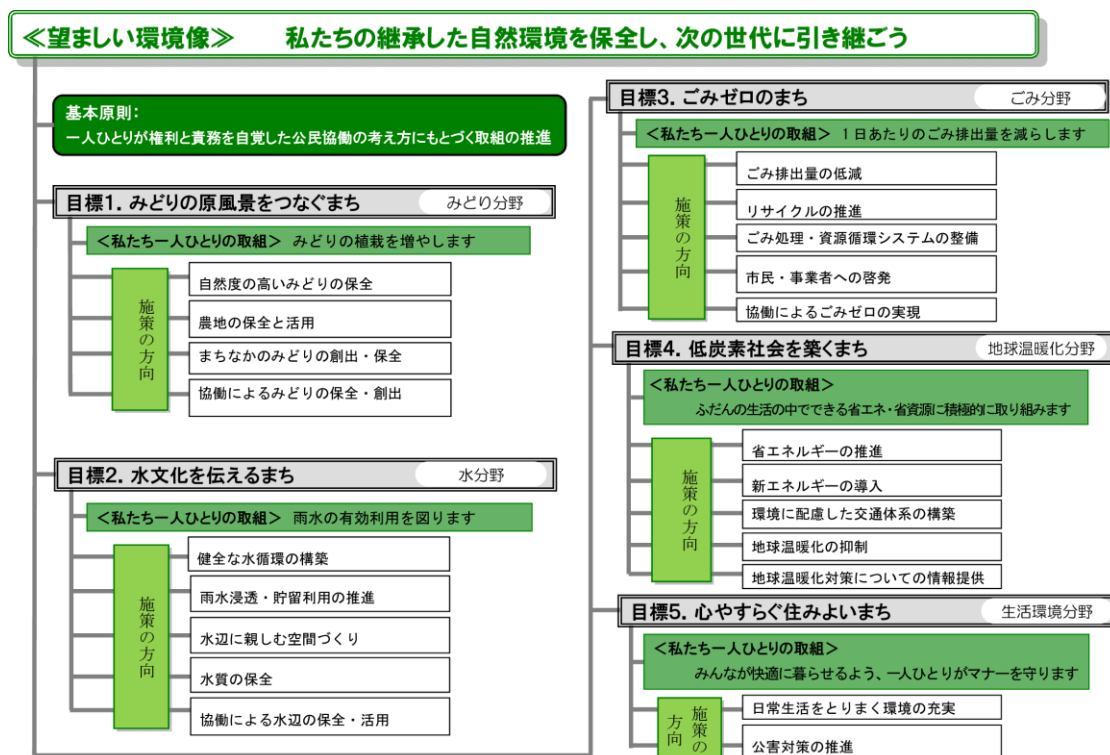
日野市環境基本計画とは

「市民が健康で安全かつ快適な生活を営む上で、必要とする良好な環境を確保するための方向性を示すもの」で、望ましい環境像は「私たちの継承した自然環境を保全し、次の世代に引き継ごう」とし、先人から受け継いだ豊かな自然を守り育て、少しでも質の高い形にして次の世代に引き継げるよう、一人ひとりが自覚をもって行動することを目指します。

【第2次環境基本計画の特徴】

- ① 潤いや安らぎを与えてきた水やみどり等の自然環境を市の財産として守り生かしながら、少しでも良くして次の世代に引き継ぐ。
- ② 計画的な施策の実施に向けた優先順位の設定や、市民一人ひとりの行動や意識をステップアップさせ、自覚と責任ある行動の浸透を目指し、確実に次の一步を進める。
- ③ 市民一人ひとりが日常生活において環境配慮を実践し、市全体の環境についても広い視点で考え行動するよう働きかけるなど、「公民協働」の考えを基本として計画を推進する。

計画の施策体系の柱は、日野市の特徴である水やみどりの分野に、ごみ、地球温暖化及び生活環境を加えた5分野です。推進主体である市民・事業者・市の役割を明確にし、お互いに連携して計画を推進していきます。



「第2次日野市環境基本計画」(2011年3月)より

2018 年度（平成 30 年度）日野市環境白書

— 目 次 —

- ・ 日野市の概況
- ・ 日野市環境基本条例と 2018 年度日野市環境白書作成の経緯
- ・ 望ましい環境像

1. 2018 年度の日野市における環境への取組のトピックス	1
(1) カワセミハウス協議会環境分科会スタート	1
(2) アートディレクション事業（アーティストと子どもたちとのコラボ）	2
(3) 黒川マイスター講座スタート	4
(4) 東豊田緑地保全地域（黒川清流公園）における湧水白濁及び枯渇の発生について	5
2. 環境基本計画目標達成状況	6
(1) 環境の現状	8
(2) 市の取組状況	8
(3) 分野別目標達成状況	8
3. 環境の現状と取組状況の評価	11
みどり分野（環境の現状/市の取組状況/市民コメント）	12
水分野（環境の現状/市の取組状況/市民コメント）	22
ごみ分野（環境の現状/市の取組状況/市民コメント）	37
地球温暖化分野（環境の現状/市の取組状況/市民コメント）	48
生活環境分野（環境の現状/市の取組状況）	55
4. 環境への取組状況	64
(1) 市民および市民・行政の協働による環境への取組状況	64
(2) 行政による環境への取組状況	96
(3) 学校等による環境への取組状況	101
(4) 大学による環境への取組状況	109
(5) 事業者による環境への取組状況	110
5. 環境関連決算額	119
6. 市役所の環境配慮の状況	121
7. 環境基本計画の推進体制	123
(1) 環境基本計画の推進	123
(2) 日野市立カワセミハウスの活動状況	125
8. 環境審議会の意見等	133
9. 省エネ法に関する措置	135
付表 指標・参考データ出典一覧	136

1. 2018 年度の日野市における環境への取組のトピックス

2018 年度に実施された環境への取り組みの中から、つぎの 4 項目を注目すべきトピックスとして取り上げました。

(1) カワセミハウス協議会環境分科会スタート

カワセミハウス協議会環境分科会（以下、環境分科会）は、カワセミハウスの旧環境情報センターとしての機能を引き継ぎ、カワセミハウスを拠点とした環境活動を活性化すること、さらには多面的な機能を持つカワセミハウスを活用することによるさらなる発展を期待し、カワセミハウス協議会の有志により 2018 年 2 月に立ち上がりました。構成メンバーは、環境団体だけでなく、子育てや地域活動にかかわる団体、大学などで、2018 年度は 19 団体が登録メンバーとなって活動をスタートしました。

活動の最初の年となる 2018 年度は、カワセミハウスや環境分科会の PR をする目的もあり、環境分科会の主催で様々なイベントを実施しました。また、イベントを通じて市内環境団体とのつながりを作る、希望者には環境分科会（カワセミハウス）から情報発信をするなど、環境情報センター機能をサポートする活動も展開しているところです。

ここでは、2018 年度のイベント（第 7 章（P.130）参照）のうち 3 つをご紹介します。

●浅川ネイチャースタディ 2018. 8. 26

親子対象に、浅川で水生昆虫の観察と毛ばり釣り体験をしました。きれいな婚姻色のオイカワを釣りあげた子供たちからは歓声が上がり、浅川の生きものの豊かさを体感できたのではと思います。



●見て聞いて知ろう・くろかわシリーズ「黒川清流公園のむかしからみらいへ」 2019. 2. 2

黒川清流公園周辺で育った講師より、昔のこの地域のくらし、昭和 30 年代の多摩平団地建設による環境の変化などについてお話いただきました。子供の頃に水路で遊んだ思い出や出会った生きもの、それらが開発により失われていったというお話を聞き、現在に残されたこの湧水のある環境の大切さについて改めて考える場となりました。



●つんで、つくって、たべよう！よもぎだんご 2019. 3. 21

カワセミハウス周辺でヨモギを摘み、よもぎだんごを作って食べました。ヨモギと一緒に食べられる野草も摘んで試食。摘むところからの体験が良かったと好評でした。



1. 2018 年度の日野市における環境への取組のトピックス

(2) アートディレクション事業（アーティストと子どもたちとのコラボ）

◇多摩の木でつくる みんなの壁画プロジェクト

日野市出身で気鋭の版画家蟹江杏さんと公募により集まった市内中高学生 6 名との協働により、2017 年度事業において、創作した絵本「ぼくのまちにはもりがある」や黒川の身近な自然をテーマに 9 回のワークショップを重ね、多摩産材の木材をキャンバスにウッドバーナー（電熱器）を用いてアート作品「壁画」を創作しました。また、カワセミハウス



入口の円形サイン（看板）の中央部分のスペースには、絵本「ぼくのまちにはもりがある」のキャラクターである「こもれびくん」と「かわせみ」をシール化して設置しました。この設置をもってカワセミハウスのシンボルである円形サインが完成しました。

次世代に伝えたい日野市の身近な自然環境をテーマに、日野市やハウスのイメージを具現化した円形サインや壁画作品を次世代に伝えていくことにより、日野市のもつ身近な自然環境の大切さと、日野市らしい多様な主体間によるコラボレーションの素晴らしさを広く市内外に発信していきます。

① 壁画作品名 「こもれびの中で」

多摩産材のスギとヒノキの板を用いて下絵を描き、ウッドバーナーを用いて絵付けと色付けを行い、最後にカワセミハウス館内の梁（L=7.1m×H=0.5m）に、ネジや接着剤を用いて設置し 1 枚の壁画を完成させました。

◎大きさ たて 99.3cm × よこ 228.9cm

◎材料 多摩産材板 13 枚

（すぎ板 6 枚、ひのき板 7 枚）



② 発表会

完成した作品のお披露目会として、地域の方を中心に発表会を開催（出席者 53 名）

◎日時 2019 年 3 月 2 日（土）14：00～14：50

◎会場 日野市立カワセミハウス

◎内容 制作者全員による作品オープン後、壁画創作までの経過報告、市長あいさつ及び蟹江杏さんと参加者と市長を交えた楽しい対談等で大いに盛り上がりました。



◇アートディレクション事業から生まれた新たな連携事業

① 新宿クリエイターズ・フェスタ 2018（こどもアート）

新宿区が主催する「新宿クリエイターズ・フェスタ 2018（こどもアートデー！・こどもアート展）」へ出展し、先に紹介した創作絵本「ぼくのまちにはもりがある」の出版 PR とシティプロモーションを行ないました。これは、この事業とも関連の深い絵本の制作

1. 2018 年度の日野市における環境への取組のトピックス

者の蟹江杏さんの橋渡しにより、新宿区との新たなコラボレーションが実現したものです。この出展を機に、中央線・京王線沿線でつながる日野市と新宿区がアートでもつながることができました。

「こどもアートデー！」当日は日野市長も会場を訪問され、新宿区への友好の気持ちを込め、新宿区長（新宿区）へ絵本を寄贈しました。

◎期間 2018 年 8 月 1 日（水）～8 月 12 日（日）

「こどもアートデー！」は 8 月 7 日（火）

◎場所 全労済ホール／スペース・ゼロ



② 新宿ルミネ 2 のスペースを利用した絵本 PR

新宿ルミネ 2 の 1 階と 2 階とをつなぐエスカレーターサイド部を利用し、絵本のキャラクター等をシール化して貼り付け、来客者へ絵本の PR を実施しました。また、エスカレーター横階段壁面のデジタルサイネージ（3 基）を借用し、絵本の PR を実施しました。

◎期間 2018 年 8 月 9 日（木）～8 月 22 日（水）

◎会場 新宿ルミネ 2（駅東口）



③ キネコ国際映画祭（日本最大規模の子どもの国際映画祭）

映画祭開催期間中の 2 日間においてブースを出展し、絵本「ぼくのまちにはもりがある」の PR と絵本を通した日野市プロモーションを行ないました。出展ブースでは、蟹江杏さんを中心としたワークショップ（ガラスペイント）のほか、ステージを通して、絵本の PR とシティプロモーションを行ないました。

◎期間 2018 年 11 月 22 日（木）～11 月 26 日（月）

※日野市出展日 2018 年 11 月 24 日（土）、11 月 25 日（日）

◎場所 世田谷区二子玉川駅周辺、iTSCOM STUDIO & HALL 二子玉川ライズほか



1. 2018 年度の日野市における環境への取組のトピックス

(3) 黒川マイスター講座スタート

黒川マイスター講座は、日野市緑と清流課と日野市立カワセミハウスとの共催により、東豊田保全地域及び黒川清流公園を活動の拠点として、その恵まれた環境を学び、実際の保全管理活動を通じて身近な自然環境の大切さを学ぶことにより、緑と清流の保全リーダーの育成と地域づくりへの積極的な参画を促すことを目的として、2018 年度から実施しています。

第 1 期黒川マイスター講座は、受講生 19 名であり、年 11 回の講座を実施しました。講座には、黒川の植物や歴史・地形・生物と、幅広い内容が盛り込まれており、座学だけでなく、実習も併せて行ないました。

11 回目の講義を終え、8 回以上の出席をした 14 名の受講生には、日野市長より、黒川マイスター(Basic)の認定証とバッジが授与されました。



(4) 東豊田緑地保全地域（黒川清流公園）における湧水白濁及び枯渇の発生について

日野市の身近な自然環境を象徴する東豊田緑地保全地域（黒川清流公園）において、湧水の白濁、枯渇があったことについて、その経過等を報告します。

2018 年 7 月 3 日から 5 日までの 3 日間で黒川清流公園西端にある「あずまや池」の水が白濁しているとの通報を受け現地確認を行ない、白濁している状況を確認しました。7 月 6 日には一旦白濁が見られなくなりましたが、経過観察を継続しました。

その後、7 月 14 日と 17 日に同地域内の湧水量減少の通報を受け、観察を継続した結果当該箇所からの湧水量の減少を確認しました。

続いて 7 月 21 日には、黒川清流公園の中央付近に位置する「わきみず池」が白濁しました。これまでの経緯と周辺観察から、東豊田緑地保全地域と隣接する台地部（湧水の涵養域であり水道でもある。）で行なわれているマンション建設工事による影響が考えられたため、業者との協議の結果くい打ちを中止しました。さらに 7 月 22 日には湧水量が減少していた箇所が完全に枯渇しているのを確認し、7 月 25 日にこれまでの白濁事故に関する報道発表を行ないました。

その後も原因究明のための水質検査等を実施し、マンション建設事業者がくい打ち工事に使用したベントナイトが原因であることが明らかとなり、9 月 6 日に 2 回目の報道発表を行ないました。

今後同様な事故などを起こさないよう、湧水の保全と再発防止策を検討するため、11 月に自然環境や土木工学の専門家を交えた東豊田緑地保全地域（黒川清流公園）湧水対策検討委員会を設置し、徹底的な議論をしていただきました。

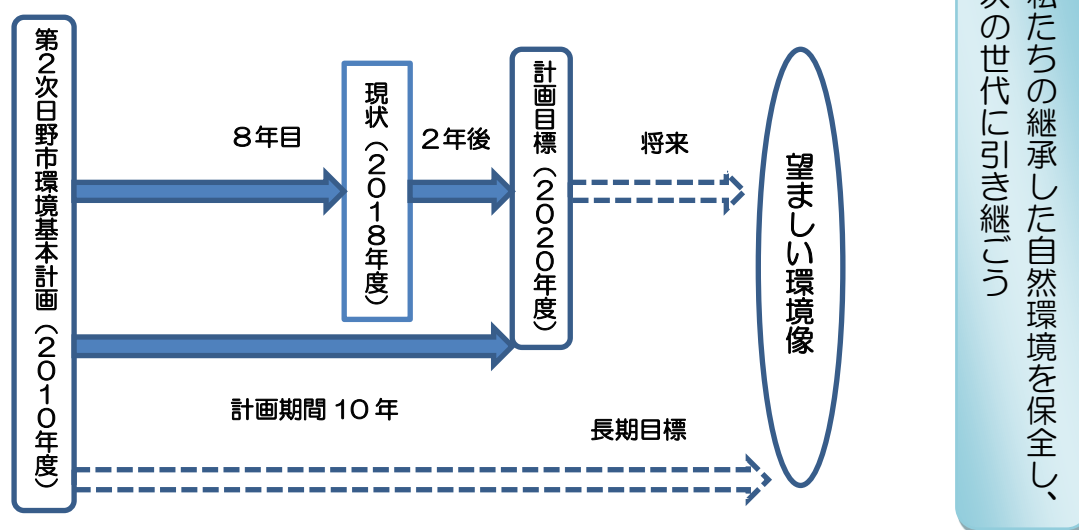
委員会では、すでに掘ってしまったくい打ち用の穴の埋戻しの検討、湧水白濁・枯渇の原因究明、同再発防止策の検討、基礎工法の改善等の検討を行ない、市長に報告書が提出されました。

今後提出いただいた報告書をもとに、市も真摯に反省し、二度と同様な事故などが起きないように事業者と協議しながら、身近で大切な環境保全に努めてまいります。

2. 環境基本計画目標達成状況

2011年3月に策定された「第2次日野市環境基本計画」では、“将来の望ましい環境像”が掲げられています。そして、“望ましい環境像”の実現に向けて、各分野(みどり、水、ごみ、地球温暖化、生活環境)別に、10年後に目指す環境の姿(目標)と、目標を達成するための市の取り組み(施策)が掲げられています。

これらの“望ましい環境像”の指標(環境の現状を評価する指標)および市の取組状況(施策の実施状況)が、環境基本計画の目標を達成しているかどうかの指標となっています。本白書に掲載している指標は全体で52項目です。



環境基本計画の計画期間と目標

ここでは、「環境の現状」「市の取組状況」「分野別目標達成状況」の順に、第3章で詳述している内容について目標達成状況の概況をとりまとめています。各指標の評価基準は以下の通りです。

凡例	評価	評価の基準	
		環境の現状(望ましい環境像)の指標	市の取組状況の指標
☺	達成	計画目標を達成もしくは良くなる傾向	過去の実績を踏まえて良くなる傾向
☹	未達成	計画目標を未達成もしくは悪くなる傾向	過去の実績を踏まえて悪くなる傾向
◇	どちらとも言えない、判断できない(定量的な比較が困難なもの等)		

2. 環境基本計画目標達成状況

表1 本白書掲載の指標・データと目標達成状況

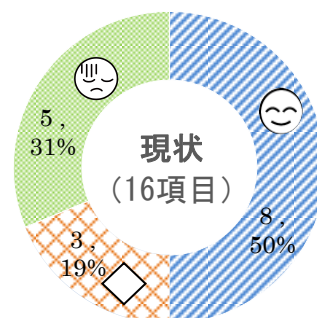
分野	施策の方向	施策	指標・参考データ	達成状況	掲載頁	
みどり	環境の現状（望ましい環境像）の指標		指標1 土地利用現況調査「森林」の割合	×	12	
			指標2 緑被率	×	12	
			指標3 農地面積	×	13	
			(参考1) 生産緑地面積	-	13	
			指標4 一人当たり都市公園面積	×	15	
			(参考2) 多摩地区の一人当たり都市公園面積	-	15	
	自然度の高いみどり	民有緑地の公有地化等の推進	指標5 市が寄付や買収等で取得した樹林地面積	○	17	
		緑地管理協定等による保全の推進	指標6 緑地信託面積	×	17	
		市民緑地活動の積極的支援	指標7 緑のトラストへの寄付件数	△	17	
		ボランティアによる里山の管理と活用	指標8 雑木林ボランティア講座修了者数	○	18	
	農地の保全と活用	市民農園等の拡充	指標9 市民農園等の面積	△	18	
		援農ボランティア制度の拡充	指標10 援農人数	○	18	
		地元野菜にふれる機会の充実	指標11 「市」の開催日数	○	19	
			指標12 学校給食における地元野菜等利用率	○	19	
指標13 給食野菜納品農業者数	○		19			
まちのなかのみどりの創出・保全	生け垣緑化の推進	指標14 生け垣の助成件数	△	20		
水	環境の現状（望ましい環境像）の指標		指標15 浅川の平均河川水量・水位（浅川の水位）	×	22	
			(参考3) 浅川の流量測定結果	-	23	
			指標16 月別雨量と調査地点の総湧水量（湧水確認地点数・湧水量）	△	24	
			(参考4) 湧水地点の状況	-	24	
			指標17 各用水路の水質分析結果	○	26	
			指標18 河川・用水・湧水の水生生物の確認状況	○	27	
			(参考5) 水生生物による水質の生物学的判定	-	28	
			指標19 水辺に親しみやうおいを感じる市民の割合	△	30	
			湧水・地下水の保全	地下水揚水量の把握	指標20 地下水揚水量	○
	雨水浸透・貯留利用の推進	家庭や事業所への雨水浸透・貯留施設の設置促進	指標21 雨水浸透ます設置個数	○	32	
		(参考6) 第二次日野市バリアフリー特定事業計画の透水性舗装整備状況	-	33		
	水質の保全	生活排水および汚水処理の施設整備	指標22 下水道普及率	○	34	
	協働による水辺の保全・活用	水辺に親しむ活動の推進	指標23 水辺イベントの開催数	△	34	
		水辺の保全・管理活動の推進	(参考7) 「ピオトップづくり」の取組件数	-	35	
	指標24 「用水守」の登録団体数		△	35		
	ごみ	環境の現状（望ましい環境像）の指標		指標25 ごみ・資源排出原単位（1人1日当たりのごみ排出量）	○	37
				(参考8) ごみの行方	-	38
				指標26 資源化率	△	38
				(参考9) ごみ量内訳	-	39
ごみ排出量の低減		レジ袋無料配布中止の拡大	指標27 マイバック持参率・レジ袋辞退率	○	41	
		容器包装お返し大作戦の展開	指標28 ベットボトル、発砲トレーの行政回収率	△	41	
リサイクルの推進		分別ルールの徹底	指標29 焼却ごみの組成	○	42	
		生ごみの家庭内循環（自家処理）の普及促進	(参考10) 焼却ごみの組成割合（2018年度分析結果・溜ベース）	-	42	
			指標30 生ごみ減量・資源化への取組世帯数	○	43	
			指標31 生ごみリサイクルステッカー掲示世帯数	×	44	
市民・事業者への啓発		情報提供ツールの充実	指標32 環境学習出前講座の実施回数	×	45	
		指標33 ごみ相談窓口への相談件数	○	46		
協働によるごみゼロの実現		新聞紙の民間回収への移行	指標34 クリーンセンター見学者数	△	46	
			指標35 新聞紙の行政回収量	○	46	
地球温暖化	環境の現状（望ましい環境像）の指標		指標36 二酸化炭素排出量	○	48	
			(参考11) エネルギー消費量	-	49	
			指標37 公共交通機関（ミニバス・バス）の整備率	○	50	
			指標38 バス路線の整備状況：市内連絡バス（ミニバス）年間利用者数	○	50	
			指標39 「ふだん着でCO2をへらそう宣言」の宣言数及びCO2削減量	○	51	
	省エネルギーの推進	CO2の見える化の推進	指標40 ワットチェッカー等貸出状況	△	52	
		省エネ診断の支援	指標41 省エネ診断の参加事業者数	×	52	
	新エネルギーの導入	太陽光発電等導入補助の実施	指標42 太陽光発電等の導入補助件数	○	53	
		太陽光、太陽熱、風力等の積極的な活用	指標43 公共施設の新エネルギー導入状況	○	53	
	環境に配慮した交通体系の構築	渋滞の解消	指標44 都市計画道路の整備率	○	54	
生活環境	環境の現状（望ましい環境像）の指標		指標45 心やすらぐ快適な生活環境であると感じる市民の割合	○	55	
			(参考12) 苦情受付件数	-	55	
	日常生活をとりまく環境の充実	PRの実施	指標46 マナーアップのための啓発活動状況	△	57	
	公害対策の推進	大気汚染物質の監視	指標47 浮遊粒子状物質（SPM）年平均値	○	57	
			指標48 二酸化窒素の年平均濃度	○	58	
			指標49 二酸化窒素24時間測定結果	○	59	
			指標50 雨の酸性度	△	59	
			(参考13) 富士山ウォッチング	-	60	
		道路交通騒音の測定および対策の実施	指標51 道路交通騒音	○	61	
		航空機騒音についての対策	指標52 横田飛行場に係る航空機騒音	○	62	
		放射線測定	(参考14) 市内空間放射線量測定	-	63	

○：達成 ×：未達成 △：どちらともいえない -：評価対象外（参考データ）

2. 環境基本計画目標達成状況

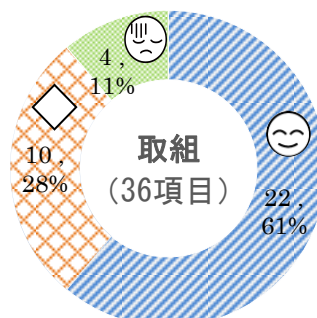
(1) 環境の現状

環境の現状（望ましい環境像）を評価する指標は52指標中16指標あります。目標達成状況は前出の表1（P.7）と右の円グラフに示す通りで、16の指標のうち8指標で「達成」と評価され、「未達成」は5指標と、全体では前年度と同じ結果となりました。「未達成」の5指標の内訳は、「土地利用現況調査「森林」の割合」、「緑被率」、「農地面積」、「一人当たり都市公園面積」、「浅川の水位」で、みどり分野において特に現状が厳しいことがうかがえます。



(2) 市の取組状況

市の取組状況を評価する指標（「環境の現状」の指標以外）は52指標中36指標です。目標達成状況は前出の表1（P.7）と右の円グラフに示す通りで、36指標のうち22指標（61%）で「達成」と評価されています。「未達成」は4指標（11%）と少なく、前年度とほぼ同程度の結果で、行政や市民の努力がうかがえます。



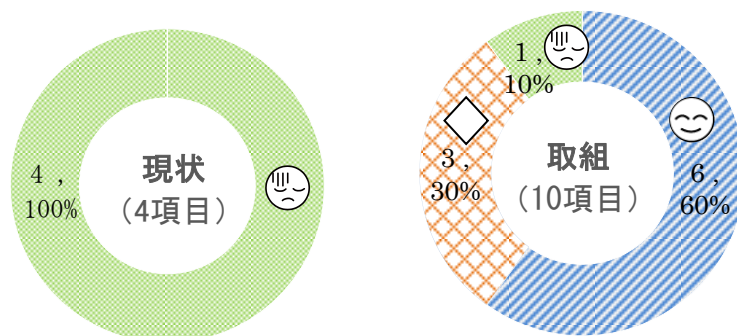
(3) 分野別目標達成状況

達成
 未達成
 どちらともいえない

○みどり分野

みどり分野の現状（環境の現状）と取組（市の取組状況）の目標達成状況は以下に示す通りです。現状は、4指標中全てが目標を未達成と評価されており、厳しい状況と言えます。

一方で、取組では10指標中6指標で目標を達成しており、行政や市民の努力は評価できます。取り組みにより現状が改善されない点が課題と言えます。

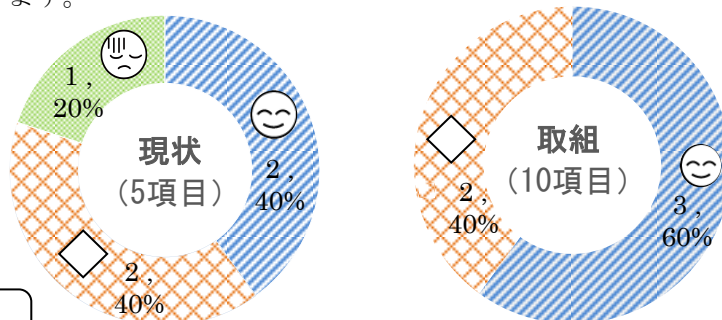


ここがポイント！

- 農地面積は毎年減少を続けていますが、相続が主な原因と考えられ、現在の施策では減少に歯止めをかけることが困難です。国の法整備に準じた新たな施策に期待します。
- 市が取得した樹林地面積は毎年少しずつですが増加しています。2018年度は、「緑のトラスト」運動の発端となった新葉山緑地（真堂が谷戸）が公有地化されました。
- 学校給食における地元野菜利用率は2013年以降上昇を続けており、目標値を大きく超える数値になっています。給食野菜の供給が農地の保全（農業の継続）に繋がることを期待します。

○水分野

水分野の現状（環境の現状）と取組（市の取組状況）の目標達成状況は以下に示す通りです。現状は、5指標中2指標で「達成」、2指標が「どちらともいえない」、1指標が「未達成」でした。数字で見れば悪くない状況ですが、「未達成」指標の「浅川の水位」については、流域全体の問題であり、大きな課題と言えます。取組では、未達成の指標は1つもなく、行政や市民の努力が評価できます。

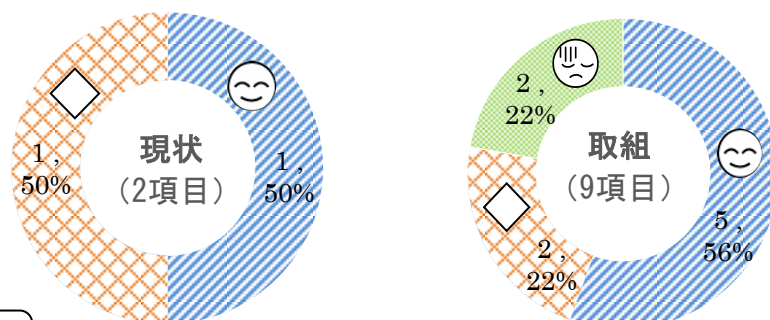


ここがポイント！

- 浅川の流量（水位）は目標値を未達成の状況が続いていることから、2017年2月から市のプロジェクトチームによる流量調査を実施しています。今後のデータの蓄積により対策に寄与できることを期待します。
- 下水道普及率は高い水準を保ちながら微増し、河川や用水の水質は良好です。このことで、水生生物も重要種を含む多くの種が確認されています。
- 市による湧水量調査や水生生物調査の実施、河川の清掃イベントなど、水環境保全のための取り組みが行なわれています。

○ごみ分野

ごみ分野の現状（環境の現状）と取組（市の取組状況）の目標達成状況は以下に示す通りです。現状は、2指標中1指標で「達成」、1指標が「どちらともいえない」で、悪くない状況です。取組では9指標中5指標で「達成」と評価されており、行政や市民の意識の高さがかがえる一方、まだ努力の余地があるとも言えます。



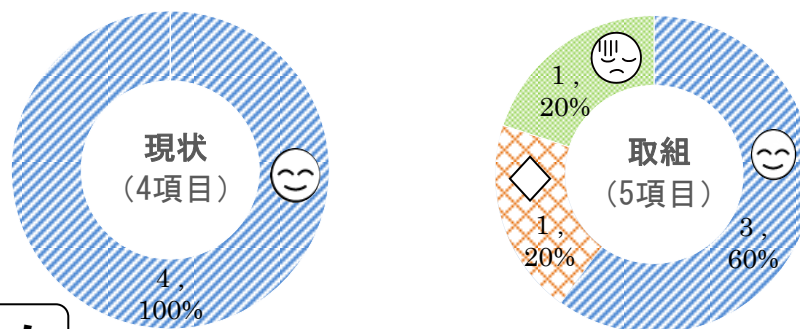
ここがポイント！

- 1人1日当たりのごみ排出量は年々減少し、目標値に近づいています。
- クリーンセンターの建て替えに伴う見学の受け入れ休止や持込み資源受け入れ休止の影響が関連する指標に表れていますが、建て替え後には回復するものと思われます。
- マイバッグ持参率・レジ袋辞退率や生ごみ減量・資源化への取組世帯数については高い水準を維持しています。

2. 環境基本計画目標達成状況

○地球温暖化分野

地球温暖化分野の現状（環境の現状）と取組（市の取組状況）の目標達成状況は以下に示す通りです。現状は、前年度に引き続き4指標全てが「達成」となりました。取組では5指標中3指標で「達成」となっており、「未達成」は1指標のみで、現状の目標達成状況を鑑みれば、行政や市民の努力が評価できると言えます。

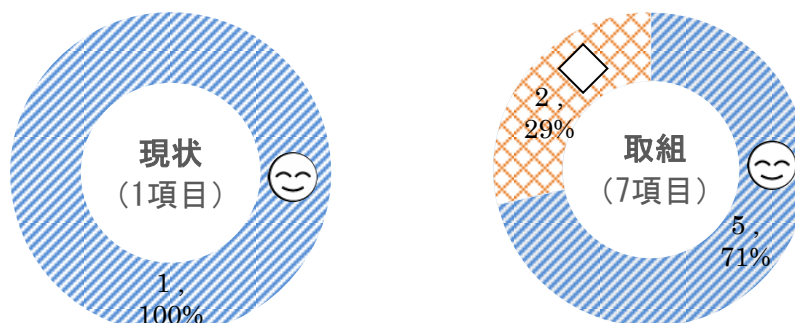


ここがポイント！

- 二酸化炭素排出量は4年続けて減少し、中期目標(2020年度に設定)まで達成することができました。
- 「ふだん着でCO₂をへらそう宣言」や「環境家計簿（エコキング）」といった、市民一人ひとりの取り組みについても多数の市民に参加いただいていることから、市民の意識の高さが評価できます。

○生活環境分野

生活環境分野の現状（環境の現状）と取組（市の取組状況）の目標達成状況は以下に示す通りです。現状を評価する指標は1つだけで「達成」と評価されています。取組の指標は7指標ありますが、このうち6指標は大気質や騒音の現況を評価するものです。「未達成」の指標はなく、生活環境については良好な状況が保たれていると言えます。



ここがポイント！

- 「未達成」の指標は1つもなく、良好な生活環境が維持されていると言えます。
- 「雨の酸性度」や「空間放射線量測定」といった、市民の関心が高いデータも掲載しています。

3. 環境の現状と取組状況の評価

ここでは、第2次日野市環境基本計画における望ましい環境像を実現する5つの分野である、みどり、水、ごみ、地球温暖化、生活環境について以下の流れで順に紹介します。

評価の凡例と基準は第2章に記載していますが、以下に再掲します。

凡例	評価	評価の基準	
		環境の現状（望ましい環境像）の指標	市の取組状況の指標
☺	達成	計画目標を達成もしくは良くなる傾向	過去の実績を踏まえて良くなる傾向
☹	未達成	計画目標を未達成もしくは悪くなる傾向	過去の実績を踏まえて悪くなる傾向
◇	どちらとも言えない、判断できない(定量的な比較が困難なもの等)		

(1) 環境の現状

第2次日野市環境基本計画では、分野ごとに現在の環境（環境の現状）を評価する「環境の状況を測る指標と目標」が設定されています。これらの指標の目標年度の多くは、計画策定時から10年後の2020（平成32）年度としており、当白書で年度ごとに各数値を確認することにより、「望ましい環境像」に近づいているかを把握することができます。ここでは、指標ごとに現在までの推移をグラフや表にまとめています。

なお、ごみ分野については「第3次日野市ごみゼロプラン（2017（平成29）年3月）」で定められた目標年度と目標値を2016年度以降適用していきます。

(2) 市の取組状況

第2次日野市環境基本計画で施策として位置付けられた取り組みについて表にまとめました。また、指標ごとに、施策の実施状況や、進捗状況、効果等を確認するため、現在までの推移をグラフや表にまとめています。指標が定められていない施策については、実施状況を記載しました。ただし、全ての施策について掲載すると膨大な量となるため、定量的な評価が可能な施策を中心に抽出しています。

なお、第2次日野市環境基本計画により2020年度の目標が設定されている指標については目標値を掲載し、評価の参考としました。また、ごみ分野に関しては、「第3次日野市ごみゼロプラン（2017（平成29）年3月）」で目標値が定められているものについてはその値を掲載しています。

(3) 市民コメント

2001年度以降、白書には環境基本計画作成に携わった方々による分科会ごとのコメントを掲載してきました。引き続き今回も環境基本計画推進会議に参加する市民のコメントを掲載しました。

みどりの分野

< 目 標 >

みどりの原風景をつなぐまち

1. <環境の現状>

1.-1 土地利用現況調査「森林」の割合と緑被率

森林の割合
目標値：7.4%
緑被率
目標値：32.7%
(2020 年度)

☹ 指標 1: 土地利用現況調査「森林」の割合〔5 年毎調査〕

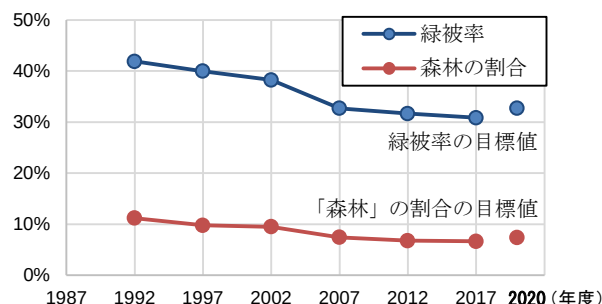
☹ 指標 2: 緑被率〔5 年毎調査〕

環境基本計画では、みどり全体の量の保全を目指しています。みどりの量を計る指標である緑被率と、その中でも自然度が高い「森林」（樹木樹林被覆地）の割合については2007 年度数値の維持を目標として掲げています。調査は5 年ごとに実施しており、本白書では直近の2017 年のデータを掲載しています。

下記に示すように2007 年以降の調査内容が異なることに注意しながら現状をみても、減少傾向であることに変わりはないと思われます。2017 年度の「森林」の割合は6.6%で、2012 年度に比べ0.1 ポイント減少しました。また、緑被率も30.9%と0.8 ポイント減少しています。

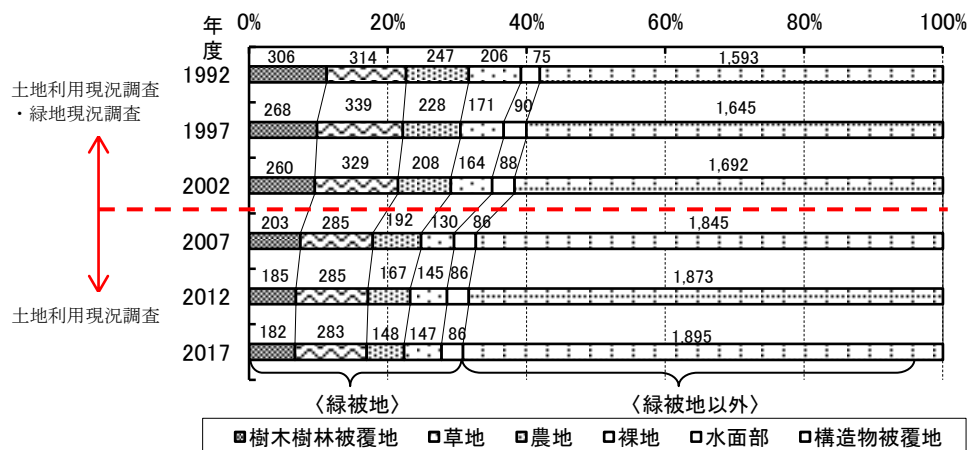
日野市では、民有緑地の公有地化（指標5）や緑地信託制度（指標6）、住宅地の生け垣等緑化の促進（指標14）により緑地の確保に努めていますが、森林の割合は減少傾向が続いています。また、後述の農地面積（指標3）の目標未達成に見るように、農地の減少も緑被率減少の一因と思われます。

2019 年4 月に改定された日野市まちづくりマスタープランでは、複数の緑地保全施策の方向性をあげており、それらに基づき各主体が協働することで日野市の良好なみどりを保全することが望まれます。



緑の構成比〔5 年毎調査〕

(※グラフ中の数字は面積 (ha))



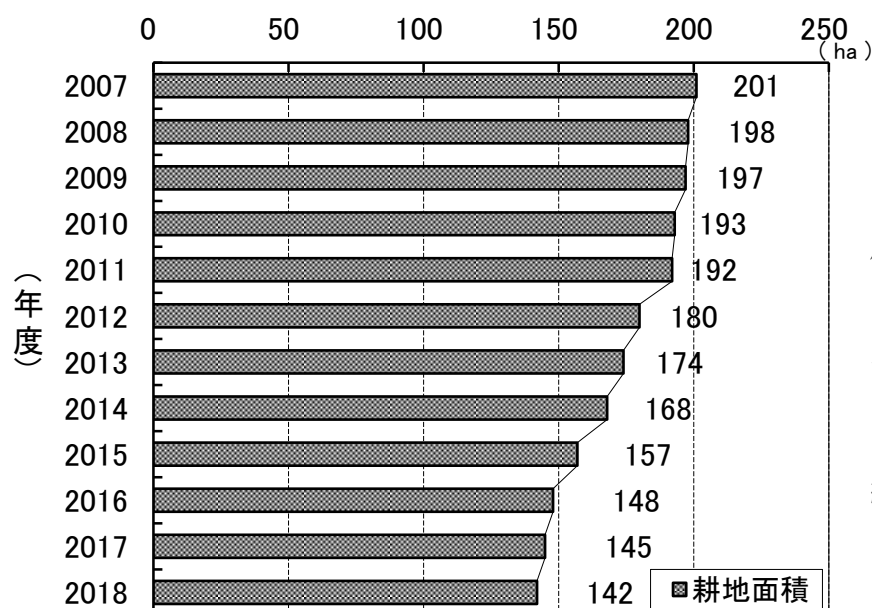
※1992～2002 年度調査は土地利用現況調査と同時にこなう緑地現況調査の成果報告値。
2007 年度以降の調査は東京都が行なっており、緑地現況調査は実施されなかったため、土地利用現況調査のみどり率から抽出したもので、全く調査内容が異なる。

1.-2 農地面積

指標 3：農地面積

目標値：160ha

(2020 年度)

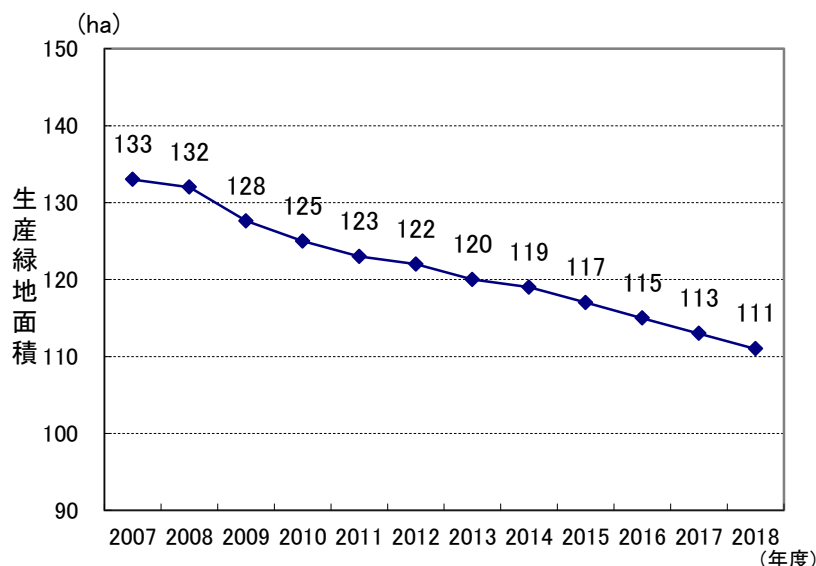


農林水産省発表の耕地面積の数値を使用しています。

農地は年々減少し、2015年度には157ha と目標値を割り込んでしまいました。2016年度以降も減少傾向は続き、2018年度では142ha にまで減少しました。農地減少の主な原因は相続の際の宅地化によるものと考えられます。

日野市では後述のとおり生産緑地地区の追加指定を促しています。また、今後は国の法整備に準じて市としての対策を検討し取り組んでいきます。

(参考 1) 生産緑地面積



生産緑地地区とは

市街化区域内にある農地等の農業生産活動に裏付けられた緑地機能に着目して、農業が営まれている等の一定の要件を満たす一団の農地について、「保全する農地」として計画的に保全し、税制上の優遇措置などにより良好な都市環境の形成を図る都市計画の制度。

1992 年からこの制度が始まり、この時に指定を受けた生産緑地の指定期間が2022 年で終了する。

生産緑地は 2002 年度から他市に先がけて追加指定を行なっています。2018 年度は前年度に比べ、約 2ha 減少の約 111ha でした。10 年前と面積を比較すると約 20ha の減少となり、年間約 2ha の生産緑地が減少しています。生産緑地の面積減少の要因には、相続や後継者難等が考えられます。

日野市では 2017 年に条例を制定して生産緑地指定の面積要件を緩和し、追加指定を促しています。

3. 環境の現状と取組状況の評価

コラム：全国で第1号！生産緑地を借りて新規就農者誕生！！

生産緑地法の施行から30年目が2022年と迫っている中、高齢化などで農地を手放し宅地転用の増加や都市部の緑地減少が予測されることから、借主が自治体から事業計画の認定を受ければ、農地を貸した後も所有者の優遇措置が継続する新法（都市農地貸借円滑化法）が成立し2018年9月に施行されました。

この新法を活用し全国第1号の新規就農者となったのは、万願寺に在住の川名桂さんです。

川名さんは、海外の発展途上国の農村地帯を回るうちに、「人間の本质である農業」に魅力を感じ、一生の仕事にしようと決めたとのこと。農業法人に就職され、福井県で農場の開設にも携われました。

川名さんは、「日野市は父親が育った土地。縁のあるところで農業をやりたい。東京の農家が消費者と直接農産物を売買している姿を見て、消費者と身近な農業者になりたい。」と強く感じられ、2019年3月から新井にある生産緑地1,095㎡を借り農業を始めました。品質の良い野菜を作り、農業が好きな貸主さんの思いも引き継いでいきたいという希望と、農業の魅力を幅広い方々に作物や食を通して伝えていきたいとの情熱をもって、日々農業に勤まっています。



川名さんについては、広報ひの2019年4月15日号で紹介されています。

1. -3 市民一人当たり都市公園面積

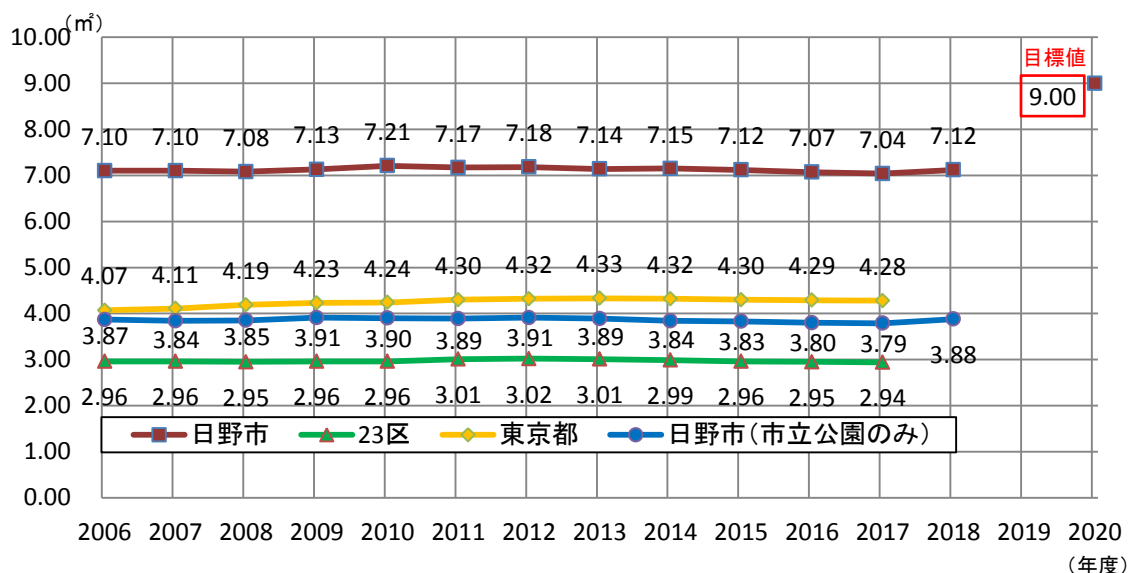
目標値：9.00 ㎡/人

(2020 年度)

指標 4：一人当たり都市公園面積

一人当たり都市公園面積は、2018 年度は前年度より 0.8 ㎡増加し 7.12 ㎡となりました。

日野市の総人口が増加傾向にある中、目標達成に向けては厳しい状況ですが、2018 年度には北川原公園の約 1.9ha を供用開始するなど、都市公園面積の増加に努めています。



※23 区と東京都は、本書編集時点で最新となる 2017 年度までの数値を掲載しています。

都市公園とは

下記に該当する公園または緑地である。

- ・都市計画施設である公園又は緑地で、国又は地方公共団体の設置するもの。
- ・都市計画法による都市計画区域内において、地方公共団体が設置する公園又は緑地。

(参考 2) 多摩地区の一人当たり都市公園面積

(2018 年 4 月 1 日現在)

10 ㎡以上	7 ㎡以上	4 ㎡以上	4 ㎡未満
瑞穂町(36.89)	昭島市(9.93)	福生市(6.89)	あきる野市(3.73)
武蔵村山市(17.29)	町田市(9.66)	府中市(6.84)	日の出町(3.21)
多摩市(15.94)	立川市(9.41)	小金井市(6.41)	三鷹市(3.14)
八王子市(11.94)	東大和市(8.18)	羽村市(6.16)	小平市(2.69)
稲城市(10.88)		調布市(5.23)	東久留米市(2.09)
		東村山市(5.15)	国立市(2.06)
		青梅市(4.46)	国分寺市(1.75)
		武蔵野市(4.13)	狛江市(1.28)
			西東京市(1.28)
			清瀬市(0.67)

※指標 4 と「(参考)多摩地区の一人当たり都市公園面積」では出典が異なるため、参考として他自治体の状況を掲載しています。上記の表の平均は 7.31 ㎡です。

3. 環境の現状と取組状況の評価

2. <市の取組状況>

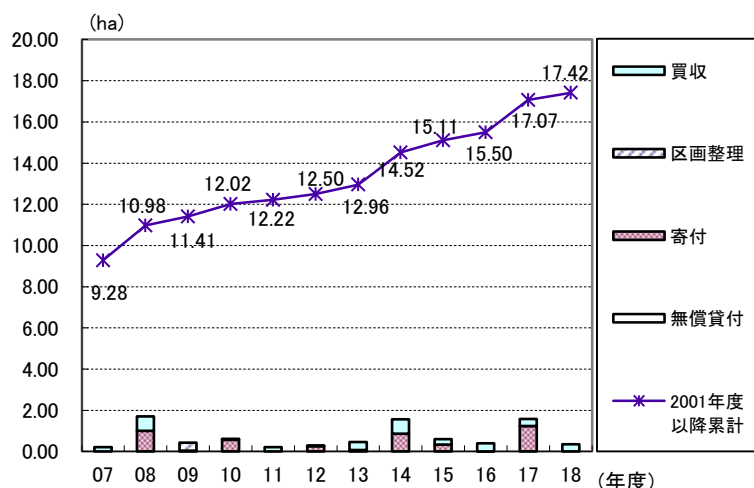
目標	施策の方向	施策	具体的な取組	実施状況
緑の原風景をつなぐまち	自然度の高いみどり	丘陵地・斜面緑地等の保全	民有緑地の公有地化等の推進	一定予算確保を継続し、残すべき民有緑地の公有地化を計画的・選択的に推進する。環境緑化募金なども引き続き活用する。 →指標 5(P. 17)
			緑地管理協定等による保全の推進	緑地信託制度など、緑地所有者との管理・利活用に関する協定による緑地の保全を図る。 →指標 6(P.17)
			市民緑地活動の積極的支援	ひの緑のトラストなど、市民の緑地保全活動の普及・啓発を積極的に支援するとともに、市民とともに有効的な方法について検討し、緑地の保全を図る。 →指標 7(P.17)
			「残したいみどり」の選定	2014 年度末の「残したいみどりの選定」の成果まとめを参考に、今後の緑地保全の方向性について、第二次環境基本計画「みどりグループ」で検討を行なった。 →指標 8(P. 18)
		里山文化の継承を兼ねた管理体制	ボランティアによる里山の管理と活用	2005 年度より開始され、2018 年度で第 14 期目となり、受講生は 22 名であった。講座は南丘雑木林を愛する会を中心に、主催である水と緑の日野市民ネットワークに加入している団体や大学教授からの講義、道具を使用しての体験学習を行なった。(年 11 回)。結果、2018 年度は 16 名が課程を修了し、3 月の修了式で初級日野市雑木林管理士の修了証を交付。7 名の修了生がボランティアに加入した。 →指標 8(P. 18)
	農地の保全と活用	農のある風景の保全	市民農園等の拡充	・市営市民農園は 10 農園(619 区画) ・民営(NPO法人めぐみ)による市民農園 2 園 ・農家経営による農業体験農園は 4 園(2018 年に新たに 1 園開設) →指標 9(P. 18)
			援農ボランティア制度の拡充	2005 年 1 月に「農の学校」を開校し、現在までに 14 期 244 名の援農ボランティアを輩出した。卒業生は NPO 法人日野人・援農の会に所属し、ボランティア活動を行なっている。また、NPO 法人日野人・援農の会により、土・日等の休日に援農ができる方などを対象に 1 年単位で実習を行ない、終了後に援農ボランティアとして活動する「野菜栽培塾」を開催。 【状況】 2018 年度は 98 名が 45 農家で援農。 →指標 10(P. 18)
		地産地消による生産流通システムの確立	地元野菜にふれる機会の充実	・学校給食供給農家は、現在 42 農家が供給。 ・市役所本庁舎 1 階ロビーにて、毎月第 2、第 4 木曜日にファーマーズセンター「みのり処」の出張販売を行ない来庁者への販売。また、ファーマーズセンターにて市内農産物を使用したランチの提供。 ・「ひの恵み焼きカレーパン」への素材提供(ジャガイモなど)。 →指標 11.13(P.19)
	まちの創出・保全	民有地等の緑化	生け垣緑化の推進	ブロック塀撤去と生け垣設置補助に関する実態を把握し、より使いやすい補助制度を検討する。また、地域で生け垣緑化に取り組むモデル事業などを実施するとともに、地区計画で生け垣設置を推奨する。 →指標 14(P. 20)
	協働によるみどりの保全・創出	みどりに関する普及啓発	市民・事業者への情報提供・PR	雑木林を守るための専門的な知識と技術を持ったボランティアを育成するため、雑木林ボランティア講座を実施。また、2018 年度から、東豊田緑地保全地域等を活動の拠点として、緑と清流の保全リーダーの育成と地域づくりへの参加を促すことを目的とした、黒川マイスター講座を実施した。講座は全 11 回を実施し、黒川マイスター認定者は 14 名であった。 (緑と清流課)
		協働によるみどりの実態把握	みどり・生き物マップの作成	「みどり・生き物マップ」については、自然観察会実施の際に情報提供ツールとして活用した。 (緑と清流課)

2-1 自然度の高いみどり

(1) 丘陵地・斜面緑地等の保全

民有緑地の公有地化等の推進

☺ 指標 5：市が寄付や買収等で取得した樹林地面積

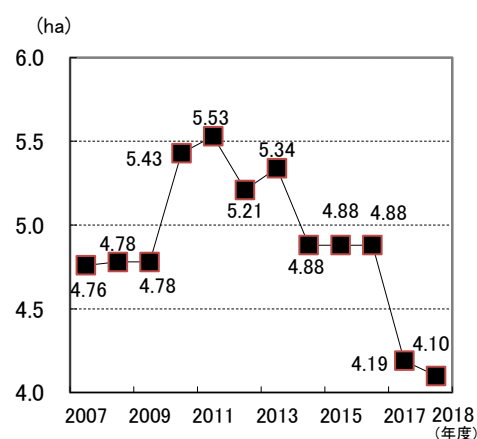


2018 年度に市が取得した樹林地面積は、買収により前年度より 0.35ha 増加しました。

緑地信託面積は、0.09ha 減少し、評価は未達成としています。減少の理由は、信託緑地889㎡について、2018年12月11日に日野市土地開発公社にて買収を行なったためです。この緑地は2020年度に日野市にて買戻しを予定しており、市の緑地の総量が減少したというものではありません。

緑地管理協定等による保全の推進

☹ 指標 6：緑地信託面積



緑地信託制度とは

良好な緑地、里山等について、所有者と市が信託契約を結び、市が緑地を管理する制度のことです。市がサポートすることで、安定した緑地維持ができる措置を図っています。

市民緑地活動の積極的支援

◇ 指標 7：緑のトラストへの寄付件数

年度	寄付件数(件)
2009	32
2010	85
2011	248
2012	592
2013	281
2014	279
2015	85
2016	13
2017	3
2018	1
累計	1,619

寄付件数の累計は1,619件となりました。金額では2018年度末時点で累計3,387,947円にのびります。

市では、市民による緑のトラスト運動の後押しを受け、2018年度に、この運動の発端となった新葉山緑地（真堂が谷戸）の公有地化を行ないました。

なお、2011年度以降は街頭募金の件数も計上されています。

新葉山緑地
(真堂が谷戸)



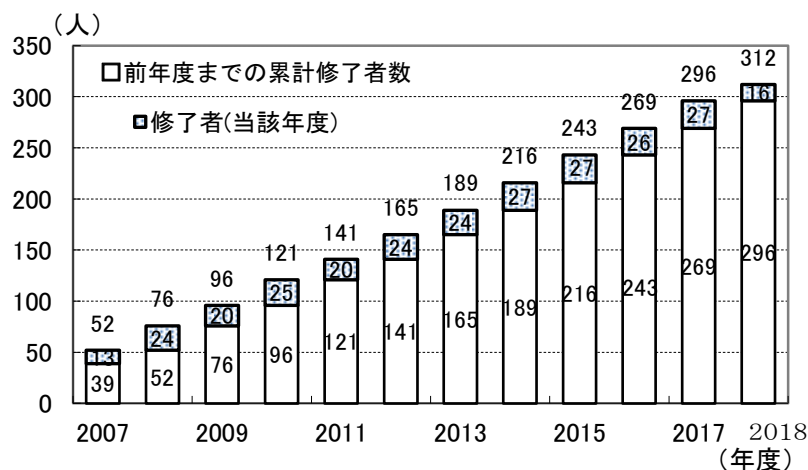
3. 環境の現状と取組状況の評価

(2) 里山文化の継承を兼ねた管理体制の構築

ボランティアによる里山の管理と活用

😊 指標 8：雑木林ボランティア講座修了者数

2020 年度目標値：累計 339 名



雑木林ボランティア講座は、2018 年度で 14 年目となりました。修了者は、累計 312 人に達し、目標値まであと一息です。

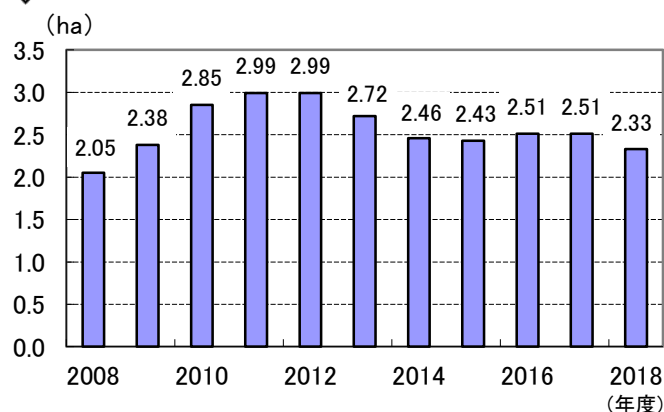
2018 年度の修了者のうち、7 名が雑木林に関するボランティア団体に加入しました。

2.-2 農地の保全と活用

(1) 農のある風景の保全

市民農園等の拡充

◇ 指標 9：市民農園等の面積



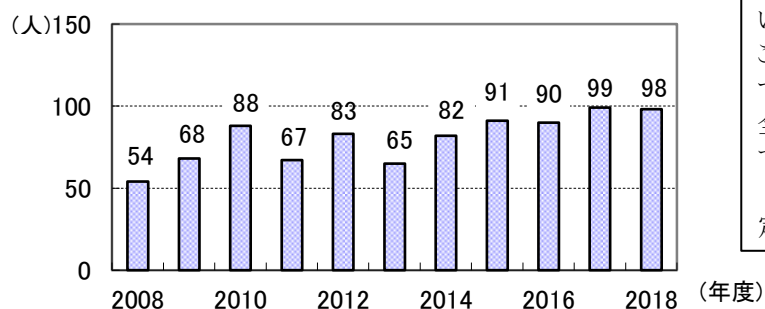
市民農園等の面積は、市が開設した市民農園（10 園）と民営の市民農園（2 園）、農業体験農園（4 園）の面積の合計です。面積の内訳は、市民農園 15,504 m²（前年度より 1 園 1,107 m² 減少）、民営の市民農園 1,580 m²（前年度より 1 園 1,427 m² 減少）農業体験農園 6,195 m²（前年度より 1 園 677 m² 増加）です。

市では民営による市民農園の支援を進めており、2011 年に最初の 1 園が開園しました。2016 年には 3 園まで増えてましたが、2018 年は 2 園となり、市民農園の数は合計で 12 園です。

援農ボランティア制度の拡充

😊 指標 10：援農人数

援農ボランティア育成のため 2018 年度も「農の学校」を開設し、卒業生が援農ボランティアとして活動しています。



市民農園が農地保全になっている理由

日野市の市民農園では、宅地化農地（生産緑地ではない）を農家から借用しています。様々な理由で、自分で耕作することが困難な農地を市民農園として活用することで、農家の負担軽減・農地の保全・市民が土に親しむ場の提供を行なっています。

なお、市民農園に借用する農地は、固定資産税が免除されます。

(2) 地産地消による生産流通システムの確立

地元野菜に触れる機会の充実

2020 年度目標値:共同直売所:3 か所
定期即売会:3 か所
イベント会場での即売実施

指標 11:「市」の開催日数

「市」の開催場所(2018 年度)	区分	開催時期	開催日数
みなみの恵み	共同直売所	通年、木～火曜	304
マルシェひらやま(平山農産物直売所)	共同直売所	通年、月～土曜	304
JA 七生地区農産物直売所	共同直売所	通年、月～土曜	304
日野市立七ッ塚ファーマーズセンター	共同直売所	通年、月～日曜	357
ひののやっちゃ場(※10 月閉鎖)	共同直売所	通年、月～土曜	150
日野駅東側広場	定期即売会	通年、火・木・土曜	140
多摩平第七公園	定期即売会	通年、火・木・土曜	140
多摩平の森 ユリの木集会所	定期即売会	通年、月～土曜	140
日野市役所(NPO 法人めぐみ)	定期即売会	月 2 回 第 2 木曜・第 4 木曜	24
春の野菜苗即売会(1 か所)	定期即売会	4 月下旬	1
産業まつり	イベント即売	11 月 11 日(土)・12 日(日)	2
暮れの野菜即売会	定期即売会	12 月下旬	5
都市農業シンポジウム	イベント即売	1 月 19 日(土)	1
合計			1,872

2018年度の「市」は、共同直売所5ヶ所、定期即売会6か所、イベント即売2回で、前年度とほぼ同じ規模で開催されました。開催日数は1,872回で、「ひののやっちゃ場」が10月で閉鎖したため前年度よりやや減少しました。

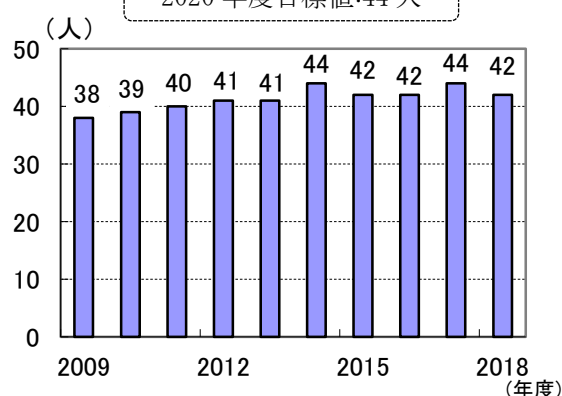
指標12: 学校給食における地元野菜等利用率

2020 年度目標値:利用率25%



指標13: 給食野菜納品農業者数

2020 年度目標値:44 人



※学校給食における地元野菜等利用率は、学校給食に使用する野菜等のうちの金額ベースの、地元野菜等の使用比率。

学校給食における 2018 年度の地元野菜等利用率は、前年度の 27.2%と比較して 2.6 ポイント増加して 29.8%となりました。

2018 年度の給食野菜納品農業者数は、前年度より 2 人減少して 42 人でした。

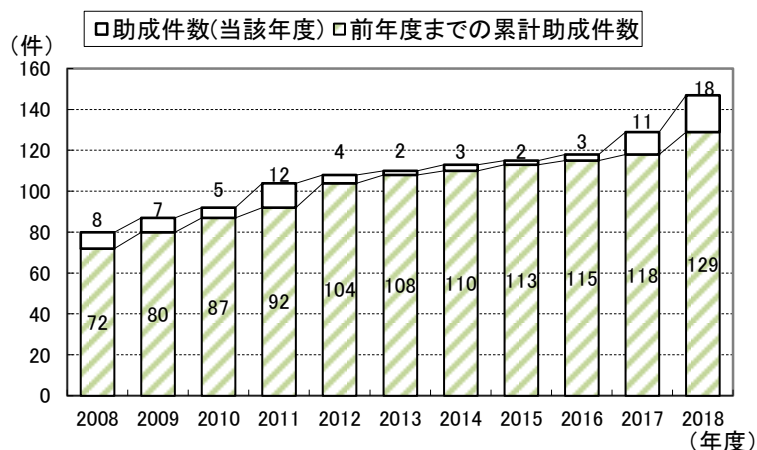
3. 環境の現状と取組状況の評価

2-3 まちなかのみどりの創出・保全

(1) 民有地等の緑化

生け垣緑化の促進

◇ 指標 14：生け垣の助成件数*



*2017 年度件数 11 件のうち生け垣は 3 件
2018 年度件数 18 件のうち生け垣は 1 件

日野市では、住宅地を安全、快適で緑豊かな生活環境にする目的で、生け垣設置の費用を補助してきました。

2017 年度からは新しく「日野市ウェルカムツリー等植栽補助制度」となり、2018 年度は 18 件（生け垣 1 件、ウェルカムツリー 17 件）の補助を行ないました。

ウェルカムツリーとは

日野市へ転入された方やお子さんを出産された方、家屋（戸建住宅・マンション等）を新築された方や事業所等を新築された方が記念として植栽した樹木をいいます。

3.<市民コメント>

農地や樹林地が徐々に減少するなかで、公費を投じて用地買収を行い、緑地を確保する「民有緑地の公有地化等の推進」の成果は着実に現れており、公有化された緑地の面積は増加しています。一方で、緑地信託面積は減少してきています。緑地信託も緑を確保するための重要な仕組みであることを考えると、この減少の原因について、緑地信託の件数が減少したからなのか、緑地信託されていた緑地が公有地化されたからなのか、継続して詳しい分析がほしいところです。

次に、公有地化された緑地ですが、年々増加していくこのような緑地を、今後どのように維持管理していくかという大きな課題があります。これら緑地の多くがかつて薪炭林として使われていたコナラを中心とした雑木林ですが、これらは生活のために人が手を入れ続けてきたことにより、森林の遷移が一定の段階で留まり、生物多様性が維持されてきた環境です。しかし、生活に必要なもののほとんどを石油製品から賄っている現代の暮らしのなかで、森を生活のために活用することは難しいです。こうした森を今の時代に合ったやり方で管理していく必要があります。放っておくと、アズマネザサが背丈よりも高く繁茂し、見通しの悪い単調な林床になるか、あるいはヒサカキやカシ類が生え、暗い常緑樹の森に遷移していきます。関東平野の気象条件下では、人が手を入れないと常緑樹の森に変わっていきます。これも自然のままに任せるということではないのではないかという意見もあります。しかし、全ての雑木林が常緑樹の森や、アズマネザサがボウボウと茂る森になっていいかというところではないと思います。雑木林という人が作った森は、長い歴史の中で持続可能な自然との付き合い方を実践していた文化遺産でもあります。また、生物多様性の維持という視点でも重要な拠点となります。これをどのように現代の生活の中で活かしていくか。最近の新しい概念で「グリーンインフラ」という言葉があります。緑地は防災機

能、良好な環境や景観を形成する機能、環境浄化機能、文化創造機能等々、1つで多くの社会的なインフラを形成しているという見方です。雑木林のこれからの役割はこれだと思います。市民や行政がお金や時間をかけてインフラを良好に保っていくという新しい見方をする必要が出てきているのかもしれません。

そのために、雑木林ボランティア講座をはじめとした、緑地管理の人材育成が重要になります。この講座の受講生は順調に増加していますが、これが実際に緑地管理の人材育成のしくみとして十分機能しているかというところではなく、実際に関わる人を増やしていくための仕組みづくりが課題として残っています。そのためには市民が緑に関心をもち、身近なところから緑の施策に参加できる仕掛けが重要だと思います。緑の施策は全て関連があり、つながっています。

水分野

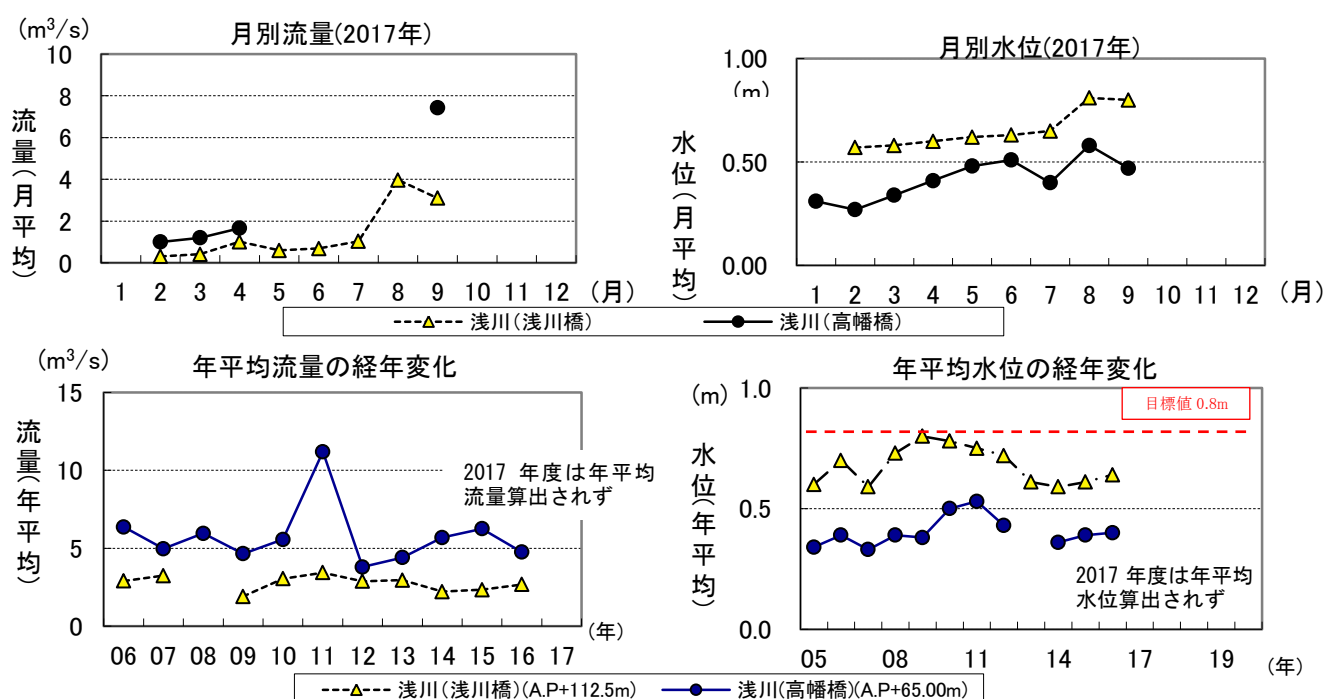
< 目 標 > 水文化を伝えるまち

1. <環境の現状>

1-1 浅川の水位

目標値:【浅川橋】年平均 0.8m
(2020 年度)

指標 15 : 浅川の平均河川水量・水位



浅川橋の2017年の流量、水位については、水位計が土砂の堆積により欠測として整理されています。計測可能な期間の月の平均流量は、8月に最大値(3.97m³/s)、2月に最小値(0.31m³/s)、年平均流量は算出されていません。計測可能な期間の月平均水位は、8月に最大(0.81)、2月に最小(0.57m)で年平均値は算出されていません。

高幡橋の2017年の流量、水位についても、欠測が多くなっています。計測可能な期間の月の平均流量は、9月に最大値(7.43m³/s)、2月に最小値(1.00m³/s)、年平均流量は算出されていません。計測可能な期間の月平均水位は、8月に最大(0.58)、2月に最小(0.27m)で年平均値は算出されていません。

両地点での年平均値は算出されていませんが、次ページ(参考3)の2017年10月3日の浅川の流量測定結果が例年と比べ多いとはいえないことから、評価は未達成とします。

浅川の流量に関係する八王子観測所の降水量は2017年間で1514.5mm、7月に130mm、8月に176mm、10月は台風21号、22号や秋雨前線の影響により降水量は626mmと多くなりました。浅川の流量に欠測が多く、降水量との関連は解析できませんでした。

日野市内を流れる浅川の水源の一つになっている八王子市北野処理場の合流式分が2015年7月に流域下水道に編入されたことにより、日野市内を流れる浅川の水量は1日に約2万m³減少したことになります。これは日野市にとって大きな問題ですが、それに対処するために浅川流域一帯で雨水浸透を促進し、浅川へ湧水・地下水の流入を増加させることが大切です。

また、日野市では浅川の水量減少に対処するプロジェクトチーム(PT)が 2016 年度に発足し、日野市内の浅川流量測定を実施しています(参考 3)。

(参考 3) 浅川の流量測定結果

○ 日野市浅川 PT による流量測定結果

浅川の水量減少と水位低下の課題に対処するプロジェクトチーム (PT) が 2016 年度に発足し、流量測定を実施している。PT の構成は環境共生部 (緑と清流課、環境保全課、下水道課) である。

【2018 年度の測定日・測定場所・参加者】

第 5 回	2018 年 7 月 3 日	午前	場所	一番橋上流	約 320m	参加者	9 名
第 6 回	2018 年 10 月 16 日	午前	場所	一番橋上流	約 320m	参加者	8 名
第 7 回	2018 年 12 月 18 日	午前	場所	一番橋上流	約 400m	参加者	8 名

【測定方法】

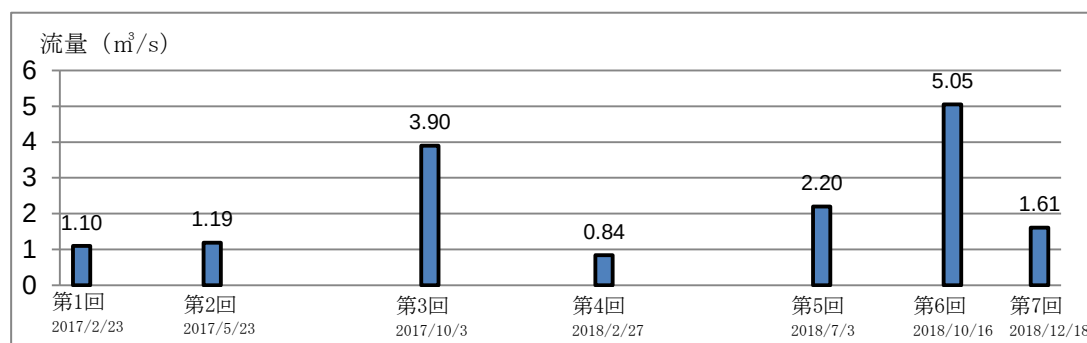
1m ごとに水深、各中間地点で流速(電磁流速計 東邦電探 CMT-10C 型)をそれぞれ測定し、各区分の流量を求め、各区分の流量を合計して全流量を求めた。水深が浅く流速計が使用できない箇所では浮子の 1m の流下時間より流速を求めた。

【測定結果】(過去の測定結果を含む)

測定日	川幅 (m)	水深 (c m)	流速 (m/s)	流量 (m ³ /s)
市民連携流況調査 (2016. 2. 16)	33. 0	—	0. 2～0. 61	2. 3
第 1 回 (2017. 2. 23)	18. 5	6. 4～22. 5	0. 14～0. 61	1. 10
第 2 回 (2017. 5. 23)	18. 6	6. 3～22. 3	0. 13～0. 65	1. 19
第 3 回 (2017. 10. 3)	24. 9	11. 0～35. 0	0. 018～0. 38	3. 90
第 4 回 (2018. 2. 27)	14. 8	1. 5～74. 3	0. 0～0. 25	0. 84
第 5 回 (2018. 7. 3)	13. 9	0. 0～35. 0	0. 30～1. 02	2. 20
第 6 回 (2018. 10. 16)	33. 0	11. 5～43. 0	0. 35～0. 79	5. 05
第 7 回 (2018. 12. 18)	33. 0	0. 0～32. 5	0. 0～0. 74	1. 61

※第 1 回～第 4 回の流速の測定には、電磁流速計 TAHAYA UC-204 を使用した。

【流量の推移】



3. 環境の現状と取組状況の評価

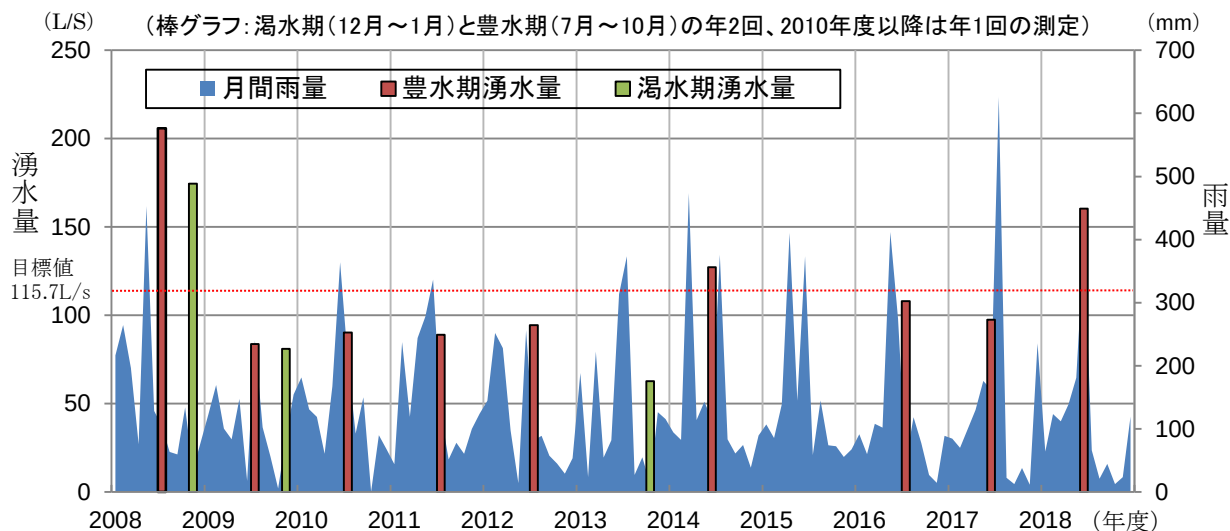
1-2 湧水確認地点数・湧水量

目標値:【地点数】179 箇所

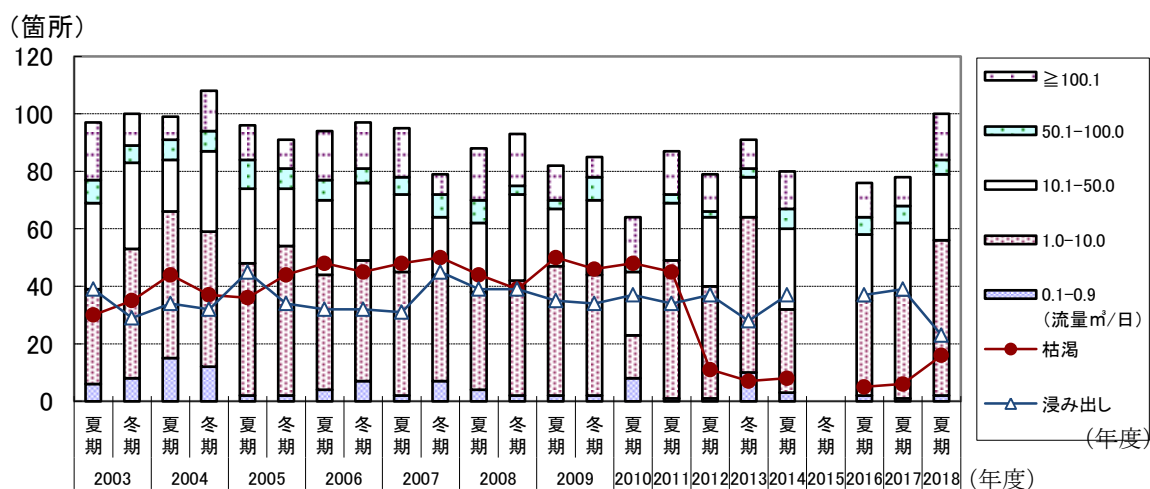
【湧水量】10,000t/日 (115.74L/s)

(2020 年度)

◇ 指標 16：月別雨量と調査地点の総湧水量



(参考 4) 湧水地点の状況



2018 年度の日野市内全域の総湧水量調査(湧水現況調査)は 2018 年 7 月 25～8 月 6 日に実施されました。湧水量を調査した地点数は 143 地点でしたが、実際に湧水量を測定できた地点は 100 地点となりました。総湧水量は 13,855 m³/日 (160.4L/秒)となりました。この値は湧水量調査報告書(2019 年 4 月)の中から七生中学校、豊田小学校および平山東公園の自噴水を除外したものです。前年の総湧水量調査は 2017 年 9 月 13～27 日に実施され、総湧水量は 8,425 m³/日 (97.5L/秒)であり、今回の結果は前年よりかなり多くなりました。

調査した 143 地点のなかで湧水量を測定できた地点は 100 地点で、「浸みだし・溜り」や「枯渇」などの地点は 43 地点となり、全地点の約 30%に達しました。

2018 年度の降水量(気象庁八王子観測地点)は 1,306mmであり、2017 年度の 1,699mm より少なくなりました。

総湧水量の 2011 年以降の経年変化を表1に示します。各年度で調査時期が異なりますが、2018 年度に最も多く(13,855 m³/日)、2013 年度に最も少なくなりました(5,430 m³/日)(表1)。湧水量に関連する降水量は、2012年度は2011年度に比べ少なくなりましたが、総湧水量はやや増加していました。また 2017 年度の湧水量は 2016 年度より少なくなりましたが、降水量は多くなっていました。これらの原因として調査時期やその降水量の違いおよび調査地点の変化などが考えられます。2015 年度は 30 地点のみで調査されたため、総湧水量を算出することができませんでした。

表 1 総湧水量の経年変化 (2011 年度～2017 年度)

調査年月	総湧水量 (m ³ /日)	年度降水量 (mm)
2011 年 7 月～8 月	7,690	1,799
2012 年 7 月～9 月	8,165	1,344
2013 年 12 月～2014 年 2 月	5,430	1,595
2014 年 9 月～11 月	10,399	1,745
2015 年 2 月	算出できず	1,733
2016 年 10 月～11 月	9,340	1,422
2017 年 9 月	8,425	1,669
2018 年 7～8 月	13,855	1,306

湧水の状況を湧水量ごとに分け整理すると次のようになります(表2)。

湧水量が 100.1 m³/日以上(1.16L/秒以上)の地点数は 16 地点で全体の 11.2%、1.0～10 m³/日(0.01～0.12L/秒)の地点数が最も多く、54 地点で全体の 37.8%になりました。

表 2 湧水量ごとの地点数

総湧水量 (m ³ /日)		地点数	割合 (%)
(m ³ /日)	L/秒		
100.1 以上	1.16 以上	16	11.2
50.1～100	0.58～1.15	5	3.5
10.1～50	0.12～0.57	23	16.1
1.0～10	0.01～0.12	54	37.8
0.1～0.9	0.001～0.01	2	1.4
測定可能な地点合計		100	69.9
浸み出し・溜り		23	16.1
枯渇		16	11.2
その他(測定不能)		4	2.8
測定不可能な地点合計		43	30.1
調査地点総計		143	100

湧水の状況を地域別に分けて整理すると次のようになります(表3)。

黒川清流公園など日野台地上位面(100m崖線)からの湧水地点数は 38 地点で全体の 26.6%ですが、湧水量は全体の 62.0%を占めました。中央図書館下など日野台地下位面(80m崖線)からの湧水地点数は 19 地点で全体の 13.3%、湧水量は全体の 30.9%になりました。一方、小沢緑地など多摩丘陵からの湧水地点数は 83 地点と最も多く、全体の 58.0%に達しましたが、湧水量は全体の 7.0%に過ぎませんでした。また多摩丘陵などで湧水量を測定できなかった地点数(浸み出し、溜り、枯渇)は 43 地点になりました。多摩丘陵は開発などに伴い、湧水量に影響を受けやすい地域であると考えられます。

3. 環境の現状と取組状況の評価

表3 地域別に分けた湧水地点数と湧水量

	日野台地上位面 (100m崖線) からの湧水	日野台地下位面 (80m崖線) からの湧水	多摩丘陵 からの湧水	集計か ら除外	総計
湧水量 (m ³ /日)	8,595	4,298	1,089		13,855
湧水量 (L/s)	99.5	49.6	11.3		160.4
湧水量 (%)	62.0	30.9	7.0		100
湧水地点数 (箇所)	38	19	83	3	143
湧水地点数 (%)	26.6	13.3	58.0	2.1	100

環境基本計画の目標値は湧水地点数 179 箇所、湧水量 10,000 m³/日であり、2018 年度は湧水地点数で目標値を達成することができませんでした。目標値を達成するためには湧水地点の環境を保全することが重要です。湧水量は降水量や季節により変化しますが、湧水地域の宅地化など土地利用の変化により、減少したり、枯渇することが考えられます。今後もさらに長期的な推移を見ながら湧水の保全を考える必要があります。

1-3 用水の水質



指標 17：各用水路の水質分析結果

目標値:生活環境の保全に
する環境基準 B 類型に適合

(B 類型環境基準値 BOD 3mg/L 以下)
(2020 年度)

市内の河川・用水(調査対象)は、2016 年度まではすべて「B 類型」、2017 年度からは多摩川を除き「A 類型」に指定されていますが、目標値は、目標を設定した時点での類型指定「B 類型」の環境基準に適合することとしています。

2018 年度は、2017 年度の結果に比べやや高い値でしたが、すべての地点で生物化学的酸素要求量(BOD)の B 類型基準値 (3mg/L 以下) を満足する良好な値で、目標値を達成していました。

河川の類型指定とは

水質汚濁に係る環境基準を定める際に、水域の利用目的、水質汚濁の状況、水質汚濁源の立地状況等を考慮して、水域の類型が指定されます。この類型により適用される環境基準値が異なります。河川については 6 類型(AA、A、B、C、D、E)に分けられており、AA 類型が最もきれいな水域、E 類型が最も汚れた水域という位置づけです。

調査地点名		BOD(mg/L)		
		2016 年	2017 年	2018 年
多摩川(石田大橋付近)		1.4	<0.5	1.1
浅川(落合地内)		1.0	<0.5	0.6
用水路	日野用水下堰(東光寺市営住宅前)	0.5	0.5	0.6
	日野用水上堰(よそう森堀)	0.5	0.7	0.6
	豊田用水(豊田 2 丁目地内)	0.8	1.2	0.9
	豊田用水(堀之内緑道)	0.9	1.0	1.1
	黒川水路(黒川清流公園)	0.7	0.5	0.5
	上田用水(延命寺・日枝神社付近)	1.0	0.5	1.6
	新井用水(新井用水親水路)	0.8	0.9	0.9
	平山用水(平山東公園・ふれあい水辺)	1.1	0.8	0.9
	落川用水(落川公園)	0.9	0.9	1.2
流入河川	向島用水(向島用水親水路)	0.8	0.7	0.7
	谷地川(連光寺グランド周辺)	1.1	0.7	0.9
	根川(クリーンセンター付近)	2.1	1.2	2.1
	程久保川(程久保川ワンド)	0.9	0.8	0.9

2016 年度：多摩川・浅川は年 1 回(8 月)測定値、上田用水は年 2 回(5 月、8 月)の平均値

2017 年度・2018 年度：多摩川・浅川・上田用水は年 1 回(8 月)の測定値、その他の用水路等は年 4 回(5 月、8 月、11 月、2 月)の平均値

1-4 河川・用水・湧水の水生生物

☺ 指標 18：河川・用水・湧水の水生生物の確認状況

目標値:底生生物:90 種

魚類:15 種

付着藻類:42 種

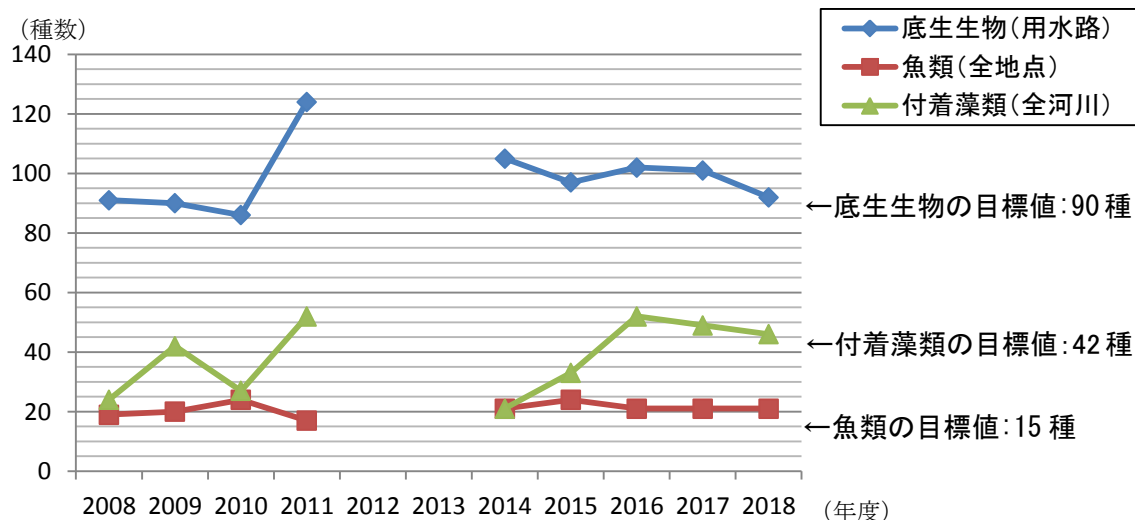
(2020 年度)

2018 年度の調査は 2017 年度と同様に 8 月に実施されました。確認された底生生物の種数は河川で 54 種(多摩川 43 種、浅川 32 種)、用水路で 92 種、流入河川で 51 種となり、2017 年度と同じような結果となりました。魚類の種数は、河川で 10 種(多摩川 8 種、浅川 8 種)、用水路で 18 種、流入河川で 14 種、全調査地点では 21 種となり、2017 年度と同じ結果でした。確認された付着藻類の種数は 46 種であり、多摩川で 42 種、浅川で 27 種となり、2017 年度に比べ多摩川でやや増加し、浅川でやや減少しました。確認された水草の種数は用水路で 19 種、流入河川で 14 種となりました。

底生生物、魚類、付着藻類の種数の経年変化をみると、いずれも目標値に近い水準で推移しているといえます。

水生生物の確認種数

調査地点	調査年度	2017 年度								2018 年度							
多摩川		35	46	8	10	41	49	—	—	43	54	8	10	42	46	—	—
浅川		33		6		29		—	—	32		8		27		—	—
用水路 (10 地点)		101		17		—		19		92		18		—		19	
流入河川 (3 地点)		53		15		—		13		51		14		—		14	
全調査地点		—		21		49		22		—		21		46		23	



本調査で確認された重要種は、底生生物調査で3種、魚類調査では10種(魚類以外も含む)、水草調査では4種で計17種となりました。底生生物調査で確認された重要種は、コシダカヒメモアアラガイが上田用水で、マメシジミ属の一種が用水路7地点で確認されました。魚類の重要種として、「環境省レッドリスト2019年」で絶滅危惧ⅠB類のホトケドジョウが平山用水で、ムサシノジュズカケハゼが上田用水、新井用水、程久保川ワンドで確認されました。また、絶滅危惧Ⅱ類のミナミメダカが谷地川と程久保川ワンドで、準絶滅危惧のドジョウが用水路4地点、流入河川1地点で確認されました。その他に「東京都レッドリスト2013年」に記載されているアブラハヤ、カマツカ、ニゴイ、ヒガシシマドジョウ、ナマズが多摩川・浅川で3

3. 環境の現状と取組状況の評価

種、用水路で4種、流入河川で4種、各々確認されました。魚類以外では、東京都レッドリストで留意種に指定されているスジエビが多摩川と平山用水で確認されました。水草の重要種として、セキショウモ、ササバモ、マコモ、ミクリの4種が用水路5地点と程久保川ワンドで確認されました。

確認された外来種は、底生生物調査で8種、魚類調査で1種、水草調査で5種の合計14種でした。底生生物調査および魚類調査では、特定外来生物に指定されているコクチバスが多摩川、日野用水下堰、根川で、生態系被害防止外来種リストの掲載種では、フロリダマミズヨコエビが7地点、アメリカザリガニが11地点、コモチカワツボが3地点で確認されました。また、自然分布が国内でないことが明らかなカワリヌマエビ属の一種は全地点(15地点)で確認されました。近年、多摩川水系ではコクチバスの分布域が拡大していますので、今後も注目して監視することが必要です。水草では特定外来種であるオオフサモが程久保川ワンドで、オオカワヂシャが根川で確認されました。これらの種は近年、多摩川水系で分布を広げており、とくにオオカワヂシャは本調査で2014年度に初めて確認され、本年度まで毎年確認されています。



アブラハヤ



カマツカ



ムサシノジュズカケハゼ



ヒガシシマドジョウ

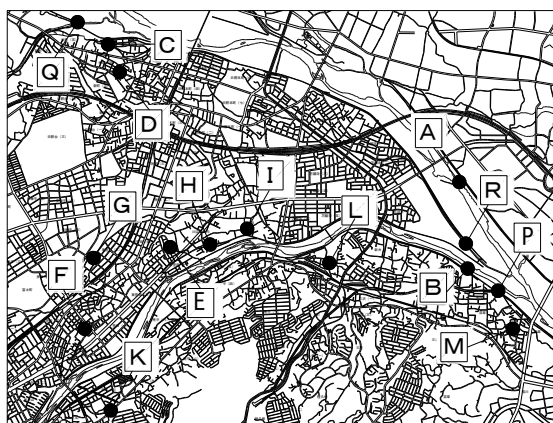
(参考5) 水生生物による水質の生物学的判定

(1) 調査の概要

調査期間: 2018年8月21日から23日

調査地点: 河川(多摩川、浅川)、用水路等、流入河川を含む15地点(図AからP参照)

調査内容: 底生生物、魚類、付着藻類(河川のみ)、水草(用水路、流入河川のみ)、BOD、BOD 負荷量(用水、流入河川のみ)、DO(溶存酸素)、pH



(2) 水生生物による水質判定

水生生物による水質判定は長期間の水質変動の平均的な様相を把握することができますが、生物には環境に対する適応性があるため、指標生物と水質の関係は絶対的なものではありません。

・底生生物による水質判定

多くの地点で「きれいな水域～割合きれいな水域」または「わりあいきれいな水域～汚れている水域」と判定されました。用水路2地点、流入河川1地点で「汚れている水域」と判定されました。

・魚類による水質判定

河川では多摩川・浅川ともに「きれいな水域」と判定されました。用水路では多くの地点で「きれいな水域」または「わりあいきれいな水域」と判定されましたが、1地点で「汚れている水域」と判定されました。流入河川の3地点では「きれいな水域」または「わりあいきれいな水域」と判定されました。

今回の水生生物調査では、全般的に多くの地点で水質は良好と判定されました。

(3) 理化学的水質と生物学的水質判定結果の比較

調査地点のBOD値は、すべての地点でB類型の環境基準を満たす3mg/L以下であり、「きれいな水域」と判定されています。生物学的水質判定による評価についても多くの地点で「わりあいきれいな水域」以上であると判定されました。BODによる理化学的水質判定結果と生物学的水質判定結果を比較すると、両者の結果は概ね一致しましたが、上田用水、落川用水、程久保川ワンドでは生物学的水質判定の結果と差が見られました。両地点では水の流れが遅く、きれいな水域の指標種である水生昆虫類の生息に適していない環境であるためと考えられます。

水生生物による水質判定

分類	調査地点		2017 年度			2018 年度		
			底生生物	魚類	BOD(mg/L)*	底生生物	魚類	BOD(mg/L)*
河川	A	多摩川（日野市多摩川総合グラウンド付近）	A～B	A	<0.5	A～B	A	1.1
	B	浅川（クリーンセンター付近）	A～B	A	<0.5	A～B	A	0.6
用水路等	用水路							
	C	日野用水下堰（東光寺市宮住宅前水路）	B	B	<0.5	B～C	B	0.6
	D	日野用水上堰（よそう森堀）	A～B	B	<0.5	B	B	0.7
	F	豊田用水（取付口）	B～C	A	0.5	B～C	B	1.3
	E	豊田用水（堀之内縁道）	B～C	B	<0.5	B～C	B	1.0
	G	黒川水路（黒川清流公園）	A～B	A	<0.5	A～B	A	0.6
	H	上田用水（延命寺・日枝神社付近）	C	C	0.5	C	C	1.6
	I	新井用水（新井用水水親水路）	A～B	A	0.5	B	A	1.2
	K	平山用水（平山東公園・ふれあい水辺）	B～C	B	<0.5	B～C	A	1.2
	M	落川用水（落川公園）	C	C	<0.5	C	A	1.5
	L	向島用水（向島用水親水路）	B	A	<0.5	B	A	0.7
	流入河川							
	Q	谷地川（多摩川合流点前）	B	A	<0.5	A～B	A	0.8
	R	根川（クリーンセンター付近）	B～C	B	0.6	B～C	B	2.3
	P	程久保川（程久保川ワンド）	B～C	A	<0.5	C	A	0.9

*BODの値は、水生生物の調査時期である8月の値

水質階級：その生物がよく出現する水域 A=きれいな水域（αs） B=わりあいきれいな水域（βm）
C=汚れている水域（αm） D=とても汚れている水域（ps）

3. 環境の現状と取組状況の評価

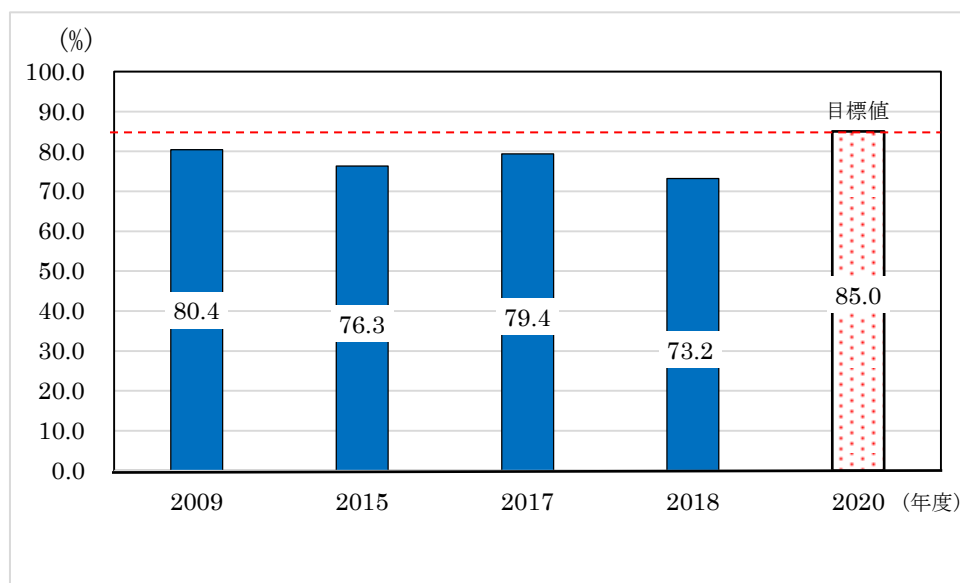
1.-5 水辺に親しみやうるおいを感じる市民の割合

◇ 指標 19：水辺に親しみやうるおいを感じる市民の割合

目標値:85.0%
(2020 年度)

2018 年度の市民意識調査の「日野市の良いところ」の設問への「自然環境が良い(水とみどり、農のある風景など)」への回答率は 73.2%で、2017 年度より 6.2 ポイント減少しましたが、依然として「日野市の良いところ」として最も多くの回答率を得ています。

今後も、様々な施策により自然環境を保全し、市民の皆様へより日野の自然の良さを実感していただき、自然を次世代へ引き継げるよう努めます。



2.<市の取組状況>

目標	施策の方向	施策		具体的な取組	実施状況
水文化を伝えるまち	健全な水循環の構築	水循環に寄与する方策の検討		市内の水収支の実態や、重要箇所における降水量と湧水量の関係、湧水周辺の生態系などを調査する。調査結果をもとに、地下水かん養、水辺の環境保全から水利用、治水までを含めた水循環に寄与する方策を検討する。	湧水量及び地下水位計測調査を継続実施した。（緑と清流課） → 指標 16(P. 24) プロジェクトチームにより浅川の流量測定を実施。（環境共生部）
		用水の保全・活用	（仮）用水路改修・補修計画の策定	用水カルテプロジェクトによる用水路実態調査等をもとに、用水路の役割や周辺の状況に合わせた保全・改修・補修・開渠化計画を作成する。	用水カルテに基づき、東京都小規模土地改良事業を活用し5か年計画で改修を進めている。（緑と清流課）
		湧水・地下水の保全	地下水揚水量の把握	法令に基づく揚水量の報告を徹底し、急激な揚水量の増加による地下水位の低下や湧水の枯渇、地盤沈下等が起こらないよう監視する。	揚水量の報告を受け、急激な揚水量の増加がないことを確認した。（環境保全課） → 指標 20(P. 32)
	雨水浸透・貯留利用の推進	雨水浸透・貯留施設の設置促進	家庭や事業所への雨水浸透・貯留施設の設置促進	家庭や事業所への雨水浸透・貯留施設の設置を呼びかけるとともに、補助金の交付を推進する。また、公共施設でも積極的に雨水浸透・貯留利用を推進する。	新築・増改築の雨水処理方法の相談時に丁寧に水循環や雨水涵養の大切さ、雨水浸透指導を行なった。（緑と清流課） → 指標 21(P. 32)
	水質の保全	水質の実態把握	水質調査・生物調査の実施	用水、河川、湧水、地下水の水質調査や、用水、河川の生物調査を実施し、水質や生態系の状態を継続的に把握する。	身近な水辺の一斉調査を実施した。（緑と清流課） 用水等の水質調査・水生生物調査を実施（環境保全課） → 指標 17,18(P. 26～28)
		水質汚濁の防止	生活排水及び污水处理の施設整備	汚水管の整備や下水道接続の促進（戸別指導、工事費用融資あっせん）、下流部の汚濁状況の情報提供などを実施する。	供用開始後の公共下水道未切替え世帯に対し、水洗化を要請した結果 24 件の切替えが行なわれた。これに伴う利子補給の融資あっせん者は 0 名。（下水道課） → 指標 22(P.34)
	協働による水辺の保全・活用	流域連携による活動の推進		流域連携による水源かん養の活動や、水辺づくりなどを通じた啓発活動を推進する。	八王子市との浅川流域連携事業により、あさかわ写真コンクールの実施を行なった。（緑と清流課）
		水辺に親しむ活動の推進		用水やビオトープをはじめとする水辺に親しめる場や機会を創出するとともに、水辺の楽しさや大切さを伝えることのできる指導者の確保に努める。	水辺の楽校の活動について協力を行なった。 水辺のある風景日野50選ガイドツアーを実施した。（みずとくらす・ひのとの共催）（緑と清流課） → 指標 23(P.34)
		水辺の保全・管理活動の推進		用水守制度を充実するとともに、地域や学校、用水守等が用水組合や農業者の用水管理活動を支援するための新たな活動を進める。また、清掃や草刈りなど、河川敷の美化・保全活動を行っている団体や個人への支援を行なう。	用水守により、無理のない範囲で事故なく、継続した清掃活動が実施された。（緑と清流課） → 指標 24(P.35) 「多摩川・浅川クリーン作戦」ははじめ、水辺の清掃イベントも積極的に実施・参加している。（緑と清流課） → 4. 環境への取組状況(P.96)

3. 環境の現状と取組状況の評価

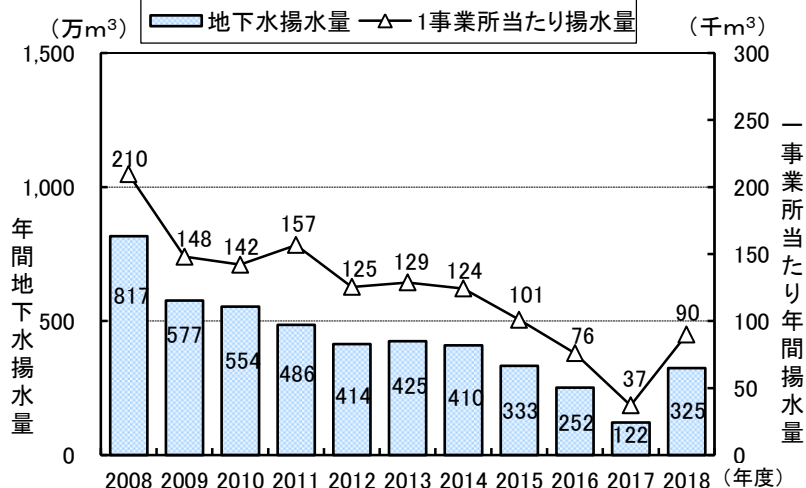
2-1 健全な水循環の構築

(1) 湧水・地下水の保全

地下水揚水量の把握



指標 20：地下水揚水量



揚水量とは

ここでいう揚水量とは、出力が 300 ワットを超えるモーター等で汲み上げた地下水の量の事です。

過度に地下水を汲み上げることによる空洞化が、地盤沈下の原因の一つとされています。

地下水汲み上げによる地盤沈下は、戦前から観測されており、戦争により多くの工場などが休業したため、一時的に下げ止まりをみせたものの、戦後は更に被害が大きくなりました。

このため 1960 年代より工業用水法やビル用水法、温泉法、環境確保条例等により規制され現在に至っています。

地下水の揚水量計測は、過度の汲み上げによる地盤沈下が起こらないよう、規制値を超えて汲み上げていないか監視することが目的であり、監視することで地盤沈下の進行を止めることにつながっています。

2018 年度の年間地下水揚水量は 325 万 m³ となり、前年度より 203 万 m³ の増加がみられました。一事業者当たり年間揚水量約 9.0 万 m³ となり 5.3 万 m³ の増加がみられました。この揚水量の増加は、2017 年度に施設更新のため揚水を停止していた東京都水道局所管の飲用井戸が 2018 年度に揚水を再開したことによるものです。

2-2 雨水浸透・貯留利用の推進

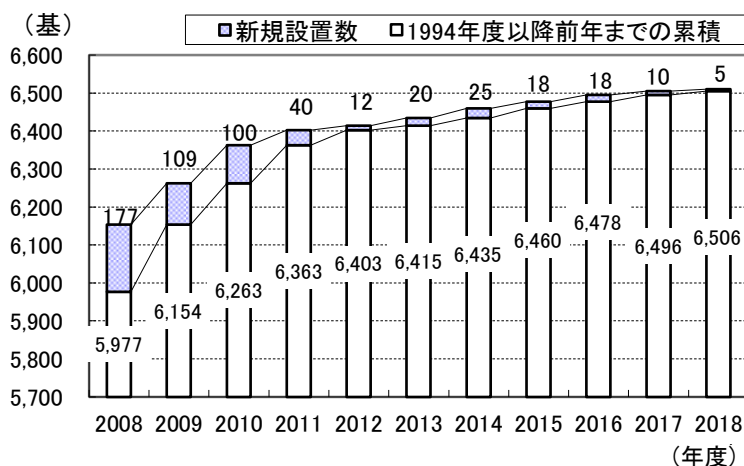
(1) 雨水浸透・貯留施設の設置促進

家庭や事業所への雨水浸透・貯留施設の設置促進



指標 21：雨水浸透ます設置個数

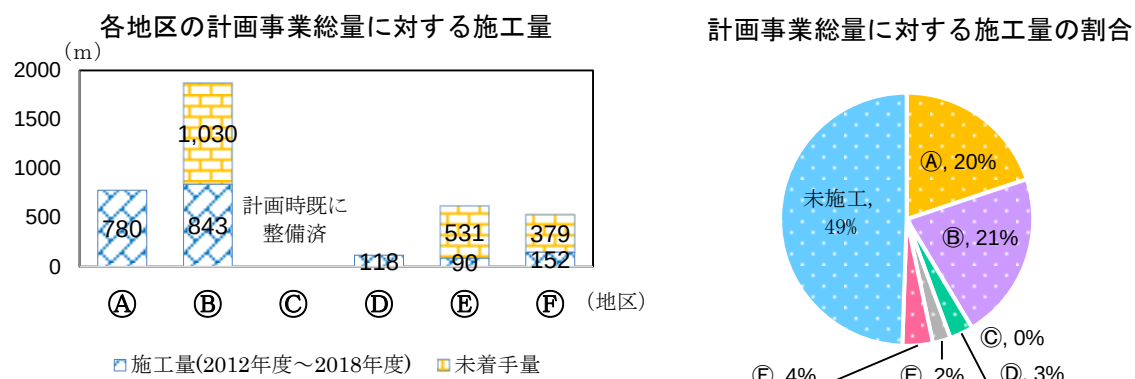
雨水浸透ますの設置は、各家庭にご承諾をいただいたうえで市が行ないます。設置後は、建物の所有者に無償譲渡し、適切な維持・管理を行なっていただきます。2018 年度は 5 基が新規に設置されました。



雨水浸透ますとは

雨水浸透ますは、屋根などに降った雨水を地下に浸透させるための施設です。雨水を地下に浸透させることで、雨水の分散化による河川の洪水防止等の治水対策への貢献、涵養域拡大による緑の保全と育成、湧水の回復による河川の清流復活、地下水の還元による地盤沈下防止などが期待できます。

(参考 6) 第二次日野市バリアフリー特定事業計画の透水性舗装整備状況



透水性舗装とは

透水性舗装とは、道路路面に降った雨水を直接路床へ浸透させ、地中に還元する機能を持つ舗装です。
本項では、第二次日野市バリアフリー特定事業計画により設定された計画事業量と、実際の整備状況を示しています。

グラフ凡例:地区名 (施工量/地区計画事業総量)	路線内訳	計画事業量	施工量	実施予定期間 または実施年度
①: 日野駅周辺 (780m/780m)	幹線市道Ⅰ-20号線	100m	100m	2017 年度
	幹線市道Ⅰ-13号線	100m	100m	2014 年度
	幹線市道Ⅰ-14号線	—	施工済	整備済
	幹線市道Ⅰ-9号線	108m	108m	2016 年度
	幹線市道Ⅰ-10号線	—	0m	未定
	市道B33号線	—	0m	未定
	都道169号線	472m	472m	2013 年度
	都道169号線	—	0m	未定
	都道41号稲城日野線(川崎街道)	—	施工済	整備済
②: 豊田駅周辺 (843m/1,873m)	幹線市道Ⅱ-44号線	173m	173m	2014 年度
	市道E103号線	295m	295m	2014 年度
	幹線市道Ⅰ-12号線	295m	295m	2014 年度
	幹線市道Ⅰ-12号線	80m	80m	2014 年度
	市管理道路	—	施工済	整備済
	駅前ロータリー(区画整理事業で整備予定)	130m	0m	2014 年度～2017 年度
	日野都市計画道路3・4・15号線	310m	0m	2016 年度～2018 年度
	日野都市計画道路3・4・15号線	—	施工済	2016 年度～2018 年度
	日野都市計画道路3・4・19号線	260m	0m	2014 年度～2017 年度
	日野都市計画道路3・4・15号線	180m	0m	2018 年度～2020 年度
	日野都市計画道路3・4・19号線	150m	0m	2014 年度～2017 年度
③: 高幡不動駅周辺 (—)	幹線市道Ⅱ-8号線	—	施工済	整備済
④: 百草園駅周辺 (118m/118m)	河川管理用通路(両側)	118m	118m	2012 年度
	幹線市道Ⅱ-62号線	—	施工済	整備済
	幹線市道Ⅱ-5号線	—	施工済	整備済
⑤: 南平駅周辺 (90m/621m)	都道173号線(北野街道)	231m	90m	事業中～2020 年度
	都道173号線(北野街道)	390m	0m	2012 年度～2020 年度
⑥: 平山城址公園駅周辺 (152m/531m)	都道173号線(北野街道)	291m	0m	事業中～2016 年度
	都道155号線町田・平山・八王子線 (立体交差部～交差点接続部)	88m	0m	2013 年度～2016 年度
	都道155号線町田・平山・八王子線	152m	152m	2015 年度
総 量		3,923m	1,983m	

3. 環境の現状と取組状況の評価

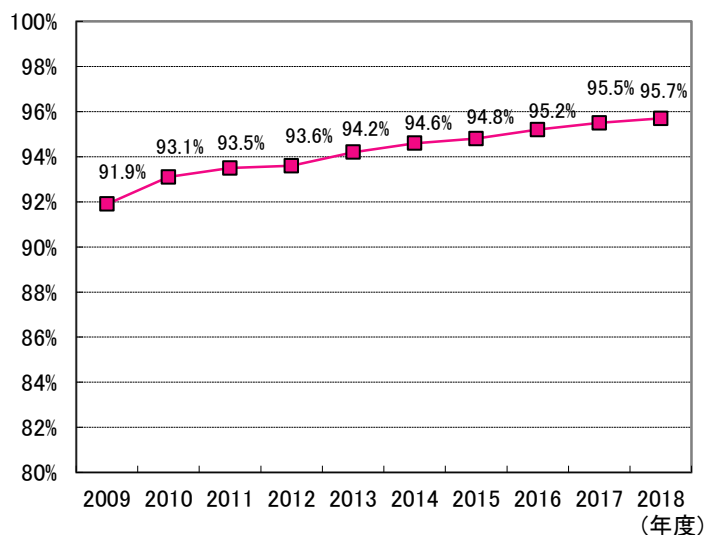
(1) 水質汚濁の防止

2-3 水質の保全

生活排水及び污水处理の施設整備



指標 22：下水道普及率



下水道普及率は、2018 年度は 95.7% となりました。

公共下水道は、区画整理事業に合わせて管の埋設を行なっているため、事業の進捗に応じて普及率が上がっていきます。

下水道普及率とは

$$\text{下水道普及率} = \frac{\text{公共下水道使用可能人口}}{\text{行政人口}}$$

2-4 協働による水辺の保全・活用

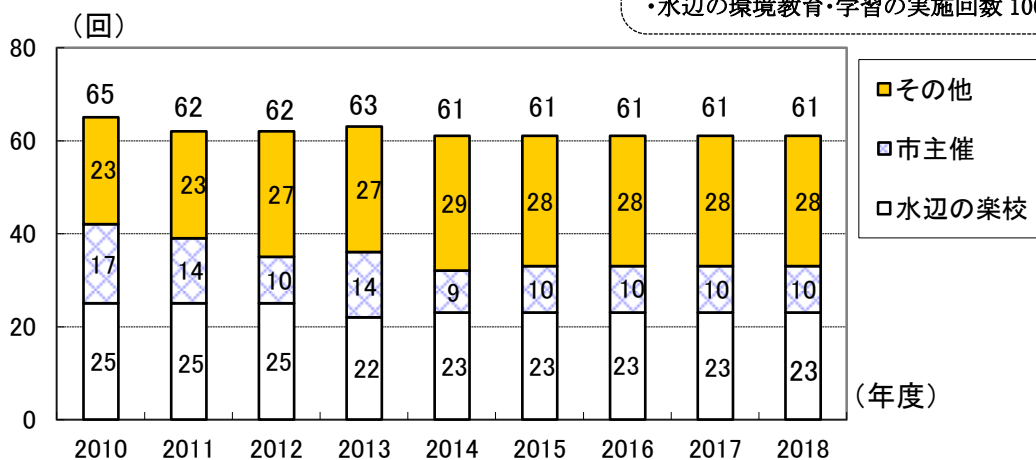
(1) 水辺に親しむ活動の推進



指標 23：水辺イベントの開催数

2020 年度目標:

- ・水辺の楽校による水辺での活動実施校 3 校
- ・水辺の環境教育・学習の実施回数 100 回



水辺のイベントに関しては、浅川潤徳と滝合両水辺の楽校の活動をはじめ、昨年度と同数の開催でした。

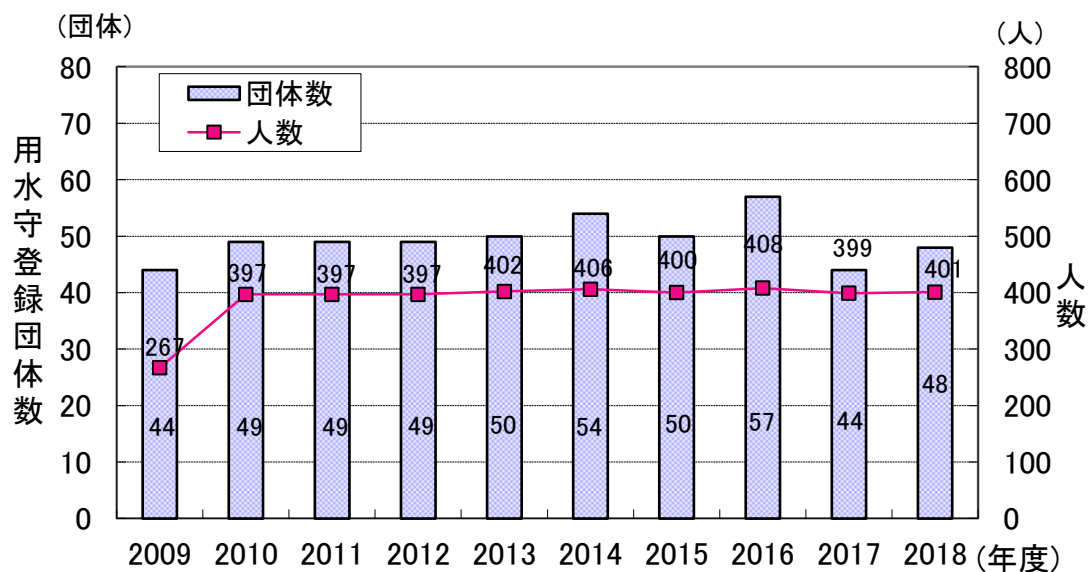
(参考 7) : 「ビオトープづくり」の取組件数

年度	累積件数	取組開始学校・団体
2001 以前	4	七生中、潤徳小、滝合小、日野三小
2002	4	
2003	6	仲田小、日野一小
2004	9	滝合ワンド、日野二小、南平小
2005	10	日野六小
2006	11	多摩平保育園
2007	12	平山小
2008	13	日野四小
2009	13	
2010	13	
2011	13	多摩平保育園移転に伴いビオトープも移設
2012～ 2018	13	

2012 年度以降、新規の取り組みはありませんでした。

(2) 水辺の保全・管理活動の推進

◇ 指標 24 : 「用水守」の登録団体数



用水守(ようすいもり)とは

日野市では、恵まれた水環境を次世代に伝えるため、用水路・湧水地等での清掃、草刈、緑化等のボランティア活動をしていただける方を「用水守」として登録いただき、その活動を支援しています。

2018 年度の登録団体数は前年度から 4 団体増加し 48 団体になりました。また人数は 2 名増加し 401 名になりました。

3.<市民コメント>

1. <環境の現状>

10年後に目指す環境の姿に対し、環境の状況を測る指標・目標を決めての現状把握ですが、収集されたデータをそのままとめ、目標値への到達程度の評価が行なわれています。収集されたデータの妥当性（計測回数、計測時期、計測方法）・課題・その対応の検討がほとんどされていません。現状把握でのPDCAとくにCAへの取組が必要です。

既に10年に及ぶ経年データがある現状、各指標の傾向から指標、目標値、データ収集（計測回数、計測時期、計測方法）を見直す必要があったと考えます。

2. <市の取組状況>

環境基本計画中間検証報告書で決まった重点施策の方向性及び推進方法での取組状況が把握されていません。各所掌課の施策の実行が環境基本計画の施策の実行として実施計画化されず、市としてのイベント関連、市長・議会からの事業要求として事業化されることが多いためと思われます。

3. 上記問題、課題は第3次環境基本計画策定時に十分検討されることを望みます。

ごみ分野

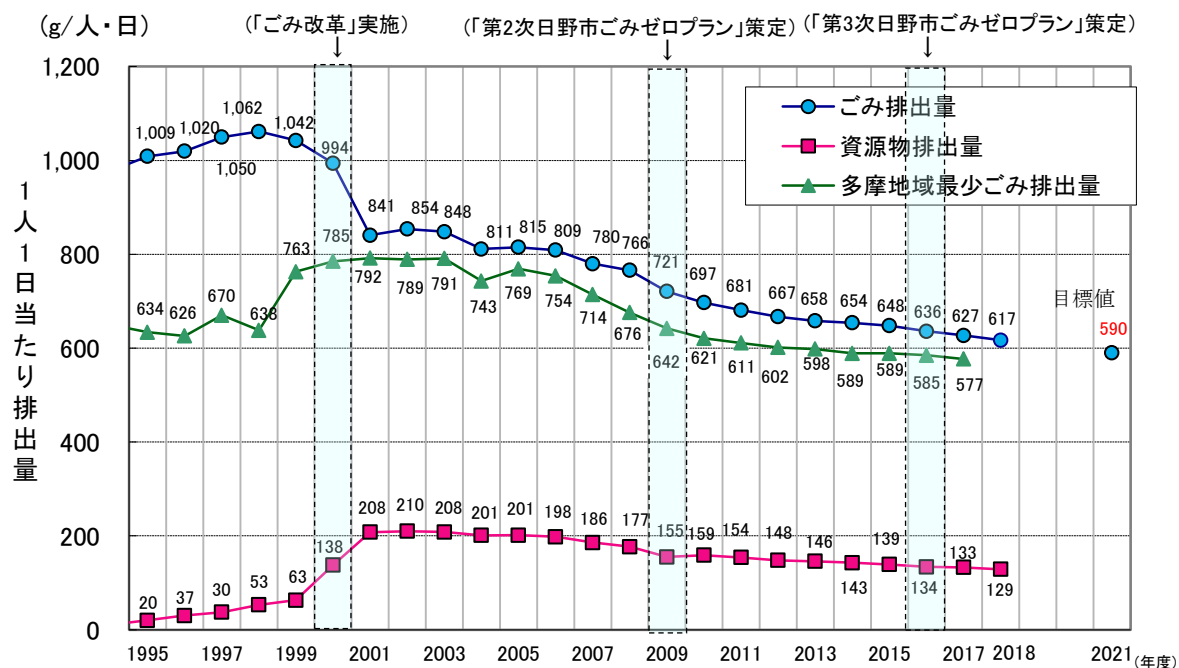
< 目 標 > ごみゼロのまち

1.<環境の現状>

1.-1 1人1日当たりのごみ排出量

目標値: 590g/人・日
(2021 年度)

☺ 指標 25 : ごみ・資源排出原単位



※多摩地域最少ごみ排出量は、本書編集時点で最新となる 2017 年度までの数値を掲載しています。

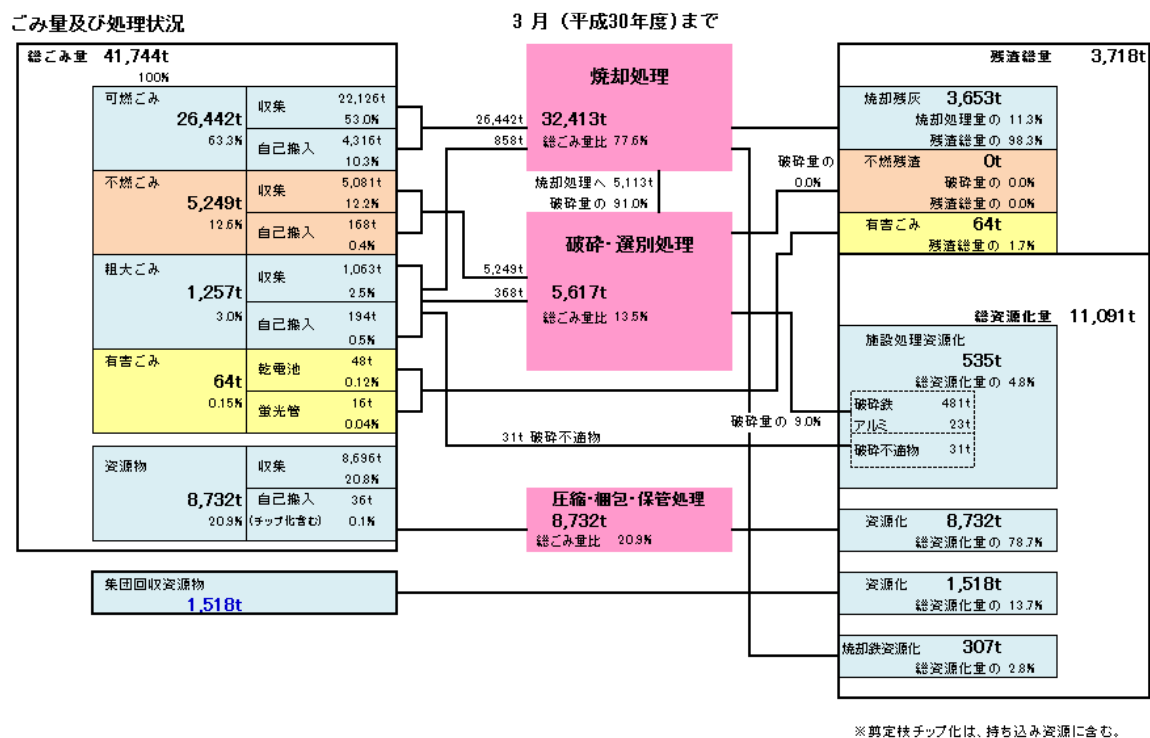
- ① 1人1日当たりのごみ排出量は、総ごみ量÷各年10月1日現在人口÷年間日数で算出。
- ② 総ごみ量は国や市の統計に準じて、可燃・不燃・粗大・有害・資源物の収集と持込量の合計とした。
- ③ 資源物排出量は、上記の式の総ごみ量を資源物収集量(集団回収量は除く)に置き換えて算出した。

2018 年度の 1 人 1 日当りのごみ排出量は前年度より 10g 減少し、617g となりました。また、1 人 1 日当りの資源物排出量は 4g 減少し、129g となりました。

ごみ排出量は年々減量し、目標値に近づいています。

3. 環境の現状と取組状況の評価

(参考8) ごみの行方



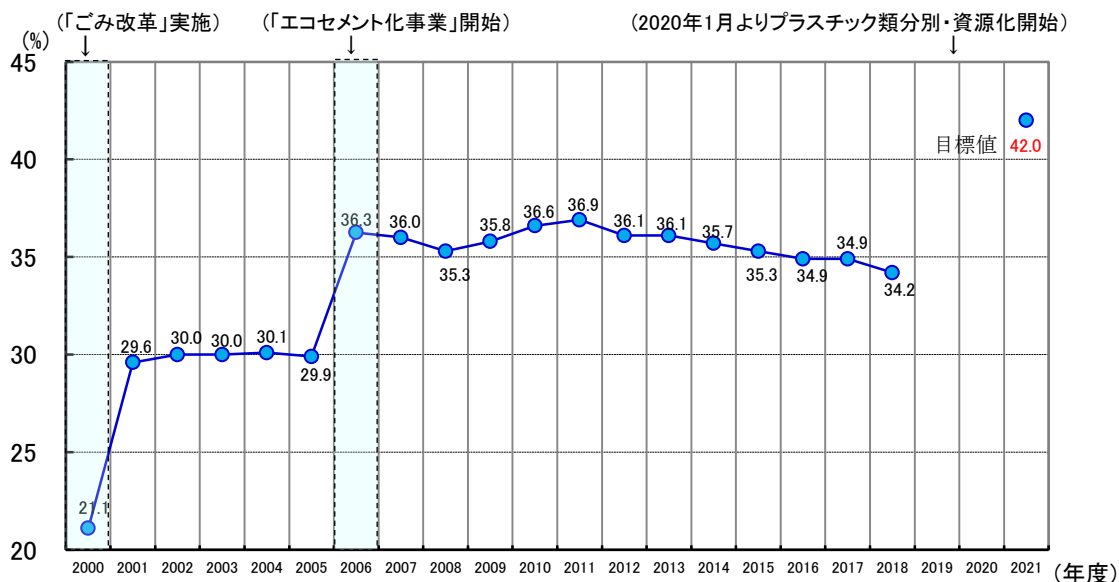
1.-2 資源化率



指標 26 : 資源化率

目標値: 42%

(2021 年度)



2018年度の資源化率は前年度より0.7ポイント減少し34.2%でした。2000年10月のごみ改革及び2006年7月より開始された焼却灰のエコセメント化事業等により、資源化率は、13.8%だった第1次環境基本計画の策定時（1999年）に比べ大幅に向上し、2006年度以降は36%前後で推移していましたが、近年若干の減少傾向になっています。

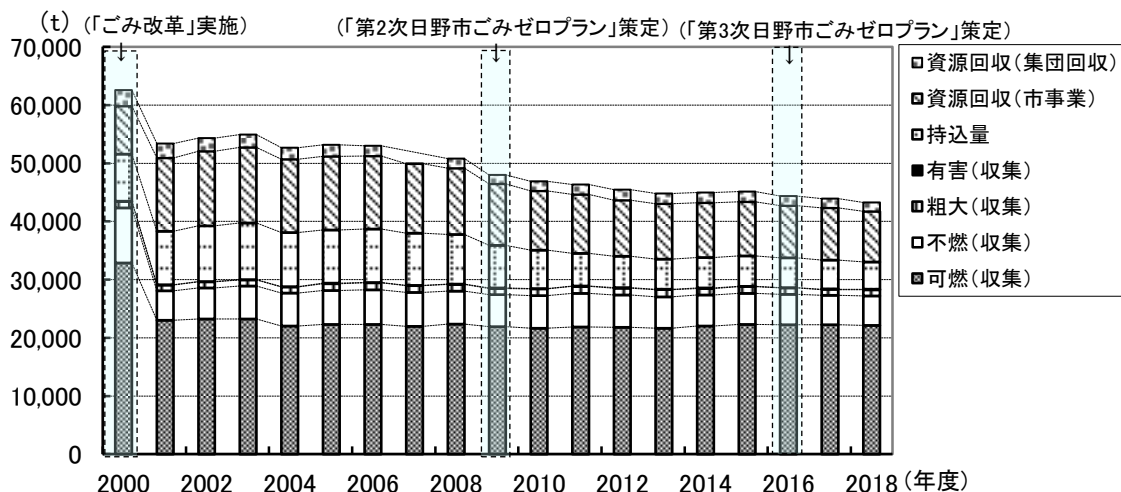
減少の理由としては、クリーンセンターの建て替え工事期間は、クリーンセンターでの資源受け入れを休止しており、持込資源ごみ量が減少したことが要因となっていますが、次の（参考9）で述べる資源化への啓発の充実を図るとともに、2020年1月から開始するプラスチック類の分別・資源化の取り組みにより、目標達成を目指しています。なお、市では、このプラスチック類の分別・資源化を好機ととらえ「第二次ごみ改革」と銘打ち、市民にごみ減量への意識を高めてもらい、多摩地域で一番少ないごみ量の実現を目指す取り組みを行ないます。

$$\text{資源化率} = \frac{(\text{資源ごみ量} + \text{施設処理資源化量} + \text{エコセメント化量} + \text{その他資源化量} + \text{集団回収量})}{(\text{総ごみ量} + \text{集団回収量})}$$

※エコセメントについては、2006年度データより計上しています。

（参考9）ごみ量内訳

ごみ量は、ほぼ横ばいの状況ですが、資源回収量が減少しました。いまだ可燃や不燃の中に資源化できるごみも多く混入されているため、資源化への協力について啓発を行なっています。



3. 環境の現状と取組状況の評価

2. <市の取組状況>

目標	施策の方向	施策		具体的な取組	実施状況
ごみゼロのまち	ごみ排出量の低減	リフューズ（発生回避）の促進	レジ袋無料配布中止の拡大	一部スーパー等で実施しているレジ袋無料配布中止を市内全域に拡大するために、3者（市民、事業者、市）によるレジ袋無料配布中止に向けた共同会議を継続して進めていく。	レジ袋無料配布中止に向けた共同会議を年4回（4/26、7/26、10/25、1/22）開催した。 （ごみゼロ推進課） →指標 27(P.41)
		リターン（回収ボックスのある店頭への返却）の促進	容器包装お返し大作戦の展開	容器包装の店頭回収を促進するため、回収を実施している販売店の情報提供、販売店への協力依頼等を実施する。	市内に新規オープンしたスーパー2店舗を訪問し、レジ袋の無料配布および店頭回収の協力を依頼した。また、共同会議に出席したスーパーについても、店頭回収品目の充実などを依頼した。 （ごみゼロ推進課） →指標 28(P.41)
	リサイクルの推進	資源物回収の推進	分別ルールの徹底	プラスチック製容器包装や古紙類・繊維類、びん・缶類をごみとして排出しないよう、分別方法を周知・徹底する。それにより、不燃ごみの減量化も促進する。	ごみ・資源分別カレンダー、ごみ情報誌「エコ」、広報ひの、市ホームページ、ごみ分別アプリを活用した分別方法の周知を行なった。また、市役所1階ごみ相談窓口による相談やごみゼロ推進課への問合せに対応し、分別ルールの徹底が図られるように取り組んだ。 （ごみゼロ推進課） →指標 29(P.42)
		生ごみリサイクルの推進	生ごみや剪定枝の地域内循環の拡大	生ごみや落ち葉、剪定枝を堆肥化して利用する地域内循環を拡大する。	地域内循環を進めていくためには、堆肥化する土地（施設）、回収に協力できる団体等、排出に協力できる地域が一体となって実施していかなければならない。 市民とともに拡大の検討を行なっているが、実施に至らず。 （ごみゼロ推進課）
			生ごみの家庭内循環（自家処理）の普及促進	生ごみの減量化と堆肥化を促進するため、コンポスト容器購入補助や生ごみリサイクルステッカーの配布を実施する。	ダンボールコンポストの普及促進のため、ダンボールコンポスト講習会やイベントでの啓発活動を16回実施した。 参加者・来場者数の合計は983名。うち申込数は、ダンボールコンポスト41基、基材10基、生ごみリサイクルステッカー配布36名。 上記イベント等の申込数を含め、2018年度全体での申込数は、ダンボールコンポスト173基、基材239基、生ごみリサイクルステッカー配布136名。 （ごみゼロ推進課） →指標 30,31(P.43,44)
	市民・事業者への啓発	市民の意識向上・行動促進	情報提供ツールの充実	ごみ回避・発生抑制に重点をおいて、市民がすべきことを広報やHP、市民団体主催の講座等で啓発するとともに、携帯電話サービスの活用など、新たな情報提供方策を検討する。また、市民・市民団体と連携し、各種キャンペーンを実施する。	広報ひの、市ホームページやごみ分別アプリで分別の徹底やマイバッグ持参などを啓発した。 （ごみゼロ推進課） →指標 32～34(P.45～46)
		協働によるごみゼロの実現	コミュニティ単位での取組	関係機関との調整のもと、新聞紙の分別収集を販売店回収、集団回収へと移行し、地域の取り組みのひとつとして位置づける。	集団回収の促進を図るため、自治会選出のごみゼロ推進員を対象とした研修会で、制度説明などを実施した。 学校での取り組みが可能かについて学校関係者へヒアリング調査を実施した。 （ごみゼロ推進課） →指標 35(P.46)

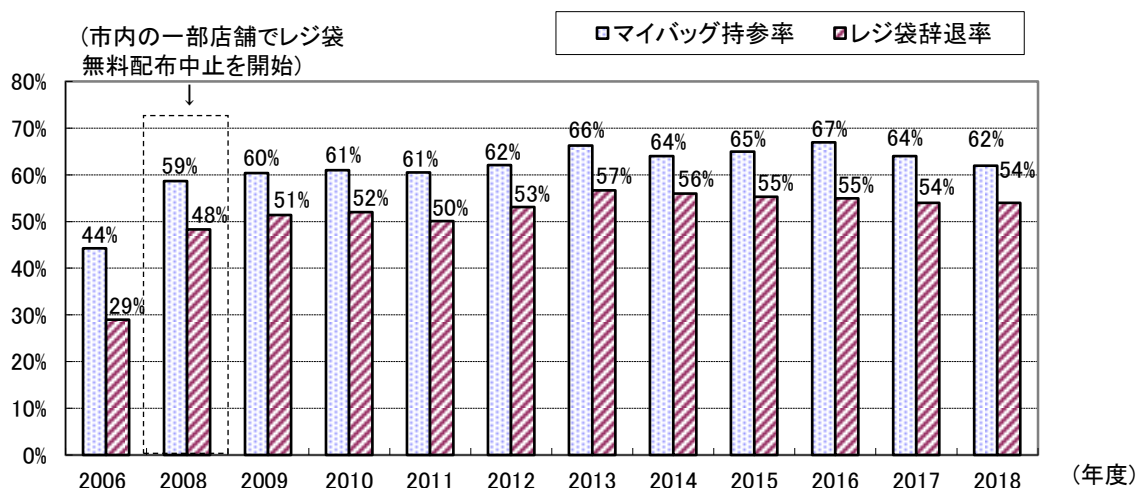
2. -1 ごみ排出量の低減

(1) リフューズ（発生回避）の促進

レジ袋無料配布中止の拡大



指標 27：マイバッグ持参率・レジ袋辞退率



2018 年度は、マイバッグ持参率が 62%、レジ袋辞退率は 54%であり、ここ数年はほぼ横ばいの状況が続いています。

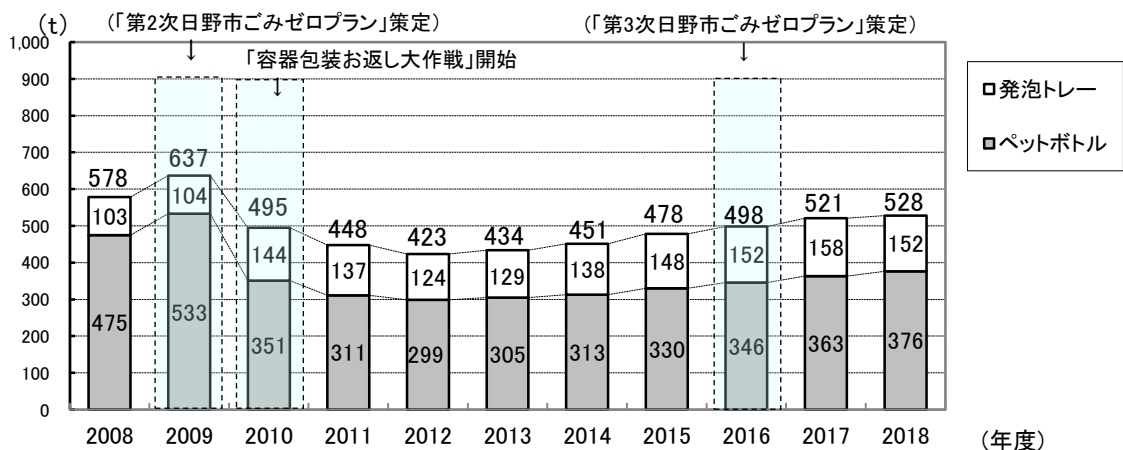
レジ袋辞退率については、「レジ袋の無料配布中止を実施している店舗」では約 80%、「レジ袋辞退者へのポイント・キャッシュバックなどのサービスを行なっている店舗」では約 50%、「レジ袋を無料配布している店舗」では約 30%と、大きな差があることを年 4 回のレジ袋無料配布中止に向けた共同会議で示しました。

(2) リターン（回収ボックスのある店頭への返却）の促進

容器包装お返し大作戦の展開



指標 28：ペットボトル、発泡トレーの行政回収量



3. 環境の現状と取組状況の評価

容器包装お返し大作戦と銘打った民間回収啓発を促進し、行政回収の減量に取り組んでいます。2018年度の行政回収量は528tとなりました。2012年度以降は増加傾向が見られ、2018年度も前年度から7tの増加となりましたが、第2次日野市ごみゼロプラン策定以降は低い水準を保っています。

近年の傾向として、生活スタイルの変化などからペットボトルの排出量は増加が続いていますが、2018年度の発泡トレーの排出量は、前年度と比べ減少しました。

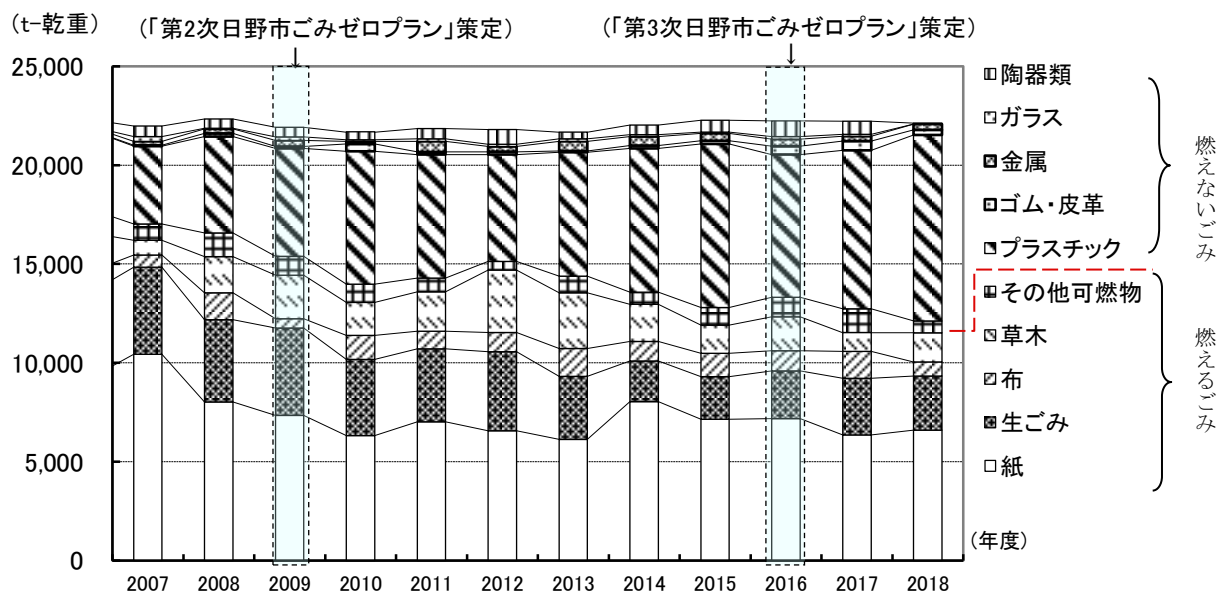
2. -2 リサイクルの促進

(1) 資源物回収の推進

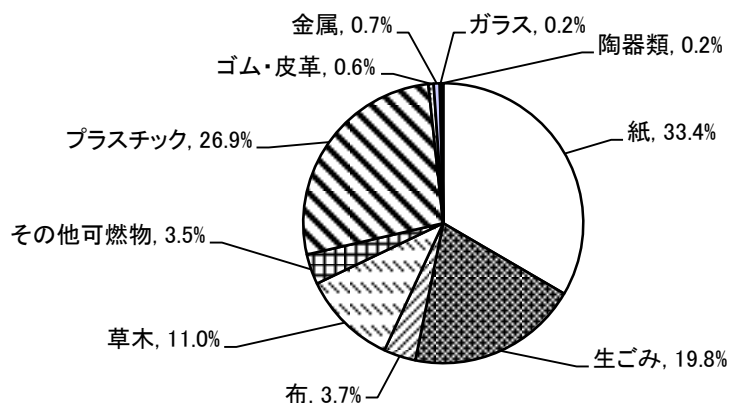
分別ルール徹底



指標 29：焼却ごみの組成



(参考 10) 焼却ごみの組成割合 (2018 年度分析結果・湿ベース)



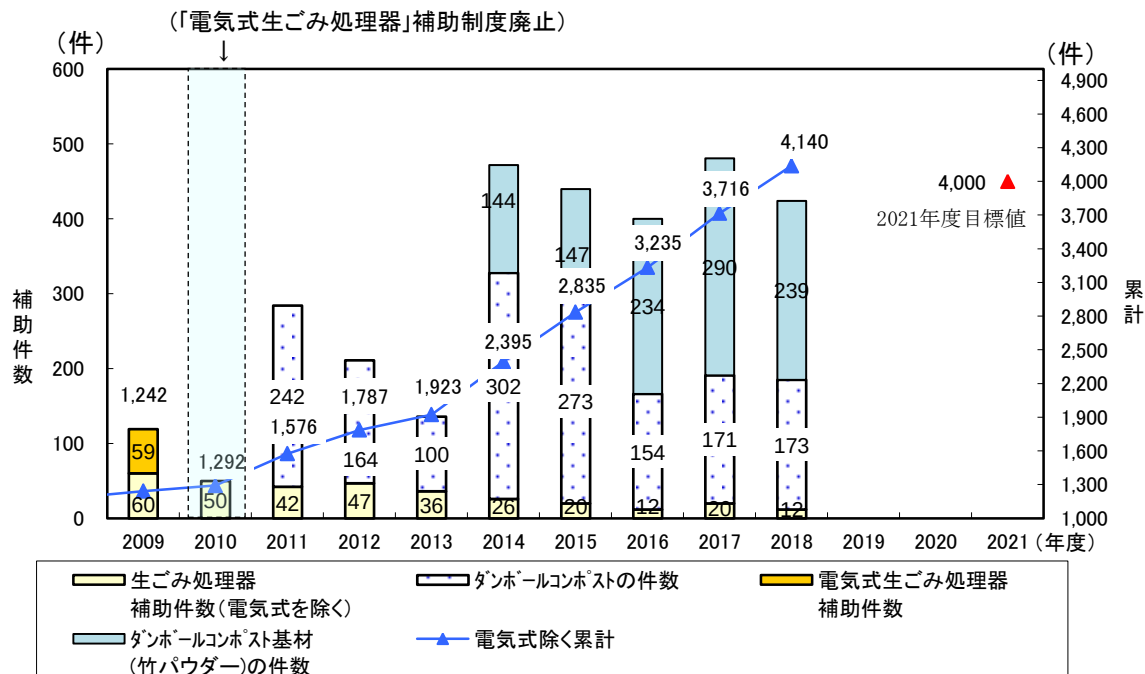
組成分析の結果から、紙類とプラスチック類が大半を占めていることがわかります。これらは丁寧に分別すれば資源化できるため、「分ければ資源」を合言葉に啓発を行ないました。

(2) 生ごみリサイクルの促進

生ごみの家庭内循環（自家処理）の普及促進

2021 年度目標値:生ごみ減量・資源化への
取組世帯数:累計 4,000 件

😊 指標 30 : 生ごみ減量・資源化への取組世帯数



2016 年度に制定した第 3 次ごみゼロプランでは「生ごみ減量・資源化への取組世帯数」を 2021 年度までに 4,000 件以上に、さらに 5 年後の 2026 年度までに 8,000 件に増やすことを目標にしました。

「生ごみ減量・資源化への取組世帯数」とは、コンポスト等による減量実施世帯だけでなく、水切りや埋め立て、機械式処理など様々な取り組みを行なう全ての世帯を示します。

2014 年度にダンボールコンポストの補助率引き上げに伴う自己負担の軽減を実施したことで利用者数が増加しました。さらに、2016 年度から基材の自己負担軽減を実施したことで継続利用者も増加しています。

市民サポーターと連携したダンボールコンポストの講習会の開催や、ごみゼロ推進員の研修会で啓発を行なう等普及活動を行なっています。普及活動は実施できる回数も限られ、単年度での大幅な増加は困難ですが、累計世帯数は着実に増加しています。

ダンボールコンポストとは

文字どおりダンボールでできており、安価で、プラスチック製品よりも環境にやさしいものです。お庭や畑のない家庭でも手軽に体験できるようにと、市民と協働して開発し、市内福祉施設と協力して作製しました。生ごみを混ぜ込む基材には竹から作った「竹パウダー」（竹を細かく破碎したもの）を使用したり、ダンボールに被せる虫除けカバーは、古布リサイクル品から作ったりするなど、工夫と試行錯誤を重ねた日野市オリジナル品です。

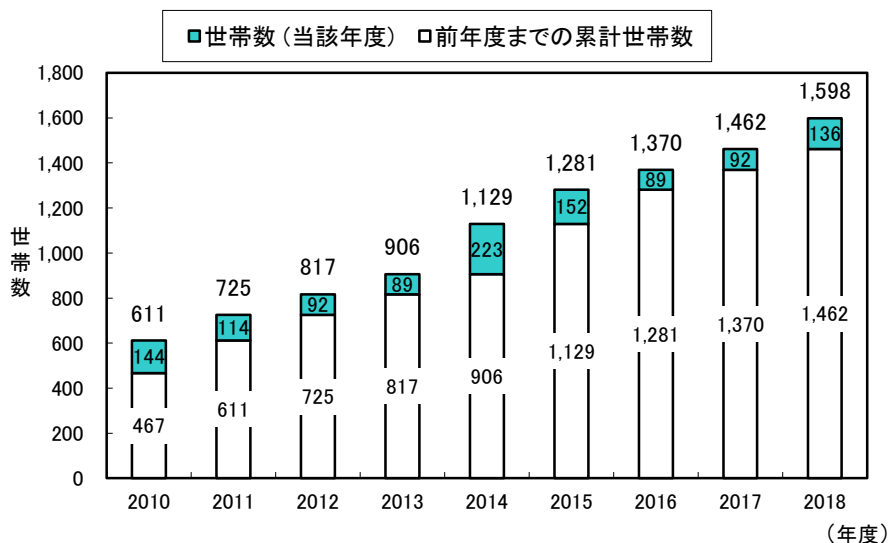


3. 環境の現状と取組状況の評価



指標 31：生ごみリサイクルステッカー掲示世帯数

2020 年度目標値累計8,000 件



生ごみリサイクルステッカーとは

市では、家庭での生ごみ処理の輪が更に広がるよう、また、生ごみを可燃ごみとして出さない人が市内にどの位いるのかがわかるよう、玄関ドアなどに掲示するステッカーです。



生ごみリサイクルステッカー掲示世帯数は、2018 年度は前年度より 136 世帯増加しました。

このステッカーは、ダンボールコンポスト新規購入者等新たに家庭で生ごみリサイクルを始めた方に送付し、掲示をお願いしています。

ダンボールコンポストの良さを感じていただき、継続して利用していただく方が増えてきているものの、指標30のとおりダンボールコンポスト新規購入者の伸び悩みに伴い、ステッカー掲示世帯数も伸び悩んでいる状況です。

目標値と現在の数値に大きな差がある中ですが、前述の「第二次ごみ改革」の一環としても、生ごみの発生抑制（食べ切り・食品ロス対策など）を推進するとともに、引き続き生ごみリサイクルの推進に取り組んでいきます。

2. -3 市民・事業者への啓発

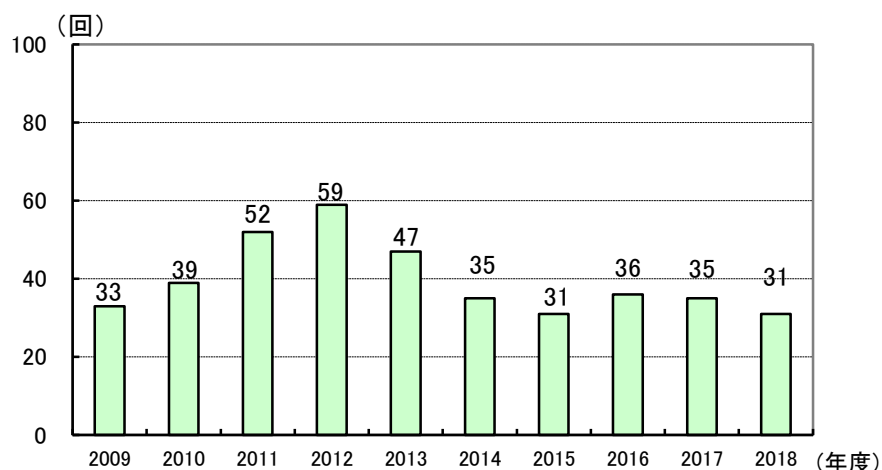
(1) 市民の意識向上・行動促進

情報提供ツールの充実

2020年度目標値:環境学習出前講座の実施回数 60回



指標 32 : 環境学習出前講座の実施回数



環境学習出前講座は、市内保育園・幼稚園・小学校からの希望を受け実施しています。

小学校については、施設見学を行なった学校に出向いて環境学習を行なっています。

子どもたちへの「食べ残しゼロ」、「物を大切に使う」等の啓発をとおして家族への啓発につながるような環境学習に取り組んでいます。

2018年度は、前年度に比べ4回減少しました。

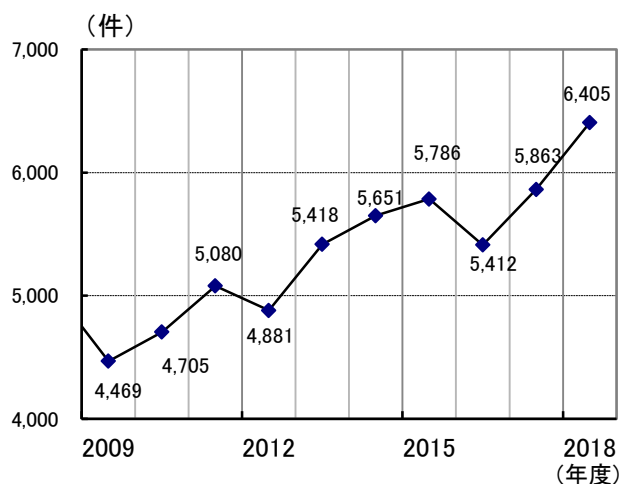
2020年1月からの稼働に向けて、クリーンセンターでプラスチック類資源化施設の建設を行なっていることから、クリーンセンターの見学を中止しています。

小学校における環境学習の一環として、クリーンセンターの見学を行なう場合には、出前授業をセットで行なってきましたが、見学ができないために出前授業を実施しない小学校があったことが、近年の減少傾向の要因です。

2020年から新しく焼却処理施設及びプラスチックの資源化施設が稼働することから、環境学習の実施方法を再検討し、目標達成に取り組んでいきます。

3. 環境の現状と取組状況の評価

😊 指標 33 : ごみ相談窓口への相談件数



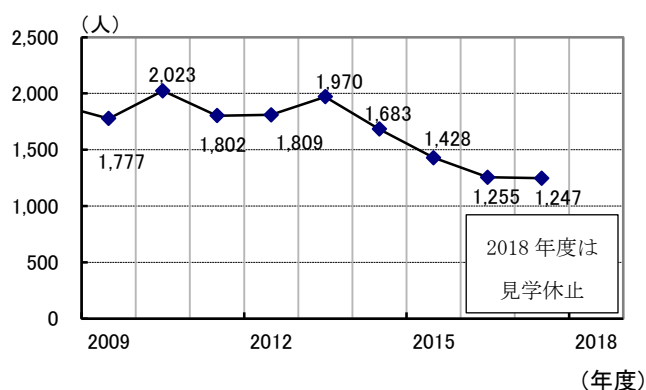
ごみ相談窓口は、市役所本庁舎一階に設置しており、転入者に対するごみの排出方法などの相談、その他分別に悩むものの排出方法などの相談に応じています。

相談件数は、2018 年度は前年度より 542 件増加し 6,405 件となりました。

他市で起こったガス爆発事故の報道以降、中身の残ったカセットコンロ用ガスボンベについての相談が多く寄せられました。

◇ 指標 34 : クリーンセンター見学者数

2021 年度目標値: クリーンセンター見学者数 2,000 人



2018 年度は、クリーンセンター建て替え工事期間中のため、見学者の安全を考慮して見学の受け入れを休止しています。

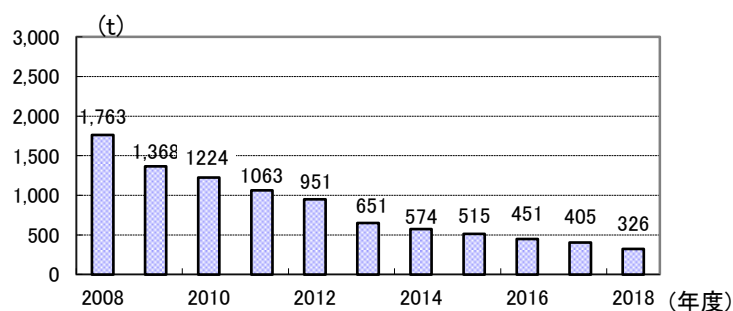
新施設建設後の見学方法については、市民が見学しやすいものとなるよう検討を進めます。

2. -4 協働によるごみゼロの実現

(1) コミュニティ単位での取組

新聞紙の民間回収への移行

😊 指標 35 : 新聞紙の行政回収量



2018 年度の行政回収量は、前年度より 79 t 少ない 326 t でした。

行政による新聞紙の回収量は、民間回収への移行が順調に進んでいることに加え、インターネットの普及等を背景とした新聞購読者数の減少から、年々減少傾向となっていると推測されます。

集団回収の推奨、販売店回収への啓発等を行ない、今後も減量を進めます。

3. <市民コメント>

ごみ分野では、行政と市民が「ごみ減量推進市民会議」や「ひの・まちの生ごみを考える会」（略称「まち生」）を通して協働し、以下の施策を推進しています。

■レジ袋無料配布中止への取り組み

現在市内のスーパー・生協 8 店舗で実施されているレジ袋無料配布中止を市内全スーパーに拡大するため、スーパー・市民団体・行政による「レジ袋無料配布中止に向けた共同会議」を定期的に開催しています。しかし、こうした地域での自主的な取り組みには限界があり、国による無料配布禁止の法制化に期待したいところです。

■容器包装お返し大作戦！

ペットボトルと発泡トレーの行政収集頻度を 2 週に 1 回から 4 週に 1 回に減らすことによって販売店への返却を推進してきましたが、このところ行政収集量が増加傾向にあり、何らかの追加施策が欲しいところです。

2020 年 1 月から、発泡トレーを含むプラスチック類（ペットボトルを除く）の全量分別収集・資源化が実施されますが、収集が有料化される一方、収集頻度が週 1 回に増えるので、発泡トレーの販売店への返却についての市民の行動にどう影響が出るか注目されます。

同じく行政収集頻度を 2 週に 1 回から 4 週に 1 回に減らした新聞紙の行政収集量は、購読者数の減少とあいまって激減しています。

■ダンボールコンポストの普及啓発活動

「まち生」の別動隊である「生ごみリサイクルサポーター連絡会」では、家庭で手軽に生ごみの堆肥化を始められる、ダンボールコンポストを普及させるため、使い方講習会や各種イベントでの展示・説明・チラシ配布を実施するとともに、市の広報・ホームページ、『エコー』、『生ごみ菌ちゃん通信』などの媒体を使って PR を行っています。

■生ごみの地域内循環の推進

同じく「まち生」の別動隊である「まちの生ごみ活かし隊」は、新井地区の人たちとともに、約 200 世帯の生ごみを戸別回収し、「せせらぎ農園」の畑に直接投入して野菜を栽培しています。

ここは、新しい都市農業の一つのかたちとして、また、地域の人たちの居場所や、農体験を通しての食育や環境教育の場として、各方面から注目され、毎年市内外から約 2,500 人の見学者が訪れています。

しかしながら、新井の農地一帯の区画整理が計画されており、市に対して、持続的な利用が可能な農地の確保を要望しているところです。

■リサイクルの推進

リサイクル率を高め、焼却ごみを減らすためには、現行のリサイクル対象品目の分別排出を徹底する一方、リサイクル対象品目の拡大が必要です。第 3 次ごみゼロプランに盛り込まれている、剪定枝のリサイクル（民間リサイクル施設を活用）を急ぐとともに、生ごみの分別収集・資源化についてもそろそろ調査研究を始めることを要望したいところです。

地球温暖化分野

< 目標 > 低炭素社会を築くまち

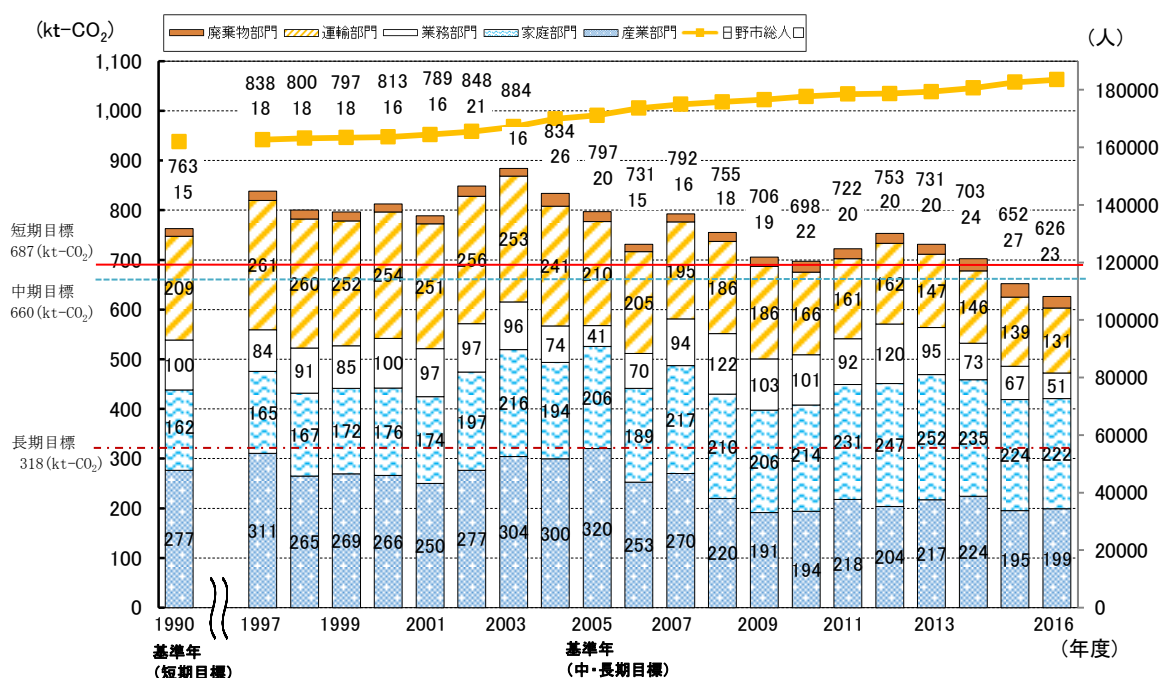
1. <環境の現状>

1. -1 二酸化炭素排出量

削減率

短期目標 10% (2015 年度): 基準年度 1990 年
目標値: 中期目標 17% (2020 年度): 基準年度 2005 年
長期目標 60% (2050 年度): 基準年度 2005 年

😊 指標 36 : 二酸化炭素排出量



2012年3月に「第3次日野市地球温暖化対策実行計画」(以下、第3次実行計画)を策定しました。
2016年度に国により「2030年度までに2013年度比で26%削減すること」また、「2050年度までに80%の削減を目指すこと」が示されました。

そのため、2017年3月に第3次実行計画を見直した際に、削減目標の基準年度について、国との整合を図りました。

二酸化炭素排出量は、オール東京62市区町村共同事業「みどり東京・温暖化防止プロジェクト」により作成された温室効果ガス排出量算定手法の標準化市区共通版の数値を基準としています。なお、当手法では2016年度の数値が最新データとなっています。この数値を使うことにより、東京都における他自治体と同一の算定条件のもとで比較ができることから第3次実行計画策定以降はこの数

値を採用しています。

2016 年度における二酸化炭素排出量(626 kt-CO₂)は、短期目標を達成した前年度からさらに減少しています。

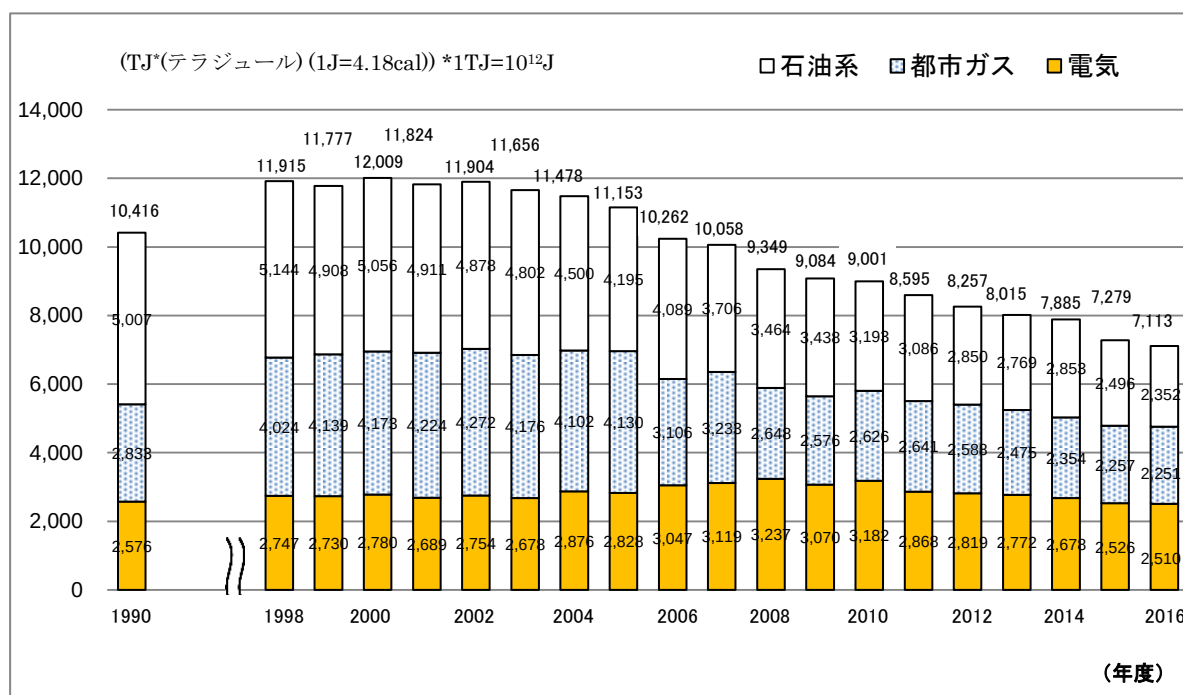
部門別にみていくと、基準年(2005 年度)と比べ廃棄物部門は 15.0%、業務部門は 24.4%、家庭部門は 7.8%の増加となりましたが、運輸部門は 37.6%、産業部門は 37.8%の減少となりました。

また、平成 20 年度より、事業者や家庭から排出される CO₂ の削減に向けた取り組み「ふだん着で CO₂ をへらそう事業」を実施しています。

家庭部門から排出される CO₂ は、基準年(2005 年度)から見ると増加しているものの、日野市の総人口が増加している中、近年はわずかに減少している傾向です。継続して CO₂ の排出を減らすためには、より多くの市民が省エネに取り組むよう、積極的なはたらきかけが必要です。

1.-2 エネルギー使用量

(参考 11) エネルギー消費量



基本計画では目標値が設定されていましたが、第 3 次実行計画では二酸化炭素排出量に目標が集約されているため、エネルギー使用量の目標値は設定されていません。そのため、参考扱いとします。

エネルギー消費量は、2006 年以降は減少傾向にあり、特に石油系の消費量が大幅に減少しています。

なお、エネルギーの種類により排出する二酸化炭素の量が異なるため、エネルギー消費量と二酸化炭素排出量は比例しないことがあります。

3. 環境の現状と取組状況の評価

1.-3 公共交通機関(ミニバス・バス)の整備率

😊 指標 37: 公共交通機関(ミニバス・バス)の整備率

目標値: 80.0%

(2020 年度)

年度	公共交通機関の整備率
2010	79.0%
2011	79.0%
2012	79.2%
2013	79.6%
2014	79.6%
2015	80.1%
2016	80.1%
2017	80.1%
2018	80.1%

公共交通の整備率は、ミニバスやワゴンタクシーを含めた市内にある全ての停留所から半径 200m、駅から半径 500m 以内にある面積が市全域の面積に占める割合です。

2018 年度の整備率は前年度と同じ 80.1%でした。

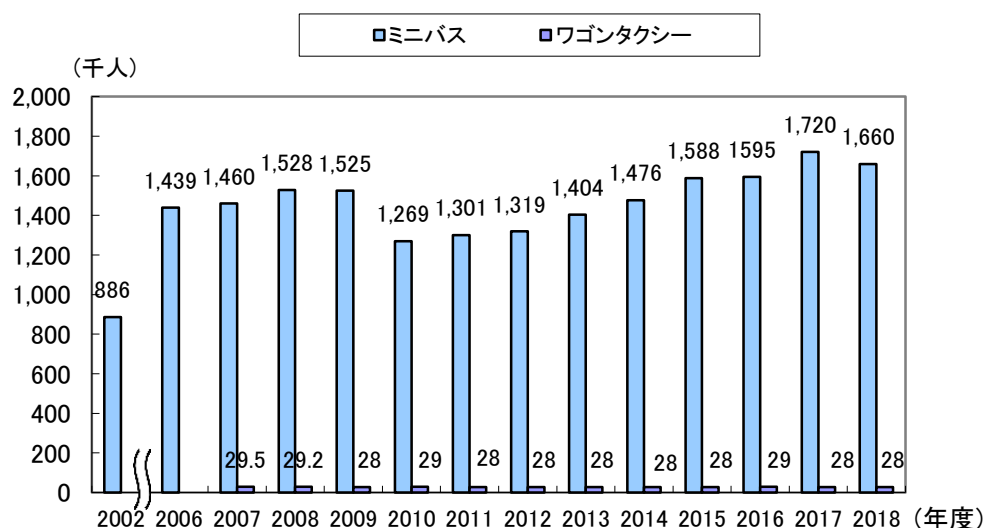
1.-4 公共交通機関(ミニバス・バス)の利用人数

😊 指標 38: バス路線の整備状況: 市内連絡バス(ミニバス)年間利用者数

ミニバス

目標値: 158 万人

(2020 年度)



2018 年度は、ミニバスの利用者が前年度より 60,000 人減少し 1,660,000 人となりました。

ワゴンタクシーは、前年度と同じ、28,000 人でした。

ミニバスの利用者は、2002 年度*と 2018 年度を比較すると約 2 倍に増加しました。路線・運行時間帯の拡充を行ない利便性の向上が図られたことや、通勤・通学者の利用増、高齢社会の到来による免許証返納等に起因し、マイカーから公共交通への移動手段の変換などが主な理由と考えられます。

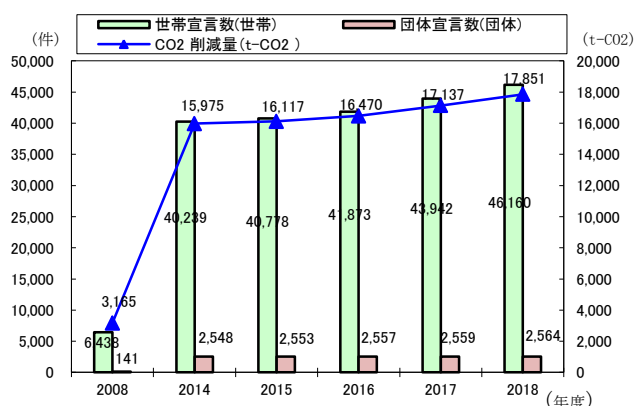
ワゴンタクシーの利用者は、統計開始以降 28,000 人前後で推移しています。

今後も、公共交通網の拡充に伴う利便性の向上や公共交通機関利用者の増加に伴う温室効果ガスなどの排出削減が促進されることにより、環境の改善が期待されます。

*運行開始は 1986 年 8 月 20 日

1. -5 「ふだん着で CO₂ をへらそう宣言」の宣言数及び CO₂ 削減量

☺ 指標 39 : 「ふだん着で CO₂ をへらそう宣言」の宣言数及び CO₂ 削減量



「ふだん着で CO₂ をへらそう宣言」の宣言数は増加を続けており、2018 年度もイベントにおける宣言数獲得運動に力を入れ、新たに 2,218 件の世帯宣言数を得ました。前年度に引き続き、2,000 件以上の増加となりました。引き続き市民の皆様へ、日々の生活での CO₂ 削減のご協力をお願いしていきます。

2. <市の取組状況>

目標	施策の方向	施策	具体的な取組	実施状況
低炭素社会を築くまち	省エネルギーの推進	家庭における省エネルギーの促進	CO ₂ の見える化の推進	ワットチェッカーの貸し出しやモニターによる省エネ実践、身近にふれるもの(食料品、省包装商品など)の CO ₂ 削減効果のデータ化などにより、CO ₂ の見える化を図る。 機器の貸し出しを行ない、省エネ行動を実践していただく中で、その効果を知ってもらった。 (環境保全課) →指標 40(P.52)
			「ひのっ子エコアクション」の推進	市民団体と市関連部署との連携により、各学校での「ひのっ子エコアクション」をさらに推進する。それによって、環境配慮行動を当たり前のようにできるひのっ子を育み、家庭での取組にもつなげていく。 児童生徒及び教職員の継続的な「環境にやさしい学校づくり」のための実践行動、意識づけに力を入れた。今後もユニークな発想や効果のあった実践等は全校に横展開していく。 (環境保全課)
		工場や事業所の省エネルギーの促進	省エネ診断の支援	小規模な工場や事業所でも省エネ診断をできるよう、省エネ診断に関する情報提供や省エネ診断員の紹介等を行なう。 市のホームページや広報等を利用して省エネ診断の情報提供について周知を図った。 (環境保全課) →指標 41(P.52)
	新エネルギーの導入	家庭への太陽光発電等の導入促進	太陽光発電等導入補助の実施	国・都が推進する太陽光発電システムや太陽熱温水器、高効率機器等の導入を促進するために、日野市としても上乗せの補助を実施する。 太陽光発電システム及び高効率給湯機器設置に対する補助を実施した。引き続き、低炭素なまちを目指し、再生可能エネルギーの積極的な利用をはたらきかけていく。 (環境保全課) →指標 42(P.53)
		公共施設における太陽光等新エネルギーの活用	太陽光、太陽熱、風力等の積極的な活用	公共施設において、新築、改築、大規模修繕等の各種事業に合わせて、積極的な新エネルギーの導入を図る。 施設の新設や改修時には、再生可能エネルギーの積極的な活用を呼びかけていく。設置に対する補助金についての情報収集にも努めていく。 (環境保全課) →指標 43(P.53)
	環境に配慮した交通体系の構築	自動車利用時の排出ガスの低減	渋滞の解消	交差点改良や道路の拡幅、バイパス化、路上駐車規制、ITS の導入、荷さばき用の駐車場の確保等により渋滞を解消し、自動車のスムーズな定速走行を促進することで、CO ₂ 排出量を抑制する。 2017 年 8 月～2018 年 5 月にかけて、日野駅北の栄町一丁目 1 番地先の幹線市道 I-20 号線、道路延長約 280m、幅員 20m の道路改良工事(道路拡幅工事)を完了させ、自動車のスムーズな定速走行を促進することで CO ₂ 排出量の抑制を行なった。 (道路課) →指標 44(P.54)

3. 環境の現状と取組状況の評価

2. -1 省エネルギーの推進

(1) 家庭における省エネルギーの促進

CO₂の見える化の推進

◇ 指標 40: ワットチェッカー等貸出状況

2020 年度目標値: ワットチェッカー貸出数累計 500 件
省エネナビ貸出数累計 100 件
環境家計簿活用状況 1,000 件

年度	ワットチェッカー		省エネナビ		環境家計簿活用件数 (エコキング回収数)
	貸出数	累計貸出数	貸出数	累計貸出数	
2013	36	133	20	93	6,554
2014	53	186	37	130	11,086
2015	35	221	13	143	11,841
2016	29	250	2	145	14,399
2017	12	262	6	151	14,473
2018	10	272	4	155	14,040

2018 年度のワットチェッカー・省エネナビの貸し出しは、あわせて 14 件と前年度より 4 件減少しました。活用の啓発について工夫し、貸出数を増やすよう努めています。

環境家計簿活用件数は 14,040 件と前年度よりも 433 件減少しました。なお、集計した環境家計簿の結果は各家庭へフィードバックし、地球温暖化防止についての意識啓発を行なっています。

ワットチェッカーとは

消費電力量等を簡単に測定できる機器であり、コンセントに設置して、対象家電の電源プラグを差し込んで測定します。

省エネナビとは

家庭の分電盤に設置して電力消費量を計測し、モニターに表示する機器です。

環境家計簿とは

家庭で使用した電気やガスなどのエネルギー量を記録し、どのくらいの CO₂ を排出しているかを確認するものです。

日野市では、市内の全小学校を対象に年 2 回、「エコキング」と称して 1 日環境家計簿の作成呼びかけと集計をしています。エコキングは、市民・事業所・市による「環境基本計画推進会議 CO₂ グループ」が実施しています。

(2) 工場や事業所の省エネルギーの促進

省エネ診断の支援

☺ 指標 41: 省エネ診断の参加事業者数

2020 年度目標値: 累計 1000 件

2018 年度の省エネ診断の参加事業者数は 2 件で、累計 23 件にとどまっています。参加事業者数が少ない理由としては、事業者に対する省エネ診断の意義が周知されてないことが考えられるため、周知方法について検討する必要があります。また、これまでの実績と目標値に大きな差があるのが現状です。省エネ診断（事業所向け）の件数は、東京都全体の実績でも約 3,900 件（2019 年度 4 月発行の当事業リーフレットより）であることを踏まえると、当初設定した目標値は非常に高いものですが、少しでも目標に近づくよう努めています。

2-2 新エネルギーの導入

(1) 家庭への太陽光発電等の導入促進

太陽光発電等導入補助の実施

2020 年度目標 太陽光発電等導入補助件数
累計 180 件

☺ 指標 42：太陽光発電等の導入補助件数

年度	太陽光発電（件）	高効率給湯設備（件）	累計（件）
2012	32	17	99
2013	40	13	152
2014	45	6	203
2015	40	1	244
2016	38	5	287
2017	37	5	329
2018	36	15	380

エコ住宅に太陽光発電・高効率給湯設備を設置したものを補助対象としています。2018 年度の補助件数は計 51 件と前年度から 9 件増加しました。引き続き PR に努めます。

(2) 公共施設における太陽光等新エネルギーの活用

太陽光、太陽熱、風力等の積極的な活用

2020 年度目標値：累計 200kW

☺ 指標 43：公共施設の新エネルギー導入状況

年度	新エネルギー導入状況 (kW)	備考
2009	0 (24)	平山小学校 10kW、第一中学校 10kW、日野駅北側トイレ 4kW
2010	34 (10)	東光寺小学校 10kW
2011	144 (110)	ふれあいホール 100kW、多摩平保育園 10kW
2012	147 (3)	ファーマーズセンター 3kW
2013	157 (10)	発達支援センター 10kW
2014	163 (6)	豊田南地区センター 6kW
2015	165 (2)	東宮下地区センター 2kW
2016	194 (29)	日野第二中学校 29kW
2017	194.36 (0.36)	カワセミハウス、百草台自然公園、市民の森スポーツ公園、多摩平第一公園 各 0.09kW 計 0.36kW
2018	194.36 (0)	新規導入なし

2018 年度は前年度から増加はなく、累計は 194.36kW です。* () 内の数値は単年度の導入数値

新エネルギーとは

「新エネルギー」とは、太陽光発電や風力発電などの「再生可能エネルギー」のうち、地球温暖化の原因となる二酸化炭素の排出量が少なく、エネルギー源の多様化に貢献するエネルギーです。

2-3 環境に配慮した交通体系の構築

(1) 自動車利用時の排出ガスの低減

渋滞の解消



指標 44：都市計画道路の整備率

2020 年度目標値:96.0%

年度	都市計画道路の整備率 (%)
2010	89.9
2011	92.8
2012	92.8
2013	92.8
2014	92.8
2015	92.8
2016	92.8
2017	92.8
2018	92.8

自動車のスムーズな定速走行を促進することで、CO₂排出量の抑制を図ります。

整備率は、2018 年度も前年度と同じ 92.8%でした。

2015 年 12 月に日野都市計画道路 3・4・24 号線の事業認可を取得しました。2018 年度は、旭が丘側の橋台 1 基の築造を実施しました。

3.<市民コメント>

この白書にあるとおり、近年、二酸化炭素排出量が減少していることは、地球温暖化防止のために良い傾向と言えます。また、地球温暖化防止に向けた市の取組状況もこの白書から読み取ることができます。

一方で、市民としては、新たに実質的な効果が大きい施策を行なってほしいと思います。

そのために 5 つの提案を例示します。

1. 新しく建てる一戸建て住宅には、太陽光発電システムの設置を義務付けてはどうか。(アメリカのカリフォルニア州では、2020 年から新築住宅には太陽光発電システムの設置を義務付けることが決定しています。)
2. 市からの補助金の対象に、太陽光で発電した電気をためるための蓄電池を加えてはどうか。
3. 物流トラックの排気物質検査を定期的 to 実施してはどうか。(フィルター等、排気物質の浄化装置が機能しづらくなる、使用開始後 7 年以上経過したトラックを対象としてはどうか。)
4. マンションには、EV (電気自動車) や PHV (プラグインハイブリット自動車) の充電ステーションの設置を義務付けてはどうか。また、設置のための補助金を検討してはどうか。
5. 工場や学校へは、太陽光発電を行なうことを義務付けてはどうか。

今後も、市・市民・事業者が連携した取り組みを継続し、発展させ、地球温暖化防止に向け一人ひとりが行動できる社会となることを望みます。

生活環境分野

＜目標＞ 心やすらぐ住みよいまち

1.＜環境の現状＞

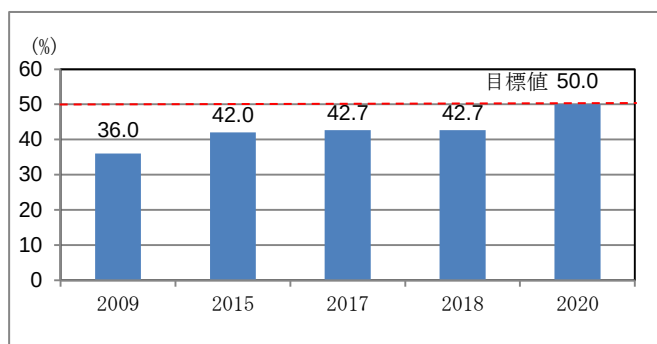
1.-1 心やすらぐ快適な生活環境であると感じる市民の割合



指標 45：心やすらぐ快適な生活環境であると感じる市民の割合

目標値：50.0%

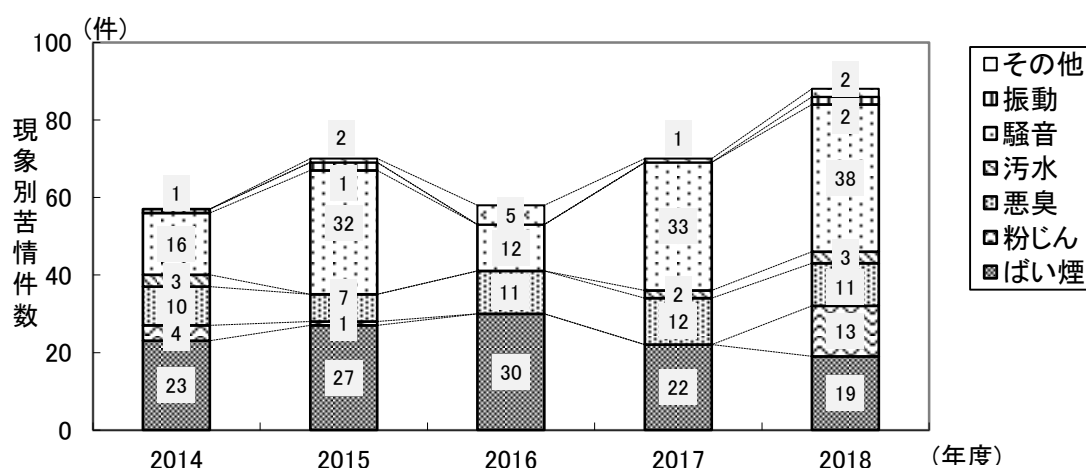
(2020 年度)



2018 年度の市民意識調査では「きれいな水や空気・騒音やポイ捨てがないなど、良好な生活環境が確保されている」という回答率は 42.7%で前年度と同数でした。

なお、この数値は「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の回答の合計値です。前年度と比べ「そう思う」が 1.9 ポイント増加したため、実質的な評価は向上したことから、評価は達成としています。

(参考 12) 苦情受付件数



市に寄せられた環境・公害に関する苦情件数をみると、2018 年度の苦情受付件数は 88 件となりました。種別でみると、多い順に、騒音 (38 件)、ばい煙 (19 件)、粉じん (13 件)、悪臭 (11 件)、汚水 (3 件)、振動 (2 件) となっています。有毒ガスの苦情はありませんでした。

2018 年度は、例年に比べ粉じんに関する苦情件数が増加しました。これは、建物の解体工事が増加したことが一因と考えられます。

3. 環境の現状と取組状況の評価

2.〈市の取組状況〉

目標	施策の方向	施策	具体的な取組	実施状況
心やすらぎ住みよいまち	日常生活をとりまく環境の充実	快適な生活環境の確保	PRの実施	誰もが快適に暮らし心安らぐ生活環境を維持・確保するため、一人ひとりが近隣に配慮した行動を心がけるようPRを実施する。 (環境保全課) → 指標 46(P.57)
			苦情に対する適切な対応	市民等から生活環境に関わる苦情・要望等が寄せられた場合には、状況を確認し、適切に対応する。 (環境保全課)
	公害対策の推進	大気・土壌・地下水汚染等の防止	大気汚染物質の監視	窒素酸化物、大気中のダイオキシン類の濃度を継続的に測定する。数値の悪化を防ぐため引き続き監視を行うと共に、光化学スモッグなど健康に影響を与える情報は速やかに公表する。 (環境保全課) → 指標 47～50(P.57～59)
			道路交通騒音の測定及び対策の実施	道路交通騒音を定期的に測定し、現状の把握に努める。また、環境基準(または要請限度)を超過するなどの場合には、関係部署と連携し、適切な処置を講ずるよう努める。 (環境保全課) → 指標 51(P.61,62)
		騒音・振動対策の推進	航空機騒音についての対策	市内の航路に該当する地点の航空機騒音を定期的に測定し、現状把握に努めた。また、環境基準を超えることはなかったが、市民等からの苦情・要望等に対しては、適切な処置を講じた。 (環境保全課) → 指標 52(P.62)

2. -1 日常生活をとりまく環境の充実

(1) 快適な生活環境の確保



PRの実施

各年度目標値：14回以上

指標 46：マナーアップのための啓発活動状況

(単位：回)

マナーアップのための啓発活動状況	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	備考
喫煙マナーアップキャンペーン	3	4	3	5	3	3	0	2018年度は広報ひのによる周知のみ実施
広報によるマナー啓発	5	5	8	8	8	8	8	生き物5回、喫煙2回、樹木1回
犬・猫の飼い方講習会	2	4	4	3	3	4	3	ドックラン2回、日野市役所1回
自治会によるマナー啓発	2	2	2	2	2	2	2	5月上旬、11月上旬
計	12	15	17	18	16	17	13	

2018年度に行われたマナーアップのための啓発活動は広報を通じた啓発活動を中心に展開しました。

実施回数は前年度を下回る結果となりましたが、今後も、市民一人ひとりが、周囲の人々の行動、意見、考えを尊重しつつ、自らの行動について考えていく契機となるよう、啓発活動を継続していきます。

2. -2 公害対策の推進

(1) 大気・土壌・地下水汚染等の防止

大気汚染物質の監視

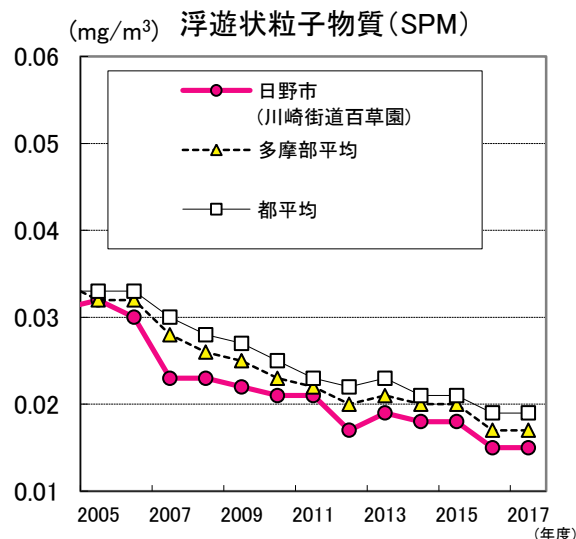


指標 47：浮遊状粒子物質 (SPM) 年平均値

東京都自動車排出ガス測定局の測定結果によれば、本書編集時点で最新データとなる2017年度の日野市(川崎街道百草園)のSPM年平均値は $0.015\text{mg}/\text{m}^3$ であり、多摩部平均や都平均よりも低く推移しています。2007年3月に開通したバイパスにより、自動車の交通量は分散したことが考えられ、2007年度以降は低い数値を示しています。

なお、本書編集時点での最新データとなる2017年度の微小粒子状物質($\text{PM}_{2.5}$)の同測定局結果は、1年平均値が $12.5\mu\text{g}/\text{m}^3$ 、1日平均値が $26.3\mu\text{g}/\text{m}^3$ となり、環境基準(H21.9.9環境省告示)である「1年平均値が $15\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であり、かつ、1日平均値が $35\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であること。」を下回るものとなりました。

3. 環境の現状と取組状況の評価



浮遊粒子状物質

(SPM: Suspended Particulate Matter)とは

大気中に浮遊している粒径 10 μm 以下の粒子と定義されています。

その構成成分は多種多様で、例えば自動車(主にディーゼル車)の排気ガスに含まれている燃焼の際のスス等(排気管一次粒子)や、タイヤや路面が摩耗して堆積し、自動車の走行によって巻き上げられるもの、海塩粒子、土壌粒子等も含まれますし、ガス状物質として大気中に放出されたものが粒子に変化して、硝酸塩等になる二次生成粒子と呼ばれるものも含まれます。

環境基準

「1時間値の1日平均値が 0.10mg/m³ 以下であり、かつ、1時間値が 0.20mg/m³ 以下であること。」(S48. 5.8 告示)

微小粒子状物質(PM_{2.5})とは

大気中に浮遊している粒径 2.5 μm (1 μm は 1mm の千分の 1)以下の小さな粒子のことで、従来から環境基準を定めて対策を進めてきた浮遊粒子状物質(SPM:10 μm 以下の粒子)よりも小さな粒子です。

PM_{2.5} は非常に小さいため(髪の毛の太さの 1/30 程度)、肺の奥まで入りやすく、呼吸器系への影響に加え、循環器系への影響が心配されます。

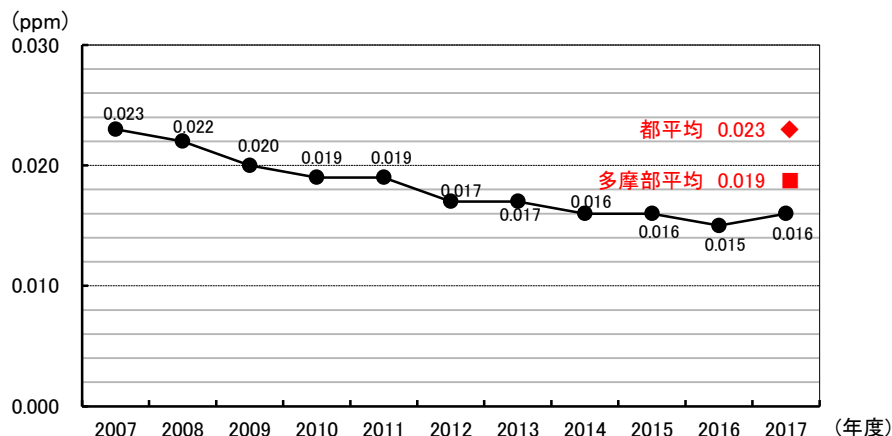
粒子状物質には、物の燃焼などによって直接排出されるものと、硫黄酸化物(SO_x)、窒素酸化物(NO_x)、揮発性有機化合物(VOC)等のガス状大気汚染物質が、主として大気中での化学反応により粒子化したものがあります。発生源としては、ボイラー、焼却炉などのばい煙を発生する施設、コークス炉、鉱物の堆積場等の粉じんを発生する施設、自動車、船舶、航空機等、人為起源のもの、さらには、土壌、海洋、火山等の自然起源のものもあります。

(出典:環境省_微小粒子状物質(PM_{2.5})に関する情報 <http://www.env.go.jp/air/osen/pm/info.html>)

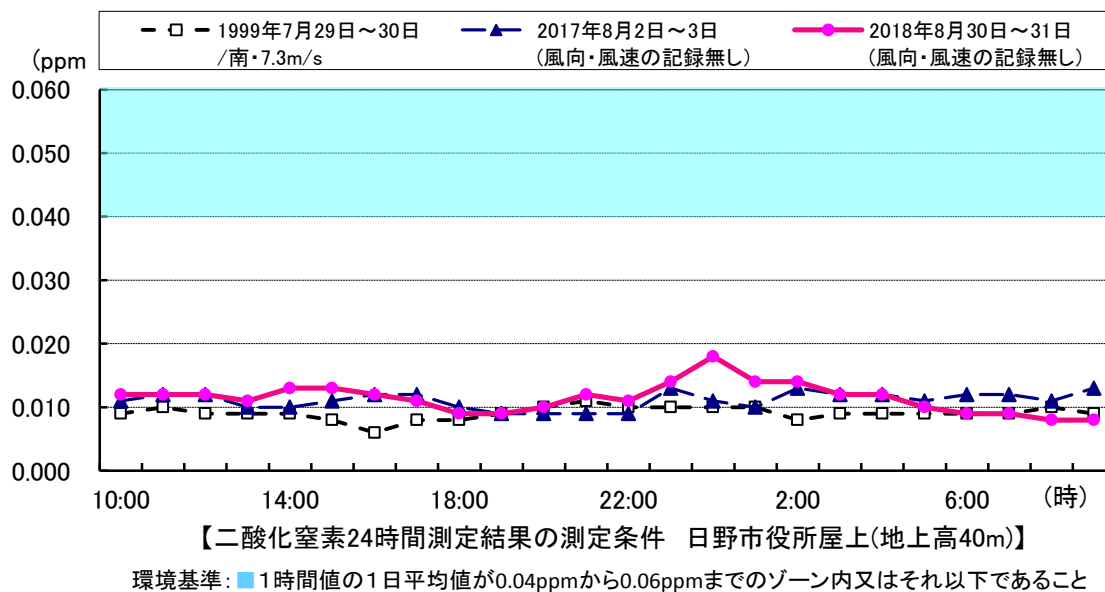


指標 48 : 二酸化窒素の年平均濃度

日野市川崎街道百草園にある東京都自動車排出ガス測定局の調査結果(東京都環境局資料)によれば、本書編集時点で最新データとなる 2017 年度の二酸化窒素濃度平均値は前年度より増加し、0.016ppm を示しています。日野市の値は、都平均値 0.023ppm、多摩平均値 0.019ppm と比較して低い値となっています。



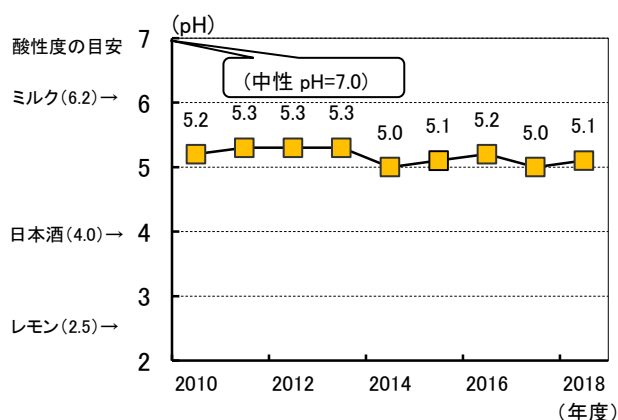
😊 指標 49：二酸化窒素 24 時間測定結果



1 日における二酸化窒素濃度(日野市役所屋上)の変動について、2018 年 8 月 30 日・31 日に測定した結果を 1999 年及び昨年と比較したところ、大きな変化は認められませんでした。

また、平均濃度は、2017 年の 0.011ppm に対し、2018 年度も 0.011ppm でした。この数値は、二酸化窒素濃度の環境基準「1 時間値の 1 日平均値が 0.040～0.060ppm までのゾーン内またはそれ以下」をクリアしています。

◇ 指標 50：雨の酸性度



酸性雨とは

自動車や工場から大気中に排出された硫黄酸化物や窒素酸化物により、雨水が pH5.6 以下に酸化する現象です。

pH とは

酸性の度合いを示し、中性は pH7.0 です。酸性度が強くなるほど数字が低くなります。

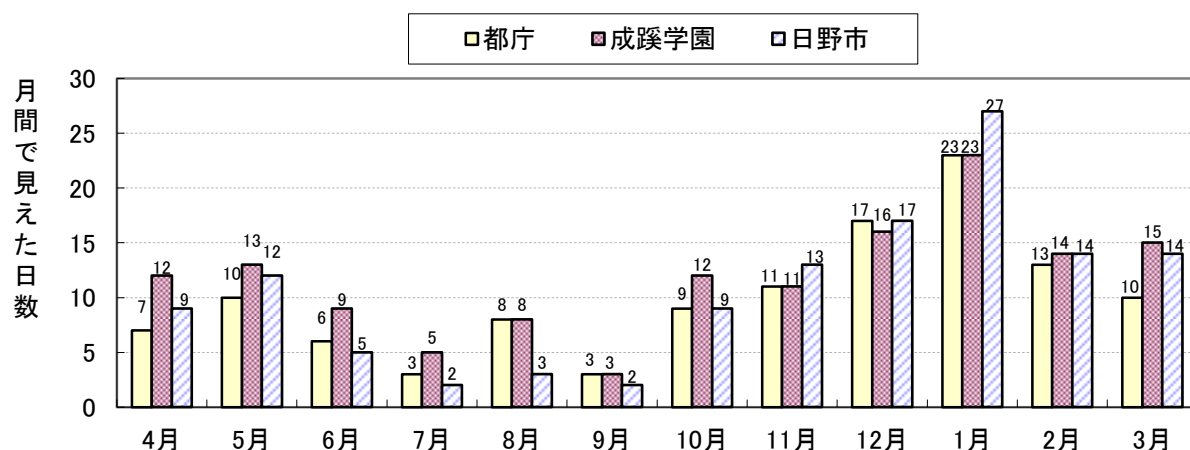
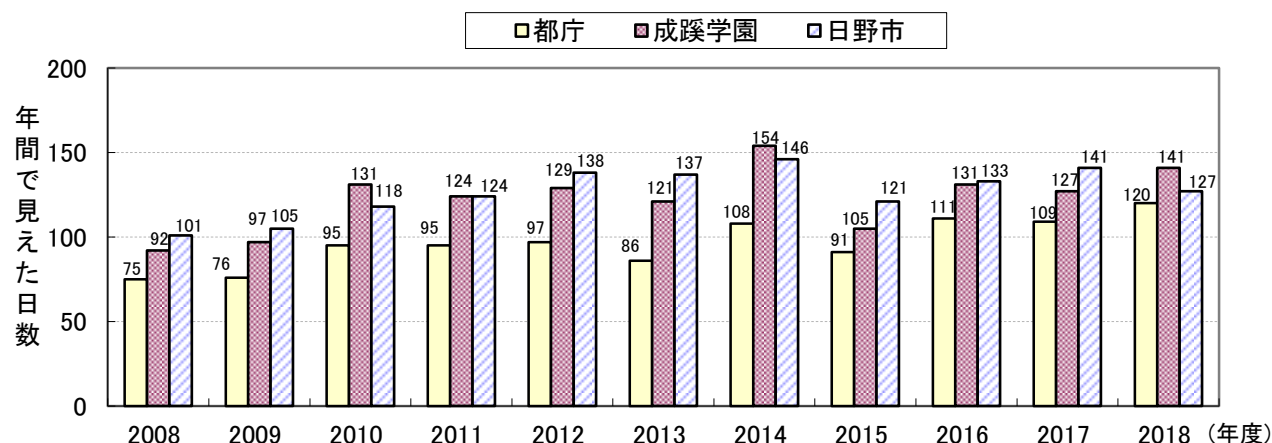
2018 年度における雨の pH 値は pH5.1(市内 8 か所で 8 人の市民モニターにより測定された 103 試料の平均値)で、2002 年度以降大きな変化は認められませんでした。

試料は各市民により、2018 年 4 月から 2019 年 3 月までの間に、毎月 1 回程度一雨ごとに採取されたものです。

3. 環境の現状と取組状況の評価

(参考 13) 富士山ウォッチング(富士山が見えた日数)

※各3地点とも、毎日定時に観測し、かすかに見える日を含んでカウントしている。



都庁 = 毎日9時に観測 場所：新宿区都庁舎35階（標高191.5m）
 成蹊学園 = 毎日9時に観測 場所：武蔵野市吉祥寺北町（標高56.0m）
 日野市 = 毎日8時に観測 場所：南平5丁目（七生中南東角交差点付近：標高75.0m）

日野市での観測結果を、インターネット上で公開されている都庁（新宿区）での観測値と30年以上の実績のある成蹊学園気象観測所（吉祥寺）の協力を得て入手したデータを比較しました。データを比較するにあたり、都庁は35階（約200m）の高層での観測値であり、日野市は観測標準時間より早い8時の観測値であることに留意する必要があります。

2018年度の富士山が見えた日数は、日野市では前年度より14日間減少していますが、都庁、成蹊学園ではそれぞれ11日、14日間増加しています。2018年度の降水量（気象庁八王子観測地点）は1306mmであり、前年度（1669mm）より少なく、東京観測地点では両年でほとんど同じ（2018年度1011mm；2017年度1010mm）でした。年間の降水量との関係はあまり見られませんでした。観測時の天候に影響されていると考えられます。月別で見ると、1月に見える日数が最も多く、八王子観測地点における1月の降水量は12.5mmと最も少なく、日照時間は232時間と最も多かったためと考えられます。過去10年間（2009～2018年度）の平均値は都庁で100日、成蹊学園で126日、日野市で129日であり、いずれの地点でも10年前（2009年度）に比べ増加しています。

(2) 騒音・振動対策の推進

道路交通騒音の測定及び対策の実施

☺ 指標 51：道路交通騒音

2018年度の昼間及び夜間の数値は、前年度と同程度の値が観測されました。昼夜とも環境基準を達成しており、要請限度も超えておりません。

(dB)

路線名	測定地点	昼間	夜間
国道 20 号 バイパス	市立病院 (多摩平 4-3-1)	69	65
	日野商工会館前 (多摩平 7-23-23)	69	65
	農産物直売所 (万願寺 6-35-13)	69	65
都道 155 号	富士電機社宅前 (旭が丘 1-8)	64	60
都道 173 号 (北野街道)	第 6 分団消防小屋前 (平山 5-1-19)	66	62
都道 41 号 (川崎街道)	三沢浄水場前 (三沢 1-19-1)	61	59

騒音測定法について

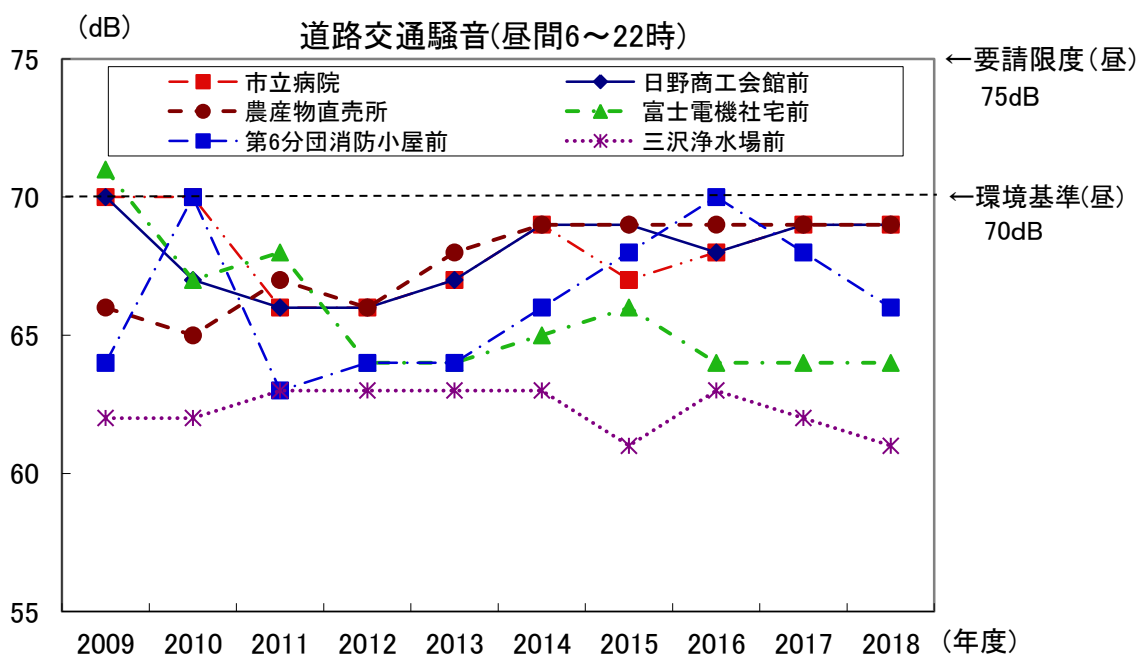
毎正時から10分間測定を行い、(1時間の等価騒音レベルを算出し)各時間区分の等価騒音レベルを演算。

【等価騒音レベル】時間内で変動する騒音レベルのエネルギー的な平均値で、人に感じられる感覚的なうるささとの対応に優れているといわれる。

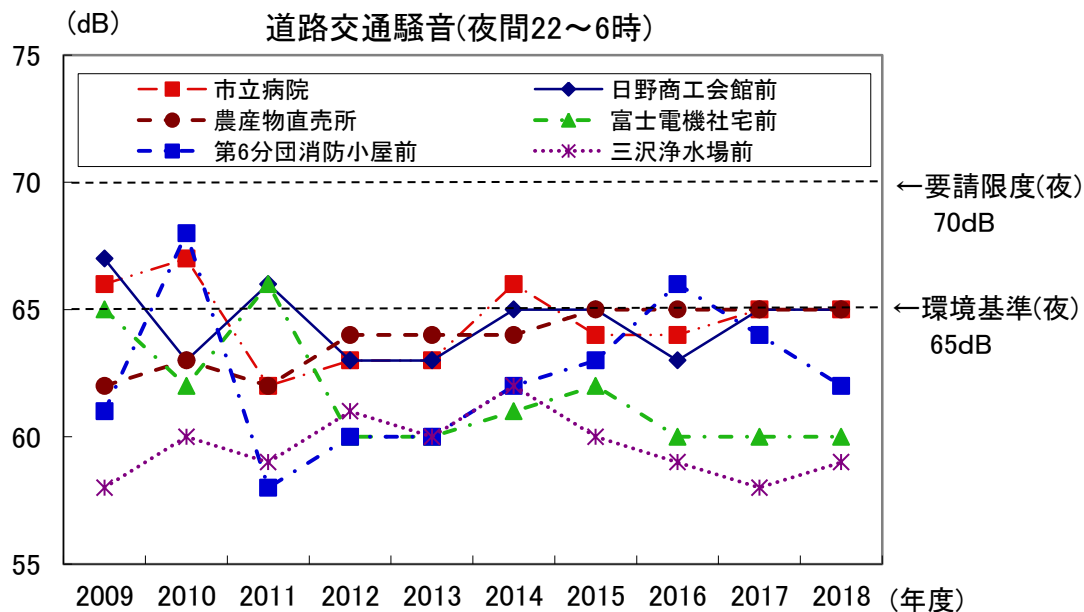
【環境基準】人の健康を保護し、生活環境を保全する上で維持されることが望ましい騒音レベルで、目標値となる。(環境基本法)

【要請限度】道路管理者に改善を要請することのできる騒音レベル。(騒音規制法)

単位は dB(デシベル)



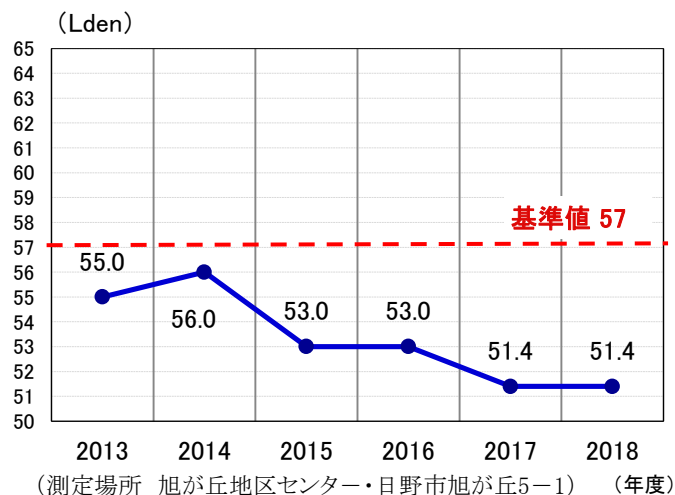
3. 環境の現状と取組状況の評価



環境基準：幹線交通を担う道路に近接する空間 昼 70dB, 夜 65dB
 要請限度：b区域(主として居住の様に供される地域)の2車線以上
 C区域(相当数の住居と併せて商業、工業等の用に供される区域)の車線を有する
 昼 75dB, 夜 70dB

航空機騒音についての対策

☺ 指標 52：横田飛行場に係る航空機騒音



日野市では、横田基地に係る航空機騒音の測定を1977年から実施してきました。1988年まではリオン社製 NA-30 により夏期及び冬期にそれぞれ1ヶ月間測定していましたが、1989年以降はリオン社製 NA-33 により常時測定を行なっていました。

2013年度から環境基準がLdenに変更となり、リオン社製 NA-37 で常時測定を行なっています。2018年度は前年度と同じ51.4 (Lden) となり、環境基準値を満足しています。

※環境基準値は57 (Lden) です。

Ldenとは

「時間帯補正等価騒音レベル」のことで、各飛行機の騒音を、聞こえ始めから聞こえ終わりまでの人が受ける騒音エネルギーで測定した値です。

2-3 放射線測定

(参考 14) 市内空間放射線量測定

2011 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災に伴う福島第一原発事故により、放射性物質による環境汚染が生じました。市では、2011 年 7 月 11 日から、市内の空間放射線量の測定を開始しました。国の基準※では、0.23 マイクロシーベルト/毎時以上の地域が除染対象となります。2018 年度の測定結果は、基準を超える地点はなく、健康に影響を与える数値ではありませんでした。また、局地的に高い測定値を示す場所(ホットスポット)は確認されませんでした。

※国の基準:『平成 23 年 3 月 11 日に発生した東北地方太平洋沖地震に伴う原子力発電所の事故により放出された放射性物質による環境の汚染への対処に関する特別措置法』(2011 年 8 月公布)

表-2018 年度の最小及び最大値

測定区分	場 所	実施日	結 果(単位:マイクロシーベルト/毎時)
定 点	公園 8 地点	2011 年 7 月 11 日～継続中 毎週 1 回	0.04～0.06

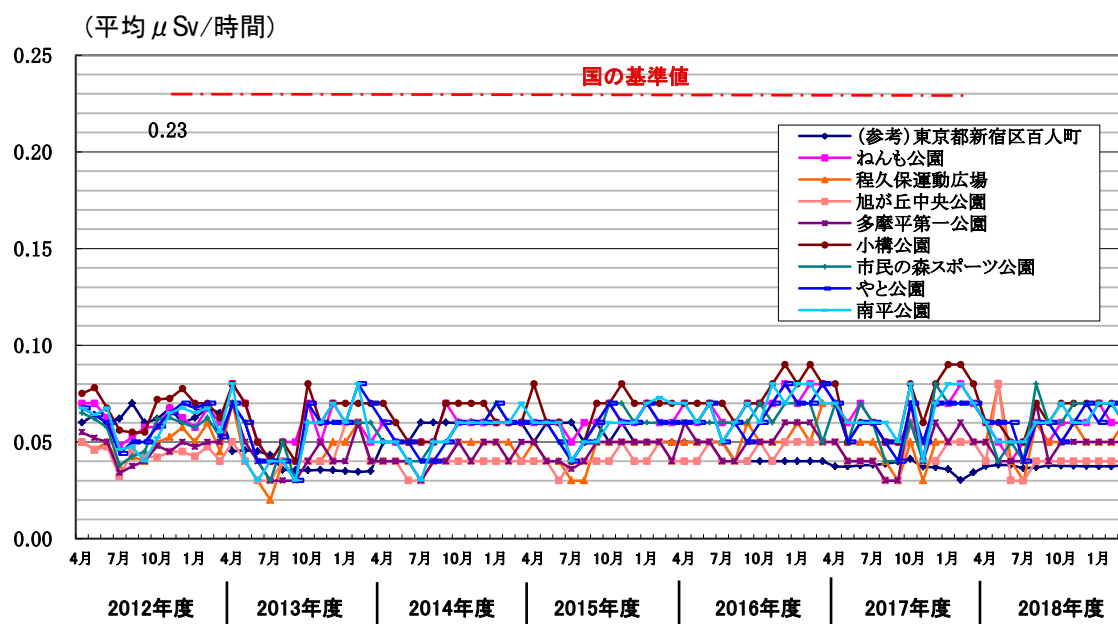
調査期間:週 1 回(2011 年 7 月 11 日から)

調査地点:市内の中学校区を基準にして 8 分割し、各校区内の 1カ所を測定場所とする。計 8 カ所。

調査内容:高さ 1 メートル位置にて、5 分間保持後、
30 秒ごとに 5 回測定した空間放射線量の
平均値を測定結果とする。

測定機器:RAE Systems 社製「DoseRAE2 PRM-1200」

中学校区	測定場所
三沢中学校区	ねんも公園(高幡)
第三中学校区	程久保運動広場(程久保)
第四中学校区	旭が丘中央公園(旭が丘5丁目)
第二中学校区	多摩平第一公園(多摩平4丁目)
大坂上中学校区	小構公園(日野台1丁目)
第一中学校区	市民の森スポーツ公園(日野本町7丁目)
平山中学校区	やと公園(平山3丁目)
七生中学校区	南平公園(南平4丁目)



4. 環境への取組状況

4. 環境への取組状況

本章では、日野市において、市民及び市民・行政との協働、行政、学校等、大学、事業者による環境への取り組みを主体別に紹介します。

(1) 市民及び市民・行政との協働による環境への取組状況

ここでは、日野市において種々の環境問題に対し、市民及び市民と行政との協働で継続的に実施している主な活動事項を紹介します（五十音順）。2018 年度に活動実績のある団体（活動）は下表の 38 団体（活動）で、活動分野別では「みどり」が最も多く 26 団体（活動）、次いで「水」が 16 団体（活動）、「ごみ」「地球温暖化」「生活環境」分野の活動は少ない傾向にあります。

番号	団体（活動）名	取組分野					
		みどり	水	ごみ	地球温暖化	生活環境	環境全般
1	浅川潤徳水辺の楽校推進協議会	○	○				
2	浅川滝合水辺の楽校運営委員会		○				
3	浅川流域市民フォーラム		○				
4	石坂ファームハウス(自然の恵みを楽しむ会)	○					
5	NPO 法人環境教育ネットワーク						○
6	倉沢里山を愛する会	○					
7	NPO 法人子どもへのまなざし	○	○				
8	NPO 法人樹木・環境ネットワーク	○					
9	小水力発電を実現する市民の会				○		
10	真堂が谷戸蛸の会	○	○				
11	雑木林ボランティア講座	○					
12	ツバメのくるまち事業	○	○				
13	南丘雑木林を愛する会	○					
14	農の学校	○					
15	八王子・日野カワセミ会	○					
16	東豊田緑湧会	○	○				
17	日野産大豆プロジェクト	○					
18	ひの市民リサイクルショップ回転市場			○			
19	日野団塊世代広場	○		○			
20	ひのどんぐりクラブ	○	○			○	
21	日野の自然を守る会	○	○				
22	日野の水車活用プロジェクト		○				
23	日野みどりの推進委員会	○					
24	ひの緑のトラスト	○					
25	ひの・まちの生ごみを考える会			○			
26	まちの生ごみ活かし隊	○		○			
27	ふだん着で CO2 をへらそう実行委員会				○		
28	FFATOKYO（フライ・フィッシャーズ・アグリ東京）		○				
29	程久保川を考える会		○				
30	まちづくり市民フェア						○
31	みずとくらす・ひの		○				
32	水と緑の日野・市民ネットワーク	○	○		○	○	
33	水の郷日野ビジョン 450	○	○				
34	緑を愛する会日野	○					
35	南平・緑と水のネットワーク	○	○				
36	百草山の自然と文化財を守る会	○					
37	谷中山緑地を守る会	○					
38	緑地管理ボランティアの会	○					
合計		26	16	4	3	2	2

① 浅川潤徳水辺の楽校推進協議会

○ 活動目的

川を昔のように、自然豊かな環境に少しでも近づけ、そこで子どもたちが思いっきり遊ぶことができる自然体験の場を「水辺の楽校」といいます。水辺の楽校は、1996年から国土交通省が推進している事業で、すでに全国300か所以上の地区において、この取り組みが始まっています。大人も子どももみんなで楽しく語り合い、浅川でのイベントを中心とした遊びの中から、自然の大切さを学んでもらうのが水辺の楽校です。

○ 対 象：潤徳小学校の児童を中心に、浅川近隣の小学生が対象

○ 活動場所：おもに浅川高幡橋～新井橋区間と向島用水

○ 連 絡 先：代表者 会長 笹木延吉／事務局 日野市緑と清流課・日野市立カワセミハウス
笹木延吉 TEL:042-642-0422

○ 活動実績

実施日	テーマ	目的・対象・内容	参加人数
2018. 4. 22	多摩川・浅川クリーン作戦に参加	浅川ふれあい橋付近・向島用水清掃	25
5. 7	種まき（学校内）	潤徳小 5 年生（授業）	138
5. 12	「浅川で遊ぼう 1」	竹馬、竹笛づくり、竹ぼっくり、天狗の下駄、石絵、豚汁、その他	87
6. 3	「浅川で遊ぼう 2」 身近な水環境の一斉調査	子ども中心に用水で 3 箇所、ふれあい橋下 1 箇所	36
6. 5	田植え	潤徳小 5 年生（授業）	138
7. 17	田圃の草取り	潤徳小 5 年生（授業）	138
7. 21	「浅川で遊ぼう 3」 浅川の源流探検	川は流域で考えることから、浅川の清冽な源流域を体験する	35
8. 4	「浅川で遊ぼう 4」	思いっきり、水遊び（水泳など）	70
8. 28	田圃の草取り	潤徳小 5 年生	42
9. 8	「浅川で遊ぼう 5」	バッタ取りと植物観察（杉浦氏）	42
10. 4	稲刈り	潤徳小 5 年生（授業）	138
10. 29	脱穀	潤徳小 5 年生（授業）	138
11. 30	水車でもみすり	潤徳小 5 年生（授業）	138
11. 25	日野市地域清掃に参加	浅川ふれあい橋付近・向島用水清掃	28
12. 4	水辺の楽校発表会	潤徳小体育館で全校生徒集合	720
12. 8	多摩川子どもシンポジウム	多摩川流域の水辺の楽校が集う発表会	30
12. 19	笹刈り	笹刈り（どんど焼き用）	46
12. 20	餅つき大会	潤徳小 5 年生（授業）（学校運営委員会、PTA 共催）	138
2019. 1. 19	どんど焼き準備	お団子づくり、やぐら作りなど（PTA 共催）	55
1. 20	「浅川で遊ぼう 6」	どんど焼き（PTA 共催）	500
2. 16	「浅川で遊ぼう 7」	浅川で野鳥観察	34

4. 環境への取組状況

② 浅川滝合水辺の楽校運営委員会

- 対 象:滝合小学校の生徒を中心に、同校保護者・卒業生及び地域住民
- 活動場所:滝合小学校付近の浅川、ビオトープ
- 事 務 局:浅川っ子の会(滝合小学校教員・保護者・地域住民で構成)、日野市緑と清流課
- 活動実績

実施日	内 容	参加人数
2018. 4. 15	浅川クリーン作戦&春野菜カレー	(大人 43、こども 39) *
7. 8	染物体験&カレー	大人 18、子ども 9
8. 19	夏だ、浅川で遊ぼう	大人 20、子ども 12
11. 25	浅川一斉清掃&七輪パーティー	大人 13、こども 8
2019. 2. 24	バードウォッチング&焼き芋	大人 29、こども 23

*2018. 4. 15 については雨天中止の為応募人数

③ 浅川流域市民フォーラム

○ 活動目的

浅川及び大栗川、程久保川、谷地川流域の良好な水辺環境を守り、いい川づくりをしていくことについて、市民の意見交換や行政に対しての提案を行い、交流の機会や場を形成するとともに、流域の行政との良好なパートナーシップを形成していくことを目的として、次世代に身近な自然である河川環境を残していくことを目的としています。

○ 活動内容

当会では、2004 年から毎年日野市・八王子市の市民の参加を得て、「身近な水環境の全国一斉調査」の水質調査を行っています。調査結果をもとに流域の水質マップを作り、解説面に流域の情報を写真によってわかりやすく載せて配布し、市民への啓もう活動をしています。

また、河川改修などによって、河川内の樹木や平常時の河川流量の減少などが発生しています。そのため多自然、流量の確保を目的に管轄行政と立ち合い、話し合いを行っています。

他には、浅川・湯殿川クリーンデー（毎年 4 月）を開催。

浅川流域連絡会に参加し、行政や市民との河川情報の交換を行い、ニューズレターで流域の情報を伝えています。

毎年 6 月に行われる八王子市環境フェスティバルに出店し、流域水質マップ、ニューズレターを配布しています。

○ 人 数: 約 50 名

○ 連 絡 先:事務局 諏訪 祥子 TEL:042-621-1779 E-mail:CBB00853@nifty.com

④ 石坂ファームハウス(自然の恵みを楽しむ会)

○ 活動目的:都市農業の普及と理解・四季を通じての活動・食農教育

○ 人 数:登録会員 約 50 人

○ 活動場所:日野市百草 672-1 石坂ファームハウス

○ 連 絡 先:TEL:042-591-6477

○ 情報提供方法:<http://blog.goo.ne.jp/ishizakafarmhouse/> TEL:042-591-6477

(1)市民及び市民・行政との協働による環境への取組状況

○ 活動実績

年・月	テーマ	目的・対象・内容	参加人数
2018. 4	野菜の種まき体験と畑散策	自然の恵みを楽しむ会	約 20 名
	とうもろこし種まき	近隣幼稚園	約 20 名
5	里芋の植え付け	三中育成会	約 70 名
	田植え	お米づくり講座 第 1 回	約 100 名
	じゃがいも堀り	都内幼稚園	約 20 名
7	じゃがいも堀りと試食会	自然の恵みを楽しむ会	15 名
8	農場視察・課外授業	京都芸術学院	約 10 名
10	稲刈り	お米づくり講座 第 2 回	約 130 名
	里芋収穫	都内保育園	約 20 名
11	芋ほり	近隣保育園	約 10 名
	秋の収穫体験	自然の恵みを楽しむ会	約 20 名
	職場体験	三中	6 名
	里芋収穫	近隣保育園	約 100 名
	里芋収穫	三中育成会	約 40 名
12	雑木林の枝拾い	都内保育園	約 20 名
	わらリース作り	お米づくり講座 第 3 回	約 70 名
2019. 1	お餅つき	近隣幼稚園	約 100 名
	雑木林落ち葉掃き	近隣学童	約 6 名
	お餅つき	都内幼稚園	約 50 名
	お餅つき	お米づくり講座 第 4 回	約 120 名
2	昔の道具見学	近隣小学校	約 90 名
3	じゃがいもの植え付け体験	都内団体	約 30 名

⑤ NPO 法人環境教育ネットワーク（旧：比留間塾環境プロジェクトクラブ）

○ 活動目的・活動内容

小学生及び中学生に環境教育・環境活動の支援を行うとともに、高校生、専門学校生、大学生、さらには広く社会人に対して、環境学習の機会を提供します。

○ 活動場所：日野市旭が丘4-7-5シティハイツ日野旭が丘4号棟510号室

○ 連絡先 理事長：比留間 文彦

TEL:042-584-0900 FAX:042-581-9909

○ 情報提供方法：環境学習、セミナーなど

○ 活動実績

実施日	テーマ	目的・対象・内容	参加人数
2018. 4. 3～7. 24	公害論について	公害論についての講義を行った。 大学生を対象	300
2018. 10. 28	科学実験について	科学実験を行った。 参加者全員対象	100
2018. 12. 20	第1回環境学勉強会	環境学についての勉強会を行った。 社会人を対象	10
2019. 1. 12	第2回環境学勉強会	環境学についての勉強会を行った。 社会人を対象	10
2019. 2. 15	第3回環境学勉強会	環境学についての勉強会を行った。 社会人を対象	10
2019. 3. 8	第4回環境学勉強会	環境学についての勉強会を行った。 社会人を対象	10

4. 環境への取組状況

⑥ 倉沢里山を愛する会

○活動目的と経緯・活動内容等

百草倉沢地域で市民の手でエコ循環も実践しながら一帯の里山的な景観を永く残し、植生保護や緑地の維持・管理活動を通じて雑木林や農地の緑に親しみ、同時に会員並びに地域の市民相互のコミュニケーションを深めていくことを目的として、2000(H12)年から活動。

2004年、日野市と市有緑地の管理・運営に関するパートナーシップ協定を締結、その前後にわたり活動の成果として複数の地元農家の相続の際、寄付等による緑地保全を実現させ、公有緑地が順次拡大し、本会の管理範囲も拡大した。また、エリア内で工場跡地(民有地)を本会が一括して借り受け農園化、新しい形での緑地の再生を実現、2018年には市有地化まで実現させた。さらに百草谷戸の遊休民有地数カ所を地主の理解を得て里山農園として再生・管理している。

《主な活動内容》

- ・下草刈り、落ち葉掃き、樹木の手入れ等、数カ所に分散している雑木林を中心とする緑地の基本的・日常的な維持・管理作業および里山内の稀少動植物の保護育成・調査。
- ・里山の緑地の一形態として農園(緑地としての耕作地、「アリスの丘ファームⅠ・Ⅱ・Ⅲ」)、及び2018年からは同じ里山内の「風の丘ファーム」の管理も引き継ぎ運営・管理、及び雑木林の腐葉土をはじめ、牛・馬・鶏糞、おから等地域内でのエコ循環の実践。
- ・百草・倉沢地区の里山全体の保全のための市民や行政への働きかけ。
- ・外部の諸団体・学校等からの見学・体験参加等の受け入れ、研究フィールドの提供。
- ・上記諸活動を通じ会員のコミュニケーションの場の提供、高齢層の社会参画機会の提供。

○会員数： 120 家族、登録人数 約 200 名

○活動場所： 日野市百草倉沢地区の公有緑地(数カ所)を拠点として活動。

○連絡先： 事務局(田村) Tel. (042) 592-5859 E-mail: info@alice-fm.info

○情報提供方法および2018年度の活動実績

《情報提供方法》 ニュースレター(季刊)、ホームページ(<http://alice-fm.info>)、Eメール等

《活動実績》 雑木林を中心とする緑地の基本的・日常的な維持・管理の公式活動年間約30回のほか、フィールド内の果樹の手入れ・収穫、他の里山ボランティアの見学会、里山農園アリスの丘・風の丘ファームの運営・管理等、随時必要に応じて活動、年間参加者数は延1000名を超える。

⑦ NPO 法人子どもへのまなざし

○活動目的

子どもを真ん中にした社会へ

あなたの『子ども時代』を思い出してください。あなたは「誰と、どこで、何をして」遊んでいましたか？

今、子どもたちは「自由」に遊んでいるのでしょうか？ 子どもにとって『あそび』は生きることそのものです。しかし、都市化が進み、昔のように子どもたちが街中であそぶ姿を見かけなくなりました。子どもが自由に外で遊ぶことは、様々な理由で難しくなっています。「子ども時代のあそびを保障する」のは、大人の責務です。豊かな自然が残る日野であそばないのはもったいない。子ども時代にあそんだふるさとの山や川だからこそ、大人になって大切にしたいという気持ちが育まれるのだと思います。

(1)市民及び市民・行政との協働による環境への取組状況

○人数:正会員 62名 応援会員 65名

○活動場所:仲田の森蚕糸公園及び日野市周辺の川や丘陵地など自然豊かなフィールド

○代表者:中川 ひろみ

○連絡先:日野市西平山4-13-12 (団体事務所)

電話 042-843-1282 mail:info@manazashi2009.sakura.ne.jp

○活動日:年間を通して毎日

○主な活動実績

活動内容	実施日	場 所	参加人数
プレーパーク開催 (参加申込・参加費なし)	毎週金曜日・第2、3土曜日 (年間65回)	仲田の森蚕糸公園	延べ7,392名 (大人2,829名 子ども4,563名)
森のようちえん 野外保育「まめのめ」	毎日9時～17時 (土・日・祭・年末年始以外毎日)	日野市周辺の自然豊かなフ ィールド(浅川、多摩丘陵など)	在園児39名 (1歳～5歳)
川であそぼう!ちびっこ団	7月21日～23日	浅川、多摩川	年中・年長 15名
川であそぼう!がきんちょ団	8月2日～5日	浅川、多摩川 ゆうやけこやけふれあいの里	年長 6名 小1～小3 34名
飛び出せ!冒険隊!	7月15日・8月17日 (初級) 8月20日～22日(上級)	多摩川	小3～小6 15名 小4～小6 8名
山であそぼう!探検隊!	10月14日・11月18日 12月1日～2日	上野原八重山・要害山 大地沢青少年センター	小3～小6 18名
冬をあそぼう!がきんちょ団	12月26日・27日・28日	百草神社・七生公園・ 平山城址公園	年長 8名 小1～小3 27名
森の講演会	5月12日	仲田の森蚕糸公園	大人75名
仲田の森蚕糸公園等 清掃管理(委託事業)	毎月水木曜日(月8回程度)	仲田の森蚕糸公園	業務従事者4名

⑧ NPO 法人樹木・環境ネットワーク

○活動目的・活動内容

人と自然のつながりを大事にし持続可能な社会づくりを目指す。

自然の大切さを実感し、物質的・経済的豊かさだけでは得られない本当の豊かさに気づくこ
とが大切だと考え、「森を守る」「人を育てる」「森と人を繋ぐ」をテーマとした様々な活動を展
開している。具体的には里山保全活動、自然体験の企画実施、人材育成のための検定事業。

○人数:職員(常勤・非常勤含む)5名

会員数:501名(2018年3月)

○活動場所:関東地域、関西地域。日野市内では「多摩動物公園」の森及び「七生公園」

○代表者:駒沢大学教授 清水 善和

○連絡先:101-0052 東京都千代田区神田小川町3-6 日本分譲住宅会館ビル 8階南

[Tel]: 03-5244-5447 [Fax]: 03-5244-5448 [mail] info@shu.or.jp

○情報提供方法:ホームページ <http://www.shu.or.jp/>

○活動実績(2018年度の活動)

ここでは多摩動物公園の森での活動を報告します。

4. 環境への取組状況

① 保全活動

毎月第2日曜日および第4土曜日に保全活動を行った。
場所は、ライオンの森、チンパンジーの森、七生公園

(延べ人数)	2018年度	
	参加人数	回数
定例活動	130人	20回
簡易調査	21人	2回
団体・他	301人	6回

② 中学生の総合学習の受け入れ「学校の総合学習支援」

人の手が入ることで保たれる自然 自分と自然との関わり方を学ぼう

2018年6月7日(木)・・・板橋区桜川中学校での事前学習・ワークショップ

2018年6月15日(金)・・・多摩動物公園雑木林での実習 ※雨天のため中止

③ 企業の活動受け入れ

近年、企業による環境活動は拡大しており、社員教育やCSR活動の一環として、里山での保全活動を希望する企業も増加傾向にある。

企業名	実施日、場所、参加者数	実施内容
東京セキスイハイム株式会社	2018年5月22日 ライオンの森 社員 計45人	CSR活動(環境保全活動への貢献) ※2回とも同様 ササ刈り、杭づくり、薪割り、階段補修
	2018年11月13日(火) ライオンの森 ※雨天のため中止	
マルイグループ	2018年4月22日(日) ライオンの森 37名	CSR活動及び環境教育プログラムの実施 ササ刈り、薪割り、ナチュラル万華鏡づくり
ローソン 株式会社	2018年6月23日(土) ライオンの森 26名	CSR活動及び環境教育プログラムの実施 ササ刈り、落葉だめづくり、樹名板づくり
新生銀行株式会社	2018年11月17日(土) ライオンの森 21名	CSR活動及び環境教育プログラムの実施 ササ刈り、玉切体験、ナチュラル万華鏡づくり
凸版印刷株式会社	2018年10月13日(土) ライオンの森 21名	CSR活動及び環境教育プログラムの実施 倒木処理、ササ刈、葉っぱでお絵かき
MOTTAINAI キャンペーン	2018年11月25日(日) ライオンの森 82名	MOTTAINAI×TAMAZO 森づくりプロジェクト ササ刈り、落葉集め、玉切、秋のいろいろ色探し

⑨ 小水力発電を実現する市民の会

○活動目的・活動内容

当会は、平成27～29年の3年間にわたって行われた「日野市小水力発電を考える会」による社会実験やイベント活動を受け継ぐ形で、平成30年4月に「考える会」から「実現する会」へと発展させるべく、市民団体として発足しました。4月から毎月1回定例会議を行い、17名の会員を「技術・開発班」と「広報・渉外班」とに分け、各班の会議も毎月開催しました。小水力発電の意義を市民の皆様に伝える試みとして、平成30年8月12日「第3回浅川アユまつり」、

平成 31 年 2 月 16 日「日野市環境フェア」に出展し、机上手回しではありましたが、水車実験は大いに盛り上がりました。

自転車用発電機として普及しているハブダイナモを利用して水路用発電水車を試作し、日野市内の用水で発電出力の測定を行いました。ギアによる増速機能を組み込んだ手作り木製水車を豊田用水で回し、6.0 ボルトの出力電圧を計測しました。さらに、自転車のホイールに塩化ビニル樹脂製羽根板を取り付け、ギアとチェーンで 2 倍速とした水車を日野上堰用水で回したところ、出力電圧 21 ボルトが得られました。

当会は、カワセミハウス協議会および環境分科会に参加登録するとともに、「水と緑の日野・市民ネットワーク」の参加団体となりました。

大部分が平坦地を緩やかに流れ、大きな流量も落差もない日野市の用水路は、水力発電には向かないと言われてきましたが、電気は大規模集中型発電システムによって電力会社から供給されるものとばかり思われてきましたが、石油漬け近代システムの限界が問われている現在、身近な水資源を分散型エネルギー資源の一つと考える視点は、エネルギーの地産地消、持続的な地域社会づくりの基盤になるものと考えられます。高性能発電機と各水路環境に適合した発電水車の開発によって希望の灯をともしることが当会の願いです。蓄電システムを充実させたいので、以下のような電気の活用が会議で提案されました。

用水周辺での LED 照明 電動自転車・車いすへの充電 防災非常用電源

- 会 員 数: 20 名
- 代 表 者: 塩澤豊志
- 連 絡 先: 塩澤豊志 TEL : 042-849-1526

⑩真堂が谷戸蛸の会

○ 活動目的・活動内容

真堂が谷戸は、日野市の東側百草地区の最東端にある小さな小さな里山です。ここは、雑木林からの湧水だけで、カワナナ、サワガニ、ホタルなどが細々と生息していることから当会では、ホタルだけではなく、生物多様性を考慮した里山の保全活動と位置づけています。

2010 年 4 月には 40 坪ほどの田圃を復元し、田植えから、稲刈りまで会員一同、楽しく取り組んでいます。

活動内容は、雑木林の下草刈り、萌芽更新作業、流れの管理、畑や田の管理、ビオトープづくり、ホタルの調査などです。6 月上旬から 7 月初旬までの 1 ヶ月間は、毎晩 3 人 1 組となり、ホタルの調査活動(個体数のカウント、気温、水温、湿度など)を実施しています。今後も、注意深く調査活動を続け見守っていかなければなりません。

また、市と協働で市民を対象に「ホタルの夕べ」を開催し、この貴重な環境を市民に知ってもらい、守ることに挑戦しています。

更に、他の団体の応援をいただき、ホタルの飛翔最盛期の 8 日間、一般の方々を対象とした観察会を実施しています。私たち「真堂が谷戸蛸の会」は、雑木林で、汗をかき、楽しい 1 日だった事に、喜びを感じるボランティア活動を目指しています。

- 会 員 数: 26 人
- 活動場所: 日野市百草「真堂が谷戸」、「百草園前緑地」
- 代 表 者: 板坂 泰治
- 連 絡 先: 事務局 笹木 延吉 電話: 042-642-0422
- 活動実績: 月 3 回(第 1 日曜日、第 3 木曜日、第 4 土曜日)

4. 環境への取組状況

実施日	テーマ	場所	参加人数
2018. 4. 1	高木 2 本伐採、田んぼの畦づくり	真堂が谷戸	10
4. 19	仮設トイレの設置、枝の整理	真堂が谷戸	7
4. 28	梅林の草刈り、樹木剪定	百草園前	8
5. 5	総会	自治会館	18
5. 17	田んぼならし、ネコヤナギ植栽	真堂が谷戸	8
5. 26	下草刈り	百草園前	6
6. 3	田植え	真堂が谷戸	18
6. 14	水路際の除草、雑木整理	真堂が谷戸	8
6. 21	蛍の夕べ（日野市と共催）	真堂が谷戸	35
6. 23	斜面草刈り作業	百草園前	7
7. 1	田んぼのアオコ取り、西側斜面の草刈り他	真堂が谷戸	11
7. 19	草刈り	真堂が谷戸	9
7. 28	台風で活動休み		
9. 2	雨で活動休み		
9. 20	道路側の草刈り他	真堂が谷戸	8
9. 29	田んぼの水抜き、椅子作り	真堂が谷戸	8
10. 7	稲刈り、掛け干し	真堂が谷戸	10
10. 18	池の整備、モッコク伐採	真堂が谷戸	7
10. 27	フェンス撤去、梅の剪定、草刈り	百草園前	11
11. 4	草刈り	真堂が谷戸	13
11. 15	倒木の処理他	真堂が谷戸	9
11. 24	落ち葉かき、剪定作業	百草園前	9
12. 2	落ち葉かき	真堂が谷戸	13
2019. 1. 17	水路の整備、落ち葉運搬	真堂が谷戸	7
1. 27	梅の木の剪定	百草園前	9
2. 3	階段整備、樹木伐採	真堂が谷戸	12
2. 14, 23	雨で活動休み		
3. 3	間伐材の整理、モミジ植栽	真堂が谷戸	11
3. 21	高木 2 本植栽他	真堂が谷戸	9
3. 30	柑橘類剪定	百草園前	9

⑪雑木林ボランティア講座

市民団体と行政の協働で開催している第14期雑木林ボランティア講座(2018年度)は11回開講しました。講座内容の詳細は、水と緑の日野・市民ネットワーク(P. 90)をご参照ください。

⑫ツバメのくるまち事業（日野の自然を守る会）

○活動内容

旧日野市環境情報センターから日野の自然を守る会が引継ぎ実施している事業が「ツバメのくるまち絵はがきの作成」です。

市内小学校の協力をいただき、2018年度は175点の応募がありました。この中から今回は優秀賞1点と入選作品7点が選ばれ、賞状と副賞が贈られました。

優秀賞はカラー印刷の絵はがきになり、環境関係のイベント会場や自然観察会などで無料配布されます。



<優秀賞受賞>

・藤原 咲和さん（南平小学校3年）です。

上記の学年は応募時（2018年度）の学年です。

添付画像は応募時のもので、デザイナーによりカラー印刷の絵はがきになります。

⑬ 南丘雑木林を愛する会

○活動目的・活動内容

日野市の雑木林を守るため、市民と行政との協働で開催している「日野市雑木林ボランティア講座」の卒業生を中心に、“明るく健全な雑木林を次世代に”をスローガンに2007年にスタートした雑木林を守るボランティア団体です。

南平丘陵公園を拠点に、雑木林の下草刈り、粗朶(そだ)柵作り、萌芽更新(ほうがこうしん)作業等を中心に活動しています。チェーンソーや刈り払機の使用に際しては、会員を積極的に安全講習会に派遣し、専門的な技術を習得しています。また、イギリスのBTCV(British Trust for Conservation Volunteers)のように、近隣の雑木林や他の団体などに、応援ボランティアを派遣できる成熟した団体を目標に活動しています。

「ボランティアは人のためにやるのではなく、自分のために(目的意識のため)活動するものです。」を合言葉に楽しい汗をかいています。

○会 員 数:28人

○活 動 場 所:南平丘陵公園、近隣の雑木林など

○代 表 者:橋本 幸久

○連 絡 先:事務局 笹木 延吉 TEL:042-642-0422

○活 動 日:毎月第二日曜日、第四木曜日(9:00～15:00)

4. 環境への取組状況

○ 活動実績

実施日	活動内容	場所	参加人数
2018. 4. 8	椎茸の駒打ち 外来種除草／ショカツサイ、植物観察	中央広場 野草園・尾根	16
4. 26	植物観察 除草／カラムシ・ハルジオン・ヤブガラシ	中央広場・尾根 野草園	10
5. 13	平成 30 年度総会（作業はなし）	事務所	21
5. 24	保護柵杭の更新／保護植物・ホドイモエリア	中央広場・北法面	10
6. 10	ツツジ・サツキの刈り込み 午後は雨天により中止	正面入口	6
6. 28	間伐／カシノキなど 11 本	中央広場 南	7
7. 8	愛宕山応援・道路側と西住宅側の下草刈り 除伐・ホオノキ×2 本、アオハダ×1 本	愛宕山 南丘 入口右斜面	12 5
7. 26	椎茸ホダギ本伏せ 下草刈り	中央広場 炭焼小屋上 中央広場東、南斜面	10
8. 2	日野自工高校ボランティア体験サポート（園 路に砂利を敷く）	南尾根／南高側	3
9. 9	倒木処理、除草、アセビとアジサイ剪定 カシノキ剪定	ひょうたん池 野草園 中央広場 事務所下	15
9. 27	雨天中止		－
10. 14	台風被害の公園見廻り サクラ×1 本倒木／北尾根北斜面	公園	8
10. 25	間伐・もやわけ 下草刈り	北尾根 中央広場北／南斜面	9
11. 11	カシノキ剪定	お墓上垣根	14
11. 22	間伐、除伐 クヌギとコナラ 11 本 アラカシの下部の枝伐り	北尾根 南斜面 広場左階段上	9
12. 9	間伐、除伐 クヌギとコナラ 5 本	北尾根 南斜面	12
2019. 1. 13	ロープワーク：ロープの結び方を実習	中央広場	17
1. 24	間伐 シデ×1 本、カシノキ等除伐	南尾根	8
2. 10	間伐、除伐木の見廻り選定	尾根	11
2. 28	雨天中止		－
3. 10	間伐、除伐 クヌギとコナラ 7 本	南尾根／南高側	15
3. 28	間伐、除伐 クヌギとコナラ 4 本	南尾根／南高側	10

⑭ 農の学校

○ 活動目的

農業者の高齢化など担い手不足を補うため、「農の学校」を開校し、農業知識と技術を習得してもらい、援農ができるよう援農ボランティアを育成し農業者を支援していく。

○ 人 数：15人 ※2019年1月より「農の学校」15期生開校

○ 代 表 者：農の学校 校長 日野市長

○ 活動場所：日野市立七ツ塚ファーマーズセンター（日野市新町5-20-1）

○ 連 絡 先：日野市役所都市農業振興課農産係 電話：042-514-8447

○ 情報提供方法・活動実績

・平成 16 年度開校（平成 17 年 1 月より）

※第3次日野市農業振興計画・アクションプラン、第2次日野市農業振興計画・アクションプラン、第2次日野市農業振興計画・後期アクションプラン、第5次日野市基本構想・基本計画に基づく。

< 内容 >

・講座による知識の習得（月 1 回）：農業基礎講座テキスト（野菜の栽培）、農薬の使い方

・圃場（畑）での実習により技術の習得（月 2 回～5 回）：

(1)市民及び市民・行政との協働による環境への取組状況

土づくり、鋤・草かき等の道具の使い方、種まき、除草、間引き、収穫など

※作物（ジャガイモ、トウモロコシ、サツマイモ、スイカ、カボチャ、サトイモ、ヤツガシラ、大豆、ダイコン、カブ、ニンジン、ハクサイ、ホウレンソウ、コマツナ、長ネギ）

○ 参加者募集方法

- ・11月15日、12月1日の広報及びホームページ等で募集予定

※ひのよさこい祭り、産業まつり農業展でPR活動

⑮ 八王子・日野カワセミ会

○ 活動の目的

日野市内及び八王子市内で野鳥を観察する市民団体です。浅川や多摩川で野鳥の観察を通じて自然に接し楽しむこと、及びそのために野鳥が安心して棲める環境を作ることに協力することを目的としています。

○ 活動の内容と取り組み状況

- ・月1回会員及び一般市民を対象に浅川や多摩川で探鳥会を実施
- ・20ヶ所の地域で毎月1回、野鳥の生息数をカウント調査
20ヶ所のうち、日野市内では以下の4ヶ所で実施
浅川(長沼橋～一番橋)、浅川(一番橋～多摩川合流付近)
多摩川(谷地川合流付近)、多摩川(浅川合流付近)
- ・8ヶ所の東京都指定保全緑地地域での野鳥の生息数をカウント調査
8ヶ所のうち、日野市内では、東豊田地区で実施
- ・その他、冬鳥・夏鳥の一斉調査、カルガモ・ツバメ・イワツバメ営巣調査、サシバの渡りなどの調査
- ・小中学生に対する野鳥観察支援、他団体からの野鳥観察依頼に対し野鳥観察の支援
- ・日本各地の野鳥観察地に出向き、地元の関係者との交流を通じた野鳥観察
- ・毎年4月に行われる「浅川クリーンデー」に参加
- ・高尾山ブッポウソウ復活プロジェクト（東京都環境局、事務局高尾地区自然公園管理運営協議会）に参加

○ 設 立 年:1985年設立

○ 会 員 数:228人、会員は随時募集(年会費1000円)

○ 連 絡 先:粕谷 和夫（八王子・日野カワセミ会会長）TEL:090-6125-5769

E-mail :kasuya.kazuo688@gmail.com

○ 情報提供方法:活動の結果の公表

年2回(3月と9月)会報「かわせみ」を発行、日野市内の図書館に寄贈

ホームページで広報 <http://kawasemi.main.jp/>

⑯ 東豊田緑湧会

○ 活動目的・活動内容等

東豊田緑地保全地域の自然環境を荒廃させないため、定期的に手入れを行い、身近な自然を永く保存し、明るい雑木林として維持するために緑地保全等を継続して20年になる。企業の社会貢献活動(グリーンシップアクション)も積極的に受け入れ、2005年度の「水と緑の日野・市民ネットワーク」の設立にも関わり、市の緑環境行政にも精力的に協力している。

○ 主な活動項目

- ・下草刈り、間伐、除伐、古損木処理、剪定、枝打、萌芽更新地管理、実生の移植
- ・特殊植物保護、清掃活動
- ・湧水群・流水路の保全・保護
- ・企業や学校との社会貢献活動の協働
- ・東京都及び日野市との保全計画の協働策定

4. 環境への取組状況

- 人 数：23人
- 活動場所：東豊田緑地保全地域（黒川清流公園、多摩平第1緑地、多摩平第6公園を含む）
- 連絡先：小太刀 智明（E-mail：tweety-satopi@u01.gate01.com）
- 情報提供の方法：東京都ウェブサイト「里山へGO！」・清流ニュース・広報・チラシなど
- 活動実績

実施日	テーマ	目的・対象・内容	参加人数 (延人数)
2018. 4. 7、21	特殊植物保護活動	希少植物の株数記録、生育補助の為に除草盗掘防止のための花摘み	28
2018. 5. 5、19、 7. 7、21 9. 1、15 2019. 1. 19 2. 2、16 3. 2、16	笹刈り・落葉掃き	林床の笹を刈り、落ち葉を掃き、野草の生育を助長する。	108
2018. 5. 16 5. 30	グリーンシップ アクション	企業の社会貢献活動に対応し、保全活動の体験作業を開催。1社2日間	42
2018. 6. 2、16	外来種除去活動	オオバクサやキシノウズなどの外来種を除去する作業。	18
2018. 8. 4、18	湧水の保全・保護	流水路の除草と落葉採り 湧水口の整備	20
2018. 11. 3	草地管理	草地の環境を維持する為の選択除草 外来種・先駆的植物の調整及び除去	9
2018. 12. 15	大規模清掃活動	保全地域全域の不法投棄物回収と巡視 小規模な清掃活動は随時実施	10
2018. 10. 6、20 11. 17 12. 1 2019. 1. 5	倒木処理・剪定	台風による倒木や枯損木を処理し、雑木の再生を助長し健康な樹木を育てる。	49

⑪ 日野産大豆プロジェクト

- 活動目的
「地元で採れた大豆を学校給食で子供たちに食べてほしい」と日野市内の小・中学校の栄養士、調理員、農業者、大学生、市民ボランティアなどが協力して立ち上げたプロジェクトで、2018年度で15年目となりました。収穫された大豆は、市内の全小中学校の学校給食で活用されます。また、大豆の種は小学校の学童農園用の種にも提供され、収穫した大豆は豆腐づくりや味噌づくり等の食農教育に活かされます。なお、11月の日野市産業まつり等で、日野産大豆プロジェクト活動を市民に広くPRしています。
- 人 数：約30人
- 活動場所：東光寺地区
- 連絡先：事務局：日野市役所 都市農業振興課 農産係 TEL：042-514-8447
- 代表者：和田 守男
- 参加募集方法等：市HP、チラシ等
- 活動実績：種まき、除草作業4回、収穫、脱穀、選別、豆腐作り体験

⑫ ひの市民リサイクルショップ回転市場

- 活動目的・活動内容
日野市の支援のもと1992年創立。市民から無償で提供された中古衣類・雑貨品等の販売を通して、「使い捨てのくらしを見直し、①物を大切に使うくらし ②ごみになる物を買わないくらし ③ごみを出さないくらし」に変えていく呼び掛けをし、それに役立つ情報の発信と実践活動をしています。また、安全で環境に負荷の少ない石けん製品の販売もしています。売上金は店の

運営や市民還元イベントなどに活用しています。また、開店当初から買い物袋持参でレジ袋辞退を呼びかけています。

- 人 数:15 人
- 活動場所:万願寺店 多摩平店
- 連絡先:万願寺店 (TEL:042-587-1781)
- 代表者:加納 衣子
- 情報提供・会員募集・イベント参加募集:店頭・広報ひの・ポスター・チラシ
- 活動実績

実施日	内 容	参加人数
2019. 3. 10	「マイクロプラスチックによる海洋汚染について」 講師 農工大教授 高田秀重氏	57

他に「会員学習会」「着物特別販売」を実施。「まちづくり市民フェア」に参加。

⑱ 日野団塊世代広場

- 活動目的・活動内容

「日野団塊世代広場」は、『生きがい、働きがい、地域がい』を持って、健康で生活を楽しみながら地域づくりに貢献することを目的として活動しています。新選組まつり等のイベントのお手伝いやパソコン、太極拳などの教室も開催しています。

活動の一環として2009年から百草山での「明るい雑木林」作りに取り組んでいます。11人で雑木林チームを編成しており、8人は「雑木林ボランティア講座」の修了生です。活動としては、林の手入れ作業を行いながら次のような取り組みを行なっています。

- ・植物の貴重種の確認など現況の調査及び観察会の実施
- ・竹ぼっくりの製作、イベントにて子供たちに配布を行い子供の運動能力向上に資する。
- ・作業後放置していた竹・笹に生ごみ発酵促進剤を使って早期腐葉土化の試み、市民無償配布時に『生ごみを燃えるごみとして出さない』よう呼びかける。
- ・どんぐりクラフトづくりをイベントにて子供たちに実施、工作の楽しさを教える。
- ・産業まつりや市民活動フェアに出展し、日野団塊世代広場の活動のPRや手作り品等の販売

- 人 数:28 人 百草山活動者 延べ 156 人/2018 年度
- 活動場所:京王百草園駅から徒歩5分、百草園の北側に隣接した雑木林主体の緑地
- 活 動 日:第2日曜日、第4土曜日9時～15時
- 連絡先:日野団塊世代広場事務所(日野市平山台健康・市民支援センター内)
TEL:042-843-8723 E-mail:info@dsedai.com
- 情報提供・参加募集方法等:ホームページ <http://www.dsedai.com/>
“日野団塊世代広場”で検索

⑳ ひのどんぐりクラブ（日野市環境学習サポートクラブ）

- 活動目的・活動内容

ひのどんぐりクラブの主な活動は、市内小・中学校の生活科、総合学習、理科など児童・生徒たちの野外での体験学習の付き添いや指導、自然物（木の実や葉っぱ）を使った工作などの学習支援です。

2018年度の学校などへの支援数は101回、支援対象人数は延べ7,071人でした。

- 人 数:20人
- 代表者:有馬 佳代子
- 活動場所:日野市内小・中学校、市内公園・緑地・浅川・多摩川、カワセミハウスなど
- 連絡先:日野市立カワセミハウス内 杉浦 TEL:042-581-1164 FAX:042-581-1164

4. 環境への取組状況

○ 活動実績

№	月日	学校名・団体名	学年	学級・クラブ	生徒数	大人	テーマ	支援参加人数	生徒数・月毎計
1	4月20日	七小	4	3	102		春探し（中央公園）	4	
2	4月25日	七小		科学クラブ	23		野鳥公園の調査	1	125
3	5月10日	旭が丘小	4	1	35		学校林の観察	4	
4	5月10日	三小	3	2	63		生態系保存空間探検	1	
5	5月12日	潤徳小	全学年	水辺の楽校	70	40	浅川で遊ぼう 石絵、竹笛他	5	
6	5月14日	七小	3,4	科学クラブ	23		野鳥公園の調査	5	
7	5月15日	仲田小	4	2	60		多摩川河川敷の植物と虫	4	
8	5月16日	旭が丘小	4	2	68		学校林の観察	4	
9	5月24日	四小	1	4	113		多摩川の観察	5	
10	5月25日	七小	3,4	科学クラブ	20		プールのヤゴ取り	4	
11	5月30日	七小	3,4	科学クラブ	23		ヤゴの放流	6	475
12	6月1日	一小	4	2	56		自然と友達になろう	3	
13	6月4日	三小	4	2	63		谷地川探検事前授業	2	
14	6月5日	南平小	3	3	77		ツバメの学習	4	
15	6月7日	南平小	1	3	81		ペンダント作り	4	
16	6月8日	四小	2	4	121		ガサガサ	7	
17	6月14日	仲田小	4	2	60		多摩川の鳥	4	
18	6月18日	七小	6	3	99		生きもののつながりの事前学習	1	
19	6月25日	七小	3,4	科学クラブ	23		池の水の顕微鏡観察	1	
20	6月26日	三小	4	2	63		第1回谷地川の探検ガサガサ	1	
21	6月27日	南平小	3	3	77		ガサガサ	6	
22	6月28日	三小	ひばり学級		28		ガサガサ事前学習	1	
23	6月29日	南平小	2	3	82		ガサガサ	5	830
24	7月2日	仲田小	4	2	58		ガサガサ	5	
25	7月3日	三小	ひばり学級		28	7	ガサガサ	1	
26	7月4日	南平小	1	3	81		ガサガサ	5	
27	7月6日	滝合小	3	保護者向け		8	川の危険から身を守る	1	
28	7月6日	黒川子供会			40		天体観測	3	
29	7月9日	五小	1,2		127		黒川清流公園 野外学習	5	
30	7月9日	滝合小	3	保護者向け		10	川の危険から身を守る	1	
31	7月10日	平山小	3	3	82		ガサガサ	5	
32	7月17日	五小	1,2		128		黒川清流公園 野外学習	4	544
33	8月12日	黒川子供会		行事担当向け		3	藍染事前打ち合わせ	2	
34	8月19日	黒川子供会		親子で	14	9	藍染	3	
35	8月29日	滝合小	3	2	74	10	ガサガサ事前学習	1	
36	8月30日	南平小	2	3	82		石拾い	7	
37	8月30日	潤徳小	4	3	106		ガサガサ	6	
38	8月30日	七小	6	2	65		生きもののつながり	1	
39	8月31日	七小	6	1	35		生きもののつながり	1	376
40	9月3日	七小	6	1	33		生きもののつながり	1	
41	9月6日	四小	1	4	113		虫取り	5	
42	9月7日	南平小	2	3	82		ストーン・インテイク	5	
43	9月7日	平山小	3	3	80		河原の虫について	1	
44	9月8日	滝合小	3	2	66	21	ガサガサ	1	
45	9月13日	仲田小	3	2	66		虫取り	5	440
46	10月4日	四小	1	4	113		どんぐり拾い	5	
47	10月5日	南平小	1	3	81		葉っぱでスタンプ	6	
48	10月5日	三小	4	2	63	8	谷地川の探検	2	
49	10月9日	東光寺小	1	3	71		葉っぱでスタンプ	6	
50	10月9日	三小	ひばり学級		28	5	谷地川の探検	3	
51	10月9日	三小	4	2	63		第2回谷地川の探検の振り返り	1	
52	10月10日	八小	1	4	111		葉っぱでスタンプ	6	
53	10月11日	夢小	4~6	理科工作クラブ	26		しの竹の紙鉄砲	3	
54	10月11日	三小	4	2	63		谷地川周辺の環境	1	
55	10月12日	平山小	3	3	80		バッタ捕り	5	
56	10月13日	三小	全校		40	15	観察池のかいぼり	1	
57	10月15日	仲田小	3	2	66		ガサガサ	4	
58	10月16日	三小	4	2	63		立体風地図作り	4	
59	10月17日	五小	2	4	121		紙飛行機	7	
60	10月18日	六小	1	4	108		自然観察	5	
61	10月19日	四小	1	4	113		剣玉、壁掛け	6	
62	10月19日	七小	2	4	109		川と魚取り（座学）	1	

(1)市民及び市民・行政との協働による環境への取組状況

63	10月20日	七小	4		40	20	月の観測	1	
64	10月21日	潤徳小	2	4	135		葉っぱでスタンプ	5	
65	10月23日	三小	4	1	32		立体風地図作り	4	
66	10月25日	四小	2	4	121		虫取り、どんぐり拾い	4	
67	10月26日	東光寺小	1	3	71		どんぐり拾い	5	
68	10月30日	三小	4	1	31		立体風地図作り	4	
69	10月30日	三小	1	2	60		葉っぱでスタンプ	6	
70	10月31日	三小	4	2	63		第3回振り返り「谷地川の由来」	1	1872
71	11月2日	一中	1		12		郷土学習	1	
72	11月6日	六小	1	4	108		壁掛け	5	
73	11月8日	四小	3	4	121		多摩川の植物	4	
74	11月12日	南平小	2	3	82		松ポックリツリー、どんぐりコマ	6	
75	11月16日	多摩平児童館	親子で		15	15	ペンダント作り	4	
76	11月20日	四小	2	4	121		イボルのリース作り	7	
77	11月22日	八小	2	4	126		松ポックリツリー	5	
78	11月27日	三小	1	2	60		松ポックリツリー	7	
79	11月29日	夢小	4～6	理科工作クラブ	26		紙飛行機	4	
80	11月30日	滝合小	1	2	56		イボルのリース作り	4	727
81	12月7日	南平小	1	3	81		松ポックリツリー	7	
82	12月9日	七小	児童・生徒・保護者	科学クラブ	17	12	野鳥公園、池の掃除と観察	1	
83	12月11日	東光寺小	2	2	52		松ポックリツリー	4	
84	12月12日	六小	1	4	108		アサガオつるでリース作り	7	
85	12月14日	六小	2	4	125		松ポックリツリー	8	
86	12月15日	七小	5、6	親子で	30	10	月の観測	3	
87	12月17日	南平小	4	3	83		しめ縄作り	6	
88	12月18日	東光寺小	1	3	71		アサガオつるでリース作り	6	567
89	1月16日	夢小	1	2	47		アスパラの竹トンボ	6	
90	1月17日	夢小	4～6	理科工作クラブ	25		連ダコ作り	4	
91	1月18日	南平小	1	3	81		連ダコ作り	6	
92	1月25日	七小	2	4	109		連ダコ作り	8	
93	1月26日	四小	2	4	121		松ポックリ剣玉	5	
94	1月26日	七小	2	4	109		連ダコ揚げ	1	
95	1月29日	南平小	2	3	82		アスパラの竹トンボ	8	574
96	2月14日	東光寺小	2	2	52		冬芽の観察	4	
97	2月15日	八小	2	4	126		アスパラの竹トンボ	6	
98	2月18日	八小	1	4	111		連ダコ作り	7	
99	2月18日	八小	1	2	55		連ダコ揚げ	1	
100	2月21日	五小	1	4	134		松ポックリ剣玉	6	478
101	3月13日	三小	4	2	63		旧谷地川・多摩川探検	3	63
生徒・大人の延べ人数					7071	193	支援延べ人数	401	

㊦ 日野の自然を守る会

○ 活動目的・活動内容

本会は、日野の自然を守り、市民の間に自然尊重の心を養い、その保全と復元に努力し、人間性豊かな社会の発展に寄与することを目的とする。(会則第三条 目的)

活動内容としては、本会の目的を達成するため、日野の自然を守る市民運動、調査・研究、自然保護に関する啓蒙普及、自然観察会・研究会等の実施、会誌その他出版物の発行その他本会の目的達成に必要な事業を行う。(会則第四条 事業)

○ 会員数：152名（2019年3月末）

○ 代表者：山本 浩

○ 活動場所：主に日野市内を中心に、隣接する市や近県

○ 連絡先：事務局 〒191-0062 日野市多摩平3-12-2（江面方） TEL042-583-6808

mail:mamorukai.info@hinonoshizen.sakura.ne.jp

○ 情報提供：会誌 日野の自然（月刊）

当会ホームページ <http://hinonosizen.sakura.ne.jp>

4. 環境への取組状況

○活動実績

実施日	行事名	参加人数	備考
2018. 4. 1	楽しい昆虫ウォッチング「早春の蝶・スギタニルリシジミと蝶の幼虫探し」	22	
4. 14	楽しい昆虫ウォッチング「平山城址公園でサクラの花見と春の昆虫を探す」	23	
4. 22	植物ウォッチング「新緑の野山北・六道山公園」	19	
5. 3	より鳥みどり観察会「新緑の雑木林で渡り途中の夏鳥を探す」	17	
5. 6	楽しい昆虫ウォッチング「ハルゼミの鳴き声と塩船観音のツツジを見る」	12	
5. 13	地球の窓シリーズ「日野の台地の生いたちをさぐる No. 4」	10	
5. 27	植物ウォッチング「ミズタガラシ咲く金山調整池」	20	
6. 10	植物ウォッチング「狭山丘陵の湿性植物ーさいたま緑の森博物館」	6	
6. 17	より鳥みどり観察会 70「ツバメと浅川の夏鳥」	29	
6. 24	楽しい昆虫ウォッチング 8「昆虫生態園と雑木林のゼフィルスを観る」	14	
7. 8	植物ウォッチング「緑豊かな都立小峰公園から広徳寺」	14	
7. 21～22	楽しい宿泊昆虫ウォッチング「八ヶ岳高原の昆虫を観る」	11	
7. 28	八王子の公園緑地を訪ねる「大塚探検ウォーキング」		雨天中止
8. 4	親子観察会「程久保川の生き物を探そう」	6	
8. 7	植物ウォッチング「バアソフ咲く東光寺緑地」	9	
8. 13	観察会「大木島自然公園で自然観察とアイの生葉染め」	9	
8. 18	楽しい昆虫ウォッチング「夏の夜の林の昆虫たち」	9	
8. 22	楽しい昆虫ウォッチング「昆活しようぜ！驚異の大昆虫展を見る」	6	
9. 9	植物ウォッチング「初秋の横沢入を歩く」	18	
9. 16	楽しい昆虫ウォッチング 12「秋の夜長にマツムシ、スズメシ、カンタンを聴く」	10	
9. 30	より鳥みどり観察会「城山鳥見ハイ&日影沢の秋の花」		雨天中止
10. 6～7	宿泊ハイキング「八ヶ岳高原の自然」	15	
10. 21	楽しい昆虫ウォッチング「河川敷の秋の蝶と幼虫探し」	12	
10. 28	植物ウォッチング「多摩川で河原植物を観よう」	15	
11. 4	地球の窓シリーズ 16「日野の台地の生いたちをさぐる No. 5」	12	
11. 11	植物ウォッチング「平山城址公園から谷戸で秋の植物を観る」	17	
11. 18	より鳥みどり観察会「秋の浅川の身近な野鳥たち」	31	
11. 23	中央線沿線ウォッチング「上野原駅・不老山」	21	
12. 2	より鳥みどり観察会「ハートウォーキング 2018」	36	
12. 6	植物ウォッチング「白山神社から絹の道を歩く」		雨天中止
12. 8	八王子市の公園緑地を訪ねる「松が谷探検ウォーキング」	11	
12. 24	中央線沿線ウォッチング「十日市場駅・楽山」	10	
2019. 1. 13	植物ウォッチング「東程久保から郷土資料館」	20	
1. 20	より鳥みどり観察会「黒川公園ニューイヤーカウント 2019」	44	
1. 26	中央線ウォッチング「藤野駅・甲州街道を歩く No. 1」	17	
2. 17	より鳥みどり観察会 75「多摩丘陵の冬の野鳥と生き物たちの冬越し」	52	
2. 24	ハイキング中央線沿線ウォッチング「橋本駅・津久井城山」	18	
3. 17	より鳥みどり観察会「多摩川・浅川合流点付近：渡り前の冬鳥達と河原の春」	35	
3. 24	植物ウォッチング「東光寺緑地で早春の植物に出会う」	27	
3. 30	ハイキング奥武蔵ウォッチング「寄居駅・鉢形城跡」	8	
3. 31	楽しい昆虫ウォッチング「春の蝶とウスバシロチョウの幼虫探し」	26	
	参加者小計	699	
特別行事			
2018. 5. 12	第 47 回定期総会	16	
10. 6	カワセミハウスオクトーバーフェスタ 2018	6	
2019. 1. 6	新春自然へのお誘い	31	
	参加者小計	53	
	参加者合計	752	
その他			
毎月 2 回	大木島自然公園管理作業	参加者小計 205	
		述べ参加人数合計 957	

㉒ 日野の水車活用プロジェクト

○ 活動目的・活動内容

プロジェクトの活動目的は、水車が回る環境を活用して市民が共通の話題で集うコミュニティの場として、また、子供たちの環境学習に日野の歴史と用水の大切さを学ぶ場としての出前授業、そして、近き将来は再生可能エネルギーの一つである小水力発電の可能性を追究すること。その他市外の関係団体との交流と学習をする。

○ 人 数 :40人

○ 活動場所:水車小屋、市内会議室

○ 代 表 者:多田 啓介 TEL:090-2904-6140

○ 事 務 局:児山 由美子 TEL:090-3801-3041

○ 情報提供:facebook日野の水車活用プロジェクト、リーフレット、会報等

○ 活動実績

実施日	テーマ	内 容	参加人数
2018. 7. 1	市立第一小学校に水車の設置	市民ホール開設時使用の水車を引き取り、破損した水車を撤去しその水車を設置した。	3
9. 2	羽村市中車水車小屋の見学	水車が新造されたが稲の収穫時期で水が流れず水車回らず。昼食を兼ねて定例会	7
10. 1	まちづくり市民フェアに参加出展	当会として6回目の参加、水車の模型・手回し発電機や活動紹介のパネルを展示	75
10. 6	カワセミハウス第2回オクトーバーフェスに出展参加	水車の模型・手回し発電機や活動紹介のパネルを展示、大型モニターを借りて水車の動画を上映	25
10. 8	カワセミハウス協議会環境分科会主催環境パネル展にパネル展示	10月8日～14日まで会の紹介と活動状況のパネルを展示	35
11. 30	潤徳小学校の学習支援	5年生4クラス120名に対し向島の水車小屋で精米の様子や体験及び日野用水開削450周年の説明などをする。	132
2019. 2. 16	日野市環境フェアに参加出展	イオンモール多摩平の森で「日野市小水力発電を実現する会」のブースに共同出展。模型の水車と発電機を展示	45

㉓ 日野みどりの推進委員会

○ 活動目的・活動内容

東京都が緑地保全活動の目的で1974年に「緑の監視員」制度を設立し、後に「みどりの推進委員」に名称変更して2003年度まで存続しましたが、都の組織改革に伴い廃止になりました。その後、日野地区会はボランティア団体として名称を「日野みどりの推進委員会」に変更して活動を続けてきました。南平丘陵公園を中心とした自然観察会を毎月実施し、観察会を通して「緑地の保護・保全の必要性」を参加者にアピールし、「保全作業へのボランティア参加・協力」を呼びかけています。

・自然観察会:毎月(原則第4土曜(8月を除く年11回))市と共催して実施。観察会を通して緑地保全がいかに大切かを市民に紹介している。

・その他:市の行事等への協力

○ 人 数:11人

○ 活動場所:南平丘陵公園ほか市内及び近隣市外緑地

代 表 者:会 長 杉浦 忠機

連 絡 先:事務局 日野市緑と清流課 TEL:042-514-8307

4. 環境への取組状況

○ 参加応募方法

毎月の自然観察会への参加応募は市の広報紙「広報ひの」で毎月案内します。マスコミにも連絡して広く案内されるよう努力しています。

○ 活動実績（定例観察会）

実施日	講師	テーマ	目的・対象・内容	参加人数
2018. 4. 28		晩春の野草を観察しよう	平山城址公園から東京薬科大学まで	42
5. 26	菱山	緑の風に吹かれて多摩丘陵の雑木林を散策しよう	程久保の散策路から都立七生公園まで	29
6. 23		南平丘陵公園にてキノコの観察をしよう	南平丘陵公園	16
7. 20	川那部	夜の雑木林を探索しよう	南平丘陵公園	9
9. 22		初秋の雑木林を観察しよう	多摩動物公園駅から日野第3中学校の裏を通り、湯沢福祉センター方面へ	中止
10. 27	筒井	都立長沼公園で雑木林を散策しよう	都立長沼公園	9
11. 24		赤や黄色に色づいた雑木林を訪ねよう	南平丘陵公園からかたらいの路を通り、高幡不動尊まで	16
12. 1	石坂亜紀	クリスマスリースやお正月に使えるしめ縄を作ろう	日野市立カワセミハウス	54
2018. 2. 23		黒川清流公園を散策しながら植物観察をしよう	黒川清流公園	23
3. 23		日野に咲くカタクリを観察しよう	日野駅付近から東光寺まで	28
			参加者数合計	226

②④ ひの緑のトラスト

○ 活動目的・活動内容

日野市の百草地区には、地元の方々の努力などで、市内で唯一、貴重な里山の景観が残されています。日野市ではこの地区に相続があった場合、雑木林相続面積の1/2 を寄付、残りの1/2は国に物納し、何年か後に市が買収するという方法を相続人のご好意で実施し、多くの雑木林を保存してきました。

しかしながら、市は財政危機に直面し、何年か前に物納された百草の真堂が谷戸の雑木林(3,509㎡)を国から買い取ることを中止しました。

この土地は、クスギ、コナラなどの雑木林で、湧水が流れ、日野市ではわずかに残るホタルが生息しており、エビネの群落などの貴重植物も自生しています。また、歴史的遺物も多く出土している貴重な場所です。

この貴重な雑木林を公有化して保全を進めることを強く願う緑関連の市民団体が協議し、2009年12月に「ひの緑のトラスト」を設立しました。取得資金の一助となるよう「募金」へのご協力を市民の皆さまに呼びかけてきました。

この活動等が市を動かし、2018年度には真堂が谷戸の雑木林（新葉山緑地）が公有地化されましたが、今後も市内の緑地保全のための活動を続けていきます。

○ 構成団体

倉沢里山を愛する会、真堂が谷戸蛸の会、南丘雑木林を愛する会、東豊田緑湧会、日野市環境基本計画推進会議 みどりグループ、日野の自然を守る会、百草山の自然と文化財を守る会、緑地管理ボランティアの会、市民環境大学OB会、谷仲山緑地を守る会

(1)市民及び市民・行政との協働による環境への取組状況

- 代 表 者:会長 笹木延吉
連 絡 先:ひの緑のトラスト事務局 日野市立カワセミハウス TEL:042-581-1164
- 情報提供・参加募集方法:広報ひの、緑のトラストパンフレット
カワセミハウスホームページ:<http://kankyo-hino.com/>

㊥ ひの・まちの生ごみを考える会

○活動目的・活動内容等

当会は、生ごみの減量と堆肥化を広めるため、2002年5月に発足。実践活動は下記の2つの下部組織が行っています。当会独自の活動としては、毎月1回定例会を開き、毎回ごみゼロ推進課の職員も出席して、各団体の活動についての情報共有や協議を行う一方、講演会やごみ情報誌『エコー』の「市民のページ」などによって市民への啓発を行っています。

＜まちの生ごみ活かし隊の活動＞（詳細は次項参照）

生ごみの地域内循環を目指して2006年5月に発足。2008年10月に新井にコミュニティガーデン「せせらぎ農園」を開設。約200世帯から生ごみを回収して畑に直接すき込み、土ごと発酵させて、野菜や草花を栽培しています。

＜生ごみリサイクルサポーター連絡会の活動＞

2009年3月に発足。2011年9月に生ごみを手軽に堆肥化できる「ダンボールコンポスト」（基材は竹パウダー）を発売。使い方講習会の開催、各種イベントでの展示・説明・チラシ配布、市の広報・ホームページなどを通じて普及活動を行っています。

○人数：9名＋日野市ごみゼロ推進課職員

○活動場所：ひの市民活動支援センター（多摩モノレール甲州街道駅より徒歩3分）

○連絡先：佐藤 美千代（代表者）電話042-594-0745 ごみゼロ推進課（電話042-581-0444）も可

○参加募集：常時募集

○情報提供方法：ごみ情報誌『エコー』の「市民のページ」、『生ごみ菌ちゃん通信』等。

○活動実績（「まちの生ごみ活かし隊」の分は次項参照）

実施日	テーマ	目的・内容	参加者数
毎月 第4金曜日	定例会議	活動報告と活動計画の検討	毎回 10名前後
2018. 5. 26	リサイクルフェア参加	ダンボールコンポストPR・申込受付	30
6. 30	万願寺交流センターまつり参加	〃	30
8. 24	エコ・クッキング講座開催	親子へのエコ・クッキングの啓発	26
10. 21	まちづくり市民フェア	ダンボールコンポストPR・申込受付	30
11. 10-11	産業まつり	〃	60
12. 7	エコ・クッキング講座開催	エコ・クッキングの啓発	11
2019. 3. 23	講演会開催	講師：明星大学教授宮脇健太郎氏 「ごみを減らさなければどうなる？」	26
本年度6回	ダンボールコンポスト講習会開催	実物による使い方の説明	25

㊦ まちの生ごみ活かし隊

○ 活動目的・活動内容

日野第八小学校区約170世帯の生ごみを回収してコミュニティガーデン「せせらぎ農園」で堆肥化し、野菜や花を育てることで年間約30トン以上の生ごみを減量しています。農体験を通じた食育や環境教育も行っており、年間延べ5000人が訪れる生ごみリサイクル情報発信の場となっています。幼稚園などにも出張して生ごみを使用した菌ちゃん野菜作りをサポートし、畑とお腹（腸）の微生物の働きを関連づけた食育活動を推進しています。

4. 環境への取組状況

2015 年度より田んぼの復活。2016 年度からは、中央大学生のバスツアー受け入れ、C-Plant（子ども食堂を企画する大学生の団体）への協力、東京イナゴンピック開催、を継続して行っています。2018 年度からは「環境教育チーム」を立ち上げ、農園を子どもたちの環境教育の場として活用してもらうことにより一層力をいれています。

- 人 数：農園登録メンバー：174 人・生ごみ回収参加者会員：167 世帯
- 活動場所：「せせらぎ農園」 連絡先：佐藤 美千代（TEL：080-8891-4930）
- 情報提供方法：ホームページ <http://ikasitai/info/>
ブログ <http://ikasitai.at.webry.info/>
- 活動実績

	定例作業		来訪者	せせらぎ農園で行ったイベント	農園以外でのイベント
	活動日	参加者			
4 月	30	221	162	*天ぶらパーティ *八小農業クラブ	*落川交流センター炊き出し市民マルシェ
5 月	21	203	504	*田んぼの取水開始 *八小農業クラブ *麦刈り *C-Plant とバーベキュー *カレーパーティ *みさわ保育園・児童館・第五幼稚園とサツマイモ定植 *みさわ保育園・児童館・第五幼稚園・京王キッズ・たちばな学級と田んぼ代掻き	*「万願寺交流センター」菌ちゃん土づくり *「生活保険センター花壇」菌ちゃん土づくり *落川交流センター炊き出し市民マルシェ *中大にて授業
6 月	16	196	331	*小麦脱穀 *玉ねぎ収穫 *第五幼稚園じゃがいも掘り *中大生バスツアー *みさわ保育園・児童館・京王キッズ・たちばな学級と田植え *じゃがいも収穫祭 *生ごみ参加者とご近所にじゃが玉セット配布	*生ごみ交流集会 in 多摩 *落川交流センター炊き出し市民マルシェ *万願寺交流センターまつり *ねんも公園除草
7 月	16	179	90	*中大生実習受入れ *シソジュース作り *保育園用務の先生向けプランターで菌ちゃん野菜づくり研修 *ラベンダースティック作り *京王キッズ・たちばな学級・みさわ保育園・児童館	*豊田第四自治会お祭り *落川交流センター炊き出し市民マルシェ *万願寺交流センター祭り
8 月	12	143	28	*ブドウ狩り	*ねんも公園清掃 *親子エコクッキング講座 *浅川リバーハウスにてバーベキュー
9 月	16	116	264	*第五幼稚園・京王キッズ大根種まき *八小 5 年生総合学習受け入れ *第 3 回東京イナゴンピック *八小農業クラブ	*八小で総合学習授業 *落川交流センター炊き出し市民マルシェ
10 月	18	196	441	*たちばな学級と稲刈り *八小農業クラブ *ポップコーン作り・ピザ作り・ホーリーバジルティーバック作り *米ぬかボカシ作り・くん製作り *みさわ保育園・児童館とさつまいも収穫祭	*まちづくり市民フェア *ウォーキングフェスティバル
11 月	23	169	374	*カワセミハウス環境セミナー*もみすり・黒大豆脱穀 *小麦の種まき・餅米精米 *南新井自治会里芋収穫祭 *第五幼稚園さつまいも掘り・大根ひき	*ごみゼロ収穫祭
12 月	14	145	109	*わらすき・わら打ち *しめ飾りづくり *望年会 *八小農業クラブ 草たい肥作り	*落川交流センター炊き出し市民マルシェ *エコクッキング講座
1 月	12	129	197	*七草摘みと粥作り *みさわ保育園・京王キッズ麦踏み *大豆選別・脱穀 *八小農業クラブ	*八小たちばな学級で菌ちゃん野菜づくり指導 *落川交流センターもちつき大会 *落川交流センターにてハーブ水作り *七草がき作り
2 月	10	104	128	*苗床作り・落葉堆肥作り *京王キッズ 野鳥観察 *八小農業クラブ・京王キッズ きな粉ひき *くん製作り*じゃがいも畑準備	*生活者ネットおしゃべりカフェ *落川交流センター小屋づくり
3 月	12	140	125	*第五幼稚園・みさわ保育園・京王キッズじゃがいも植付け *落ち葉堆肥作り	*しがらみ柵で用水路補修*落川交流センター炊き出し市民マルシェ*味噌づくり
合計	200 日	1,941	2,753		
総計			4,694 人		

㉗ ふだん着でCO₂をへらそう事業

○ 活動目的

ふだん着でCO₂をへらそう事業は、二酸化炭素（CO₂）を削減し、次世代へふるさとひのを引き継ぐと、市民、関係団体、企業、市による「ふだん着でCO₂をへらそう実行委員会」を立ち上げ、平成20年度から全国に先駆けて開始した。

市民や事業所の方々に、ふだんの生活の中で無理なくできる省エネ活動に取り組むことを啓発することで、省エネ行動を全市的な取り組みとし、日野市から排出されるCO₂を削減する事を目的とし、また、省エネ行動に向け、市民や事業所の方々に省エネ行動を宣言するという形で意思表示をしていただいている。

本事業開始時(2008年度)の宣言目標数は一般世帯35,000世帯、事業所2,500事業所であったが、これまでに目標数を大きく超える46,160世帯、2,559事業所からの宣言が集まっている。(2019年3月末現在) 今後も引き続き普及啓発を行うことで、省エネ行動の定着を図っていく。

○2018年度の主な活動内容

・事業のPR活動

市内及び各地で開催されたイベント等に参加し、日野市・ふだん着事業のPRを行った。

・子ども関連施設での環境学習（小学校2校：264名、幼稚園・保育園27園：2,123名）

・自治会等地域への環境普及啓発（省エネセミナー）

・日野市環境フェアの開催

省エネ取組発表会、省エネ啓発ショー、環境かるた2の標語発表及び表彰等
東京都環境公社や市民による小水力発電を実現する会などの協力により実施。

・日野市環境かるた事業

地球温暖化を防止するため、私たちの暮らし方を見直し、地球温暖化の原因とされているCO₂の排出量を少しでも抑えようとの思いで、2015年度に作成した環境かるたを用いて環境かるた大会（これまでのペア戦に加え、チーム戦を実施）を開催した。
2018年度に決定した標語を使い、2019年度には、新たに「環境かるた2」を作成する。



エコアラ・エコクマ

㉘ FFATOKYO（フライ・フィッシャーズ・アグリー東京）

○活動目的・内容

フライ・フィッシングの普及活動を通して、環境保全活動（浅川・多摩川流域）の清掃活動や、多摩川支流の河川へのヤマメ・イワナの産卵放流などの活動を行っている。

会の活動は定例講座 毎月6回のフライ・キャスティング講座・フライ・タイイング講座をカワセミハウスと浅川ふれあい橋で行っている。実釣り講座（自然溪流での釣りと水生昆虫の学習）マンツーマンによるフライ・フィッシングセミナーをリクエストで開催。合宿、遠征などの活動とともに、日野市主催の事業への参加を行なっている

○人数 正会員 26名 賛助会員 18名 支部 岡山（FFA岡山）24名 北海道（FFANOTH）17名
FFI（フライ・フィッシャーズ・インターナショナルUS）

○活動場所（日野市立カワセミハウスを拠点）

キャスティング講座 第二・第四 土曜日 13:00～16:00 浅川ふれあい橋下

タイイング講座（スタディ教室） 第一・第三 木曜日 18:00～21:00

4. 環境への取組状況

土曜日 13:00～16:00

日野市立カワセミハウス 日野市民活動支援センター

オープン講座 豊田南公園用地 浅川（平山橋～新井橋下流）・一般河川

その他活動

2016年8月から毎年 日野市主催 浅川アユまつり キャスティング教室・ブース展示
マグネット魚釣り を開催

2018年 浅川落ちアユ教室 かバリ釣り体験

2017年10月 オクトーバーフェスト（カワセミハウス主催）に展示・出展

2017年8月より、タイピング教室はカワセミハウスに拠点を移動し、より環境に適した情報の共有を図る目的と参加者の利便性を考慮している。

2018年8月 カワセミハウス協議会環境分科会 浅川ネイチャースタディ 実施団体

○代表者 高橋 静夫 専属講師 3名 非常勤講師 3名 （有資格者）

○連絡先 メール ffatokyoagree@gmail.com 電話 080-6572-6298 （高橋）

○参加の方法 メールまたは、電話にて活動日を確認し参加。（消耗品費用 1回 500円）

初心者には道具の貸し出し品があります。

○活動実績（2018年度）

月	内 容	人数
4月	定例講座（木・土）タイピング 14 キャスティング 12 実釣り講座 2回（山梨・桂川忍野） 19 総会 15	60
5月	定例講座（木・土）タイピング 16 キャスティング 18 合宿講座 1回（山梨・桂川忍野） 18 うらたんざわ溪流釣り場実釣 8	60
6月	定例講座（木・土）タイピング 22 キャスティング 16 うらたんざわ溪流釣り場実釣 12 遠征 奥日光湯川・湯の湖 6	58
7月	定例講座（木・土）タイピング 25 キャスティング 28 実釣り講座 3回（山梨・桂川忍野） 27 うらたんざわ溪流釣り場実釣 9	80
8月	定例講座（木・土）タイピング 25 キャスティング 25 浅川あゆまつり スタッフ 31 キャスティング体験 86 マグネットおさかな釣り 301 タイピング体験 8 浅川ネイチャースタディ スタッフ 10 参加 12 準備参加 76（あゆまつり・浅川ネイチャー含む）	574
9月	定例講座（木・土）タイピング 31 キャスティング 26 フィッシング・セミナー（うらたんざわ） 6 遠征 奥日光湯川・湯の湖 6 実釣り講座（山梨・桂川忍野） 12 実釣り講座（うらたんざわ） 8	83
10月	定例講座（木・土）タイピング 23 キャスティング 20 オクトーバーフェスト マグネット魚釣り 56 タイピング体験 12 日野市 落ちあゆ教室 蚊ばり釣り体験 24 実釣り講座（うらたんざわ） 9	144
11月	定例講座（木・土）タイピング 24 キャスティング 18 実釣り講座（うらたんざわ） 2回 21 発眼卵放流 3箇所 36	99
12月	定例講座（木・土）タイピング 24 キャスティング 26 ワックス制作 14 実釣り講座（うらたんざわ） 2回 19（納竿会含む） フィッシング・セミナー 6 忘年会（カワセミハウス） 18	107
1月	定例講座（木・土）タイピング 18 キャスティング 12 ワックス制作 18 実釣り講座（うらたんざわ） 2回 26（初釣り会含む） フィッシング・セミナー 8	82
2月	定例講座（木・土）タイピング 26 キャスティング 29 ハンドクラフト展（普及活動） ワックス配布 8（来客 1,230名） フィッシング・セミナー 4回 19	82 来客 (1,230名)
3月	定例講座（木・土）タイピング 23 キャスティング 36 フィッシング・セミナー 3回 14 実釣り講座 2回（山梨・桂川忍野） 3回 26	99

②⑨ 程久保川を考える会

○ 活動目的・活動内容

水源から浅川との合流まで日野市内で終結する程久保川を身近な川として親しんでほしく、まず汚れていた川を何とかしたいということで始めました。どれだけ汚れているかを知る為の水質検査、そしてごみ拾いを行なっています。

○ 人 数:8人

○ 活動場所:程久保川

○ 連絡先:日野市三沢 850-4-201「程久保川を考える会」藤村

○ 情報提供方法:クリーンデーは日野市の広報に出しています。

○ 活動実績

実施日	テーマ	目的・対象・内容	参加人数
5月・10月	クリーンデー	年2回ですが、川の中に下りてのごみ拾いです。	ボランティア 40～60
毎月(第2か第3) 水曜日	水質検査	どれだけ汚れているか、人が入って大丈夫かが気になり、5ヶ所を検査。	会員 4

③⑩ まちづくり市民フェア2018

○ 活動目的

日野市内の市民活動団体が協働し合い、消費者市民社会構築の視点を入れつつ、市民の主導によるより良いまちづくりへの参加を呼びかけるイベントとして開催。

○ 参加団体数:75団体

○ 活動場所:日野市市民の森ふれあいホール

○ 連絡先:TEL:042-581-6144(市民フェア実行委員会事務局 ひの市民活動支援センター内)

○ 情報提供方法:パネル展示、講演会

○ 活動実績

実施日	目的・対象・内容	参加人数
2018. 10. 21	・環境に配慮した防災紙食器の利用 ・マイ箸・マイ食器持参推奨 ・市民による環境保全への取り組み発表、環境に配慮した物販などのブース設置 ・来場者に環境クイズを答えていただく市民啓発を実施	1,900

③⑪ みずとくらす・ひの

○ 活動目的・活動内容

2013年度にスタートした「水辺のある風景日野50選プロジェクト」は、市民、行政職員、法政大学エコ地域デザイン研究所メンバーによるワーキンググループにより水辺の選定などを行いました。2014年度は市内小、中学校や選定された場所の所有者や関係者への選定書の配布などを行いました。2015年度は選定された水辺への標識設置プロジェクトを行なっています。2015年にワーキンググループは市民団体「みずとくらす・ひの」として再スタートし、行政などと連携しながら水辺を後世に残すための活動を行なっています。2017年度より、水辺のある風景日野50選のガイドツアーを実施しています。

○ 人数:25人

○ 活動場所:主に日野市内

○ 代表者:井上 博司

○ 連絡先:090-3480-9981(三村)

4. 環境への取組状況

○ 情報提供:web Facebook -水辺のある風景 日野50選-

○活動実績

10月6日(土) カワセミハウス オクトーバーフェスト 出展

パネル展示、用水マップ販売

13時30分から、立体模型を使用したワークショップ

・日野の自然資源である豊富な湧水・用水の位置を立体模型上で捉え、語り合う。

紹介ポイント:黒川清流公園、トヨタビールに関連した山口家周辺の水路、向島用水親水路(水車小屋)

10月8日(月)～14日(日) 「カワセミハウス環境パネル展」展示

(水辺のある風景日野50選ガイドツアー)

4月7日(土) 9時 平山城址公園駅集合 コース:京王線平山城址公園駅～No.30 平山用水取水堰～No.31 大福寺下公園～出口公園～No.32 平山用水ふれあい水辺～南平用水～No.34 自噴井のある家～南平駅 参加者34名

6月2日(土) 9時 百草園駅集合 百草園駅～No.44 小沢緑地～No.49 倉沢の田んぼのある風景～No.47 真堂が谷戸～六地藏～切通～百草園駅 参加者28名

7月7日(土) 9時 多摩動物園前集合 多摩動物公園駅～旧道～旧多摩TEC～No.50 程久保川源流～多摩動物園～程久保川遊歩道～高幡不動駅 参加者28名

10月13日(土) 9時 東豊田公園集合 コース:東豊田公園～No.20 こだわりの橋の架かる水路～No.21 東豊田の田んぼと水路のある風景～黒川水路と合流～上田用水に合流～No.23 上田用水～絵図に描かれた用水～根川に合流～モノレール万願寺駅で、解散。参加者24名

11月10日(土) 9時 南平駅 集合 コース:南平駅～一番橋～No.27 浅川一日野の座標軸～No.23 上田用水～No.24 新井用水親水路～大木島自然公園～土方歳三記念館～みなみほり遊歩道～とうかん森～モノレール万願寺駅で解散 参加者19名

12月1日(土) 9時 平山城址公園駅集合 コース:平山城址公園駅～平山橋～No.13 豊田用水取水口～No.14 豊田用水上流～No.15 ハケ下の別荘～No.16 八幡神社下湧水～No.17 カワドのある家～No.18 用水沿いの黒堀の家～番外⑦東豊田公園～No.19 清水堀と旧道のまち並み～ランドアバウト～豊田駅で、解散。参加者19名

2月2日(土) 9時 モノレール甲州街道駅集合 コース: 甲州街道駅～一里塚～根川～No.25 根川下流-桜の名所～No.26 多摩川・浅川合流点～新井橋で、解散。参加者24名

3月2日(土) 9時 日野駅交番前集合 コース: 日野駅4番バス乗り場～路線バス宇津木台行乗車～平町下車～No.1 平堰一日野用水の源～石川堰～お茶屋の松～たくあん工場跡～No.4 上堰の田んぼと水路のある風景～東光寺東地区センター～No.5 よそう森公園～姫宮権現社～日野駅で解散。参加者24名

③水と緑の日野・市民ネットワーク

○ 活動目的・活動内容

緑や水の保全・育成等を行っている市民団体等が情報を共有し、「団体相互が緩やかに有機的に連携・協力することにより、日野市の水と緑を守り、育て、次世代へ引き継いでいく」ことを目的として、様々な実践活動を推進していく協力体です。環境保全に携わる人材育成事業として雑木林ボランティア講座を2005年度から、地球環境を正しく知ることを通して、地球規模の環境をみんなで考えていく「市民環境大学」を2009年度から開講しました。

○ 参加団体:13団体(浅川流域市民フォーラム、浅川潤徳水辺の楽校推進協議会、南丘雑木林を愛する会、東豊田緑湧会、日野の自然を守る会、日野みどりの推進委員会、百草山の自然と文化を守る会、真堂が谷戸の会、ひの炭やきクラブ、日野団塊世代広場、市民環境大学OB会、谷仲山緑地を守る会、小水力発電を実現する市民の会)

○ 活動場所:日野市内

○ 代表者:会長 飯島 利三

(1)市民及び市民・行政との協働による環境への取組状況

○ 連絡先:事務局 日野市緑と清流課 TEL: 042-514-8307

日野市立カワセミハウス TEL:042-581-1164

○ 活動実績

雑木林ボランティア講座

実施日	テーマ	目的・対象・内容	参加人数
2018. 5. 19	講座 1. 開講式・講義 オリエンテーション	日野の自然環境、植物 講座概要、OT 講師:日野市緑と清流課職員2名 講師:杉浦 忠機氏(日野の自然を守る会)	19
6. 9	講座 2. 視察	市内の緑地めぐり	18
7. 14	講座 3. 講義・実習	雑木林の保全と管理・活用方法、安全対策 講師:松井一郎氏 (NPO法人森づくりフォーラム)	17
8. 18	講座 4. 実習	道具の正しい使い方(鎌、鋸、剪定鋏 他) 講師:飯島 利三氏(水と緑の日野・市民ネットワーク)	13
9. 15	講座 5. 実習	刈払機の仕組み、操作方法と刈払い実習 講師:橋本 幸久氏(南丘雑木林を愛する会)	17
10. 13	講座 6. 講義、観察	里山づくり・雑木林の植物観察 講師:倉本 宣氏氏(明治大学農学部教授)	16
11. 10	講座 7. 視察・実習	市外の緑地ボランティア視察と作業実習 「八王子滝山里山保全地域」	17
12. 15	講座 8. 実習、観察	落ち葉かき、落ち葉だめ、冬芽と葉痕の観察 講師:飯島 利三氏(水と緑の日野・市民ネットワーク)、加藤 勝康氏	16
2019. 1. 19	講座 9. 講義・実習	チェンソーの構造と使い方・丸太切り 講師:橋本 幸久氏(南丘雑木林を愛する会)	15
2. 9	講座 10. 実習	チェンソーを使って雑木の伐採と粗朶作り 講師:橋本 幸久氏(南丘雑木林を愛する会)	16
3. 9	講座 11. 実習・修了式	椎茸のぼだ木づくり実習、修了式	18

市民環境大学

実施日	回数	目的・対象・内容	参加人数
2018. 5. 10	前期①	地球環境問題の概要	20
5. 17	前期②	炭素・窒素の循環	22
5. 24	前期③	フィールドワーク①黒川清流公園緑地周辺の気温測定	22
5. 31	前期④	フィールドワーク②黒川清流公園の春(湧水)	25
6. 7	前期⑤	地球温暖化と温室効果ガス	20
6. 14	前期⑥	地球温暖化	20
6. 21	前期⑦	温暖化の影響	18
6. 28	前期⑧	ヒートアイランド現象と影響	22
7. 5	前期⑨	フィールドワーク③黒川清流公園の初夏(植物)(公開講座)	35
7. 12	前期⑩	ヒートアイランド現象と対策	19
10. 11	後期①	水の文化と水の特異的な性質	18
10. 18	後期②	フィールドワーク④黒川清流公園緑地周辺の気温測定	15
10. 25	後期③	フィールドワーク⑤黒川清流公園の秋(雨天で室内)	15
11. 1	後期④	水の循環	16
11. 8	後期⑤	水の循環と人間活動	19
11. 15	後期⑥	水収支と水資源	18
11. 22	後期⑦	水質汚染(総量規制と富栄養化)	17
11. 29	後期⑧	地下水汚染(揮発性有機塩素化合物と硝酸塩)	16
12. 6	後期⑨	フィールドワーク⑥黒川清流公園の初冬(野鳥)(公開講座)	22
12. 13	後期⑩	地球環境問題について総合的なまとめ	18

4. 環境への取組状況

市民環境大学 OB 会（環境学習会）

実施日	テーマ	参加人数
2018. 4. 19	環境学習会 1（「森林飽和」太田猛彦著 輪読）	15
5. 17	環境学習会 2（身近な水環境の一斉調査の説明）	10
6. 21	環境学習会 3	12
7. 19	環境学習会 4	11
8. 16	環境学習会 5（真姿の池湧水見学）	13
9. 20	環境学習会 6	9
10. 18	環境学習会 7	9
11. 15	環境学習会 8	9
12. 20	環境学習会 9	9(10 期生参加)
2019. 1. 17	環境学習会 10	8
2. 21	環境学習会 11	9
3. 14	環境学習会 12	10

ニュースレターの発行

- 第 20 号発行 2018. 5. 17 今年の冬は異常気象？
 第 21 号発行 2018. 7. 19 豊田湧水・用水見学会開催
 第 22 号発行 2018. 9. 20 黒川清流公園の湧水に異変
 第 23 号発行 2018. 11. 15 今年の夏も異常気象？
 第 24 号発行 2019. 1. 17 黒川清流公園での湧水量調査 1 年のまとめ
 第 25 号発行 2019. 3. 14 OB 会へのおさそい

市民環境大学OB会 空間放射線量・黒川公園周辺湧水量の測定

<放射線量測定>

- Aエリア 仲田の森公園・多摩川堤防周辺：7地点
 Bエリア 市役所周辺：6 地点、生活保健センター

実施日	参加人数
2018. 4. 26	4
5. 24	5
6. 28	4
7. 26	5
8. 30	4
9. 27	5
10. 25	6
11. 23	3
12. 27	4
2019. 1. 24	5
2. 28	4
3. 28	4

<黒川清流公園の湧水量測定> 清水谷公園・剣道場前・わきみず池*

実施日	参加人数
2018. 4. 19	5
5. 17	9
6. 21	9
7. 19	8
8. 23	4
9. 20	5
10. 11	3
11. 15	3
12. 20	3
2019. 1. 17	4
2. 21	5
3. 14	5

*2018年11月よりわきみず池の湧水量測定開始

その他

実施日	テーマ	内 容
2018. 9. 29	シンポジウム「まちの中の黒川清流公園～湧水と生きものたち～」	会場 日野市立カワセミハウス 参加者数 24 名 (1) 基調講演「湧水と崖線の植物」 講師：星野義延氏（東京農工大学大学院農学研究院教授） (2) 話題提供①「黒川清流公園の湧水の特徴～日野市の他の湧水や東京都内の湧水と比較して」…講師：松山洋氏（首都大学東京都市環境科学研究科地理環境学域教授）／話題提供②「黒川清流公園で見られる幾種類かの昆虫について」…講師：森川正昭氏（日野の自然を守る会幹事）／話題提供③「黒川清流公園は、より鳥みどり！」…講師：村岡明代氏（日野の自然を守る会幹事）
2018. 6. 3	身近な水環境の全国一斉調査に参加	日野市参加地点 48 地点 参加者数 398 名

⑬水の郷日野ビジョン 450

○活動目的・活動内容

平成 29 年に日野用水が記念すべき開削 450 周年を迎えるにあたり、日野市では、平成 28 年 4 月、用水や田んぼに関わる市民や学識経験者などで構成する日野用水開削 450 周年記念事業推進委員会を立ち上げました。

記念事業としては、「水の郷日野」を維持・継承するため、用水の歴史や生きものに関する講座や用水の散策会等を 4 回開催し又、日野用水の案内看板の設置や日野用水（下堰）親水工事等も実施してきました。

更に、この記念事業を後世に伝えるために「日野用水」、「日野用水 450 年！～昨日と今日、そして明日へ～」、「日野用水資料集」の 3 冊の記念誌を発行致しました。

しかしながら、日野用水をはじめとする各用水や田んぼを守にはどうしたらよいのか？今まで多くの場で議論されてきましたが、解決策は難しく、田んぼが急速に減り続けている待ったなしの時期に来ているのが現状です。

そこで日野用水開削 450 周年記念事業推進委員会では、平成 29 年 10 月 15 日日野煉瓦ホール（市民会館）において記念シンポジウムを開催し、「水の郷日野」を守る為の様々な議論の結果、これらの問題を少しでも解決していくための「共同宣言」（田んぼ・用水の保全や環境教育など）を提案し、満場一致で採択されました。

この「共同宣言」を実現していくために、平成 30 年 9 月 8 日市民と行政が協働で「水の郷日野ビジョン 450」を設立いたしました。

○人数：10 名

○活動場所 日野市内

○代表者 笹木延吉 042-642-0422

○事務局 北村 敏 042-583-3568

○活動実績

実施日	活 動 内 容	参加人数
2018. 4. 23	第 1 回「水の郷日野ビジョン 450」設立準備会・会の内容について	10
5. 29	第 2 回準備会・設立シンポジウムについて	6
6, 26	第 3 回準備会・共同宣言の担当別課題について	7
7, 20	第 4 回準備会・担当別課題の検討	7
8. 7	第 5 回準備会・設立シンポジウムについて	6
8. 29	第 6 回準備会・シンポジウムの現地探索について	7
9. 8	「水の郷日野ビジョン 450」設立シンポジウム	31
10. 17	「水の郷日野ビジョン 450」設立総会（第 1 回）	8
11. 21	第 2 回「水の郷日野ビジョン 450」会議・共同宣言の実現について	7
2019. 1. 21	第 3 回「水の郷日野ビジョン 450」会議・区画整理課へ要望書提出	7
3. 9	第 3 回「水の郷日野ビジョン 450」会議・区画整理課の回答他	7

4. 環境への取組状況

㊼ 緑を愛する会日野

○ 活動目的・活動内容

緑を愛する会日野のスローガンは「人と自然の和」。

「緑を愛する会 日野」は、仲田の森蚕糸公園という市街地の身近な自然保存・育成のために平成17年（2005年）からスタート。自然は特別な怖い存在ではないことを”いつもの生活の中”で実感してもらえるよう活動を展開。会員と協力頂いている市民の方々はもちろんのこと、日野市緑と清流課、各方面の団体に協力を頂きながら行っている。主な活動は以下5つ。

- （1）仲田の森蚕糸公園の一角にミニビオトープとして多種多様な草木を植え、50年後豊かな森にしていく活動。公園内での移植を終えた現在は枝打ち草刈りが主な作業
- （2）園芸品種と山野草2種類の花壇を配置し、花で来訪者が親しみやすい場を設ける。堆肥には園内の落ち葉堆肥のほか、生ごみ堆肥を活用
- （3）市内のドングリを集めてどんぐり苗を育て、市内緑化で必要な際には日野産苗を供出できる準備
- （4）日野市用水守制度への登録と活動
- （5）諸団体との連携（情報交換・体験学習の相談対応）。

○ 会員数:6人

○ 活動場所: 主に仲田の森蚕糸公園

○ 代表者: 佐伯直俊

○ 連絡先: 090-3546-7117（佐伯） forestimage0123@gmail.com

○ 情報提供: 以下ホームページ（HP）もしくはメール配信、不定期刊行物。

ツイッターHP（日々の更新はこちら）: <https://twitter.com/nakadanomori>

ブログHP（まとめサイトの活用）: <http://nakadanomoridayori.blogspot.jp/>

TBS『風の言葉・日野用水』（2012年） <https://www.youtube.com/watch?v=T2YtaUfjKps>

○活動実績

- ◆7月～8月 夏の体験ボランティア受入れ。子供たちとコナラ植え付け、花壇の垣根づくり、花植え付けなどの整備作業
- ◆月に4回前後の園内見回りと花壇手入れ作業
- ◆活動参加人数のべ70名程度

㊽ 南平・緑と水のネットワーク

○ 活動目的

当会は2012年「南平駅前や周辺の用水沿いを緑豊かな水辺にしたい」という住民の提案でスタートしました。

会の目的は、地域の特徴である用水など歴史的環境資源を守りつなげ、またその過程で南平のまちを再発見し、安心して安全な、南平らしい豊かな暮らしを目指すことです。

- ・駅前「ぼけっと広場」は、「緑の環境デザイン賞」の「国土交通大臣賞」を受賞しています。
- ・七生中地区地域懇談会「ななおBONまつり」、児童館行事等、地区の行事にも協力・参加しています。
- ・「駅周辺がまちの玄関口・用水沿いがまちの顔」となるよう事業を進めています。

○ 人数: 活動参加者 83名 どなたでも参加自由なオープンな会です

○ 代表: 清水守男

○ 活動場所: みなみだいら児童館ぷらねっと、南平駅周辺用水路沿い

○ 連絡先: みなみだいら児童館ぷらねっと（館長: 梅崎満洲夫）TEL 042-599-0166

(1)市民及び市民・行政との協働による環境への取組状況

○ 情報提供方法:自治会回覧、市の掲示板、ぶらねっとだより、市内団体掲示板 HiKnow!

Facebook ページ(アカウントがなくても閲覧可能)、Jcom 番組他

○ 活動実績:主な活動:毎月最終日曜日午前 草取りと観察会など、イベントの開催

実施日	テーマ	目的・内容等	参加人数
4/1	「野点・南平の四季」	南平高校茶道部と児童館で野点開催 地域・学校との交流	52
4/14	花オクラねばねばプロジェクト	児童館の子供とともに、花オクラの種まき、4月定例会	8
4/22	活動報告	日野市環境共生部へ「環境白書」を提出	-
5/20	5月定例会	定例除草、植付、用水清掃	6
6/23	6月定例会	定例除草、植付、用水清掃	7
7/22	用水を使って「打ち水」	猛暑対策のため、ぼけっと広場周辺に打ち水をして涼感をつくる	4
7/29	7月定例会	定例除草、植付、用水清掃	9
8/4	用水を使って「打ち水」	猛暑対策のため、ぼけっと広場周辺に打ち水をして涼感をつくる	2
8/5	活動準備(BONまつり)用水を使って「打ち水」	ななお BON まつり 配布苗の種まき 収穫種の選別、剪定	5
8/14	用水を使って「打ち水」	猛暑対策のため、ぼけっと広場周辺に打ち水をして涼感をつくる	2
8/26	活動準備(BONまつり)	ななお BON まつり	10
8/27	8月定例会	定例除草、用水清掃	5
9/9	活動準備(BONまつり)	ななお BON まつり 最終確認	7
9/15	ななお BON まつり	加工品等販売	4+参加者
10/7	9月定例会	定例除草、植付、用水清掃	8
10/26	10月定例会	定例除草、植付、用水清掃	6
11/25	11月定例会	定例除草、植付、用水清掃	11
11/25	防災カフェ(勉強会)	「災害文化」地域の地形、特質を学ぶ	27
12/10	駅前植栽の植え付け	除草、植付	4
12/22	用水守懇談会出席		1
1/12	新年会	反省会、年間活動計画	12
2/10	用水沿い修景事業	施工方法を検討	4
2/24	2月定例会	定例除草、植付、剪定、用水清掃	9
2/24	防災カフェ2(勉強会)	バザードマップを歩く(暮らしている地域の地形を確認)	13
3/9	植え付け・古写真選定	京王線南平駅前のプランター、用水沿いの花植付け、かつての用水を展示	7
3/9	用水沿い修景事業	用水橋詰木製手摺等完成確認	7
3/18	用水沿い修景事業	用水橋詰デッキ清掃、塗装	6
3/30	「野点・南平の四季」	開催準備	8
3/31	「野点・南平の四季」	南平高校茶道部と児童館で野点開催 地域・学校との交流	72
参加者延べ人数			316

③⑥ 百草山の自然と文化財を守る会

○ 活動目的

多摩丘陵の一角、日野市百草山の自然を保全し、そのなかに含まれる古代・中世寺院跡(真慈悲寺)などの遺跡の調査・保全を目指しています。

○ 現在までの活動内容

- ・百草山斜面の開発抑制のための署名活動
- ・百草山の散策イベントの実施
- ・百草山の文化財調査
- ・市と協力して三沢中学校区探検隊を組織して散策マップを作成
- ・百草山の清掃活動(西斜面<三沢>の周辺)
- ・現在は、倉沢里山を愛する会、幻の真慈悲寺調査の会と合流して、日常活動をしている
- ・百草山の一角の大規模墓地開発計画を中止させた募金活動
- ・百草山の一角、真堂が谷戸の市の買い取りを求める募金活動、昨年度は、買い取りが実現した。

○ 設立年月日: 1995年(平成7年)11月3日

4. 環境への取組状況

- 代表者名：峰岸 純夫
- 活動場所：日野市百草山
- 活動日：特定せず、随時活動（現在は休眠状態）
- 活動人数：若干名（中心層 60から70代）
- 募集：無
- 連絡先：峰岸 純夫 住所：日野市百草971-250 TEL:042-591-0605 FAX:042-591-0605
E-mail:mune3gisi2@ab.auone-net.jp
五十子 満大 住所：日野市百草971-250 TEL:042-591-6086 FAX:042-591-6086
E-mail:ablamenroku@yahoo.co.jp

㊦ 谷仲山緑地を守る会

○ 活動目的・活動内容等

日野市の谷仲山緑地を明るく健全な雑木林に維持・管理し併せて里山の生物多様性を復活し、次の世代に引き継ぐことを目的に 2016 年 4 月にスタートした雑木林ボランティア団体です。

当緑地は、カタクリ、ニリンソウ、イチリンソウなど貴重種の野草が群落しており、雑木林や野草の保全活動と併せて、カタクリの開花時の 2018 年 3 月下旬に案内看板を立て、一般市民にカタクリなどを観察して楽しんでもらい、環境保全の大切さを訴える事が出来ました。会員は一般市民、日野市職員 OB など様々で、目的意識を持ったボランティア活動を通し、楽しい汗を流しています。

- 会員数：20名
- 活動場所：谷仲山緑地（神明第1緑地～神明第7緑地）
- 代表者：笹木延吉
- 連絡先：笹木延吉 090-6029-1811
- 活動実績

実施日	活動場所	活動内容	参加人数
2018. 4. 22	-	雨天のため活動中止	-
5. 20	神明上第 5 緑地 (神明社側)	平成 30 年度定期総会（谷仲山地区センター）、 シュロ他伐木、下草刈	10
6. 17	神明上第 6 緑地	セキショウ刈込、梅伐木、粗朶柵	10
7. 15	神明上第 6 緑地	枯損木伐木、剪定、セキショウ他刈込	7
8. 19	神明上第 5 緑地	伐木、倒木処理	7
9. 16	谷仲山緑地	下草刈り、倒木処理、粗朶柵	-
10. 21	谷中山緑地 神明上第 3 緑地 (宝泉寺裏)	倒木処理、粗朶柵、遠路整備	8
11. 18	神明上第 3 緑地 神明上第 5 緑地	下草刈り、倒木処理、粗朶柵、遠路整備	8
12. 16	神明上第 6 緑地	クヌギ・コナラ植栽、粗朶柵	7
2019. 1. 20	神明上第 5 緑地	下草刈り、間伐伐木	7
2. 17	神明上第 3 緑地 神明上第 5 緑地 谷仲山緑地	下草刈り、伐木、落葉掻き、台風の倒木後処理	9
3. 17	神明上第 6 緑地 神明上第 3 緑地	倒木枝処理、カタクリの保全	8

③⑩ 緑地管理ボランティアの会

○ 活動目的・活動内容

日野東光寺緑地保全地域の植生と風景を豊かにするため、手入れを行い、崖線の緑を永く保存し、明るい雑木林として維持するために緑地保全等を継続して行っている。

2010年度からは明星大学のグリーン・キャンパス・プログラム事業も実施、指導している。

主な活動項目

- ・下草刈り、間伐、除伐、古損木処理、剪定、枝打
- ・竹林の管理
- ・特殊植物保護、植生調査、清掃活動
- ・学校との社会貢献活動の協働
- ・東京都及び日野市と保全計画の協働策定

○ 人 数：18名

○ 活動場所：日野東光寺緑地保全地域、東光寺第1,2緑地

○ 連絡先：小太刀 智明 E-mail:tweety-satopi@u01.gate01.com

○ 情報提供・参加募集方法等：直接連絡、東京都ウェブサイト「里山へGO!」・清流ニュース・チラシ、大学内情報誌・など

○ 活動実績

実施日	テーマ	目的・対象・内容	参加人数
2018. 4. 14、5. 6、 6. 3	竹の植生管理	筍と竹の調整・伐採、間引き	延 28
6. 3	笹・下草刈り	笹・草刈り、筍の調整・伐採、間引き	8
6. 11	竹の植生管理	筍の調整・伐採、間引き	6
7. 1	除伐・間伐	竹伐採・古損木伐採・特定外来種除去	9
8. 5	笹・下草刈り	笹刈り、常緑樹伐採	5
10. 7	自立と協働 (一年生必修授業)	グリーン・キャンパス・プログラム (竹伐採・草刈り)	63
11. 4	笹・下草刈り	笹刈り、常緑樹伐採	8
12. 2	除伐・間伐	竹伐採・常緑樹伐採	8
2019. 1. 13	除伐・剪定	常緑樹伐採・障害木剪定	7
2. 3	笹・下草刈り	笹刈り、支障枝処理	6
3. 10	笹・下草刈り	笹刈り、支障枝処理	7

4. 環境への取組状況

(2) 行政による環境への取組状況

ここでは、行政が主体となっていて行なっている環境への取り組みについて記載しています。

地域協働課（日野市生活・保健センター 日野市日野本町 1-6-2 TEL:042-581-4112）

実施日	テーマ	目的・対象・内容	参加人数
2019. 3. 20	くらしの輪連絡会研修会 『異常気象から考える私たちにできること』	2018 年度は経験したことのない異常気象がクローズアップされており、この機会に、今進行している問題と近い将来待ち受けている問題を知り、同時に「自分の生活の中で何ができるのか」の具体的なイメージを持って行動できるよう動機づけを目的とした。 くらしの輪連絡会（消費者団体の連絡会）参加団体を主に対象とした。	20

環境保全課（市役所 3 階 TEL:042-514-8294、042-514-8298）

実施日	テーマ	目的・対象・内容	参加人数
2018. 5. 27	市内一斉清掃	まちの環境美化・自治会等地域団体	16,500 (279 団体)
8. 12	第 3 回浅川アユまつり	市民が水辺に親しむイベントとして、伝統漁法体験、ガサガサ（魚とり）、環境活動団体のブース出展など	9,000
9. 9	日野市環境かるた大会	省エネ・環境に関する標語をかるたにした「日野市環境かるた」の大会	378
10. 14	落ちアユまつり（ひの生きものプランイベント）	市内小学生対象、浅川でアユを捕り食べるにより川の豊かさを実感	38
11. 25	市内一斉清掃	まちの環境美化・自治会等地域団体	16,500 (281 団体)
2019. 2. 16	環境フェア （イオンモール多摩平の森 3 階 イオンホール）	生活スタイルの見直しと省エネ行動の実践による CO ₂ 削減を啓発するイベント。環境かるた大会チーム戦優勝チームによる CO ₂ 削減の取り組み紹介、マスコットキャラクターによる啓発ショー、環境かるた 2 標語発表など	約 350
通年	エコアラ・エコクマによる環境学習（出前講座）	主に保育園・幼稚園を対象として、日野市の環境キャラクター「エコアラ」「エコクマ」による環境学習	保育園 22 園 幼稚園 5 園

緑と清流課（市役所 3 階 TEL:042-514-8309）

実施日	テーマ	目的・対象・内容	参加人数
2018. 4. 2 ～ 5. 31	緑の募金	事業所、老人クラブ等の団体や個人に緑化推進のため、緑の募金への協力を依頼	—
4. 1～11. 3	第 8 回 あさかわ写真コンクール	八王子市との浅川流域連携事業の取組みの一つ（募集期間 4/1～8/31、表彰式 11/3）	応募総数 407
4. 15	多摩川・浅川クリーン作戦	多摩川・浅川の同時清掃（雨のため中止）	—

(2) 行政による環境への取組状況

5. 6	シンポジウム 「黒川清流公園」	水と緑の日野・市民ネットワーク主催講演会	24
6. 3	身近な水辺の一斉調査	浅川、多摩川、程久保川及び市内を流れる用水の水質調査（全国水環境マップ実行委員会主催）	178 (浅川流域)
6. 17～11. 30	コスモスアベニュー事業	花のまちづくり事業の一環として、浅川スポーツ公園外周で、緑化の推進・普及・啓発のため、市民によるコスモスの種まき及び育成管理を実施 (公財) 日野市環境緑化協会共催	316
6. 21	ホタルの観察会	真堂が谷戸にて実施した市民参加イベント。ホタルの生態についての座学の後、ホタルの観察を行った。真堂が谷戸螢の会との共催。	30
8. 8	子どもの交流事業	八王子市との浅川流域連携事業 (台風のため中止)	—
9. 29～10. 27	ミニ水族館開設	市役所 1 階フロアにて実施	—
12. 22	用水守懇談会	用水守連絡会、活動内容の報告及び意見交換	21
9. 29～10. 27	緑と清流ポスター展	市役所 1 階フロアにて実施 (応募総数 1, 294 点)	—
10. 21	日野用水クリーンデー	栄町 5 丁目交差点からコープとうきょう日野駅前店までの日野用水（約 2km）の清掃	100
年間	程久保川クリーンデー	5/20、10/28 2 回実施	114
年間	自然観察会	日野みどりの推進委員会と共催 年間 9 回実施	226
年間	浅川・潤徳水辺の楽校行事	浅川・向島親水路を中心に年間 15 回の行事を開催	1, 000
年間	滝合水辺の楽校行事	7、8、11、2 月実施	約 200

ごみゼロ推進課（クリーンセンター 日野市石田 1-210-2 TEL:042-581-0444）

実施日	テーマ	目的・対象・内容	参加人数
2018. 8. 15、 8. 17、8. 20	処分場見学	市内小学生親子	114
通年	講師派遣 出前講座	日野第一小、日野第四小、日野第五小、日野第七小、日野第八小、仲田小、夢が丘小、七生緑小、豊田小、たまだいら保育園、ひらやま保育園、みさわ保育園、たかはた台保育園、あさひがおか保育園、もぐさ台保育園、おおくぼ保育園、しんさかした保育園、日野第二保育園、ひよこハウス多摩平、芝原保育園、至誠いしだ保育園、むこうじま保育園、第七幼稚園、日野・多摩平幼稚園、百草台幼稚園、日野しらゆり幼稚園、日野ひかり幼稚園、至誠第二保育園、しせい太陽の子保育園ほか	2, 685
通年	清掃活動	日野高、三沢中、平山中、日野第二中、日野第五小	2, 252

※クリーンセンターの施設見学は、新施設建設工事のため休止しています。(H29. 7～)

4. 環境への取組状況

文化スポーツ課（市役所 3 階 TEL：042-514-8465）

実施日	テーマ	目的・対象・内容	参加人数
2018. 4. 21 ～2019. 1. 6	ちょこっとウォーキング	ちょこっとウォーキングは市内外各所を巡り、健康増進及び市民の親睦を図ることを目的に実施するウォーキングです。また、四季に応じた自然に親しむコースを取り入れることで、運動を通して自然の魅力を発信しています。	310

子育て課（市役所 2 階 TEL:042-514-8579）

実施日	テーマ	目的・対象・内容	参加人数
2018. 7. 26	自然の中で遊ぼう	檜原村「都民の森」を散策し、自然観察・木工を行う 小学校 3 年生～小学校 6 年生 小動物・昆虫・植物の観察、木工	39
8. 9	自然の中で遊ぼう	檜原村「都民の森」を散策し、自然観察・木工を行う 小学校 3 年生～小学校 6 年生 小動物・昆虫・植物の観察、木工	40
8. 17	自然の中で遊ぼう	檜原村「都民の森」を散策し、自然観察・木工を行う 小学校 3 年生～小学校 6 年生 小動物・昆虫・植物の観察、木工	40
6. 3～12. 22	自然の中で遊ぼう	緑の大切さを感じる 小学校 5 年生～中学校 3 年生 野外炊飯・テント泊・キャンプファイヤー	延べ 742
7. 21～ 8. 26	自然の中で遊ぼう	緑の大切さを感じる 市内の子ども 子どもたちが自発的に活動やルールを創出した 中での遊びや体験、キャンプ活動ほか 野外炊飯・キャンプファイヤー	延べ 1, 183
11. 24	自然の中で遊ぼう	緑の大切さを感じる 市内の子ども たき火、焼き芋、工作、ネイチャーゲーム	約 1, 000

中央公民館（日野市日野本町 7-5-23 TEL:042-581-7580）

実施日	テーマ	目的・対象・内容	参加人数
2018. 4. 14 ～12. 1	田んぼの学校 (1 コース) ※南平会場は休校	水田での稲作りを通じて日野市の農業、環境、地域コミュニティを考える。 今年度は、南平会場が地主さんの都合により開校出来なかったため、新町会場と共同作業を実施した。 また、翌年度、南平会場の開校に向け、田作りの準備を行った。	294

(2) 行政による環境への取組状況

2018. 9. 8 (全 1 回)	(ひの市民大学) マイクロプラスティックによる海洋汚染について	世界的に注目 (問題) されているマイクロプラスティックゴミについて、市長も広報のコラムで訴え、最近では、都知事も当問題について条例制定を検討するなど、非常にタイムリーな講座だった。	55
2019. 3. 26. ～3. 27 (全 2 回)	今日からキミもひのエコだ！	イベントに於いて、マイ箸・マイ食器持参を促進している過程において、実際に工作等をして持参してもらう事を目的とした。 製作物は、木工 (箸・皿・コップ) 裁縫 (エコバック) 環境保全課、ひの児童館、おむすびキッチン、公民館利用者交流会有志、ニハそばの会有志、株式会社マルセなどの協力を得られた。	32
2018. 12. 9 ・2019. 1. 20 (全 2 回)	親子で大豆から豆腐を作ろう	親子で市内産の大豆を脱穀し、その大豆から豆腐を作る体験を通して、自然と人間との共生について考える機会とする。	34

郷土資料館 (日野市程久保 550 TEL:042-592-0981)

実施日	テーマ	目的・対象・内容	参加人数
4. 21～7. 1	『赤い鳥』100 年記念「たきびの詩人巽聖歌と『赤い鳥』」	こどものための雑誌『赤い鳥』の投稿がきっかけで、巽聖歌は童謡詩人としてのあゆみスタートさせた。聖歌の文学を通して、自然や地域、人々を見つめる心を伝えた。	473
7. 7～9. 30	企画展「どっき土器展～日野駅西側の低地に広がる遺跡から」	日野用水が流れ、かつて水田が広がっていた地域の土器や石器などを展示し、自然とともに生きた大昔の暮らしを紹介した。	651
12. 15～ 2019. 4. 14	企画展「ひの宝モノ語り展～くらしの道具に光をあてる～」	くらしの道具を、使ってきた人々のエピソードとともに紹介し、道具の大切さや、道具に見られる工夫や素材などについて伝えた。	637
10. 6～ 3. 15	特別展「日野の自然～鳥とともに～」	市内 3 会場で野鳥に関する展示を実施。 10.6～12.9 郷土資料館 516 人 12.29～1.3 平山季重ふれあい館 4,550 人 3.6～3.15 カワセミハウス 813 人	5, 879
10. 28	講演会「日野にすまう鳥たち」	市街地や公園でたくましく生きる野鳥の姿や最近の傾向についての講演会。 講師 金子凱彦氏、岩井満夫氏	20
11. 4	親子向け体験プログラム『動物園でとりをふやす、まもる』	多摩動物公園を会場に、鳥の保護や繁殖活動について。コウノトリの餌を食べる様子や、鶏卵の成長の様子を観察した。 多摩動物公園と共催事業	14
2. 3	浅川バードウォッチング	浅川で野鳥観察を行った。 講師 日野の自然を守る会	18

4. 環境への取組状況

3. 10	講演会「東京の野鳥は今どう変わった・なぜ変わった!」	川内博氏（都市鳥研究会代表）による講演会。	26
3. 2	見学会「JR日野駅直下、日野煉瓦造の山下堀アーチコルベルトに潜る!」	日野煉瓦関連遺構の見学会を実施し、近代化・日野用水に関連した歴史を学んだ。	42
2018. 12. 9 2019. 1. 20 (全2回)	農業体験講座「親子で大豆から豆腐を作ろう」(公民館と共催)	親子で市内産の大豆を脱穀し、その大豆から豆腐を作る体験を通して、自然と人間との共生について考える機会とする。	34
7. 21	体験学習会「石田散薬を作ろう」	用水沿いに生えるミゾソバを採取し、ほうろくで黒焼きして薬研で粉薬にした。野草を用いた土方歳三家に伝わる家伝薬を再現した。	35
12. 15	体験学習会「お正月飾りを作ろう」	正月飾りのしめ縄作りを通して、主食である稲の藁を活用する時代の生活を考える機会となった。市民が講師として参加。	30
2019. 1. 12	どんど焼き	茅の小屋とともに正月飾りなどを燃やし、健康を願う小正月行事。伝統行事を伝え、焼却物の分別も呼びかけ環境に配慮した。準備から市民協働で実施した。	609
3. 19～ 2019. 4. 9	パネル展「野菜と果物の花」	野菜と果物の花をテーマに、日野の農作物や、作物にまつわる昔話を紹介した。	950
3. 23	体験学習会「化石でたどる大昔の日野」	多摩川の河川敷で見られる化石を含む地層の観察会を行った。過去の環境変化を学び、自然の不思議さを伝えた。	16
3. 16	「日野の市境を歩く～谷地川・東光寺コース」	多摩平での講座の後、谷地川・東光寺地域などを散策し周囲の環境や歴史について学んだ。午後は七生丘陵調査団の市民が案内役として参加した。	37
4. 1～ 2019. 3. 31	七生丘陵の自然と歴史調査	人の暮らしと自然とのかかわりを調査し、散策会やパネル展示などの普及活動も行った。市民との協働調査。	262 (年間参加者数)
4. 1～ 2019. 3. 31	真慈悲寺調査研究	中世に存在した大寺院「真慈悲寺」の調査研究を、環境保護にも意識して取り組んだ。パネル展示などで市民に百草地域の歴史を伝える活動を行った。市民と協働して実施。	1,790 (年間参加者数)

生涯学習課（市役所 5 階 TEL:042-514-8765）

実施日	テーマ	目的・対象・内容	参加人数
2019. 1. 14	成人式	新成人対象。配布プログラムに市の環境保全イメージキャラクターを紹介。	1,132

(2) 行政による環境への取組状況

(公財) 日野市環境緑化協会 (日野市神明 2-13-1 TEL:042-585-4740)

実施日	テーマ	目的・対象・内容	参加人数
2018. 4. 21	緑のリサイクル	市民から提供された植物を配布 提供者 34 名、合計 1,015 点を配布	受領者 484 名
2018. 5 月	ガーデニングコンテスト	市民からガーデニング作品を募集 一次審査 (写真) : 5 月 11 日 二次審査 (現地) : 5 月 15 日 を行い、入選者 3 件を選出	応募件数 7 件
2018. 5. 22 ～6. 5	ガーデニングコンテスト 写真展	市役所、市民ホールにてガーデニングコン テスト応募者全員の写真を展示	—
2018. 7. 14	子ども昆虫教室	市内の小学生を対象に昆虫の話や標本観 察、屋外での昆虫採集を実施	参加者 15 名
2018. 9. 21	カサギク貴重品種の 配布	日野市だけが継承しているカサギクの貴 重品種「白多摩・黄多摩」をプランターに植 付け、観賞用として小中学校等の公共施設に 配布	33 箇所
2018. 10. 30 ～11. 9	法人化 30 周年記念 配布苗 : 菊花コンテスト	日野中央公園にて実施。表彰式はひの煉瓦ホ ールにてポットマム、スプレー菊、大菊の種 類別に合計 22 点を表彰 (応募数)・市民一般の部 合計 43 鉢 ・老人クラブの部 合計 100 鉢 ・小学校の部 合計 115 鉢 ・大菊の部 合計 7 鉢	(苗配布) 7,492 株 (個人・団 体含む)
2018. 12. 14 ～12. 25	緑の写真展	市役所、市民ホールにて実施。 テーマ 1 「日野の四季」 9 点を展示 テーマ 2 「わが家の緑」 応募なし	応募者 3 名
2018. 12 月	作文集「緑のまち」発行	市内小学校 4・6 年生を対象に環境に関する作 文を募集して審査を行い、入選作 104 編及びカ ット入選 59 作品を掲載した作文集を発行	応募総数 2,564 編
2019. 3. 30 ～3. 31	第 17 回 スプリングフェスタひの	実行委員会と共催で開催	来場者 5,500 名
年間	緑化講習会	○大菊の育て方講習会 7 月 18 日 ○ポットマム・スプレー菊の育て方講習会 8 月 2 日 ○庭木の手入れ講習会 10 月 4 日 ○稲わら・竹細工講習会 12 月 13 日 ○春の草花・家庭果樹の管理講習会 2 月 7 日 ○ガーデニング講習会 3 月 7 日	参加者 合計 189 名

4. 環境への取組状況

(3) 学校等による環境への取組状況

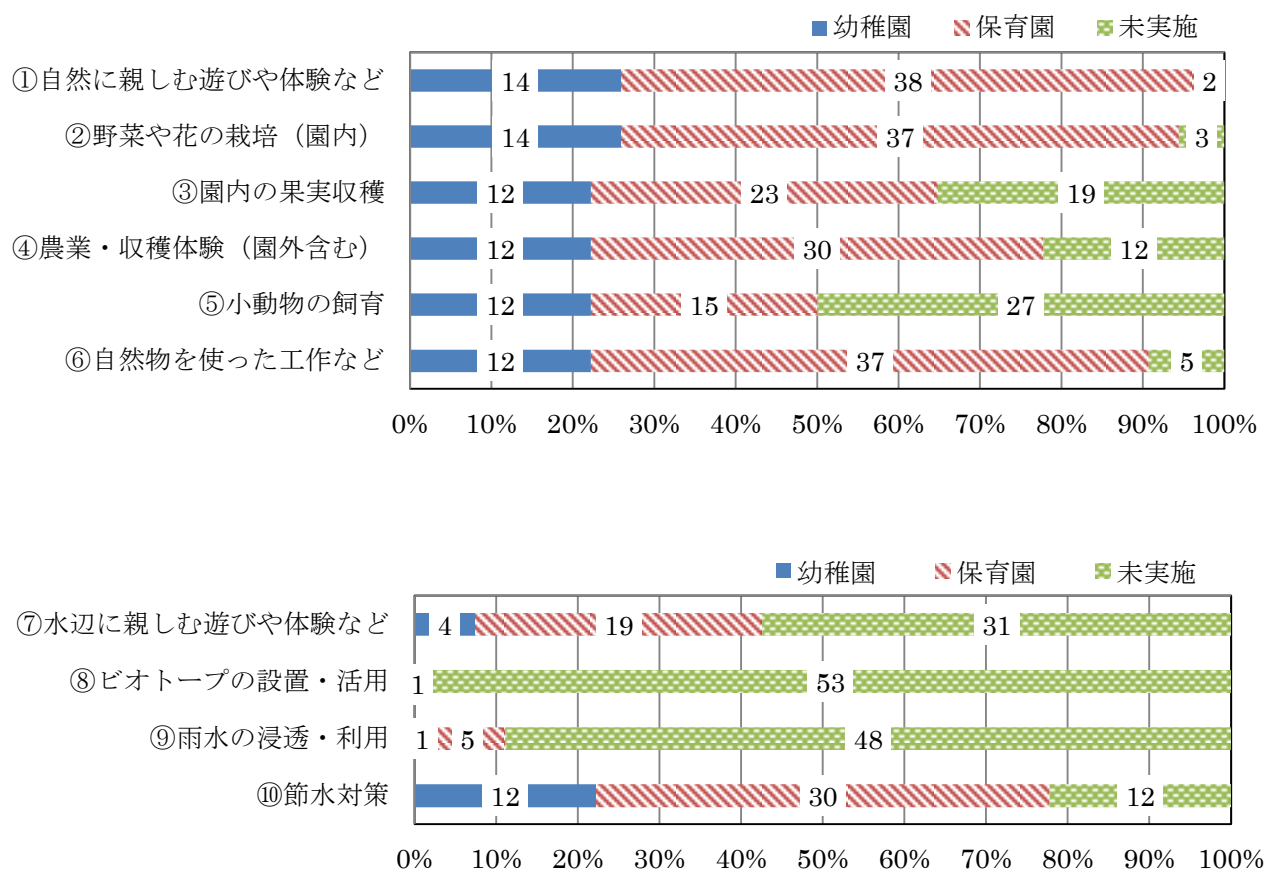
日野市内には、幼稚園 14 園（市立 4 園、私立 10 園）、認可保育園 40 園（公立 10 園、私立 30 園）、小学校 17 校、中学校 8 校、高等学校 3 校があります。これらの学校等による環境への取り組みについて、①幼稚園・保育園、②小学校、③中学校・高校、に分け、とりまとめました。

① 幼稚園・保育園における環境への取り組み

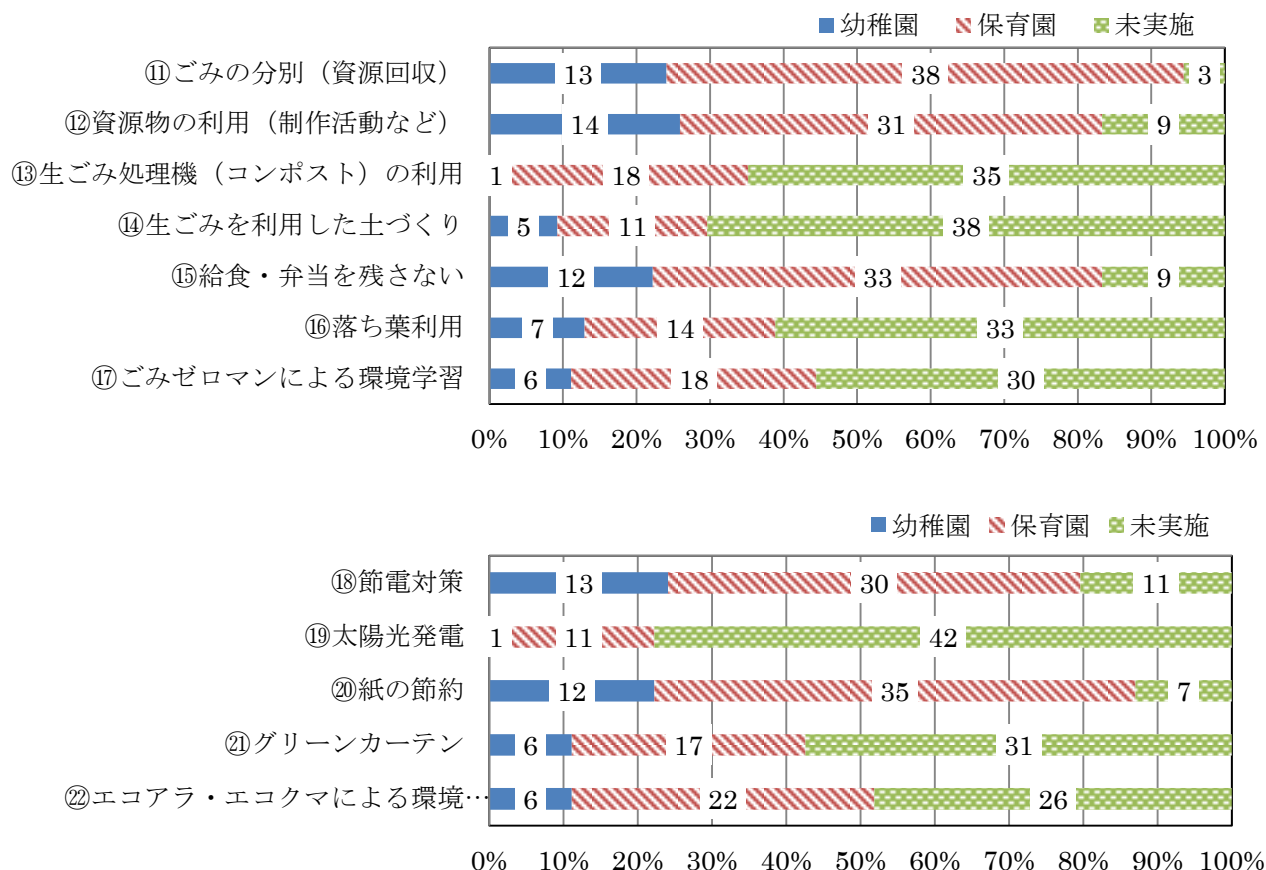
主な取り組み項目を 22 項目としてアンケートを実施し、幼稚園 14 園、保育園 38 園の 52 園から回答が得られました。

幼稚園及び保育園で多く取り組まれている項目としては、全ての園で園内において野菜や花の栽培が行われていた他、自然に親しむ遊びや自然物を使った工作、農業・収穫体験など園児が直接自然に触れるような取り組みが多く、園で行われています。また、日常生活の習慣として、ごみの分別、節水、節電、紙の節約、食べ残しを出さないことが多くの園で取り組まれています。エコアラ・エコクマやごみゼロマンといった子供向けのキャラクターを活用した環境学習が行われているのも幼稚園・保育園の特色です。

一方、雨水の浸透・利用やビオトープの設置、太陽光発電といった、設備や整備などに費用がかかる項目については、実施している園は少ないという結果でした。



(3)学校等による環境への取組状況



アンケート項目以外のその他の取り組み・独自の取り組みとしては以下の回答がありました。

- ・日野市立幼稚園では、平成 22 年度より、家庭や近隣学校給食で出た野菜くずを利用しての元気野菜作りを行っている。命の循環を知り又、土ができていくまでの過程では、生きる力の基礎となる思考力、判断力、表現力を培うことにつながっている。幼児にとっては、わくわくの体験となっている。この活動に対しては、まちの生ごみ活かし隊の方々、地域の方々からも協力を得ている（第二幼稚園）
- ・給食の生ゴミ（野菜くず）を利用して、自園の畑や花だんの土づくり（土の再生化）を子どもたちと職員と一緒に取り組んでいます（みさわ保育園）
- ・自然に囲まれた幼稚園の為、畑作りをしてナスを作り、給食のカレーの食材に入れました（光塩女子学院日野幼稚園）
- ・野菜の栽培は地域のお店で園児と一緒に購入し、園児自らが園に運んで苗付けをしている（至誠あずま保育園）
- ・無農薬の野菜を使って調理活動を行っています（みさわ保育園）
- ・食育にて旬の食材を知り、料理を食べ、興味関心を持つ（たかはた北保育園）
- ・食育活動の実施（たけのこ、とうもろこし、そら豆の皮むき、梅ジュース作り、クッキング）（至誠あずま保育園）
- ・日野市で栽培している果物・野菜を給食に使用（むこうじま保育園）
- ・豊田の豊かな自然環境の中で保育をすすめていくことを園の特色としています（芝原保育園）

4. 環境への取組状況

- ・愛鳥モデル園の更新を行いました。年2回「野鳥の会」の方に指導していただき、双眼鏡の使い方を教えていただいたり、近隣の公園で野鳥の観察を行っています（日野市立たまだいら保育園）
- ・緑の募金を届けに行っています（つくしんぼ保育園）
- ・物にもいのちがあることに気付かせる（欣浄寺みのり幼稚園）
- ・牛乳パックやティッシュケース等を利用し玩具を作るなど（栄光豊田駅前保育園）
- ・ペットボトルキャップ・使用済切手回収（至誠第二保育園）
- ・井戸水の利用（至誠第二保育園、日野第二保育園）
- ・蓄熱冷房（日野わかば保育園）
- ・園外保育・遠足等で園児が場を引き上げる際、自分たちが出したものでなくても、ゴミ拾いをして帰るように心掛けている（第四幼稚園）
- ・地域一斉清掃参加（至誠第二保育園）
- ・運動会・発表会では、保護者の方へのエコ発信を毎年工夫して行っています（みさわ保育園）
- ・生活発表会の際、環境への取り組み・生ごみを利用した土づくりの様子を掲示し保護者に周知した（たかはた台保育園）
- ・用務職員による園児への環境学習（ごみの分別・食べ残しをしない）の実施（たかはた台保育園）
- ・職員が手作りした絵本を使った環境学習の実施（みなみだいら保育園）

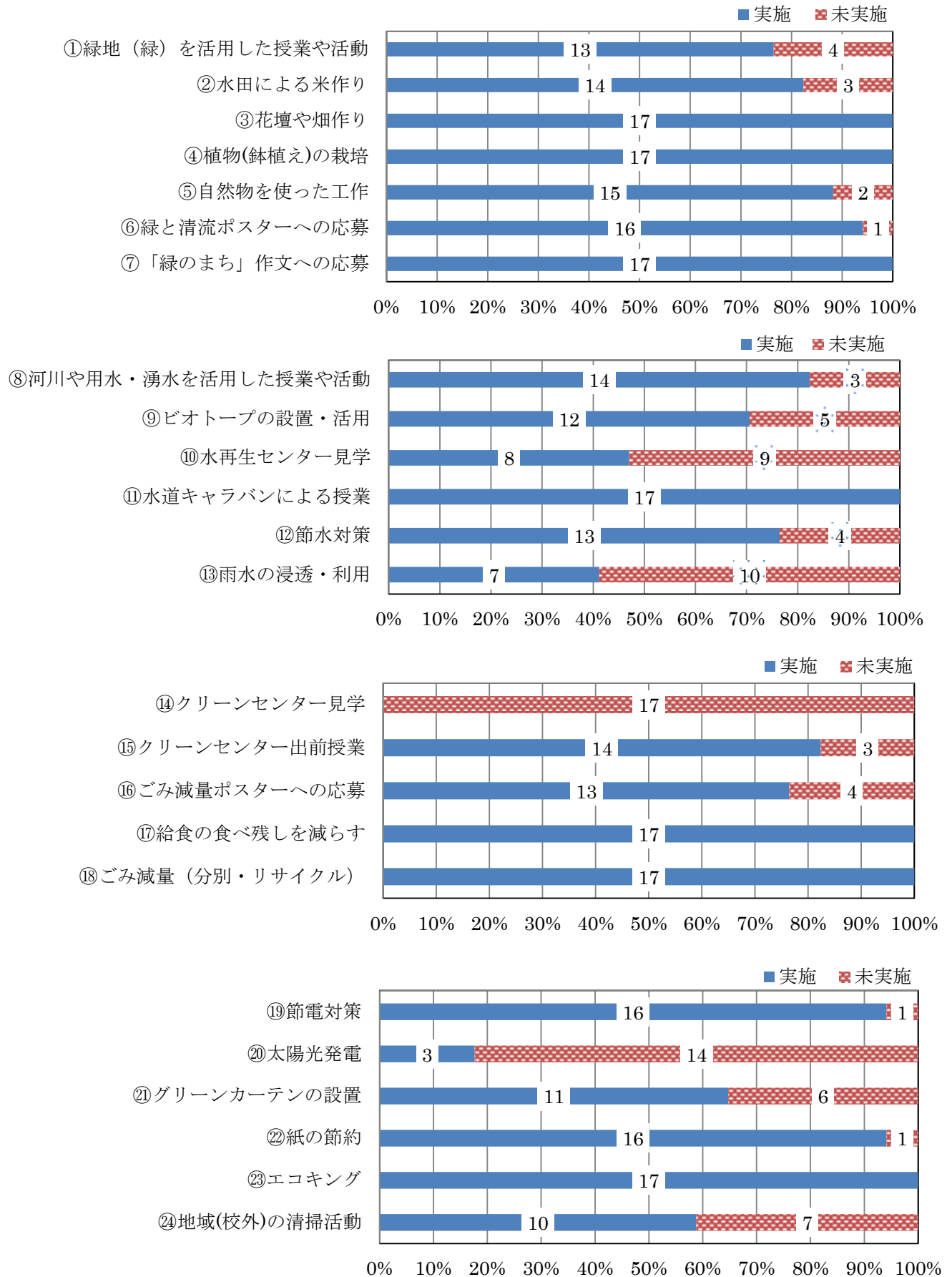
② 小学校における環境への取り組み

主な取り組み項目を23項目としてアンケートを実施し17校より回答が得られました。なお、「エコキング」についてはすべての小学校で実施していることからアンケート項目には含めませんでした。全校実施として集計グラフには加えており、取り組み項目は全部で24項目です。

小学校の特色として、植物の栽培、花壇や畑作り、緑に関する作文やポスターへの応募、自然物を使った工作など、みどり分野の取り組みが環境学習として多くの学校で実施されています。また、水道キャラバンによる授業、水辺を活用した授業、水田による米作りなど、水分野の取り組みも比較的多くの学校で実施されており、水環境豊かな日野市の特色が表れています。他にも、給食の食べ残しを減らす、ごみ減量、紙の節約、エコキングなど、様々な分野の取り組みが多くの学校で実施されています。

一方、太陽光発電や雨水の浸透・利用については、実施率が50%以下となっており、グリーンカーテンも60%を下回っています。費用の面だけでなく、施設や設備面での課題があるものと考えられます。なお、「クリーンセンター見学」が全ての楽校で未実施なのは、2018年度はクリーンセンター建て替えにより見学の受け入れをしていなかったためです。

(3)学校等による環境への取組状況



4. 環境への取組状況

アンケート項目以外のその他の取り組み・独自の取り組みとして以下の回答がありました。

- ・六小のシンボル「おたまが池」自然観察（日野第六小学校）
- ・浅川の自然を活用した実践（日野第八小学校）
- ・4年生の用水調べの学習（日野第八小学校）
- ・全校児童によるトライ＆チャレンジ(校庭・地域の清掃活動)（日野第六小学校）
- ・全校児童による菊の栽培（日野第六小学校、東光寺小学校）
- ・3・4年生が一人一鉢の菊作りと代表児童による日野市産業まつりへの菊の出展を行った。（平山小学校）
- ・理科・栽培委員会による花の栽培活動（日野第六小学校）
- ・地域支援ボランティア及びPTAの支援・協力によるガーデニングを実施している（平山小学校）
- ・「人権の花運動」の担当校として、5・6年生の委員会活動で実施した（平山小学校）
- ・地域の農家の方のご指導ご協力による、種まきからの稲作・校庭芝生の維持管理・東光寺大根（種まき、おろぬき、収穫、たくあん漬け体験）、給食への活用、たまねぎ（種まき、収穫体験）給食への活用、梨園の観賞学習、和食器を使った給食体験（東光寺小学校）
- ・4年生は、ゴーヤによるカーテンを行った。（平山小学校）
- ・廃材を活用した図工の学習（東光寺小学校）
- ・代表委員会によるエコ推進活動、給食中の啓発放送など（日野第八小学校）
- ・ひのっこエコアクション振り返りシート記入（日野第六小学校）
- ・4年生は谷地川で自然の学習の中で川のごみ拾いに取り組んだ（日野第三小学校）
- ・環境美化委員会による清掃活動・校庭の石拾い（日野第六小学校）
- ・H31年度はESDについて取りくみます（日野第八小学校）

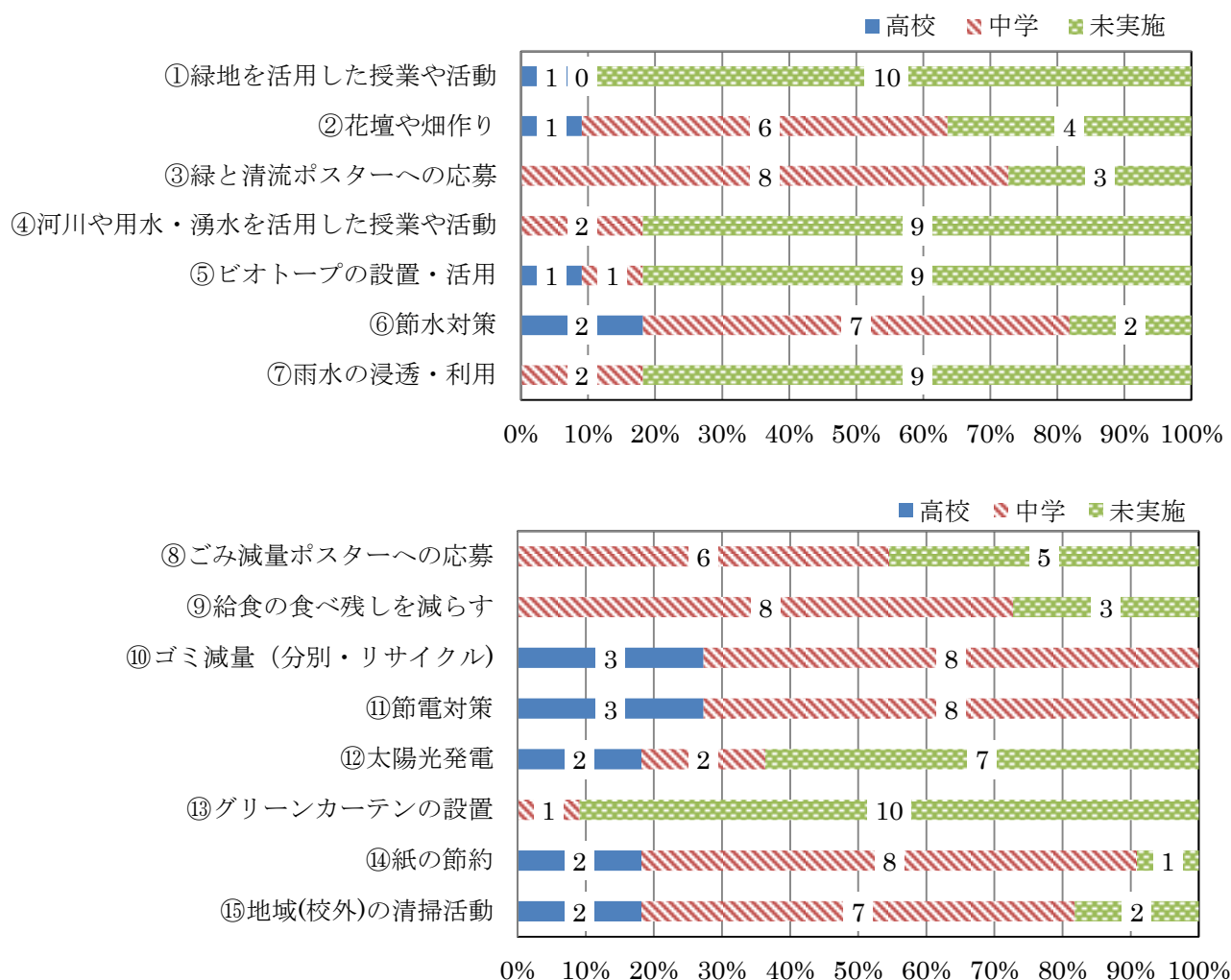
③ 中学校・高校における環境への取り組み

主な取り組み項目は15項目としてアンケートを実施し、中学校8校、高校3校から回答が得られました。

ごみ減量、節電、紙の節約については、ほぼすべての中学校・高校で行われていました。一方で、小学校では回答が多かったみどりや水に関する環境教育については、中学校で花壇や畑づくり、緑と清流ポスターへの応募が比較的多くの学校で取り組まれています。他の項目についてはあまり実施されていませんでした。給食の食べ残しを減らす、清掃活動については、中学校ではほとんどの学校で取り組まれています。

実施率の低かった、ビオトープの設置・活用、雨水の浸透・利用、グリーンカーテンの設置については、費用面・設備面での課題があるものと思われます。

(3) 学校等による環境への取組状況



アンケート項目以外のその他の取り組み・独自の取り組みとして以下の回答がありました。

- ・一中緑のカーテンは、学年、委員会、部活動で役割を分担しながら 10 年以上継続している取組で、地域の協力も受けながら、環境意識を高める事に一定の成果をあげている（日野第一中学校）
- ・生徒会やボランティア部を中心に、ペットボトルキャップの回収やひまわりデー清掃活動等のボランティア活動に取り組んでいる（日野第一中学校）
- ・生徒会活動としてエコキャップ運動を行い、学校全体にエコキャップ回収を通じた環境活動の意識づけをしている（日野第三中学校）
- ・ペットボトルキャップの回収（三沢中学校、他 1 校）
- ・生徒会活動でエコキャップ回収、テトラパック回収（平山中学校）
- ・家庭科の授業で使用了材料の残り布で、レジバッグを保管する携帯用のケースを作り、レジバッグ削減の意識を喚起している（日野第三中学校）
- ・給食委員会による食べ残し減量への呼びかけ
- ・校務支援システムを活用して、配布物や会議資料などのペーパーレス化に努めている（日野第三中学校）

4. 環境への取組状況

- ・裏紙の活用、資源ごみの分別
- ・節水・消灯（空き教室）の励行
- ・3年生行事で保護者と連携した地域清掃（平山中学校）
- ・PTAとボランティア有志の生徒による校内清掃

④ まとめ

多くの学校等において、種々の取り組みが行われています。

傾向としては、低年齢ほど、自然や動植物に触れ合うなど、情操教育的な効果が期待できる環境教育が多く実施されていると言えます。年齢が進むにつれて、自然と触れ合う機会は少なくなり、環境教育のテーマがごみ問題や地球温暖化問題へ移行していくことがうかがえます。施設としての取り組みでは、ごみの分別、節電、節水については多くの学校等で取り組まれています、太陽光発電、雨水の浸透・利用、グリーンカーテンなどについては実施率が低く、費用面・設備面での課題があるものと考えられます。

（アンケートに回答いただいた学校等）

市立幼稚園

第二幼稚園, 第四幼稚園, 第五幼稚園, 第七幼稚園

私立幼稚園

日野・多摩平幼稚園, 日野台幼稚園, 欣浄寺みのり幼稚園, 日野ふたば幼稚園, 光塩女子学院日野幼稚園, 日野わかきさ幼稚園, 百草台幼稚園, 日野ひかり幼稚園, 杉野幼稚園, 日野しらゆり幼稚園

市立保育園

たまだいら保育園, ひらやま保育園, あらい保育園, みさわ保育園, たかはた台保育園, みなみだいら保育園, あさひがおか保育園, もぐさ台保育園, おおくぼ保育園, しんさかした保育園

私立保育園

栄光保育園, 至誠第二保育園, つくしんぼ保育園, 日野保育園, 日野第二保育園, 日野わかば保育園, 万願寺保育園, 日野わかば保育園高幡分園, ひよこハウス多摩平, ひよこハウス豊田, たかはた北保育園, 吹上多摩平保育園豊田分園, 豊田保育園, 上田せせらぎ保育園, 栄光保育園南平分園, しせい太陽の子保育園, 至誠ひの宿保育園, 至誠あずま保育園, 吹上多摩平保育園, 栄光平山台保育園, 芝原保育園, 栄光豊田駅前保育園, 日野駅前かわせみ保育園, 至誠いしだ保育園, むこうじま保育園, 吹上多摩平保育園神明分園, 栄光多摩平の森保育園, 栄光多摩平中央保育園

小学校

日野第一小学校, 豊田小学校, 日野第三小学校, 日野第四小学校, 日野第五小学校, 日野第六小学校, 潤徳小学校, 平山小学校, 日野第八小学校, 滝合小学校, 日野第七小学校, 南平小学校, 旭が丘小学校, 東光寺小学校, 仲田小学校, 夢が丘小学校, 七生緑小学校

中学校

日野第一中学校, 日野第二中学校, 七生中学校, 日野第三中学校, 日野第四中学校, 三沢中学校, 大坂上中学校, 平山中学校

高等学校

都立日野高校, 都立日野台高校, 都立南平高校

(4) 大学による環境への取組状況

ここでは、日野市内にキャンパスがある 3 つの大学について、環境への取組状況を紹介します。

実践女子大学の環境への取組

〒191-8510 日野市大坂上 4-1-1 (042-585-8817) URL <http://www.jissen.ac.jp/>

実践女子大学日野キャンパスでは、生活科学部の学生約 1,900 名が学んでいます。本学は、各キャンパスにエネルギー管理責任者を置き、エネルギー管理を行うと共に、教職員や学生に対して省エネルギーや温室効果ガス排出削減に関する啓発活動を展開しています。そして、全学的な「クールビズ」の実施や「CO₂削減／ライトダウンキャンペーン」への参加など、地球温暖化対策に積極的に取り組んでいます。

また、2016 年 3 月に完成した第 3 館には、自然の力を利用した先進的エコシステムを導入しました。「サーマルチューブ」により地中熱を採熱して安定した地中の温度を活かす空調システムの導入、温まった空気が自然に上昇することを利用した重力換気システム「ソーラーチムニー」の採用、全体空調によるエネルギーロスを防ぐため人の接する床下からじんわり空調を行う「床放射空調」を取り入れるなど、快適さと環境配慮を両立させた建物とし、キャンパス全体の省エネルギーに寄与しています。

首都大学東京日野キャンパスの環境への取組

〒191-0065 日野市旭が丘 6-6 (042-585-8610) URL <http://www.sd.tmu.ac.jp/>

首都大学東京では、環境に配慮又はそれに寄与するための研究活動や高い環境意識を持った学生を社会へ輩出する活動として「エコキャンパス・グリーンキャンパス」を推進しており、日野キャンパスにおいても推進部会を設置し、自然環境と人間環境の両立に配慮した取り組みを検討及び実施しています。

この取り組みの一環として、2018 年度も引き続き全研究室から「エコリーダー」を選出しました。「エコリーダー」とは、学生主体による環境保全活動を促すことを目的とし、研究室内で省エネルギーやエコ活動の啓蒙、事務局と各研究室の学生達の橋渡しの役割などを担当します。日野キャンパスではエコリーダーを通じて、各部屋の照明・空調管理やゴミの分別・削減に組み込み、教職員のみならず学生を含めたキャンパス全体として環境へ取り組んでいます。

2018 年度に首都大学東京日野キャンパスで取り組んだ主な事例を以下にご紹介いたします。

2018 年度の主な環境への取り組み

- ・ゴミ分別の徹底(エコリーダーを通じた分別方法の周知、職員による分別チェック)
- ・学生作成ポスターによる節電等の啓発強化
- ・不要となった机等の物品のキャンパス内リユースによるゴミの削減
- ・再資源化を目的にしたパソコンや周辺機器及び古紙類等の売払いを実施
- ・空調機器の効率的運用や適切な温度設定によるエネルギー使用量の削減

明星大学の環境への取組

〒191-8506 日野市程久保 2-1-1 (042-591-5111) URL <https://www.hino.meisei-u.ac.jp/>

明星大学は、2010 年度に日野市、明星大学、東京都の間で「東京グリーン・キャンパス・プログラム」の協定を結んで以来、日野市東光寺緑地保全地域を活動フィールドとした授業を行ってきました。

2018 年度は、10 月 7 日に環境科学系 1 年生 51 名が授業（自立と体験 2 必修科目）の一環として緑地保全活動を行いました。活動は班に分かれ、各班には学系の教員と上級生の学生が配属され、緑地管理ボランティアの会の方に指導していただき、モウソウチクの伐採や下草刈りを行いました。林床部がアズマネザサやススキなどに覆われ、生物多様性が失われていましたが、本

4. 環境への取組状況

活動により、絶滅が危惧されている希少種の生育環境が整備されつつあります。

また、学生には、野外での緑化活動以外にも、学内のゴミを実験室に集め、ゴミの種類と重量を測定する、廃棄物組成調査の実習も行っています。この活動を通じて、消費者としてのゴミ分別にとどまらず、廃棄物が収集されて、その後どのように処理されていくのかを学んでいます。

明星大学全体では、省エネルギーを推進するため、授業と連動した、空調管理システムの導入や、照明の自動化に取り組んでいます。また、日野市の社会福祉協議会のボランティアセンターが行っている、「ペットボトルキャップリサイクル活動」に賛同し、学内の全てのゴミ箱の上にペットボトルキャップの回収ボックスを設置しています。

(5) 事業者による環境への取組状況

日野市環境基本計画ではその主体を市民、民間団体、事業者、市の四者としています。2002 年度に国内でも先進的な取り組みとして、事業者自らがその事業内容を地域に積極的に公開する「リスクコミュニケーション」を始めたことをきっかけに、白書でも市内の事業者（8 事業者）の環境への取り組みを掲載しています。

(株)いなげや 環境への取組

〒190-8517 東京都立川市栄町 6-1-1(本社) (042-537-5111) URL <http://www.inageya.co.jp/>

“いなげやペットボトル募金”で小学校へ環境教材を贈呈！

株式会社いなげや(本社／東京都立川市、代表取締役社長／成瀬直人)は、いなげや店舗の店頭で“ペットボトル自動回収機”を導入し、省 CO2 型リサイクルシステムを構築することで、ペットボトルからペットボトルへのリサイクル“ボトル to ボトル”を推進してまいりました。また 2015 年 9 月よりの機器設置ではお客様参加型の“ペットボトル募金”をはじめました。この度一年を通じた取り組みとして2017年度の集計がまとまり、地域へ還元が滞りなく終了したのでお知らせいたします。



店頭回収されたペットボトルは、お客様からお預かりしたリサイクル資源として、1本あたり0.2円として換算し地域へ還元する取り組みです。

【小学校48校へ環境教材を贈呈】

2017年度に機器回収したペットボトル(約 523 万本)を金額に換算、店舗所在の各教育委員会等と寄付先・環境教材を選定し、設置店舗周辺の小学校へ贈呈いたしました。

ペットボトル募金報告	
回収本数×0.2円に換算	
当店での回収本数(2017年度)	255,708本
小金井市内設置店舗(合計回収本数)	561,170本
小金井市への寄付金額	112,234円
当店で回収したペットボトルの寄付額を、環境備品に換算し、 小金井市立前原小学校へ、贈呈させていただきました。	
リサイクルへのご協力ありがとうございました。 店長	

いなげや小金井貫井南店 掲示報告例



ペットボトル自動回収機 設置店舗イメージ

【店長が小学校で環境教育】

各店の店長が、寄付先の各小学校の朝礼等で、“ペットボトル募金”の活動についてお話しする機会をいただきました。ペットボトルという身近なものがリサイクルされていることを直接伝えることで、環境への関心が高まることを願っています。

- ・自動回収機で回収したペットボトル1本当たり0.2円分で環境教材を寄付しています。
- ・いながやで集められたペットボトルは、またペットボトルに生まれ変わります。(ボトル to ボトル)
- ・自動回収機でペットボトルをつぶし効率的に運ぶことで、CO₂の排出削減につながります。
- ・限られた資源を大切にするため、皆さんとともにリサイクルを推進していきます。

【回収機を使うことでCO₂削減効果】

ペットボトルを圧縮回収することで回収効率の向上や、配送戻り便を利用してセンターに資源を集約するなど、輸送の効率化で2017年度は101.8tのCO₂削減効果をあげております。

【小学校朝礼での贈呈式の模様】



立川市立第八小学校



三鷹市立高山小学校



小平市立鈴木小学校



日野市立第一小学校



八王子市立中野北小学校



稲城市立第七小学校

4. 環境への取組状況



鶴ヶ島市立長久保小学校



川崎市立中野島小学校

コニカミノルタ東京サイト日野 環境への取組

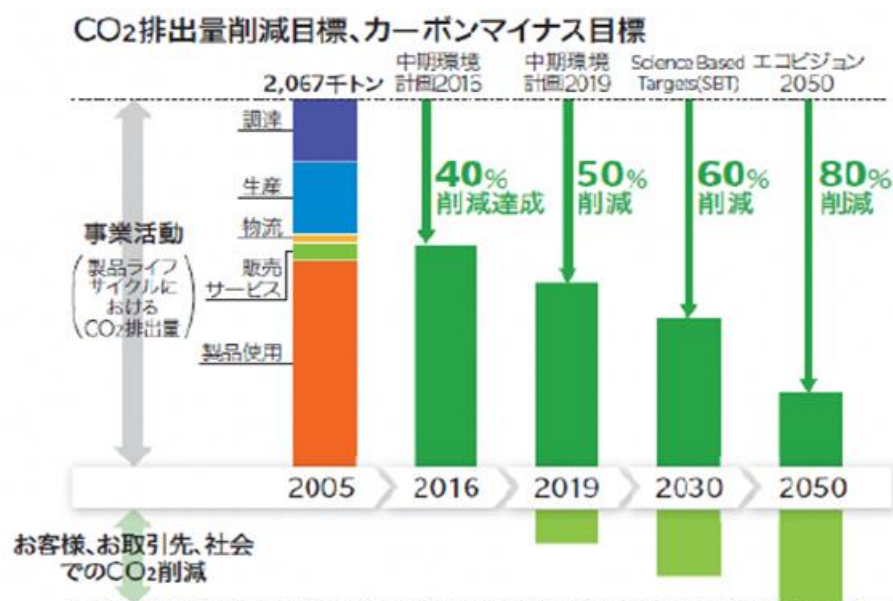
〒191-8511 日野市さくら町1 (042-660-9426)

URL <http://konicaminolta.jp/>

コニカミノルタグループの環境への取り組み

コニカミノルタは、地球温暖化防止や資源循環、生物多様性の保全に向けて、長期環境ビジョン「エコビジョン2050」を策定し、さまざまな取り組みを進めています。

2017年度からの活動をより強化するために、より意欲的な目標として「カーボンマイナス」という概念を追加しました。これは自社製品のライフスタイルにおけるCO₂排出量を80%削減することに加えて、お取引様やお客様、地域社会との連携により、事業活動によるCO₂排出量を上回るCO₂排出削減効果を生み出していく新たなコミットメントです。



グリーンプロダクツ（製品）への取り組み

コニカミノルタは、優れた環境性能を持つ製品を評価・認定する独自の「グリーンプロダクツ認定制度」を導入し、事業や製品特性に合わせた環境価値を創出し、お客様や社会での環境負荷低減に貢献することを目指しています。

【製品紹介】**使用済みペットボトル・PC ガロンボトルを複合機の外装材に再生**

使用済みペットボトルおよびPCガロンボトルを複合機の外装材に、また使用済み遊技機から回収したABS樹脂を内装材にリサイクルする技術開発に取り組んでいます。2016年度発売した製品では再生率88%の外装材を採用しています。

**東京サイト日野の活動紹介：省エネルギー活動**

コニカミノルタ東京サイト日野では、「東京都地球温暖化対策の取組が特に優れた事業所」に認定されています。

- ①生産工程の最適制御を導入することによるエネルギー効率の向上
 - ②熱源設備の中央監視システム
 - ③高効率の熱源設備や照明器具の積極的な導入
 - ④事業所内の建物、分電盤単位でのエネルギー計測による電気使用量の「見える化」等
- 生産・研究活動を通じて継続したエネルギー使用量の削減を進めています。



GE ヘルスケア・ジャパン(株) 日野本社・工場 環境への取組

〒191-8503 日野市旭が丘 4-7-127 (042-585-5111) URL www.gehealthcare.co.jp

業務車両 燃費改善プロジェクトのご紹介

GE ヘルスケア・ジャパンには、700 台を超える業務車両があり、それらはお客様先で稼働している弊社製品(CT スキャナー、MRI など画像診断装置)の点検・修理、お客様を訪問しての営業活動のため、日々使われています。

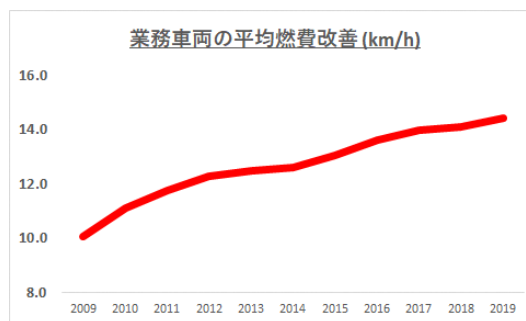
1 か月の総走行距離は約 140 万 km（地球を 35 周）、1 年にすると約 1,700 万 km（地球を 420 周）。

ガソリン消費量は、1 か月あたり約 10 万リットル、1 年では約 120 万リットルとなっております。これを CO2 換算すると、1 か月あたり 250tons-CO2、1 年では 3,000tons-CO2 の排出となります。

2009 年から燃費改善の取り組みとして、以下を実施してきました。今年で 10 年目を迎えますので、この機会に活動をご紹介します。

4. 環境への取組状況

- ② エコカー(ハイブリッド車)への転換
- ② 役職による車種選定制度を廃止し、全役職ともエコカー(ハイブリッド車)への転換
- ③ エコ運転の推進活動
- ④ 全車両へのテレマティクス(ドライブ監視装置)の導入



顕著に改善効果が出たのは、④のテレマティクスによるドライブ監視で、20 分以上のアイドリングや、設定速度を超えるスピード走行、急アクセル、急ブレーキの環境にやさしくない運転をすると、マネージャーや運転管理者へリアルタイムにアラートメールが配信され、ドライバーは改善指導を受け、自身の運転を是正し、地球に優しい運転へ改善を図ります。

その成果として、2009 年は平均燃費が 10.1km/L でしたが、2019 年は 14.4 km/L と約 30%の燃費改善を成し遂げました。

700 台を超える車両のガソリン消費量にしますと、1 か月あたり 4,100 リットル、1 年にすると 50 万リットルの削減となっております。これを CO₂ 換算すると、1 か月あたり 95tons-CO₂、1 年では約 1,100tons-CO₂ の削減となります。

今後も GE ヘルスケア・ジャパンは、持続可能な社会のために環境改善を推進してまいります。



(株) スーパーアルプス 環境への取組

〒192-0011 八王子市滝山町 2-351 (本社) (042-692-2739) URL <http://www.superalps.co.jp/>

省エネルギー

エネルギー使用量削減のために、店舗設備の更新を進めています。省エネルギータイプの冷凍冷蔵設備・空調機、LED 照明の導入により、南平店では改装前と比較して電気使用量を約 30%削減いたしました。2018 年は、3 店舗にて設備の更新を実施いたしました。

廃棄物削減

店頭回収ボックスを設置して、食品トレー、ペットボトル、ペットボトルキャップ、缶、牛乳パックをリサイクルしています。食品トレーは回収後、トレーメーカーの再生工場に搬入して新たなトレーとして生まれ変わります。ペットボトルは主に繊維製品にリサイクルされています。

店舗内では、食品残渣、魚腸骨、肉脂、廃油、段ボール、雑紙、発泡スチロールをリサイクルしています。食品残渣は、バイオガス化して発電ためのエネルギーに使用されています。

その他

レジ袋削減推進のため、レジ袋不要のポイントカード会員様にはポイント還元を行っている他、2019 年度についてはエコバスケット利用推進に取り組む予定です。

物流については、コンテナボックスによる納品をさらに進めて段ボール使用量の削減を推進

するとともに、物流センターを活用して店舗配送トラックの削減を進めています。

最新改装店舗にて、一部に冷凍冷蔵設備にCO₂冷媒を導入しました。フロンガスを使用しない環境に配慮した設備となっています。

セイコーエプソン(株) 日野事業所 環境への取組

〒191-8501 日野市日野 421-8 (042-586-6226) URL <http://www.epson.jp/SR/environment/>

エプソンでは、地球の環境負荷許容量を認識し、2050 年に向けて、「商品とサービス」のライフサイクルにわたる CO₂ 排出を 10 分の 1 にすることを目指す「環境ビジョン 2050」を 2008 年に策定しました。

この長期目標の実現に向けて、中間目標を立て、生産工程の環境負荷低減や商品そのものによる環境貢献、さらにはお客様の業務プロセスで生じる環境負荷低減に貢献できる商品・サービスの提供を展開しています。

また環境活動を含む CSR 活動を通じて、SDGs (持続可能な開発目標) の達成を目指しながら、持続可能な社会の実現に向け、事業活動を通じてエプソンならではの環境価値を創出し続けています。

当事業所はセイコーエプソンとグループ会社で構成されており、環境活動は共通課題の「省エネ」、「省資源・再資源化」、「地域社会貢献」を 3 本柱として、連携・協力して推進しています。

1. 省エネ活動

省エネに関する社内ガイドラインを設けて、事業所全体で省エネ活動を推進しています。

活動の一環として、レーザープリンタ方式と比べて低消費電力で消耗品が少ないインクジェットプリンター複合機を全事業所で導入を進め、消費電力を 58%、使用済み消耗品量を 60%、それぞれ削減し、環境負荷の低減を図っています。

(※14 年度下期・15 年度上期と 17 年度下期・18 年度上期の全事業所での導入効果)

2. 省資源・再資源化

2018 年度に事業所から排出した廃棄物は、24%が紙類、39%が金属くず、12%がプラスチックでそのほとんどを再資源化しています。紙の回収については、分類を細分化し、社内でのスマートサイクル事業に活用。自社製品の部品製造原料や、乾式オフィス製紙機『ペーパーラボ』を使用した再生紙の製造にて使用しています。



ペーパーラボの外観（高さ約 1.8m）と、ペーパーラボからの再生紙を使用した紙製品

3. 社会貢献活動

春・秋 2 回の日野市内一斉清掃への参加、エコキャップ活動などを実施。2012 年度から実施している、当社製使用済みインクカートリッジの回収では、2018 年度は 11,615 ポイントをベルマーク財団経由で寄贈。資源の有効活用と廃棄物の減少による地球環境保全を図りながら、教育支援という社会貢献活動への参画を実現しております。

4. 環境への取組状況

東京ガス株式会社 環境への取組

〒192-0071 立川市曙町 3-6-13 (042-526-6125) URL <http://www.tokyo-gas.co.jp/>

東京ガスグループは、経営理念、企業行動理念の下、「環境方針」と具体的な取り組み課題および定量的な達成目標である「環境保全ガイドライン」を定め、グループ全体で環境経営を推進しています。

事業活動における CO₂排出の抑制、および、お客さまのエネルギー利用における環境負荷の低減に努めています。お客さまのエネルギー利用に伴う CO₂排出の抑制対策として、環境性に優れた天然ガスの利用促進や高効率機器の開発・普及に積極的に取り組んでおり、天然ガスコージェネレーションシステムによる分散型エネルギーシステムの普及拡大、太陽光・太陽熱・バイオマスを始めとする再生可能エネルギーの利用促進、家庭用燃料電池「エネファーム」等の省エネ機器の普及促進により、環境負荷低減に貢献しています。

1. 東京ガスグループのSDGs達成に向けた取り組み

「クリーンなエネルギーを安全に安定的かつ低コストでお届けし、持続可能な暮らし・まちづくりに取り組む」ことでSDGs達成に貢献していきます。総合エネルギー・グローバル企業を目指す中で、130年以上にわたり培ってきたエネルギー事業を通じ、引き続き天然ガスの普及・拡大や再生可能エネルギーの導入などに取り組んでいます。

今後もCSR推進の一環として、継続してグループ従業員へのSDGsの理解浸透を図るとともに、事業を通じたSDGsへの貢献にチャレンジを重ね、社会の持続的な発展に寄与していきます。

CSRの取り組み詳細はこちらから ▶

東京ガスグループが貢献を目指すSDGs

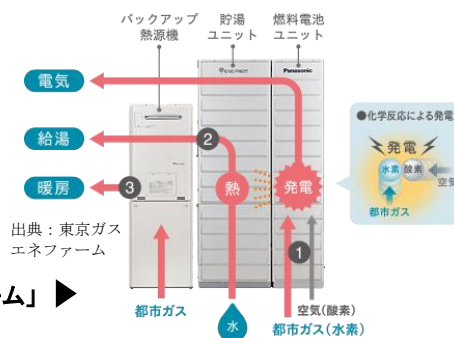


出典：東京ガスグループCSRレポート



2. 家庭での取り組み 「エネファームなど省エネ機器の普及促進」

都市ガスから取り出した水素と空気中の酸素との化学反応で発電する、家庭用燃料電池「エネファーム」。発電時の廃熱を利用し、お湯を作りガスを削減できるため、エネルギーを無駄なく使える環境に優しいシステムです。給湯器では、熱効率が95%まで向上した「エコジョーズ」が省エネ・CO₂削減に貢献しています。



出典：東京ガスエネファーム

家庭用燃料電池「エネファーム」▶

3. 市民への環境情報等の提供

見える化による省エネ行動を促進するために「my TOKYO GAS」（個人のお客さま向け東京ガスのWeb会員サービス）では、Web上で電気の使用量を月別・日単位・時間単位で確認できるほか、似た家庭とのガスと電気の使用量比較による見えるかや、様々な省エネアドバイスなどの情報提供をしています。

my TOKYO GASの詳細はこちらから ▶



4. 市内の小・中学校での出張授業の実践

東京ガスは日野市の小中学校への出張授業、企業館での校外学習等を通じて、次世代を担う子どもたちにエネルギーや環境の大切さを伝えています。これからも人と環境に優しい活動を実践・支援してまいります。

日野自動車(株) 環境への取組

〒191-8660 日野市日野台 3-1-1 (042-586-5563)

URL <http://www.hino.co.jp/>

写真:左から、中型トラック「日野レンジャー」、大型トラック「日野プロフィア」、小型トラック「日野デュトロ」

日野自動車は「人、そして物の移動を支え、豊かで住みよい世界と未来に貢献する」の企業理念のもと、環境保全を経営における重要課題と位置づけ、積極的な活動を推進してきました。地球規模で進む地球温暖化や環境汚染を低減していくことは人類共通の課題であり、グローバル化を進める日野自動車の果たすべき社会的責任も大きくなっています。2017 年には、長期的な視点で事業における環境負荷最小化を目指す「日野環境チャレンジ 2050」を策定。日野グループ全員参加で社会・地球の持続的な発展のために、積極的に環境保全に取り組んでいます。

1. 製品開発における環境取組み

日野自動車は 1991 年に世界で初めてハイブリッドバスを商品化・販売して以来、常に業界をリードしてきました。2017 年大中型トラックをモデルチェンジした他、2019 年夏には大型ハイブリッドトラック「日野プロフィアハイブリッド」を発売するなど、製品の燃費向上に取り組む他、電気自動車に代表される次世代車両開発にも取り組んでいます。

またサービス面でも車両一台一台に最適な整備を提供することで、環境性能の維持につとめています。これからも日野自動車を持つ技術力を活かし、次世代の物流を担う車両を世界中に提供し、徹底したサービスを追求することにより、地球環境保全に貢献していきたいと考えます。

2. 生産活動における環境取組み

日野自動車は、生産活動においても環境負荷低減活動(CO₂ 削減活動、節水活動、省資源活動など)に積極的に取り組んでいます。

設備導入・更新時等には、企画・設計段階から「順法」「環境リスクの未然防止」「環境パフォーマンス向上」を追求する『エコファクトリー活動』を通じて、環境に配慮した工場設計を行っています。また、日野工場を含む各生産拠点のエネルギーの一部を太陽光で賄うなど、「環境にやさしい製品を環境にやさしく作る」活動を推進しています。



日野工場 太陽光発電パネル

今後は各工程のシンプル化や地道な環境保全活動に加え、革新技术積極導入による生産の自動化・効率化を図り、環境負荷の最小化実現を目指します。

3. 地域社会との環境コミュニケーション

日野自動車は、周辺地域の皆様とのコミュニケーションを大切にしています。情報交換会や地域行事、定期的な懇親会などを通じて得られた皆様の声を企業市民としてしっかりと受け止め、日野自動車の環境活動につなげています。

4. 環境への取組状況

富士電機（株） 東京工場 環境への取組

〒 191-8502 東京都日野市富士町 1 (042-583-6115) URL <http://www.fujielectric.co.jp/>

富士電機は、地球環境保護への取り組みを経営の重要課題のひとつと位置づけ「環境経営」を推進しています。これにより、自社が持つエネルギー・環境技術を生かした製品・サービスを通じ、地球温暖化をはじめとするさまざまな環境負荷低減に向けて取り組むと同時に、設備投資や地域に密着した活動を行うことで安心・安全なまちづくりに貢献しています。

1. 製品による環境負荷軽減の取り組み

現在、世界では約 11 万隻の船舶が運航していますが、排出ガスには環汚染物質の一つである硫黄酸化物 (SOx) が含まれており健康や環境への悪影響が懸念されています。このため燃料油中の SOx を削減する規制が 2020 年に施行されますが、低硫黄燃料へ切替えると大幅にコストが増大することから排ガス浄化装置 (SOx スクラバ) の開発が期待されてきました。

当社は独自のサイクロン技術を用いた SOx スクラバを開発し昨年 10 月に初出荷しました。東京工場ではこの SOx スクラバに内蔵されているガス分析計を提供することで、環境負荷軽減に貢献しています。



2. 安全・安心を目的とした設備投資

東京工場の飲料水は全て井戸水で賄っており、地下 60m から汲み上げて受水槽で滅菌処理した後に各建屋に送水しています。また、井戸水であることから災害等に水道水が供給できなくなった場合、近隣の皆様に飲料水を供給するよう、日野市と協定を結んでおります。

しかしながら、従来使用していた受水槽は工場が操業した当時のもので、コンクリートの老朽化が進んでいることから昨年 12 月に新しい受水槽 (FRP) に更新しました。

これにより工場内の各建屋に飲料水を安定供給すると同時に、災害等で水道が供給不能となった場合には地域の皆様へ安全で安心な水の提供が確保出来るようになりました。

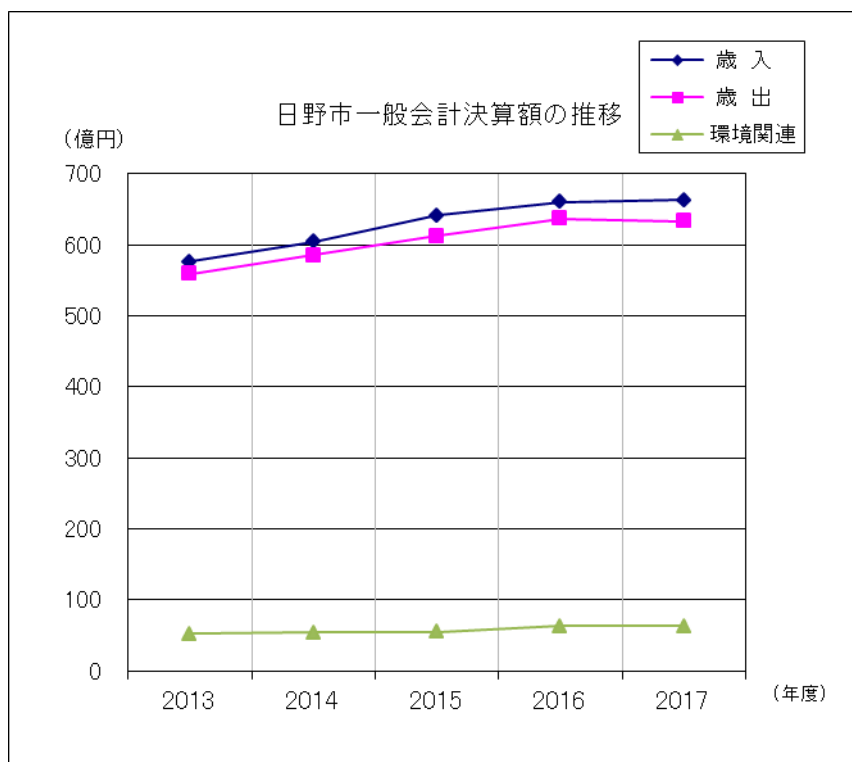
5. 環境関連決算額（2017 年度）

※本書編集時点で最新となる 2017 年度のデータを掲載しています。

			(単位 千円)		
関連分野／項目			2017 年度		
みどり	環境緑化基金繰入金	45,500	ごみ	(仮称) 3 市ごみ減量市民会議発足準備経費	15
	農業体験等推進事業	67		ごみ処理施設経費	132,405
	農業改善経費	69		ごみ処理施設延命化対策経費	287,124
	振興対策経費	8,210		可燃ごみ収集経費	386,769
	市民農園育成経費	3,895		粗大ごみ収集経費	58,752
	援農制度育成経費	560		不燃ごみ収集経費	196,448
	都市農業シンポジウム経費	173		動物死体収集運搬経費	1,744
	認定農業者支援経費	1,072		ごみ焼却施設運転管理・警備経費	123,660
	援農ボランティアコーディネート事業経費	67		ごみ処理施設排出物調査経費	2,139
	日野産ブランド支援事業経費	207		クリーンセンター施設更新経費	121,600
	学校給食供給支援事業経費	8,014		クリーンセンター施設整備経費	191,162
	七ツ塚ファーマーズセンター管理運営費	8,184	地球温暖化防止	新可燃ごみ処理施設周辺環境整備経費	124,940
	都市農業活性化支援事業経費	90,103		ふだん着で行う CO ₂ 削減事業経費	2,700
	都市農地保全支援プロジェクト事業経費	14,604		L E D 街灯導入促進事業経費	4,304
	公園管理経費	109,267		自転車対策経費	41,356
水	公園整備経費	618,370	生活環境	交通網整備支援経費	115,456
	緑化推進事業経費	26,082		消費者啓発事業経費	2,521
	緑の保全事業経費	13,402		消費生活相談事業経費	8,229
	七生丘陵の自然と歴史調査事業	164		消費生活運動育成事業経費	718
	田んぼの学校運営業務経費	224		地域の食育推進事業	27
	みんなで川へ繰り出そう！事業経費	30,945		食育推進会議	322
	し尿処理施設経費	10,218		生きもの共生事業	1,630
	し尿収集経費	30,181		空き地環境保全経費	16
	し尿処理施設整備経費	9,392		市内一斉清掃事業経費	1,331
	河川総務費一般管理事務経費	1,136		喫煙マナーアップ経費	359
	清流啓発事業経費	3,942		公害環境対策経費（人件費を除く）	4,762
	雨水浸透施設設置事業経費	577		空き家対策経費	3,022
	河川維持管理経費	198,376	総合	環境審議会事務経費金	241
	河川新設改良経費	3,322		環境保全推進経費	946
	「水都・日野」事業経費	30,250		カワセミハウス事業経費（人件費を除く）	16,698
ごみ	下水道事業繰出金	1,726,487		再生可能エネルギー活用推進事業経費	7,796
	特別展「日野用水開削 450 周年展」開催事業経費	1,984		生物多様性地域戦略推進事業経費	7,604
	ごみ処理関連施設及び周辺環境整備基金繰入金	84,000			
	生ごみ処理機保守	359		まちづくり計画経費	40,878
	生ごみ処理機借上料	47		開発指導・地区計画届出受理経費	240
	情報化推進事業経費（ペーパーレス会議システム）	84,946		ユニバーサルデザイン事業経費	2,044
	清掃総務費一般管理事務経費（人件費を除く）	19,957	6,320,801		
	クリーンセンター維持経費	66,985			
	ごみゼロ施策推進事業経費	147,303			
	資源回収奨励事業経費	14,128			
	資源物回収事業経費	397,053			
	容器包装リサイクル法関係事業経費	37,311			
	資源有効利用促進法関連事業経費	69			
	生ごみリサイクル事業経費	2,442			
	広域資源循環組合経費	447,509			
	浅川清流環境組合経費	132,720			

網掛けの箇所は、前年と比べ予算が増加した主な経費等です。

5. 環境関連決算額



日野市一般会計決算額の推移

2017 年度一般会計決算額

歳入 66,267,882,209 円

歳出 63,328,115,897 円

日野市一般会計決算額は、前年度比（歳出）0.6%減、環境関係決算額は0.4%増。

6. 市役所の環境配慮の状況

(1) 日野市環境マネジメントシステム

日野市の事務事業における環境負荷の低減と環境保全への積極的な貢献を行う仕組みを確立し、運用することを目的とし導入しています。

<これまでの経過>

2000 年度	日野市環境方針制定、マネジメントシステム運用開始、ISO14001 認証登録
2003 年度～ 2007 年度	生活・保健センター、防災情報センター、水道事務所、建築指導課、環境情報センター、郷土資料館、中央公民館、高幡台分館、図書館（全館）を適用範囲に加えた。
2011 年度	クリーンセンター事務所を加えた。
2012 年度	認証期間の満了に合わせて ISO14001 自己適合宣言に移行（12/6）※
2014 年度	日野市独自の環境マネジメントシステム「ひのエコ」に移行
2016 年度	環境方針に「市は市民・事業者・市民団体と連携・協力」を追記

※自己適合宣言とは、外部機関からの認証ではなく、自らがシステムに適合していることを宣言するもの

<環境マネジメントシステムでの取り組み>

毎年度、各部署の事務事業がどれくらい環境に影響を与えるかを調査し、その結果を基に具体的な目標・目的を設定して各部署が取り組むプログラムを作り実行します（2018 年度は 66 プログラムを実施）。そして、各プログラムの達成状況を四半期ごとに評価し、進捗状況に応じて取り組み方法を見直すなどの改善を行ない、目標の達成に向けて行動しています。

<取り組みのチェック及び評価制度>

年に一度、環境監査を実施しています。これは、環境監査員に任命された職員が各職場に入り、各課の取り組み（プログラム）状況や、決められた手順に従い実施しているかをチェックするものです（2018 年度は 7 月 18 日、19 日実施）。日野市では、2014 年 4 月に日野市独自の環境マネジメントシステム「ひのエコ」に移行しました。これは、環境方針に基づくシステムに関する事項を定め、日野市一丸となった環境改善と管理、維持を行なっていくもので、外部機関のチェックが無いことから、自己チェックが大変重要となります。



2018 年度環境監査風景

そこで、環境監査の充実を目的に調布市、府中市、昭島市と 2014 年 9 月に環境マネジメントシステムに係る相互環境監査に関する覚書を交換し、4 市での相互監査を行っています。ルールに従い各課が取り組んでいるのかを確認するほか、環境監査としてしっかり機能しているかについても 4 市でお互いにチェックしています。

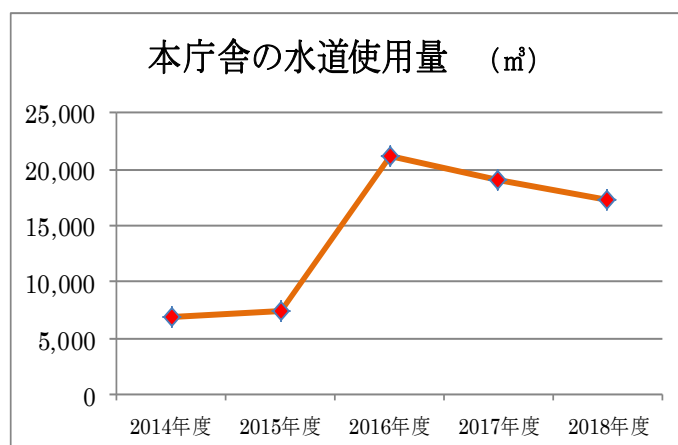
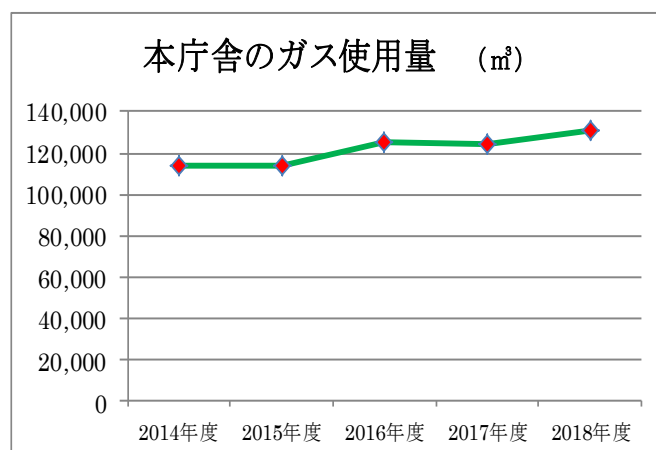
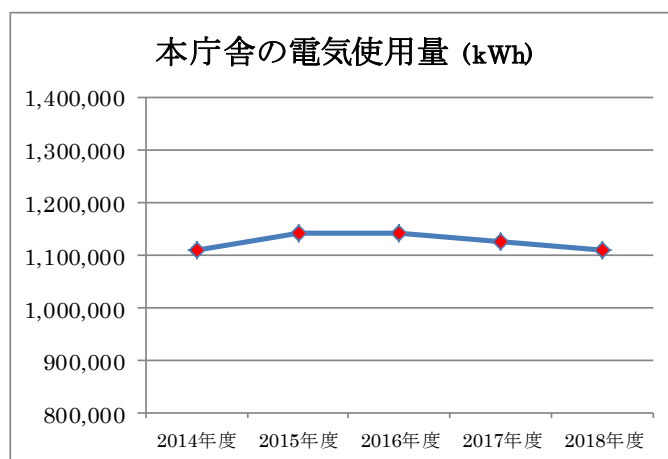
〔クローズアップ優秀部署表彰の取組事例〕

年度	該当部署	取組事例
2018	みなみだいら 保育園	「ごみのゆくえ」を園児にわかりやすく伝える巨大絵本の作成。
	下水道課	車の燃費向上を目的とし、月 1 回以上タイヤ空気圧の点検を実施。

6. 市役所の環境配慮の状況

〔環境負荷低減の実績～本庁舎～〕

職員一人ひとりが省エネ・省資源の意識と取り組みを確実に実践してきました。直近5年の結果を下記のグラフに示しています。ISO14001 導入により、本庁舎内にあった冷蔵庫や電気ポット、コーヒーメーカーなどをほぼ撤去するなど、エネルギーの使用削減に向けた徹底した取り組みがスタートしました。その後、土曜開庁や1人1台パソコンの導入など、エネルギー消費増につながる施策もありましたが、職員は地道な環境配慮行動を実践してきました。東日本大震災の影響による電力の安定供給が危ぶまれた2011年の大規模な節電対策に対しても、混乱することなく粛々と取り組めたのはこの12年間の経験があったからだと思われます。今後も引き続き、環境負荷低減に取り組んでまいります。



※2016 年度に水道の使用量が増加しているが、浄化槽から下水道への切り替えを行ったことが主な要因。

7. 環境基本計画の推進体制

（１）環境基本計画の推進

第2次環境基本計画策定から7年が経過しました。確実かつ継続的に計画に取り組むためには、推進体制の確立が非常に重要です。第1次計画の策定時にも推進体制を整備しましたが、役割分担が明確でなかったこともあり、効果的に進めることができませんでした。その課題を踏まえ、第2次計画では市・市民・事業者の役割を明確にしたうえで、市が進めるべき施策はその主管課が中心となり、市民の皆さんと定期的に検討して進めていく仕組みを整備しました。

現在、みどり分野、水分野、ごみ分野、CO₂分野の4つの分野に分かれ、それぞれの主管課と定期的な会議を開催しています。

先人から受け継いだ豊かな自然を次の世代に引き継ぐために、多くの市民の皆さんと共に取り組んでいきたいと思います。日野市の自然に関心のある方は、ぜひ各分野の会議に参加してください。

各分野の会議に参加し、計画を推進している市民の皆さんから、これまでの取組状況や課題などを報告します。

【みどりグループ】

11月4日のみんなの環境セミナーでは、田んぼと用水路の密接なつながりを知ってもらうための親子向けのイベントを行ないました。高幡不動駅から向島用水路に沿って歩き、用水路をたどりながら市街化する中で変わりゆく用水路と消えゆく田んぼを見てもらいました。後半はせせらぎ農園での野菜収穫を体験、その後、畑で採れた野菜を試食してもらいました。最後にせせらぎ農園の佐藤美千代さんから用水路と田んぼの関係や田畑を残すことの難しさをお話してもらいました。今回は、せせらぎ農園とのタイアップによって成功したイベントでした。9組28名の親子の参加があり、日野市の財産である用水路と田畑の関係を知ってもらうよい機会になったと考えています。この準備にあたっては、タイトルやチラシづくり、伝えたいことなどの議論を重ね、作り上げることができたと考えています。

イベントのほかには、第3次環境基本計画の策定に向けた動きに対して意見交換などを行いました。市内の各種計画の体系を整理し、環境基本計画に記載すべきことや策定方法の見直し変更が必要との認識を確認しました。

【水グループ】

月1回の定例会議は実施できた。昨年度の反省より今年度は実施項目を①用水カルテまとめの成果・課題への対応策確認②水田残存状況・水利権維持の現状、農家継承意識調査の情報共有③水辺環境整備計画の時点修正のためのデータ収集に絞った。水辺環境整備計画の時点修正は環境共生部、緑と清流課としての対応方針にも関わる課題であるのに、部、課の積極的なバックアップがない状況は今年度もつづいた。

まちづくりマスタープラン、緑の基本計画、区画整理事業、農業振興計画等の進行状況にも関わることも多く、他部、他課との調整、協働を模索することになった。

7. 環境基本計画の推進体制

環境基本計画推進会議事務局（環境保全課）も目的を明確にした担当課への対応が求められる。

【ごみグループ】

ごみグループとしては、「日野市ごみ減量推進市民会議」と、「ひの・まちの生ごみを考える会」があり、それぞれごみゼロ推進課と毎月1回定例会議を持っています。

「日野市ごみ減量推進市民会議」は、「日野市ごみゼロプラン」の推進組織であり、主にレジ袋の削減と、容器包装や新聞紙の販売店回収の利用促進に取り組んでいます。レジ袋の削減では、スーパーとの「レジ袋無料配布中止に向けた共同会議」を定期的開催し、また、各スーパーの出口でマイバッグ持参率調査を実施しています。

「ひの・まちの生ごみを考える会」は、生ごみの減量とともに、生ごみの堆肥化とそれを使った野菜作りや花作りを推進しています。2つの下部組織があり、「生ごみリサイクルサポーター連絡会」は、ダンボールコンポストによる生ごみ自家処理の普及に取り組み、「まちの生ごみ活かし隊」は、生ごみを戸別回収し、「せせらぎ農園」の畑に投入して野菜や草花を栽培する一方、幼稚園などに生ごみでの野菜作りを広めています。

【CO₂グループ】

CO₂グループは、月に一回の定例会を開催し、「低炭素社会を築くまち」を目標に、施策を具体的に進めようと努力しています。

施策の中心は、市内の全小学校を対象とした夏、冬各一回行うアンケート「エコキング」で、家庭の省エネを推進、啓発しています。2016年度からは、保護者に対してもアンケートを実施し、地球温暖化の被害、対策に対する啓発を主眼として実施しています。

2018年度はセイコーエプソン株式会社からCSRなどの取り組みをお聞きすることもできました。

今後は、エコキングの発展、炭素税の啓発、RE100関連、SDGs関連の活動を検討・推進していきたいと考えています。

(2) 日野市立カワセミハウスの活動状況

2018年度の日野市立カワセミハウスの活動状況は次のとおりです。

①日野市ならではの魅力発信

・「みんなの環境セミナー」等の開催

カワセミハウスでは、日野市の自然環境の魅力を市民に広く知ってもらい、その保全への意識を高めてもらうことを目的に、動植物や湧水等の観察や学習を行う「みんなの環境セミナー」を季節に応じて開催しています。2018年度にはセミナー8回を開催し、延べ174人の参加者がありました。

実施日	テーマ	講師・会場	参加者
2018年6月3日	駅のツバメ	講師：金子凱彦氏・村岡明代氏 場所：豊田駅周辺	20
7月 5日	黒川清流公園の夏を探そう 《大》	講師：小倉紀雄氏・杉浦忠機氏、 場所：カワセミハウス・黒川清流公園	35
7月28日	黒川清流公園で昆虫採集をしよう	講師：森川正昭氏 場所：カワセミハウス・黒川清流公園	22
10月13日	里山づくり 《雑》	講師：倉本宣氏・加藤勝康氏 場所：カワセミハウス・黒川清流公園	21
10月27日	私たちのくらしと水	講師：小倉紀雄氏 場所：カワセミハウス	11
11月 4日	歩いて食べる！日野のたんぼとはたけ	講師：環境基本計画推進会議みどりグループ 場所：向島用水・せせらぎ農園	28
12月 6日	黒川清流公園の冬を探そう！ 《大》	講師：小倉紀雄氏・村岡明代氏 場所：カワセミハウス・黒川清流公園	22
2019年1月27日	親子で楽しむ野鳥観察	講師：金子凱彦氏・小久保雅之氏・村岡明代氏 場所：黒川清流公園	15
合 計	実施 8回	参加者数	174人

注1) 《大》は市民環境大学の、《雑》は雑木林ボランティア講座の公開講座であることを示します。

2) 10月27日開催「私たちのくらしと水」は、カワセミハウス協議会環境分科会との共催によるもの、11月4日開催「日野のたんぼとはたけ」は環境基本計画推進会議みどりグループとの共催によるものです。

3) 合計欄に示す参加者数174人には、市民環境大学の公開講座2回に参加した同講座の受講生34人、及び雑木林ボランティア講座の公開講座1回に参加した受講生16人の計50人が含まれています。

・「カワセミハウス写真展」の開催

「みんなの環境セミナー」と同じ目的のもと、日野市内で見られる多様な生きものの写真展を4回開催しました。会場はカワセミハウスで、昆虫と野鳥の写真展は、関連する「みんなの環境セミナー」と同時期の開催としました。

開催期間	テーマ	写真提供など
2018年 7月24日～7月31日	日野の昆虫たち	写真提供：日野の自然を守る会 森川正昭氏
9月23日～9月29日	日野の魚たち	写真提供：水生生物研究家 鶴田大三郎氏
11月23日～11月29日	日野の植物たち	写真提供：日野の自然を守る会 植物研究グループ
2019年 1月23日～1月30日	日野の野鳥たち	写真提供：日野の自然を守る会 小久保雅之氏 自然観察指導員 園村茂夫氏

7. 環境基本計画の推進体制

・「黒川マイスター講座」第1期の実施

黒川マイスター制度は、東豊田緑地保全地域および黒川清流公園を拠点として、この地の恵まれた環境に学び実際の保全（管理）活動を行うことを通して、緑地保全のリーダーの育成と地域づくりへの積極的な参画を促すことを目的としています。

記念すべき第1期の講座は2018年5月にスタートし、カワセミハウスと黒川清流公園を主な会場に翌年3月まで毎月1回、計11回の講義や実習、観察会が行われました。2019年3月16日の最終回では、1年間の講座を修了した14人の受講生に日野市長より「黒川マイスター認定証」と「マイスターバッジ」が授与されました。

実施日	テーマ	目的・対象・内容	参加人数
2018.5.25	講座1. 開講式、講義 オリエンテーション	開講式、日野市の公園緑地、黒川の植物、オリエンテーション 他 講師: 緑と清流課職員、カワセミハウス 杉浦忠機氏他	15
6.22	講座2. 講義・実習	黒川清流公園の湧水はどこから来るのか? 講師: 東京農工大学名誉教授 小倉紀雄氏	17
		黒川清流公園の全体観察・歴史、地形 講師: 水と緑の日野・市民ネットワーク 飯島利三氏	17
7.14	講座3. 講義・実習	雑木林の保全と管理・活用方法、安全管理・安全対策 講師: NPO法人森づくりフォーラム 松井一郎氏	15
8.18	講座4. 実習	道具の正しい使い方と作業（鎌、鋸、鉋、剪定バサミなど） 講師: 水と緑の日野・市民ネットワーク 飯島利三氏	13
9.28	講座5. 講義・実習	黒川清流公園の水生昆虫 講師: 元日野市緑と清流課職員 鶴田大三郎氏	15
		黒川清流公園で虫の気持ちを考えよう 講師: 元十文字学園女子大学教授 津吹卓氏	15
10.26	講座6. 講義・実習	トコロジストになろう!! 講師: (公財)日本野鳥の会普及室 箱田敦只氏	11
11.30	講座7. 実習	目的に沿った公園の手入れ作業 講師: 緑と清流課職員	14
12.21	講座8. 講義・実習	黒川清流公園徒然雑記 講師: 森林インストラクター 田中徹氏	14
		黒川清流公園。とりの鳥しらべ 講師: 日野の自然を守る会 金子凱彦氏	14
2019.1.25	講座9. 講義・実習	生物多様性で、なに! 講師: NPO法人樹木・環境ネットワーク協会 中西由美子氏	14
2.22	講座10. 講義・実習	黒川清流公園の自然を考える 講師: カワセミハウス 村岡明代氏	14
小論文提出			
3.16	講座11. 認定書授与 修了式	認定書授与、感想、抱負、マイスターの今後の展開について	12

・アートディレクション事業（2年次）の実施

日野市出身の版画家蟹江杏さんと子どもたちの協働によるアートディレクション事業も2年目を迎え、今年度は『多摩の木でつくる みんなの壁画プロジェクト』に取り組みました。これは前年度事業の成果である創作絵本『ぼくのまちにはもりがある』や黒川清流公園の身近な自然をテーマに、公募により集まった市内の中・高校生6人と蟹江杏さんが9回のワークショップを重ね、多摩産材のスギとヒノキの板13枚にウッドバーナー（電熱器）で絵を描

7. 環境基本計画の推進体制

き、『こもれびの中で』と題するユニークな壁画を創作しました。2019年3月3日にカワセミハウスにて日野市長をはじめとする53人の出席者のもとで作品の発表会が開かれました。

回数	開催日	内 容
第1回	2018. 7. 21	自己紹介に続き全員で黒川清流公園を散策し、そのイメージを絵でストーリー化して発表を行ないました。
第2回	8. 10	ウッドバーナー（電熱器）の使用に慣れてもらうため、練習用としての作品を制作し、器具の感触をつかんでももらいました。
第3回	8. 28	壁画制作に取りかかり、多摩産材のスギとヒノキの板 13 枚を組み合わせて下絵を描きました。
第4回	9. 8	木板に下絵を描き、ウッドバーナーを用いて絵付けを行ないました。
第5回	11. 23	木板に下絵を描き、ウッドバーナーを用いて絵付けを行ないました。
第6回	12. 22	木板に下絵を描き、ウッドバーナーを用いて絵付けを行ないました。
第7回	2019. 1. 12	木板に下絵を描き、ウッドバーナーを用いて絵付けを行ないました。
第8回	2. 23	ウッドバーナーで絵付けをした部分に仕上げとして色付けを行ないました。
第9回	3. 2	カワセミハウスに来賓と出席者を迎えて、完成した壁画（作品名：こもれびの中で）の発表会を行いました。



13 枚の多摩産材に描いた壁画「こもれびの中で」

・黒川清流公園の湧水モニタリング

黒川清流公園は日野市の緑と水を代表する場所です。カワセミハウスがこの黒川清流公園に隣接していることから、公園内の豊富な湧水量が長期的にどのように変化しているのかを知るために、2017年4月以来継続して湧水量や水温などの測定を毎週1回行なっています。

・館内展示や書籍・文献等による環境情報の発信

カワセミハウスでは、自然や環境に関する様々な図鑑や研究に役立つ文献に加え、映像や画像データなども収集し、来館者の皆様へ公開しています。この他に、官公庁や環境活動団体が発行するイベントのパンフレットやニュースレターなども掲示しています。

また、市民から寄せられるヘビやハチの巣、巣から落ちた野鳥への対応の仕方、カブトムシやバッタの飼育方法、夏休みの自由研究などの様々な相談へのアドバイスをしています。

7. 環境基本計画の推進体制

② 日野市環境白書の刊行とパネル展の開催

日野市環境白書は、日野市環境基本条例に基づいて作成される年次報告書であり、日野市の環境に関する情報を網羅する内容となっています。環境白書の編集・刊行は、カワセミハウスが（旧）環境情報センター時代から行なっている主要な業務の一つです。カワセミハウスでは 2017 年度の環境白書を編集するに当たり、各種環境データの収集や、各種団体の環境への取り組みに関する情報の収集を 2017 年 3 月から開始し、7 月に評価結果も含めた報告を取りまとめ、9 月の議会承認を経て刊行しました。カラー版 50 部とモノクロ版 250 部を印刷し、市内外の関係機関や団体に送付しました。

また、白書の内容を広く市民に知っていただくために、白書の概要を紹介したダイジェスト版を 2018 年 10 月に発行しました。続いて 2018 年 12 月には、このダイジェスト版をもとに 10 の環境指標をパネルで分かりやすく視覚化した「環境白書パネル展」を開催しました。



③環境学習の実施

・学校へ出張授業

市内の小・中学校の総合学習（低学年は生活科）等へ出張授業は、環境学習をサポートする市民団体“ひのどんぐりクラブ”との協働で実施しました。2018 年度の実施回数は 101 回の出張授業を行ない児童 7,071 人と大人 193 人の学習を支援しました。活動の詳細は 77～79 ページをご覧ください。

・市民環境大学の開催

市民環境大学は、市民が自らの暮らしと結び付けて環境問題を考えるために、大気や水に関する科学的な知識を身につけてもらうことを目的としており、2009 年度から毎年開催されています。10 期目となった 2018 年度には 20 回の講義に延べ 454 人が出席し、12 月 13 日の最終講義で 19 人の受講生に修了証が交付されました。これにより過去 10 期の修了者数は累計で 159 人となりました。年間の講義のテーマについては 90 ページをご覧ください。

また、修了者有志により「市民環境大学 OB 会」が結成されており、環境学習会や空間放射線の測定、湧水量の調査等の活動を毎月行っているほか、隔月で OB 会ニュースレターを発行し環境問題の市民への啓発を行なっています。

④環境に関わる市民団体等との連携・協働

カワセミハウスの職員は、環境保全課の一員として環境基本計画推進会議やひの生きものプラン、ふだん着で CO₂ をへらそう実行委員会等に参画しています。また、環境市民団体とは下表に示したように様々な内容で連携・協議に努めています。

7. 環境基本計画の推進体制

区分	連携・協働団体等	活動等の内容
行政	日野市環境基本計画推進会議	・みどり・CO₂グループの定例会議に参加（毎月） ・エコキングの夏・冬の調査実施（エコキングとは、CO₂グループの活動として毎年の夏と冬に行われる一日環境家計簿で、2018 年度は夏・冬合わせて 14,040 人の小学生が参加、これは市内小学生の約 75%に当たる） ・みどりグループと共に環境セミナーの開催、市民啓発活動の支援など ・代表者会議や全体会議にメンバーとして出席
	ひの生きものプランプロジェクトチーム	プロジェクトチーム員として計画への参画（浅川アユまつり・浅川落ちアユ教室など）
	ふだん着でCO ₂ をへらそう実行委員会	実行委員会会議及び日野市環境フェア等への参画
	TRM（多摩川リバーミュージアム）事業	国土交通省京浜河川事務所が行なう TRM のサテライトの一つとして、多摩川の魅力や保全に関する情報の発信など
	黒川マイスター講座	事務局、年間 11 回の講座開催で、14 人にマイスター認定証を授与
市民団体	ひのどんぐりクラブ	・事務局として窓口対応や定例会議（毎月）の開催 ・どんぐりクラブメンバーが市内の小・中学校での総合学習（低学年は生活科）等へ出張し授業を支援。2018 年度は実施回数 101 回、出張したメンバーは延べ 401 人、授業を受けた児童数は 7,071 人。
	カワセミハウス協議会環境分科会	・事務局としてイベントの企画、市役所の関係部署との協議、参加者の募集、終了後の振り返りや報告書の作成などを担当 ・分科会に登録した団体と協働して 9 回のイベントを実施
	市民環境大学 0B 会	事務局、空間放射線量の測定実施、月例会の開催など
	全国一斉水質調査	全国調査に参加し日野市での水質調査を実施（1 回/年）
	ひの緑のトラスト	事務局（1 回/年）
	浅川流域市民フォーラム	会議やイベントの企画・運営（1 回/月程度）
	水と緑の日野・市民ネットワーク	事務局、自然環境に関するシンポジウムの開催を支援
	浅川潤徳水辺の楽校	浅川順徳水辺の楽校推進協議会メンバーとして、月 1～2 回行う水辺の楽校イベントの企画や実施を支援。
	雑木林ボランティア講座	事務局、月 1 回、計 11 回の講座を開催。2018 年度の修了者は 16 人
	谷仲山緑地を守る会	連絡窓口
	東豊田緑湧会	連絡窓口

⑤地域コミュニティの形成と活動の支援

カワセミハウス協議会を中心に、地域団体や各種市民団体、大学、行政との連携・協働により幅広い用途、目的に応じて利用されています。

区分	支援・連携団体	活動等の内容
地域団体等	カワセミハウス協議会	・カワセミハウス協議会はカワセミハウスの運営の基盤となる組織で、自治会や子ども会、環境団体を中心とする多様な 45 の団体で構成される。 ・年 4 回定期的に開催される会議を通して、年間の事業計画や集会室の予約調整、運営ルールの見直しなどを行なっている。
	黒川かわせみサロン	地域の婦人有志と実践女子大学ボランティア学生のコラボ事業として月 1 回開催される地域の高齢者の交流会
大学	実践女子大学	10 月 6 日「第 2 回オクトーバーフェスト」の開催：実践女子大学生を中心とする協議会のメンバーが、「こだわり」「つながり」「チャレンジ」をコンセプトに、日野市ブランド TOYODA BEER を使ったフェスティバルを開催
	C-plant	中央大学の学生を中心とする団体で、毎月 1 回子どもたちの学習をサポートし、一緒に遊び、食べる「まるっと」と称する地域の新しい居場所を運営

7. 環境基本計画の推進体制

⑥ カワセミハウスの運営

・カワセミハウス協議会の活動

カワセミハウス協議会は、カワセミハウスの事業を推進することを目的に日野市立カワセミハウス条例に基づいて設置されています。協議会は市民、事業者、市等で構成されており、2018年度末時点で45団体が会員登録しています。2018年度には4回の会合が開催されました。また、市民主導により、環境活動のために発足した「環境分科会」には、2018年度末時点で19団体（個人としての参加含む）が会員登録をしています。

カワセミハウス協議会

開催日	出席団体数	主な議題
第1回 2018. 5. 26	31	会長・副会長の選出、オクトーバーフェストの実施提案、カワセミハウスの利用者アンケートの結果報告、オオブタクサ引き抜き大会の説明など
第2回 8. 11	28	オオブタクサ引き抜き大会の実施報告、環境分科会の活動報告、蟹江杏さんとのコラボ事業の報告など
第3回 11. 17	34	2019年度の集会室予約日の調整、大掃除大会の説明、黒川かわせみサロンの活動報告、オクトーバーフェストの実施報告、環境分科会の活動報告など
第4回 2019. 2. 9	22	2019年度の協議会行事予定、環境分科会の活動報告、蟹江杏さんとのコラボ事業の報告など

カワセミハウス協議会環境分科会

実施日	環境分科会が企画・実施したイベント	参加者数
2018. 5. 6	「作って食べるイベント」の試行	8
6. 2	市民参加のまちづくり勉強会 第1回「環境基本計画をめぐって」 講師：法政大学エコデザイン研究所 長野 浩子氏	29
7. 18	市民参加のまちづくり勉強会 第2回「市民参加と協働のあり方」 講師：法政大学エコデザイン研究所 長野 浩子氏	17
8. 26	浅川ネイチャースタディ（みんなでフィッシング） 実施団体：FFATOKYO（講師：宮下 力）	大人 5 小学生 7
9. 9	市民参加のまちづくり勉強会 第3回「地域をつなぐ住民参加の公園づくり～公園経営を学ぼう！」 講師：NPO フュージョン長池会長 富永 一夫	34
10. 8～14	環境活動団体パネル展	18 団体
10. 27	みんなの環境セミナー「私たちのくらしと水」 講師：東京農工大学名誉教授 小倉紀雄氏	11
2019. 2. 2	見て聞いて知ろう・くろかわシリーズ「黒川清流公園のむかしからみらいへ」 講師：一ノ瀬正彰氏	36
3. 21	つんで、つくって、たべよう！ よもぎだんご 講師：環境分科会有志	大人 8 中学生 2 小学生 5

※上記の他、年4回の会議を開催

・カワセミハウス年報 2017 年度版の刊行

「カワセミハウス年報」は

「カワセミハウス年報」は、カワセミハウスが 1 年間に行った諸事業の内容と結果をまとめたものです。2017 年度に行なった「みんなの環境セミナー」等の事業やセンターの施設利用実績などの記録を中心に、“水と緑の日野・市民ネットワーク”主催のシンポジウムの配布資料などを掲載し 2019 年 3 月に刊行しました。

・カワセミハウス通信の発行

「カワセミハウス通信」は、カワセミハウスの四半期ごとの活動結果と予定を中心に環境行政に関するその時々の特ピックや市民環境団体の活動、予定などを紹介するものです。2018 年度は、第 5 号から第 8 号までを発行しました。(4 月、7 月、10 月、1 月発行)

⑦ 施設の利用状況

・情報発信ラウンジ

館内の「情報発信ラウンジ」では、環境に関する調査報告書や年報、文献、動植物に関する図鑑などの公開、行政情報及び地域活動、サークル活動等の各種パンフレット類の配備やポスター等の掲出、写真作品など各種展示物の発表などを行っており、この他に図書館との協働による図書の配備も行なっています。併せて、市内の川や用水に生息する淡水魚の水槽、樹齢 131 年のサワラの年輪標本（日野市関連年表を表示）、手作りの小水力発電機なども展示しています。

オープンキッチンと円形テーブルを配置したラウンジと 2 階のロフトでは、多様な世代が談話や勉強、少人数の趣味のグループの集まり、散策後の休憩、仲間同士のランチタイム、遊び等の利用で毎日賑わっており、誰もが居心地の良い場所として活用されています。

また、カワセミハウスを利用する子どもたちが自主的に「カワセミハウスサポーター」というグループを結成して、情報発信ラウンジの片づけ、昆虫や魚など生きものの世話、図書の整頓、イベントの補助などを行ない、カワセミハウス運営の一部を手伝ってもらっています。

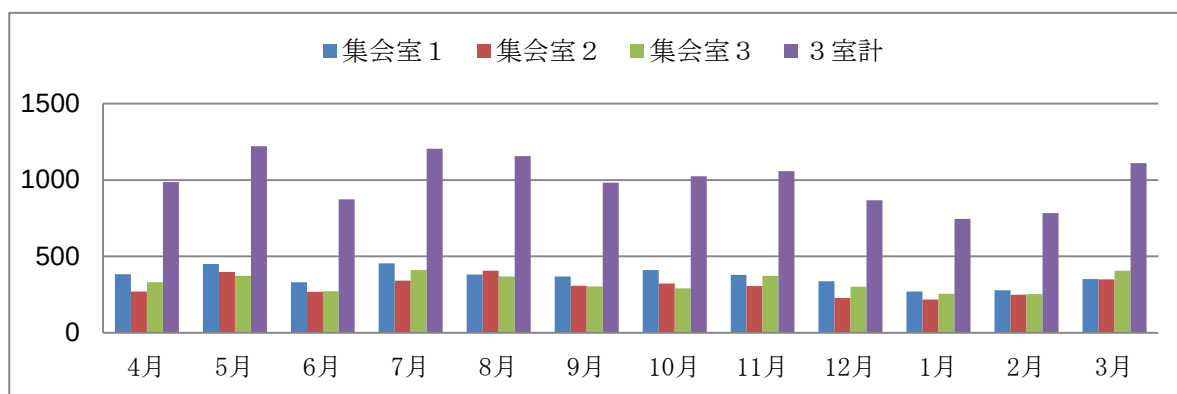
・来館者と集会室の利用状況

来館者数の目安を得るために玄関にセンサー式のカウンターを設けており、人の通過を 2 回感知すると 1 カウントとしています。2018 年度の総カウント数は 111,377、月平均では 9,281 で、前年度と比べ 6.4%増加しました。月別のカウント数では、最大が 8 月の 15,334、最小が 1 月の 4,872 でした。年間を通してみると、学校の夏休み期間を含む 7 月～10 月で多く、12 月以降の冬場が小さくなっています。

一方、集会室の利用者数は 3 室で年間 12,012 人（前年度比 13%増）にのぼり、利用した団体数は 481、利用回数は 840 でした。この利用回数は、同一利用者が複数の集会室を同時に、あるいは午前・午後通して使用した場合は、部屋ごと・時間帯ごとに 1 回使用と数えたものです。

7. 環境基本計画の推進体制

集会室の月別利用者数の推移（単位：人）



集会室の利用率を見ると、3室で年間1,272コマの利用がありました（利用時間帯は午前・午後・夜間の3つがあり、各室の一つの時間帯での利用を1コマとすると、年間307日の利用可能なコマ数は2,763となる）。年間の平均した利用率は46%（ $=1,272/2,763$ ）で、前年度（43%）より3ポイント増加しました。この利用率を月毎に見ると、最高が11月の52%、最低が4月の38%で、前年度と比べ最低月の利用率が10ポイント高くなっています。次に午前、午後、夜間の3つの時間帯での利用率を見ると、午前55%、午後62%と50%を大きく超えるのに対し、夜間は21%と低くなっています。

8. 環境審議会の意見等

(1) 審議会の意見

前回発行の白書(2017年度版)では下記のと通りの意見を日野市環境審議会からいただきました。

平成30年7月25日

日 野 市 長

大坪 冬彦 様

日野市環境審議会会長

千賀 裕太郎

日野市環境審議会の意見について

日野市環境基本条例（平成7年条例第18号）第18条に基づき、本環境白書案について、平成30年7月25日に開催された日野市環境審議会で審議しました。意見は下記のとおりです。今後市行政においてこれらの事項に十分に対応するとともに、次年度における白書作成時にその成果を検討するようお願いいたします。

記

1 指標未達成の項目への対応について

指標未達成の項目については、達成が困難である理由や、達成に向け取り組んでいる施策について記述された方が望ましい。

8. 環境審議会の意見等

前回の白書についてご審議いただいた日野市環境審議会の委員です。

日野市環境審議会 委員(※敬称略) 任期平成 28 年 10 月 1 日から平成 30 年 9 月 30 日まで
公募市民

大竹 貫一、岡村 和夫、彦谷 有三、野田 実

学識経験者

尾崎 義昭、瀬川 爾朗、千賀 裕太郎、田中 優、宮沢 清子

事業者

榎田 光仁(日野市商工会)、大塚 政雄(日野市商工会)、梅岡 元司(日野自動車(株) 安全環境推進部長)

環境保全関係行政機関、関係団体

金子 凱彦(日野の自然を守る会)、岸野 國男(日野市用水組合連合会長)、

新井 和誠(東京都多摩環境事務所廃棄物対策課長)

(2) 日野市環境審議会(平成 30 年 7 月 25 日)意見への対応について

1 指標未達成の項目への対応について

指標未達成の項目について、達成が困難である理由や、達成に向け取り組んでいる施策について担当部署から情報提供を受け記述しました。

2018 年度(平成 30 年度)日野市環境白書での指標未達成の項目は次のとおりです。詳細については、本書の各指標の記述をご覧ください。

- ・指標 1：土地利用現況調査「森林」の割合
- ・指標 2：緑被率
- ・指標 3：農地面積
- ・指標 4：一人当たり都市公園面積
- ・指標 6：緑地信託面積
- ・指標 15：浅川の平均河川水量・水位
- ・指標 31：生ごみリサイクルステッカー掲示世帯数
- ・指標 32：環境学習出前講座の実施回数
- ・指標 41：省エネ診断の参加事業者数

9. 省エネ法に関する措置

「エネルギーの使用の合理化に関する法律」（以下、省エネ法という。）は、エネルギー消費量が大幅に増加している業務部門と家庭部門におけるエネルギーの使用の合理化をより一層推進することを目的に、2008年5月に改正されました。

日野市では、市長部局と教育委員会がそれぞれ個別の事業者として、所管する施設について国に対してエネルギー使用量の報告を行っています。2018年度分のエネルギー使用量は次のとおりです。

	エネルギー使用量(原油換算)	対前年度比
市長部局	4,293kl	97.7%
教育委員会	2,634kl	102.7%

付表 指標・参考データ出典一覧

指標・参考データ	ページ	出典
指標 1 土地利用現況調査「森林」の割合	12	東京都土地利用現況調査(都市計画課)
指標 2 緑被率	12	
指標 3 農地面積	13	農林水産省作物統計(都市農業振興課)
(参考 1) 生産緑地面積	13	都市計画決定図書(都市計画課)
指標 4 一人当たり都市公園面積	15	日野市公園調書(緑と清流課)
(参考 2) 多摩地区の一人当たり都市公園面積	15	東京都建設局公園調書
指標 5 市が寄付や買収等で取得した樹林地面積	17	緑と清流課
指標 6 緑地信託面積	17	
指標 7 緑のトラストへの寄付件数	17	緑のトラスト受付簿(環境保全課)
指標 8 雑木林ボランティア講座修了者数	18	緑と清流課
指標 9 市民農園等の面積	18	
指標 10 援農人数	18	
指標 11 「市」の開催日数	19	都市農業振興課
指標 12 学校給食における地元野菜等利用率	19	
指標 13 給食野菜納品農業者数	19	
指標 14 生け垣の助成件数	20	緑と清流課
指標 15 浅川の平均河川水量・水位	22	国土交通省京浜河川事務所
(参考 3) 浅川の流量測定結果	23	国土交通省京浜河川事務所、日野市環境共生部
指標 16 月別雨量と調査地点の総湧水量	24	湧水量および地下水位計測調査業務委託・調査報告書(緑と清流課)
(参考 4) 湧水地点の状況	24	
指標 17 各用水路の水質分析結果	26	日野市水質調査 調査報告書(環境保全課)
指標 18 河川・用水・湧水の水生生物の確認状況	27	
(参考 5) 水生生物による水質の生物学的判定	28	日野市水生生物調査 調査報告書(環境保全課)
指標 19 水辺に親しみや潤いを感じる市民の割合	30	日野市市民意識調査結果報告書
指標 20 地下水揚水量	32	地下水揚水量一覧(環境保全課)
指標 21 雨水浸透ます設置個数	32	緑と清流課
(参考 6) 第二次日野市バリアフリー特定事業計画の透水性舗装整備状況	33	都市計画課、道路課
指標 22 下水道普及率	34	下水道課
指標 23 水辺イベントの開催数	34	
(参考 7) 「ビオトープづくり」の取組件数	35	緑と清流課
指標 24 「用水守」の登録団体数	35	
指標 25 ごみ・資源排出原単位	37	
(参考 8) ごみの行方	38	多摩地域ごみ実態調査(公益財団法人 東京市町村自治調査会)
指標 26 資源化率	38	日野市の清掃概要(ごみゼロ推進課)
(参考 9) ごみ量内訳	39	
指標 27 マイバック持参率・レジ袋辞退率	41	大手スーパーでの出口調査(レジ袋無料配布中止に向けた協働会議)
指標 28 ペットボトル、発泡トレイの行政回収量	41	日野市の清掃概要(ごみゼロ推進課)
指標 29 焼却ごみの組成	42	
(参考 10) 焼却ごみの組成割合(2018 年度分析結果・湿ベース)	42	
指標 30 生ごみ減量・資源化への取組世帯数	43	ごみゼロ推進課
指標 31 生ごみリサイクルステッカー掲示世帯数	44	
指標 32 環境学習出前講座の実施回数	45	
指標 33 ごみ相談窓口への相談件数	46	
指標 34 クリーンセンター見学者数	46	
指標 35 新聞紙の行政回収量	46	日野市の清掃概要(ごみゼロ推進課)
指標 36 二酸化炭素排出量	48	オール東京 62 市区町村共同事業
(参考 11) エネルギー消費量	49	「多摩地域の温室効果ガス排出量」報告書
指標 37 公共交通機関(ミニバス・バス)の整備率	50	交通空白地域図(都市計画課)
指標 38 バス路線の整備状況:市内連絡バス(ミニバス)年間利用者数	50	都市計画課
指標 39 「ふだん着で CO ₂ をへらそう宣言」の宣言数及び CO ₂ 削減量	51	
指標 40 ワットチェッカー等貸出状況	52	
指標 41 省エネ診断の参加事業者数	52	環境保全課
指標 42 太陽光発電等の導入補助件数	53	
指標 43 公共施設の新エネルギー導入状況	53	
指標 44 都市計画道路の整備率	54	道路課
指標 45 心安らく快適な生活環境であると感じる市民の割合	55	日野市市民意識調査結果報告書
(参考 12) 苦情受付件数	55	
指標 46 マナーアップのための啓発活動状況	57	環境保全課
指標 47 浮遊状粒子物質(SPM)年平均	57	
指標 48 二酸化窒素の年平均濃度	58	東京都環境局
指標 49 二酸化窒素 24 時間測定結果	59	窒素酸化物調査報告書(環境保全課)
指標 50 雨の酸性度	59	酸性雨市民モニターによる計測
(参考 13) 富士山ウォッチング(富士山が見えた日数)	60	東京都環境局・成蹊学園気象観測所・日野市
指標 51 道路交通騒音	61	
指標 52 横田飛行場に係る航空機騒音	62	環境保全課
(参考 14) 市内空間放射線量測定	63	

エコクマ、エコアラ

地球温暖化で棲んでいるところを追われ、東京都日野市にやってきたエコクマ。日野市の多摩動物園で生まれたエコアラ。地球温暖化に心を痛め、エコ活動を始めたよ。

2人で力を合わせてがんばるぞ。応援よろしくね！



2018 年度（平成 30 年度）
日野市環境白書
日野市環境基本条例第 18 条に基づく年次報告書

発行：2019 年(令和元年)9 月 日野市

編集：日野市立カワセミハウス

〒191-0052 東京都日野市東豊田 3-26-1

TEL 042-581-1164

URL <http://www.kankyo-hino.com/>

身近な生きものと共生できる環境を次世代につなごう！